資　料　編

岡山大学地域総合研究センターＡＧＯＲＡ
(Academic and General Okayama　University Regional Research Association)
設置趣意書

平成２３年８月

■経緯

岡山大学は、平成２２年７月，地域連携の進め方について検討する「岡山大学戦略的社会連携・地域貢献ワーキンググループ」を設置し，２月末までの８か月間にわたって国内・国外の現地視察を含めた調査検討を精力的に行った。その結果，部局や教員個人レベルでは多方面の非常に多くの地域連携活動が行われていることが明らかになったが，他方で、岡山大学全体の地域貢献の姿が不明確であることも明らかとなった。今後はこれまでの成果を踏まえ，さらに岡山県内自治体や経済界、各種の社会団体との組織的な協力によって，方向性を共有し、大学と都市・地域が全体的ビジョンを持って取り組んでいくところに，一つの活路があることが浮かび上がった。

平成２３年４月，新しく森田学長が就任し，「森田ビジョン」を掲げ、大学と都市・地域が共同して美しい学都を創造する方針を明確にした。私たちは、この新しい学都構想を具体化する作業に着手し、そして，１１月１５日にリージョナルセンターの中核となる岡山大学地域総合研究センターＡＧＯＲＡを設置する運びとなった。

■設立理念

センター・ＡＧＯＲＡの設立の理念は、「森田ビジョン」によって提起された新しい学都構想の中に明らかにされている。

すなわち、大学と都市、地域が連携して、魅力的な美しい学都を創成し、「国際的な学術ネットワークの中で，人文社会，環境，自然，医療の分野を包含したリージョナル・センターを持つ，真に個性的な，卓越した大学となり」，「岡山の地にあって，世界から人が集まり，世界に輝く大学となること」，さらに、「地域の方々と連携しつつ，地域の善き頭脳となり，地域のための優れた人材養成の場となって，地域の自立と創造的発展に貢献する大学となること」である。

センター・ＡＧＯＲＡはこのような学都を実現するための知的拠点として設立される。

■主要なミッション

１・学都構想の実現

美しい学都を創成するために、産・官・民と協議し、美しいキャンパスをもつ国際的な学術都市を創成する中・長期的なビジョンを作成し、実現可能な政策については、適時、関係団体と共同のプロジェクトを作成し、国その他の資金協力を得て実行していく。とくにグローバル人材養成の拠点としての国際学術都市政策の策定と、研究・教育・地域貢献において地域の人々との絶えざる交流を志向する街中キャンパスの展開を具体化する。

２・大学の社会貢献活動の調整・強化

これまで部局で積み上げられてきた多方面の地域貢献の諸活動を支援し、地域の人々、諸団体にこれらの活動を紹介し，さらに大学全体の視点にたって、これらの活動を重点化し，強化していく。

３・地域諸問題におけるシンクタンク機能の発揮
地域の諸問題に対し、国際的学術視点も加えながら、地域の将来の発展に資するシンクタンク的機能を果たす。

４・地域連携に関する大学の窓口機能
大学に対する市民の要求を受け止める窓口的機能をはたし、地域の諸団体が行っている活動を支援する。

５・情報発信
大学と地域の連繋に関する学術研究の蓄積を行い、地域の創成に必要不可欠な情報を発信する。

■組織
図のように組織し、岡山大学に地域連携推進戦略会議を置き、そのもとに大学全体の学内調整機関としての地域連携推進委員会と、センター・ＡＧＯＲＡを置き、大学全体としての地域政策を決定し、推進する。

■今後の方向
さらに協議を進めて具体的な展開方策案を検討しつつ，２４年４月には包括協定を締結，また，ラウンドテーブルを設置。トップレベル協議による合意をもとに種々の連携方策を展開することしたい。

2．運営委員会名簿

2012（平成24）年度　岡山大学地域総合研究センター運営委員会名簿

	氏　名	備　　考
１号委員	荒　木　　勝	
２号委員	三　村　　聡	
３号委員	千　田　俊　樹	
３号委員	岩　淵　　泰	
４号委員	三　好　伸　一	
４号委員	大　原　晃　洋	
４号委員	尾　﨑　敏　文	
４号委員	三　浦　孝　仁	
５号委員	中　村　良　平	
６号委員	阿　部　宏　史	
６号委員	青　山　　勲	

以上11名

2013（平成25）年度　岡山大学地域総合研究センター運営委員会名簿

	氏　　名	任　　期	備　　考
１号委員	荒　木　　勝	－	
２号委員	三　村　　聡	－	
３号委員	千　田　俊　樹	－	
３号委員	岩　淵　　泰	－	
４号委員	三　好　伸　一	－	センター規程第６条一号　地域連携学習推進部門
４号委員	大　原　晃　洋	－	センター規程第６条二号　産学官連携部門
４号委員	尾　﨑　敏　文	－	センター規程第６条三号　地域医療部門
４号委員	坂　入　信　也	－	センター規程第６条四号　学生地域活動支援部門
５号委員	髙　塚　成　信	平成25年12月～平成27年３月	教育学研究科・教育学部
５号委員	石　田　祐　之	平成25年12月～平成27年３月	自然科学研究科
５号委員	竹　田　芳　弘	平成25年12月～平成27年３月	保健学研究科
５号委員	坂　本　圭　児	平成25年12月～平成27年３月	環境生命科学研究科
５号委員	浅　海　淳　一	平成25年12月～平成27年３月	医歯薬学総合研究科
５号委員	佐　藤　吾　郎	平成25年12月～平成27年３月	法務研究科
５号委員	北　川　博　史	平成25年12月～平成27年３月	文学部
５号委員	中　富　公　一	平成25年12月～平成27年３月	法学部・大学院社会文化科学研究科
５号委員	平　野　正　樹	平成25年12月～平成27年３月	経済学部
５号委員	竹　中　博　士	平成25年12月～平成27年３月	理学部
５号委員	大　塚　文　男	平成25年12月～平成27年３月	医学部
５号委員	鳥　井　康　弘	平成25年12月～平成27年３月	歯学部

５号委員	檜　垣　和　孝	平成25年12月～平成27年３月	薬学部
５号委員	冨　田　栄　二	平成25年12月～平成27年３月	工学部
５号委員	梶　原　　毅	平成25年12月～平成27年３月	環境理工学部
６号委員	木　村　吉　伸	平成25年12月～平成27年３月	農学部
６号委員	阿　部　宏　史	－	
６号委員	中　村　良　平	平成25年４月～平成27年３月	研究統括ディレクター
６号委員	大　林　純　子	平成25年12月～平成27年３月	国際センター
６号委員	劔　持　　淑	平成25年12月～平成27年３月	言語教育センター
６号委員	佐々木　健　二	平成25年12月～平成27年３月	教育開発センター
６号委員	松　岡　洋　一	平成25年12月～平成27年３月	学生支援センター
６号委員	鈴　木　久　雄	平成25年12月～平成27年３月	スポーツ教育センター

以上31名

2014（平成26）年度　岡山大学地域総合研究センター運営委員会名簿

	氏　　名	任　　期	備　　考
１号委員	荒　木　　勝	－	
２号委員	三　村　　聡	－	
３号委員	千　田　俊　樹	－	
３号委員	前　田　芳　男	－	
３号委員	石　丸　香　苗	－	
３号委員	絢　野　那　陳	－	
３号委員	山　川　路　代	－	
３号委員	岩　淵　　泰	－	
３号委員	佐　藤　大　介	－	
４号委員	花　谷　　正	－	センター規程第６条一号　地域連携学習推進部門
４号委員	尾　本　哲　朗	－	センター規程第６条二号　産学官連携部門
４号委員	尾　﨑　敏　文	－	センター規程第６条三号　地域医療部門
４号委員	坂　入　信　也	－	センター規程第６条四号　学生地域活動支援部門
５号委員	三　村　由香里	平成26年４月～平成27年３月	教育学研究科・教育学部
５号委員	石　田　祐　之	平成25年12月～平成27年３月	自然科学研究科
５号委員	竹　田　芳　弘	平成25年12月～平成27年３月	保健学研究科
５号委員	坂　本　圭　児	平成25年12月～平成27年３月	環境生命科学研究科
５号委員	浅　海　淳　一	平成25年12月～平成27年３月	医歯薬学総合研究科
５号委員	佐　藤　吾　郎	平成25年12月～平成27年３月	法務研究科
５号委員	北　川　博　史	平成25年12月～平成27年３月	文学部
５号委員	中　富　公　一	平成25年12月～平成27年３月	法学部・大学院社会文化科学研究科
５号委員	平　野　正　樹	平成25年12月～平成27年３月	経済学部
５号委員	竹　中　博　士	平成25年12月～平成27年３月	理学部

５号委員	大　塚　文　男	平成25年12月～平成27年３月	医学部
５号委員	鳥　井　康　弘	平成25年12月～平成27年３月	歯学部
５号委員	黒　﨑　勇　二	平成26年12月～平成27年３月	薬学部
５号委員	阿　部　匡　伸	平成26年４月～平成27年３月	工学部
５号委員	梶　原　　毅	平成25年12月～平成27年３月	環境理工学部
５号委員	木　村　吉　伸	平成25年12月～平成27年３月	農学部
６号委員	許　　南　浩	－	
６号委員	中　村　良　平	平成25年４月～平成27年３月	研究統括ディレクター
６号委員	大　林　純　子	平成25年12月～平成27年３月	グローバル・パートナーズ
６号委員	劔　持　　淑	平成25年12月～平成27年３月	言語教育センター
６号委員	佐々木　健　二	平成25年12月～平成27年３月	教育開発センター
６号委員	太刀掛　俊　之	平成26年４月～平成27年３月	学生支援センター
６号委員	鈴　木　久　雄	平成25年12月～平成27年３月	スポーツ教育センター

以上36名

2015（平成27）年度　岡山大学地域総合研究センター運営委員会名簿

	氏　　名	任　　期	備　　考
１号委員	荒　木　　勝	－	
２号委員	三　村　　聡	－	
２号委員	前　田　芳　男	－	
３号委員	石　丸　香　苗	－	
３号委員	山　田　　一隆	－	
３号委員	山　川　路　代	－	
３号委員	岩　淵　　泰	－	
３号委員	佐　藤　大　介	－	
４号委員	花　谷　　正	－	センター規程第６条一号　地域連携学習推進部門
４号委員	尾　本　哲　朗	－	センター規程第６条二号　産学官連携部門
４号委員	尾　﨑　敏　文	－	センター規程第６条三号　地域医療部門
４号委員	坂　入　信　也	－	センター規程第６条四号　学生地域活動支援部門
５号委員	三　村　由香里	平成27年４月～平成29年３月	教育学研究科・教育学部
５号委員	鶴　田　健　二	平成27年４月～平成29年３月	自然科学研究科
５号委員	猪　下　　光	平成27年４月～平成29年３月	保健学研究科
５号委員	坂　本　圭　児	平成27年４月～平成29年３月	環境生命科学研究科
５号委員	浅　海　淳　一	平成27年４月～平成29年３月	医歯薬学総合研究科
５号委員	佐　藤　吾　郎	平成27年４月～平成29年３月	法務研究科
５号委員	北　川　博　史	平成27年４月～平成29年３月	文学部
５号委員	中　富　公　一	平成27年４月～平成29年３月	法学部・大学院社会文化科学研究科
５号委員	平　野　正　樹	平成27年４月～平成29年３月	経済学部

５号委員	竹　中　博　士	平成27年４月～平成29年３月	理学部
５号委員	大　塚　文　男	平成27年４月～平成29年３月	医学部
５号委員	鳥　井　康　弘	平成27年４月～平成29年３月	歯学部
５号委員	黒　﨑　勇　二	平成27年４月～平成29年３月	薬学部
５号委員	阿　部　匡　伸	平成27年４月～平成29年３月	工学部
５号委員	加　藤　嘉　英	平成27年４月～平成29年３月	環境理工学部
５号委員	木　村　吉　伸	平成27年４月～平成29年３月	農学部
６号委員	許　　南　浩	－	
６号委員	大　林　純　子	平成27年４月～平成29年３月	グローバル・パートナーズ
６号委員	劔　持　　淑	平成27年４月～平成29年３月	言語教育センター
６号委員	佐々木　健　二	平成27年４月～平成29年３月	教育開発センター
６号委員	太刀掛　俊　之	平成27年４月～平成29年３月	学生支援センター
６号委員	鈴　木　久　雄	平成27年４月～平成29年３月	スポーツ教育センター
６号委員	吉　川　　賢	平成27年９月～平成29年８月	環境生命科学研究科

以上35名

2016（平成28）年度　岡山大学地域総合研究センター運営委員会名簿

	氏　　名	任　　期	備　　考
１号委員	三　村　　聡	－	
２号委員	前　田　芳　男	－	
３号委員	吉　川　　賢	－	
３号委員	石　丸　香　苗	－	
３号委員	山　田　一　隆	－	
３号委員	山　川　路　代	－	
３号委員	岩　淵　　泰	－	
４号委員	花　谷　　正	－	センター規程第６条一号　地域連携学習推進部門
４号委員	尾　本　哲　朗	－	センター規程第６条二号　産学官連携部門
４号委員	尾　﨑　敏　文	－	センター規程第６条三号　地域医療部門
４号委員	坂　入　信　也	－	センター規程第６条四号　学生地域活動支援部門
５号委員	三　村　由香里	平成27年４月～平成29年３月	教育学研究科・教育学部
５号委員	鶴　田　健　二	平成27年４月～平成29年３月	自然科学研究科
５号委員	猪　下　　光	平成27年４月～平成29年３月	保健学研究科
５号委員	坂　本　圭　児	平成27年４月～平成29年３月	環境生命科学研究科
５号委員	那　須　保　友	平成28年４月～平成29年３月	医歯薬学総合研究科
５号委員	佐　藤　吾　郎	平成27年４月～平成29年３月	法務研究科
５号委員	北　川　博　史	平成27年４月～平成29年３月	文学部
５号委員	中　富　公　一	平成27年４月～平成29年３月	法学部
５号委員	平　野　正　樹	平成28年４月～平成29年３月	経済学部・大学院社会文化科学研究科

５号委員	竹　中　博　士	平成27年４月～平成29年３月	理学部
５号委員	大　塚　文　男	平成27年４月～平成29年３月	医学部
５号委員	森　田　　学	平成28年４月～平成29年３月	歯学部
５号委員	黒　﨑　勇　二	平成27年４月～平成29年３月	薬学部
５号委員	田　野　　哲	平成28年４月～平成29年３月	工学部
５号委員	坂　本　　亘	平成28年４月～平成29年３月	環境理工学部
５号委員	木　村　吉　伸	平成27年４月～平成29年３月	農学部
６号委員	荒　木　　勝	－	
６号委員	許　　南　浩	－	
６号委員	廣　畑　　聡	平成28年４月～平成29年３月	グローバル・パートナーズ
６号委員	佐々木　健　二	平成27年４月～平成29年３月	基幹教育センター
６号委員	吉　川　　幸	平成28年６月～平成29年３月	地域総合研究センター 実践型教育プランナー

以上32名

2017（平成29）年度　岡山大学地域総合研究センター運営委員会名簿

	氏　　名	任　　期	備　　考
１号委員	三　村　　聡	－	
２号委員	前　田　芳　男	－	
３号委員	吉　川　　賢	－	
３号委員	石　丸　香　苗	－	
３号委員	山　田　一　隆	－	
３号委員	岩　淵　　泰	－	
４号委員	花　谷　　正	－	センター規程第６条一号　地域連携学習推進部門
４号委員	尾　本　哲　朗	－	センター規程第６条二号　産学官連携部門
４号委員	尾　﨑　敏　文	－	センター規程第６条三号　地域医療部門
４号委員	坂　入　信　也	－	センター規程第６条四号　学生地域活動支援部門
５号委員	三　村　由香里	平成29年４月～平成31年３月	教育学研究科・教育学部
５号委員	鶴　田　健　二	平成29年４月～平成31年３月	自然科学研究科
５号委員	齋　藤　信　也	平成29年４月～平成31年３月	保健学研究科
５号委員	西　山　　哲	平成29年４月～平成31年３月	環境生命科学研究科・環境理工学部
５号委員	那　須　保　友	平成29年４月～平成31年３月	医歯薬学総合研究科
５号委員	佐　藤　吾　郎	平成29年４月～平成31年３月	法務研究科
５号委員	北　川　博　史	平成29年４月～平成31年３月	文学部
５号委員	中　富　公　一	平成29年４月～平成31年３月	法学部
５号委員	平　野　正　樹	平成29年４月～平成31年３月	経済学部・大学院社会文化科学研究科
５号委員	竹　中　博　士	平成29年４月～平成31年３月	理学部
５号委員	浜　田　　淳	平成29年４月～平成31年３月	医学部

５号委員	森　田　　学	平成29年４月～平成31年３月	歯学部
５号委員	黒　﨑　勇　二	平成29年４月～平成31年３月	薬学部
５号委員	田　野　　哲	平成29年４月～平成31年３月	工学部
５号委員	木　村　吉　伸	平成29年４月～平成31年３月	農学部
６号委員	高　橋　香　代	平成29年４月～平成31年３月	企画・評価・総務担当理事
６号委員	佐　野　　寛	平成29年４月～平成31年３月	教育担当理事
６号委員	釣　　雅　雄	平成29年４月～平成31年３月	グローバル・パートナーズ
６号委員	鈴　木　久　雄	平成29年４月～平成31年３月	基幹教育センター
６号委員	吉　川　　幸	平成29年４月～平成31年３月	地域総合研究センター 実践型教育プランナー

以上30名

2018（平成30）年度　岡山大学地域総合研究センター運営委員会名簿

	氏　名	備　　考
１号委員	高　橋　香　代	企画・評価・総務担当理事・副学長
１号委員	佐　野　　寛	教育担当理事・副学長
１号委員	加　賀　　勝	社会連携担当副学長
２号委員	三　村　　聡	センター長
３号委員	前　田　芳　男	副センター長
４号委員	吉　川　　賢	センター専任教員
４号委員	山　田　一　隆	センター専任教員
４号委員	岩　淵　　泰	センター専任教員
５号委員	吉　川　　幸	実践型教育プランナー
６号委員	花　谷　　正	センター規程第６条１号　地域連携学習推進部門
６号委員	尾　本　哲　朗	センター規程第６条２号　産学官連携部門
６号委員	尾　﨑　敏　文	センター規程第６条３号　地域医療部門
６号委員	坂　入　信　也	センター規程第６条４号　学生地域活動支援部門
７号委員	北　川　博　史	文学部
７号委員	三　村　由香里	教育学部
７号委員	中　富　公　一	法学部
７号委員	張　　星　源	経済学部
７号委員	竹　中　博　士	理学部
７号委員	浜　田　　淳	医学部
７号委員	森　田　　学	歯学部
７号委員	黒　﨑　勇　二	薬学部
７号委員	田　野　　哲	工学部
７号委員	木　村　吉　伸	農学部

７号委員	西　山　　哲	環境理工学部
８号委員	後　藤　博　明	総務・企画部長
９号委員	釣　　雅　雄	グローバル・パートナーズ
９号委員	鈴　木　久　雄	基幹教育センター
９号委員	高　岡　敦　史	センター兼担教員

以上28名

2019（令和元）年度　岡山大学地域総合研究センター運営委員会名簿

	氏　名	備　　考
１号委員	加　賀　　勝	社会連携担当副学長
２号委員	三　村　　聡	センター長
３号委員	前　田　芳　男	副センター長
４号委員	吉　川　　賢	センター専任教員
４号委員	山　田　一　隆	センター専任教員
４号委員	岩　淵　　泰	センター専任教員
５号委員	吉　川　　幸	実践型教育プランナー
６号委員	渡　部　廉　弘	総務・企画部長

以上８名

2020（令和２）年度　岡山大学地域総合研究センター運営委員会名簿

	氏　　名	備　　考
１号委員	加　賀　　勝	社会連携担当副学長
２号委員	三　村　　聡	センター長
３号委員	前　田　芳　男	副センター長
４号委員	岩　淵　　泰	センター専任教員
６号委員	渡　部　廉　弘	総務・企画部長

以上５名

2021（令和３）年度　岡山大学地域総合研究センター運営委員会名簿

	氏　　名	備　　考
１号委員	加　賀　　勝	社会連携担当副学長
２号委員	三　村　　聡	センター長
４号委員	岩　淵　　泰	副センター長
６号委員	高　月　希一郎	総務・企画部長

以上４名

2014(平成26)年度　地域総合研究センターアドバイザー委員会名簿

	氏　　名
委員長	荒　木　　勝
	伊　藤　直　人
	ヴァンソン　藤　井　由　実
	平　本　真　樹
	高　原　弘　海
	梶　谷　俊　介
	大久保　憲　作
	青　木　肇　也
	高　次　秀　明
	山　根　文　男
	本　田　伸　孝
	三　宅　　昇
	伊　藤　公　久

順不同

2015(平成27)年度　地域総合研究センター アドバイザー委員

氏　　名	所　　属
荒木　勝（委員長）	岡山大学 理事（社会貢献・国際担当）・副学長
伊　藤　公　久	プロフェッショナルエンジニア
伊　藤　直　人	岐阜県白川村役場 政策顧問
大久保　憲　作	一般社団法人 高梁川流域学校 代表理事
梶　谷　俊　介	一般社団法人 岡山経済同友会 地域振興委員長
高　次　秀　明	公益財団法人 岡山シンフォニーホール 専務理事
高　原　弘　海	社会福祉法人 旭川荘 理事
平　本　真　樹	三菱地所株式会社 開発推進部　新機能開発室チーフマネージャー
ヴァンソン　藤井由実	都市交通ジャーナリスト
三　宅　　昇	公益財団法人 岡山県産業振興財団 理事長
青　木　肇　也	旭化成ケミカルズ株式会社　モノマー・触媒研究所主席研究員
本　田　伸　孝	株式会社 金融財政総合研究所
徳　田　恭　子	特定非営利活動法人 まちづくり推進機構岡山 理事
河　上　直　美	特定非営利活動法人 タブラ ラサ 理事長
石　原　達　也	特定非営利活動法人　岡山NPOセンター 理事
石　田　篤　史	公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま 代表理事
岡　山　一　郎	山陽新聞社 論説委員会 副主幹
横　田　都志子	株式会社 unita設計室 代表取締役
山　根　文　男	岡山大学 教師教育開発センター 副センター長

3．アドバイザー委員

氏　　名	所　　属
吉　川　　賢	岡山大学 大学院環境生命科学研究科 特任教授
加　賀　　勝	岡山大学 大学院教育学研究科 教授
浜　田　　淳	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 教授
中　村　良　平	岡山大学 大学院社会文化科学研究科 教授
河　原　伸　幸	岡山大学 大学院自然科学研究科 准教授

順不同

2016（平成28）年度　地域総合研究センター アドバイザー委員

氏　　名	所　　属
荒　木　　勝	岡山大学 理事（社会貢献・国際担当）・副学長
伊　藤　公　久	プロフェッショナルエンジニア
伊　藤　直　人	岐阜県白川村役場 政策顧問
大久保　憲　作	一般社団法人 高梁川流域学校 代表理事
梶　谷　俊　介	一般社団法人 岡山経済同友会 地域振興委員長
髙　次　秀　明	公益財団法人 岡山シンフォニーホール 専務理事
髙　原　弘　海	社会福祉法人 旭川荘 理事
平　本　真　樹	三菱地所株式会社 開発推進部　新機能開発室チーフマネージャー
ヴァンソン　藤井由実	都市交通ジャーナリスト
三　宅　　昇	公益財団法人 岡山県産業振興財団 理事長
青　木　肇　也	旭化成株式会社　研究・開発本部　触媒技術開発センター
本　田　伸　孝	株式会社 金融財政総合研究所
德　田　恭　子	特定非営利活動法人 まちづくり推進機構岡山 理事
河　上　直　美	特定非営利活動法人 タブラ ラサ 理事長
石　原　達　也	特定非営利活動法人　岡山NPOセンター 理事
石　田　篤　史	公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま 代表理事
岡　山　一　郎	山陽新聞社 論説委員会 副主幹
横　田　都志子	株式会社 unita設計室 代表取締役
吉　川　　賢	岡山大学 大学院環境生命科学研究科 特任教授
加　賀　　勝	岡山大学 大学院教育学研究科 教授
浜　田　　淳	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 教授
中　村　良　平	岡山大学 大学院社会文化科学研究科 教授
河　原　伸　幸	岡山大学 大学院自然科学研究科 准教授
三　木　良　一	山陽新聞社
石　田　尚　昭	岡山市都市整備局　まちづくりアドバイザー 公益財団法人岡山市スポーツ・文化振興財団

以上25名

2017(平成29)年度　地域総合研究センター アドバイザー委員

氏　　名	所　　属
伊　藤　公　久	プロフェッショナルエンジニア
伊　藤　直　人	岐阜県白川村役場 政策顧問
大久保　憲　作	一般社団法人 高梁川流域学校 代表理事
梶　谷　俊　介	一般社団法人 岡山経済同友会 地域振興委員長
髙　次　秀　明	公益財団法人 岡山シンフォニーホール 専務理事
髙　原　弘　海	社会福祉法人 旭川荘 理事
平　本　真　樹	三菱地所株式会社 開発推進部　新機能開発室チーフマネージャー
ヴァンソン　藤井由実	都市交通ジャーナリスト
三　宅　　昇	公益財団法人 岡山県産業振興財団 理事長
青　木　肇　也	旭化成株式会社　研究・開発本部　触媒技術開発センター
本　田　伸　孝	株式会社 HFMコンサルティング 代表取締役
德　田　恭　子	特定非営利活動法人 まちづくり推進機構岡山 代表理事
河　上　直　美	特定非営利活動法人 タブラ ラサ 理事
石　原　達　也	特定非営利活動法人　岡山NPOセンター 副代表理事
石　田　篤　史	公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま 初代代表理事
岡　山　一　郎	山陽新聞社
横　田　都志子	株式会社 unita設計室 代表取締役
吉　川　　賢	岡山大学 大学院環境生命科学研究科 特任教授
加　賀　　勝	岡山大学 大学院教育学研究科 教授
浜　田　　淳	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 教授
中　村　良　平	岡山大学 大学院社会文化科学研究科 教授
河　原　伸　幸	岡山大学 大学院自然科学研究科 准教授
三　木　良　一	山陽新聞社
石　田　尚　昭	岡山市都市整備局　まちづくりアドバイザー 公益財団法人岡山市スポーツ・文化振興財団

以上24名

2018(平成30)年度　地域総合研究センター アドバイザー委員

氏　　名	所　　属
伊　藤　公　久	プロフェッショナルエンジニア
伊　藤　直　人	岐阜県白川村役場 政策顧問
梶　谷　俊　介	一般社団法人 岡山経済同友会 地域振興委員長
髙　次　秀　明	公益財団法人 岡山シンフォニーホール 専務理事
髙　原　弘　海	社会福祉法人 旭川荘 常務理事
平　本　真　樹	株式会社ぐるなび 営業本部　プロモーション部門

氏　　名	所　　属
ヴァンソン　藤井由実	都市交通ジャーナリスト
三　宅　　昇	公益財団法人 岡山県産業振興財団 理事長
青　木　肇　也	旭化成株式会社 研究・開発本部　化学・プロセス研究所
本　田　伸　孝	株式会社 HFMコンサルティング 代表取締役
徳　田　恭　子	特定非営利活動法人 まちづくり推進機構岡山 代表理事
石　原　達　也	特定非営利活動法人 岡山NPOセンター 副代表理事
石　田　篤　史	公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま 理事
岡　山　一　郎	山陽新聞社
三　木　良　一	山陽新聞社
石　田　尚　昭	岡山市都市整備局 まちづくりアドバイザー 公益財団法人 岡山市スポーツ・文化振興財団

以上16名

2019(令和元)年度　地域総合研究センター アドバイザー委員

氏　　名	所　　属　　等
伊　藤　公　久	プロフェッショナルエンジニア
伊　藤　直　人	岐阜県白川村役場 政策顧問
梶　谷　俊　介	一般社団法人 岡山経済同友会 地域振興委員長
髙　次　秀　明	公益財団法人 岡山シンフォニーホール 専務理事
髙　原　弘　海	社会福祉法人 旭川荘 常務理事
平　本　真　樹	株式会社ぐるなび　営業本部　プロモーション部門
ヴァンソン 藤井由実	都市交通ジャーナリスト
三　宅　　昇	公益財団法人 岡山県産業振興財団 理事長
青　木　肇　也	旭化成株式会社　研究・開発本部　化学・プロセス研究所
本　田　伸　孝	株式会社 HFMコンサルティング　代表取締役
徳　田　恭　子	特定非営利活動法人 まちづくり推進機構岡山 代表理事
石　原　達　也	特定非営利活動法人　岡山NPOセンター 副代表理事
石　田　篤　史	公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま 理事
岡　山　一　郎	山陽新聞社
三　木　良　一	山陽新聞社
石　田　尚　昭	岡山市都市整備局　まちづくりアドバイザー 公益財団法人岡山市スポーツ・文化振興財団
桂　田　隆　行	日本政策投資銀行　参事役

以上17名

2020（令和２）年度　地域総合研究センター アドバイザー委員

氏　　名	所　　属　　等
伊　藤　公　久	プロフェッショナルエンジニア
伊　藤　直　人	岐阜県白川村役場　政策顧問
梶　谷　俊　介	一般社団法人 岡山経済同友会　地域振興委員長
ヴァンソン 藤井由実	都市交通ジャーナリスト
本　田　伸　孝	株式会社 HFM コンサルティング　代表取締役
徳　田　恭　子	特定非営利活動法人 まちづくり推進機構岡山　代表理事
石　田　尚　昭	岡山市都市整備局　まちづくりアドバイザー 公益財団法人岡山市スポーツ・文化振興財団
桂　田　隆　行	日本政策投資銀行　参事役
サウミャ・キニ	ポートランド ランドスケープアーキテクチャ

以上９名

2021（令和３）年度　地域総合研究センター アドバイザー委員

氏　　名	所　　属　　等
伊　藤　公　久	プロフェッショナルエンジニア
伊　藤　直　人	岐阜県白川村役場 政策顧問
梶　谷　俊　介	一般社団法人 岡山経済同友会 地域振興委員長
ヴァンソン藤井由実	都市交通ジャーナリスト
本　田　伸　孝	株式会社 HFM コンサルティング 代表取締役
徳　田　恭　子	特定非営利活動法人 まちづくり推進機構岡山 代表理事
石　田　尚　昭	岡山市都市整備局 まちづくりアドバイザー 公益財団法人岡山市スポーツ・文化振興財団
桂　田　隆　行	日本政策投資銀行 参事役
サウミャ・キニ	ポートランド ランドスケープアーキテクチャ

以上９名

2012（平成 24）年度事業計画

５つの主要なミッションを具体化するため、初年度となる 2012（平成 24）年度事業計画を次のとおり定めた。

地域総合研究センター 2012（平成 24）年度事業計画
―　学都構想の実現に向けた事業展開　―

1　学都構想の作成と実践

1－1　研究活動

国際比較研究　学都の創成に向け先進都市事例を研究、当該都市の大学や自治体、経済界とネットワークを構築（ストラスブール、ナント、ポートランド、ピッツバーグ、吉林大学、成均館大学など）

国内比較研究　学都の創成に向け、学都を標榜する国内都市事例を研究しつつ当該都市における大学や自治体、経済界とのネットワークを構築（“旧６国立大学、旧制高校の大学、中四国の大学”との関係重視）

歴史・文化研究　吉備学に代表される歴史・文化を社会文化科学や地理農学、環境理工など多面的・重層的に研究、岡山や中四国を対象としたハイカルチャー領域のレベルアップを図り、成果を海外や地域社会に還元

学都データの構築　オリジナリティに富む都市・企業データ（例えば地方政令指定都市データ比較など）の構築に向け、公的統計データや公開データなどの整備を自治体や経済界と協働で開発

1－2　実践活動

国際学術都市構想会議の開催

メンバー枠を県内全大学に広げ呼びかけ。また、オープンディスカッションを重視、学生や市民との議論や対話を広げる。構想会議の定例開催と開催場所の多様化を図る（年４回程度開催）。

トロットマン元ストラスブール市長招聘委員会の組成

大学と経済界が連携し招聘委員会を組成、①事前学習会の開催（学都構想の明確化）と招聘準備・予算検討、②プログラム企画とフォーラム開催、③報告書作成、都市計画提言、施策反映活動の展開

留学生のまちづくり

留学生や若者が集える総合的なまちづくり（ゾーニング）をめざし、居住空間確保、歴史文化を体感しながら楽しめる商店街、UD に配慮した移動環境の整備など、経済界、行政、商店街、NPO、学生参加によるシティプロモーションを実施

2　まちなかキャンパスの展開

2－1　まちづくりチャレンジ・プロジェクト：学内研究者公募

地域・国際貢献に資する研究テーマに取り組む研究者（教員）を公募（予算枠設定）

2－2　まちづくりチャレンジ・プロジェクト（学生公募）

地域・国際貢献に資する研究テーマに取り組む学生団体を公募（資金補助）

2－3　事業経費

哲学カフェ、スポーツカフェ等企画運営費、広聴･広報費（地域調査費、活動･交通費、HP･プログラム･チラシ制作費等）、外部ゲスト講師謝金・旅費交通費・宿泊費（学内は無償）、地域イベント支援実費（文房具・交通費・学生保険代）

2－4　学びの広場“おかやま魅力会議”の組成

“おかやまのまちづくり”をテーマにした研究会を自治体、経済界、住民団体、商店街、NPO などと協働で組成（イオン出店の影響や公共交通（LRT 延伸問題）など具体的なホットイシューを取り上げ、国内外

から最先端･最前線で研究活動を行う研究者や実務家を招聘して、研究成果を公表･公開、同時にデータベース化する

3　シンクタンク機能の発揮

3－1　地方学都の事例収集と調査研究・分析・提案

熊本、金沢、新潟、東京、ポートランド、ストラスブールなど各地の学都を調査・研究した成果を比較分析する（1－1　研究活動と関連）

4　窓口機能の強化

市民、NPO、企業から寄せられるまち作りに関する相談窓口体制の整備（産学官連携本部との関係維持による機能強化）

5　情報発信

5－1　年報・機関誌の発行（各年１回）

5－2　学都パンフレット・アゴラ案内：各理事の学都論とセンターへの期待

5－3　ホームページ開設、メーリングリスト（メルマガ発行＆双方向での広報・広聴）

5－4　学都叢書・選書：第一巻「学都とは何か」

2013（平成 25）年度事業計画

1　研究活動

⑴　専門委員による学都研究

地域総合研究センターのミッションである大学と地域の連携に関する学術研究の蓄積を行い、学都創生に必要不可欠な情報を発信するため、４つの柱（「地域と医療」「地域と環境」「地域と教育・スポーツ」「まちづくり・地域創生」）を中心とした学都研究を行う。

⑵　大学機能強化戦略経費　学都構想推進支援

専門委員による学都研究の実施に加え、各部局から学都構想推進に資する取組を募集し、要件を満たす取組に対して、支援を行う。

⑶　国内研究

視察調査（国内２箇所）　を行う。

2　実践活動

⑴　シンポジウム・報告会

・学都のモデルとなる都市の研究を行い、国内外のモデル都市から識者を招いてシンポジウムを開催し、学都の創生について学び、その方策を検討する。

（三都市シンポジウム（金沢・熊本・岡山）、国際学都シンポジウム（ストラスブール））

・学都研究及び職員・学生企画の中間報告会、成果報告会を実施する。

（中間報告会、成果報告会の実施）

⑵　岡山市経済戦略懇話会（年６回）、国際学術都市構想会議、教育再生協議会

行政や経済団体とともに国際学術都市として魅力あるまちづくりについて検討を行う。

⑶　留学生のまちづくり

留学生が、岡山のまちづくりを経験し、岡山が好きになることで、岡山の友好親善大使を育てる大学と地域の協働の取り組みを行う。

（オカヤマ・ウェルカムピクニック、クラシキ・ウェルカムピクニック、サムライ・トリップ in やかげまち、岡山大学うぇるかむデー “World Kitchen”、岡山市 ESD プレシンポジウム、もちつき大会、東北視察、就職支援セミナー）

⑷　岡山県生涯学習大学　大学院コース（国際理解）

岡山県生涯学習センターが主催する生涯学習大学の大学院コース（国際理解）を開講する。

⑸　まちなかキャンパス事業

（Ⅰ）　職員・学生企画

職員や学生自らがまちづくりに積極的に参加できるように、活動企画を募集・審査し、基準を満たした企画に対して、活動支援を実施する。

（Ⅱ）　アゴラ喫茶（公開講座）、教員単独企画

まちなかキャンパスにおいて、さまざまな話題を地域の人々とともに考え、語り合う。（年 20 回開催、城下ステーション開所 1 周年記念）

3　シンクタンク機能の発揮

地域の諸問題に対して、学術的な視点から、地域発展に資する提言を行う。

（西川パフォーマー事業検証及び西川緑道公園周辺現況調査業務、岡山駅前イオン出店影響調査）

4　窓口機能の強化

市民、NPO、企業から寄せられるまちづくりに関する相談窓口体制の整備を行う。

（岡山市町村振興協会海外研修サポート）

5　情報発信

成果報告書・学都研究報告書・機関誌・留学生のまちづくり報告書の発行（各年 1 回）

6　概算要求関連（実践型社会連携教育プログラム）

実践型社会連携プログラムの構築に向けて平成 26 年度からの試行を計画する。

学都の創成は、大学だけではなく、地域との協力が不可欠である。この観点から、地域総合研究センターでは、これまでの行政や経済団体とともに国際学術都市として魅力あるまちづくりについて検討してきた。その対話の場として、国際学術都市構想会議と岡山市経済戦略懇話会が挙げられる。

2014（平成 26）年度事業計画

1　研究活動

⑴　専門委員による学都研究

地域総合研究センターのミッションである大学と地域の連携に関する学術研究の蓄積を行い、学都創生に必要不可欠な情報を発信するため、4 つの柱（「地域と医療」「地域と環境」「地域と教育・スポーツ」「まちづくり・地域創生」）を中心とした学都研究を行う。

⑵　大学機能強化戦略経費 学都構想推進支援

専門委員による学都研究の実施に加え、各部局から学都構想推進に資する取組を募集し、要件 を満たす取組に対して、支援を行う。

⑶　国外・国内研究

視察調査を行う。（国外：ポートランド、ストラスブール　国内：京都、新潟）など

2　実践活動

⑴　シンポジウム・報告会

・学都のモデルとなる都市の研究を行い、国内外のモデル都市から識者を招いてシンポジウムを 開催し、学都の創生について学び、その方策を検討する。

（三都市シンポジウム（金沢・熊本・岡山）、国際学都シンポジウム）

・学都研究及び職員・学生企画の中間報告会、成果報告会を実施する。

⑵　岡山市経済戦略懇話会、国際学術都市構想会議

行政や経済団体とともに国際学術都市として魅力あるまちづくりについて検討を行う。

⑶　留学生のまちづくり

留学生が、岡山のまちづくりに参加し、岡山好きになることで、大学と地域は岡山の友好親善大使を育てる取り組みを行う。

（オカヤマ Study tour、まちづくり仕掛人、サムライ･トリップ in やかげまち、岡山大学うぇるかむデー “The World Kitchen”、就職支援セミナー）

⑷　まちなかキャンパス事業

(I)　職員・学生企画（学都チャレンジ学生・職員企画）

職員や学生自らがまちづくりに積極的に参加できるように、活動企画を募集・審査し、基準を満たした企画に対して、活動支援を実施する。

(II)　地域総合研究センター単独企画

まちなかキャンパスにおいて、さまざまな話題を地域の人々とともに考え、語り合う。

3　シンクタンク機能の発揮

地域の諸問題に対して、学術的な視点から、地域発展に資する提言を行う。

4　窓口機能の強化

市民、NPO、企業から寄せられるまちづくりに関する相談窓口体制の整備を行う。

5　情報発信

成果報告書・学都研究報告書・機関誌・留学生のまちづくり報告書の発行（各年１回）

6　概算要求関連（実践型社会連携教育プログラム）

実践型社会連携教育プログラムの構築として、平成 28 年度からの教養教育科目の本格的実施に向けて計画・実施する。

2015（平成 27）年度事業計画

1　研究活動

⑴　専門委員による学都研究

当センターのミッションである大学と地域の連携に関する学術研究の蓄積を行い、学都創生に必要不可欠な情報を発信するため、４つの柱（「地域と医療」「地域と環境」「地域と教育・スポーツ」「まちづくり・地域創生」）を中心とした学都研究を行う。

⑵　大学機能強化戦略経費 学都構想推進支援

専門委員による学都研究の実施に加え、各部局から学都構想推進に資する取組を募集し、要件を満たす取組に対して、支援を行う。

⑶　国外・国内研究

視察調査を行う。（国外：ポートランド、ストラスブール　国内：熊本、新潟）など

2　実践活動

⑴　シンポジウム・報告会

・　学都のモデルとなる都市の研究を行い、国内外のモデル都市から識者を招いてシンポジウムを開催し、学都の創生について学び、その方策を検討する。

（三都市シンポジウム（金沢・熊本・岡山）、国際学都シンポジウム）

・　学都研究及び職員・学生による学都チャレンジ企画の中間報告会、成果報告会を実施する。

⑵　岡山市都市戦略懇話会、国際学術都市構想会議

行政や経済団体とともに国際学術都市として魅力あるまちづくりについて検討を行う。

⑶　留学生のまちづくり

留学生が、小田郡矢掛町のまちづくりに参加し、まちを好きになることで、大学と地域は岡山の友好親善大使を育てる取り組みを行う。

（ホームステイ、園児・高齢者との交流、栗ひろい、田植え、稲刈、サムライトリップインやかげ）

⑷　まちなかキャンパス事業

Ⅰ　職員・学生企画（学都チャレンジ学生・職員企画）

職員や学生自らがまちづくりに積極的に参加できるように、活動企画を募集・審査し、基準を満たした企画に対して活動を支援する。

Ⅱ　地域総合研究センター単独企画

まちなかキャンパスにおいて、さまざまな話題を地域の人々とともに考え、語り合う。

3　シンクタンク機能の発揮

地域の諸問題に対して、学術的な視点から、調査・分析し地域発展に資する提言を行う。

4　窓口機能の強化

市民、NPO、企業から寄せられるまちづくりに関する相談窓口体制の整備を行う。

5　情報発信

成果報告書・学都研究報告書・留学生のまちづくり報告書の発行（各年１回）

実践型社会連携教育プログラム実施報告書

6　概算要求関連（実践型社会連携教育プログラム）

実践型社会連携教育プログラムの構築として、平成 28 年度からの教養教育科目の本格的実施に向けて計画・実施する。

2016（平成 28）年度事業計画

1．研究活動

⑴　専任教員による学都研究

地域総合研究センターのミッションである大学と地域の連携に関する学術研究の蓄積を行い、学都創生に必要不可欠な情報を発信するため、４つの柱（「地域と医療」「地域と教育・スポーツ」「技術・環境」「まちづくり・地域創生」）を中心とした学都研究を行う。

⑵　学都構想推進支援

専任教員による学都研究の実施に加え、各部局の学都構想推進に資する取組に対して、受託事業や国・県・市などからの補助金への申請等支援を行う。

⑶　国外・国内研究

視察調査を行う。（国外：ポートランド、ストラスブール　国内：熊本、金沢、岡山県内など）

2．実践活動

⑴　シンポジウム・報告会

・　学都のモデルとなる都市の研究を行い、国内外のモデル都市から識者を招いてシンポジウムを開催し、学都の創生について学び、その方策を検討する。

（三都市シンポジウム（金沢・熊本・岡山）、国際学都シンポジウム）

・　自治体の政策の後押しとなるシンポジウムを開催する。

⑵　岡山市都市戦略懇話会、おかやま地域発展協議体、おかやま円卓会議

行政や経済団体とともに国際学術都市として魅力あるまちづくりについて検討を行いつつ、国際学都実現のための産官学民の連携組織において、地域が抱える課題の解決と次代を担う人材の育成を目的とした活動を目指す。

⑶　岡山県内でのまちづくり

岡山県内の自治体、市民団体などと協働し、大学の知見をもって実践活動を行う。

学生（留学生を含む）がこれらの事業に参加し、岡山のまちを好きになることで、大学と地域は岡山の友好親善大使を育てる取り組みを行う。

⑷　まちなかキャンパス事業

・　学都チャレンジ企画（学生企画、職員企画）

職員や学生自らがまちづくりに積極的に参加できるように、活動企画を募集・審査し、基準を満たした企画に対して活動を支援する。

・　地域総合研究センター単独企画

さまざまな話題を地域の人々とともに考え、語り合う。

3．シンクタンク機能の発揮

地域の諸問題に対して、学術的な視点から、調査・分析し地域発展に資する提言を行う。

4．窓口機能の強化

自治体、市民、NPO、企業から寄せられるまちづくりに関する相談窓口体制の整備を行う。

5．情報発信

成果報告書、留学生のまちづくり報告書、実践型社会連携教育プログラムに関する実施報告書の発行（各年１回）。

実践活動における中で発行するニュースレター、リーフレットなど（不定期）。

6．実践型社会連携教育プログラム（概算要求関連）

全学教育・学生支援機構教育開発センターと連携し、実践型社会連携教育プログラムを平成 28 年度より教養教育科目を中心に実施し、概念、定義、学内外の体制などを整備・構築する。

2017（平成 29）年度事業計画

1．研究活動

⑴　専任教員による学都研究

地域総合研究センターのミッションである大学と地域の連携に関する学術研究の蓄積を行い、学都創生に必要不可欠な情報を発信するため、４つの柱（「地域と医療」「地域と教育・スポーツ」「技術・環境」「まちづくり・地域創生」）を中心とした学都研究を行う。

⑵　学都構想推進支援

専任教員による学都研究の実施に加え、各部局の学都構想推進に資する取り組みに対して、受託事業や国・県・市などからの補助金への申請等支援を行う。

⑶　国外・国内研究

視察調査を行う。（国外：ポートランド、ストラスブール　国内：熊本、金沢、岡山県内など）

2．実践活動

⑴　シンポジウム・報告会

・　学都のモデルとなる都市の研究を行い、国内外のモデル都市から識者を招いてシンポジウムを開催し、学都の創生について学び、その方策を検討する。

（三都市シンポジウム（金沢・熊本・岡山））

・　自治体の政策の後押しとなるシンポジウムを開催する。

⑵　岡山市都市戦略懇話会、おかやま地域発展協議体、おかやま円卓会議

行政や経済団体とともに国際学術都市として魅力あるまちづくりについて検討を行いつつ、国際学都実現のための産官学民の連携組織において、地域が抱える課題の解決と次代を担う人材の育成を目的とした活動を目指す。

⑶　岡山県内でのまちづくり

岡山県内の自治体、市民団体などと協働し、大学の知見をもって実践活動を行う。

学生（留学生を含む）がこれらの事業に参加し、岡山のまちを好きになることで、大学と地域が岡山の友好親善大使を育てる取り組みを行う。

⑷　まちなかキャンパス事業

・　学都チャレンジ企画（学生企画）

職員や学生自らがまちづくりに積極的に参加できるように、活動企画を募集・審査し、基準を満たした企画に対して活動を支援する。

・　地域総合研究センター単独企画

さまざまな話題を地域の人々とともに考え、語り合う。

3．シンクタンク機能の発揮

地域の諸問題に対して、学術的な視点から、調査・分析し地域発展に資する提言を行う。

4．窓口機能の強化

自治体、市民、NPO、企業から寄せられるまちづくりに関する相談窓口体制の整備を行う。

5．情報発信

成果報告書、留学生のまちづくり報告書、実践型社会連携教育プログラムに関する実施報告書などの発行（各年１回）。

実践活動における中で発行するニュースレター、リーフレットなど（不定期）。

6．実践型社会連携教育プログラム（概算要求関連）

全学教育・学生支援機構教育開発センターと連携し、教養教育科目を中心に実施し、全学へ展開を進める。

2018（平成 30）年度事業計画

1　研究活動

⑴　専任教員による学都研究

地域総合研究センターのミッションである大学と地域の連携に関する学術研究の蓄積を行い、学都創生に必要不可欠な情報を発信するため、４つの柱（「地域と医療」「地域と教育・スポーツ」「技術・環境」「まちづくり・地域創生」）を中心とした学都研究を行う。

⑵　学都構想推進支援

専任教員による学都研究の実施に加え、各部局の学都構想推進に資する取り組みに対して、受託事業や国・県・市などからの補助金への申請等支援を行う。

⑶　国外・国内研究

視察調査を行う。（国外：ポートランド、ストラスブール　国内：熊本、金沢、岡山県内など）

2　実践活動

⑴　シンポジウム・報告会

・　学都のモデルとなる都市の研究を行い、国内外のモデル都市から識者を招いてシンポジウムを開催し、学都の創生について学び、その方策を検討する。

（三都市シンポジウム（金沢・熊本・岡山）、国際学都シンポジウム）

・　自治体の政策の後押しとなるシンポジウムを開催する。

⑵　岡山市都市戦略懇話会、おかやま地域発展協議体、おかやま円卓会議

行政や経済団体とともに国際学術都市として魅力あるまちづくりについて検討を行いつつ、国際学都実現のための産官学民の連携組織において、地域が抱える課題の解決と次代を担う人材の育成を目的とした活動を目指す。

⑶　岡山県内でのまちづくり

岡山県内の自治体、市民団体などと協働し、大学の知見をもって実践活動を行う。

学生（留学生を含む）がこれらの事業に参加し、岡山のまちを好きになることで、大学と地域は岡山の友好親善大使を育てる取り組みを行う。

⑷　まちなかキャンパス事業

・　学都チャレンジ企画（学生企画、職員企画）

職員や学生自らがまちづくりに積極的に参加できるように、活動企画を募集・審査し、基準を満たした企画に対して活動を支援する。

3　シンクタンク機能の発揮

地域の諸問題に対して、学術的な視点から、調査・分析し地域発展に資する提言を行う。

4　窓口機能の強化

自治体、市民、NPO、企業から寄せられるまちづくりに関する相談窓口体制の整備を行う。

5　情報発信

成果報告書、実践型社会連携教育プログラムに関する実施報告書の発行（各年１回）。

実践活動における中で発行するニュースレター、リーフレットなどの制作（不定期）。

6　実践型社会連携教育プログラム（概算要求関連）

全学教育・学生支援機構教育開発センターと連携し、実践型社会連携教育プログラムを2016（平成28）年度より教養教育科目を中心に実施し、概念、定義、学内外の体制などを整備・構築する。

2019（令和元）年度事業計画

1　研究活動

⑴　専任教員による学都研究

地域総合研究センターのミッションである大学と地域の連携に関する学術研究の蓄積を行い、学都創生に必要不可欠な情報を発信するため、４つの柱（「地域と医療」「地域と教育・スポーツ」「技術・環境」「まちづくり・地域創生」）を中心とした学都研究を行う。

⑵　学都構想推進支援

専任教員による学都研究の実施に加え、各部局の学都構想推進に資する取り組みに対して、受託事業や国・県・市などからの補助金への申請等支援を行う。

⑶　国外・国内研究

視察調査を行う。（国外：ポートランド、ストラスブール　国内：熊本、金沢、岡山県内など）

2　実践活動

⑴　シンポジウム・報告会

・　学都のモデルとなる都市の研究を行い、国内外のモデル都市から識者を招いてシンポジウムを開催し、学都の創生について学び、その方策を検討する。

（三都市シンポジウム（金沢・熊本・岡山）、国際学都シンポジウム）

・　自治体の政策の後押しとなるシンポジウムを開催する。

⑵　おかやま地域発展協議体、おかやま円卓会議

行政や経済団体とともに国際学術都市として魅力あるまちづくりについて検討を行いつつ、国際学都実現のための産官学民の連携組織において、地域が抱える課題の解決と次代を担う人材の育成を目的とした活動を目指す。

⑶　岡山県内でのまちづくり

岡山県内の自治体、市民団体などと協働し、大学の知見をもって実践活動を行う。

学生（留学生を含む）がこれらの事業に参加し、岡山のまちを好きになることで、大学と地域は岡山の友好親善大使を育てる取り組みを行う。

⑷　まちなかキャンパス事業・学都チャレンジ企画（学生企画、職員企画）

職員や学生自らがまちづくりに積極的に参加できるように、活動企画を募集・審査し、基準を満たした企画に対して活動を支援する。

3　シンクタンク機能の発揮

地域の諸問題に対して、学術的な視点から、調査・分析し地域発展に資する提言を行う。

4　窓口機能の強化

自治体、市民、NPO、企業から寄せられるまちづくりに関する相談窓口体制の整備を行う。

5　情報発信

成果報告書、実践型社会連携教育プログラムに関する実施報告書の発行（各年１回）。

実践活動における中で発行するニュースレター、リーフレットなどの制作（不定期）。

6　実践型社会連携教育プログラム（概算要求関連）

全学教育・学生支援機構教育開発センターと連携し、実践型社会連携教育プログラムを2016（平成28）年度より教養教育科目を中心に実施し、概念、定義、学内外の体制などを整備・構築する。

2020（令和２）年度事業計画

1．研究活動

⑴　専任教員による学都研究

地域総合研究センターのミッションである大学と地域の連携に関する学術研究の蓄積を行い、学都創生に必要不可欠な情報を発信するため、４つの柱（「地域と医療」「地域と教育・スポーツ」「技術・環境」「まちづくり・地域創生」）を中心とした学都研究を行う。

⑵　学都構想推進支援

専任教員による学都研究の実施に加え、各部局の学都構想推進に資する取り組みに対して、受託事業や国・県・市などからの補助金への申請等支援を行う。

⑶　国外・国内研究

視察調査を行う。（国外：ポートランド、ストラスブール　国内：熊本、金沢、岡山県内など）

2．実践活動

⑴　シンポジウム・報告会

学都のモデルとなる都市の研究を行い、国内外のモデル都市から識者を招いてシンポジウムを開催し、学都の創生について学び、その方策を検討する。（三都市シンポジウム（金沢･熊本･岡山）、国際学都シンポジウム）

自治体の政策の後押しとなるシンポジウムを開催する。

⑵　岡山県内でのまちづくり

岡山県内の自治体、市民団体などと協働し、大学の知見をもって実践活動を行う。

学生（留学生を含む）がこれらの事業に参加し、岡山のまちを好きになることで、大学と地域は岡山の友好親善大使を育てる取り組みを行う。

⑶　まちなかキャンパス事業・学都チャレンジ企画（学生企画、職員企画）

職員や学生自らがまちづくりに積極的に参加できるように、活動企画を募集・審査し、基準を満たした企画に対して活動を支援する。

3．シンクタンク機能の発揮

地域の諸問題に対して、学術的な視点から、調査・分析し地域発展に資する提言を行う。

4．窓口機能の強化

自治体、市民、NPO、企業から寄せられるまちづくりに関する相談窓口体制の整備を行う。

5．情報発信

成果報告書、実践型社会連携教育プログラムに関する実施報告書の発行（各年１回）。
実践活動における中で発行するニュースレター、リーフレットなどの制作（不定期）。
ホームページをリニューアルし、活動をより分かりやすく発信。

6．実践型社会連携教育プログラム

全学教育・学生支援機構基幹教育センターと連携し、実践型社会連携教育プログラムを全学的に展開するための体制を整備・構築する。

2021（令和３）年度事業計画

1．研究活動

⑴　設立10周年記念シンポジウムの開催

これまでの学都研究の成果を集大成して取りまとめ、その成果をシンポジウムにて発表する。

⑵　SDGs展示スペースの新設

地域におけるSDGs活動を学内と地域双方から情報を収集、調査研究成果や活動情報を展示するスペースを新設して、岡山大学の地域におけるSDGs活動を示す拠点の整 備を行う。

⑶　専任教員による学都研究

地域総合研究センターのミッションである大学と地域の連携に関する学術研究の蓄積を行い、学都創生に必要不可欠な情報を発信するため、４つの柱（「地域と医療」「地域と教育・スポーツ」「技術・環境」「まちづくり・地域創生」）を中心とした学都研究を行う。

⑷　国外・国内研究

視察調査を行う。（国外は、ポートランド、ストラスブール。国内は熊本、金沢、岡山県内などを予定。）新型コロナ災禍の影響で、オンラインでの調査も検討する。

2．実践活動

⑴　シンポジウム・報告会

学都のモデルとなる都市の研究を行い、国内外のモデル都市から識者を招いてシンポジウムを開催し、学都の創生について学び、その方策を検討する。（三都市シンポジウム（金沢･熊本･岡山）、国際学都シンポジウム）
自治体の政策の後押しとなるシンポジウムを開催する。

⑵　岡山県内でのまちづくり

SDGs 達成に向けた取組の中で、地域課題解決に向けて、岡山県内の自治体、市民団体などと協働し、大学の知見をもって実践活動を行う。 学生（留学生を含む）がこれらの事業に参加し、岡山のまちを好きになることで、大学と地域は岡山の友好親善大使を育てる取り組みを行う。

⑶　学生の活動

新型コロナ禍の影響（学生や地域へのリスクコントロール）を踏まえつつ、地域社会との連携による学生たちのSDGsを念頭に置いた地域活動への参画を継続する。

⑷　まちなかキャンパス事業・学都チャレンジ企画（学生企画）

学生自らがまちづくりに積極的に参加できるように、活動企画を募集・審査し、基準を満たした企画に対して活動を支援する。

３．シンクタンク機能の発揮

地域の諸問題に対して、学術的な視点から、調査・分析し地域発展に資する提言を行う。

４．窓口機能の強化

自治体、市民、NPO、企業から寄せられるまちづくりに関する相談窓口体制の整備を行う。

５．情報発信

成果報告書、実践型社会連携教育プログラムに関する実施報告書の発行（各年１ 回)。

リーフレットの制作（不定期)。

６．実践型社会連携教育プログラム

全学教育・学生支援機構を支援し、SDGs推進を視座においた社会連携教育科目を全学の担当教員に周知する。また、学生が地域社会で学ぶことにより、実践力の向上と生きる力を身に着けることを目指し、オンラインを有効活用した新たなスタイルのインターンシップ型の教育プログラムの開発に取り組む。

5．組織体制の推移

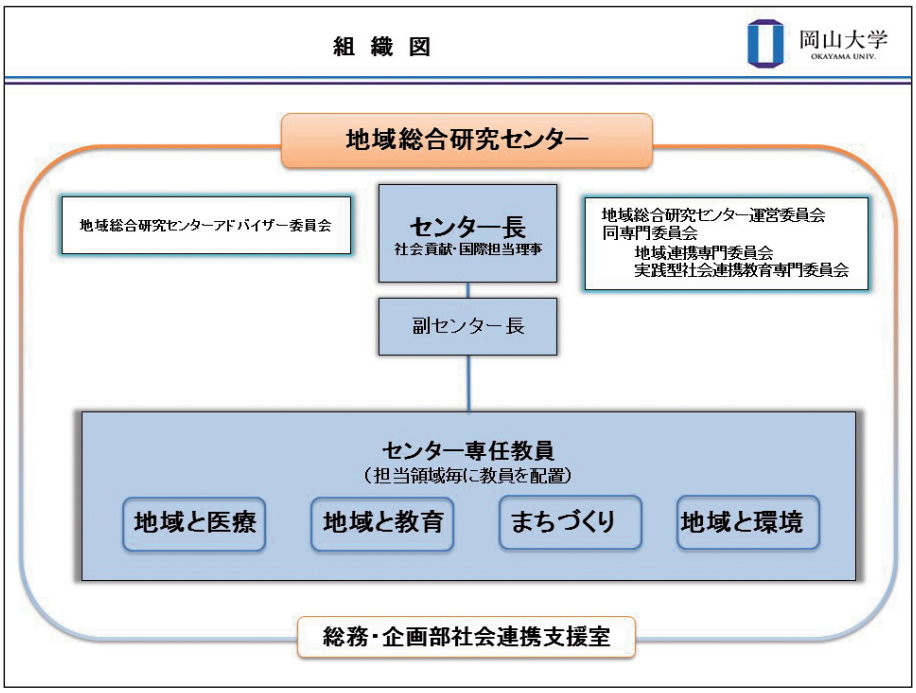
2014（平成 26）年度　組織体制

４月から、前田芳男准教授、山川路代助教、佐藤大介助教、鷹野郁子非常勤研究員の４名が着任した。また、事務所も旧陸軍師団本部時代のレンガ造りの建物へ移動した。４月１日、着任式が荒木勝理事室で行われた。

さらに、10月から新たに石丸香苗准教授と絢野那陳助教の２名が地域総合研究センターに加わった。10月１日、荒木勝理事から辞令授与がなされた。また、地域総合研究センターの授業を担当する荒木秀治財務企画課長に対しても特別准教授の任命がなされた。

2015（平成 27）年度　組織体制

４月から山田一隆准教授が着任し、担当領域毎の教員配置が完成した。また、同月から総務・企画部に社会連携支援室が設置され、地域総合研究センターを専ら担当する事務組織が設置された。



5．組織体制の推移

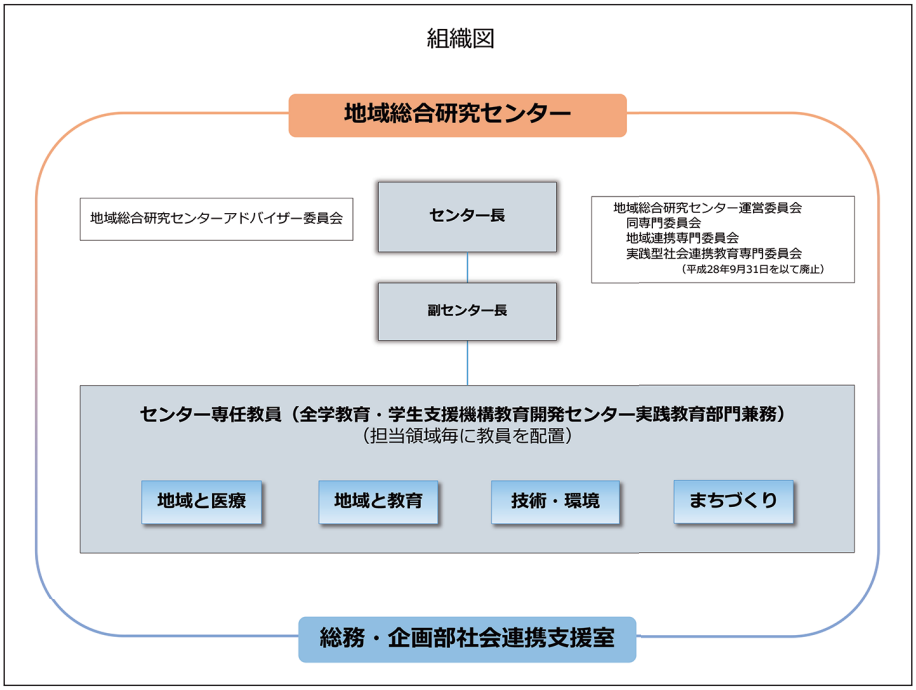
2016（平成 28）年度　組織体制

2016（平成28）年度４月１日より、センター長の任務が荒木勝理事から三村聡前副センター長に交代した。

実践型社会連携教育プログラムの推進のため、４月にセンター専任教員に対して、全学教育・学生支援機構教育開発センター実践教育部門への兼務が発令された。６月からは協力企業や地域の開拓、学内外の関係者との渉外、連絡調整等を行い、学生・教員と社会を繋ぐ専門能力を有する事務職員である実践型教育プランナーを新設し、吉川幸氏を採用。連携教員や学生を強力に支援する体制を整備した。これに伴い、地域総合研究センターに設置してあった実践型社会連携教育専門委員会は廃止され、その機能を全学教育・学生支援機構教育開発センター実践教育部門で新たに設置し、移管した。さらに、６月１日付けで石田尚昭氏（前岡山市都市整備局審議官）が非常勤研究員として着任した。

事務体制としては、総務・企画部社会連携支援室が、地域総合研究センターを専ら担当する組織として設置されている。

また、岡山市と連携してまちづくりを担う人材の育成を目的にした人事交流を開始し、４月より岡山市政策局政策企画課から流尾正亮氏が社会連携支援室に、本学職員の久山航一主任を岡山市政策局政策企画課に、相互派遣している。２名は日常的に互いに連携しながら情報交換し、共同案件を模索している。2017（平成29）年２月８日、人事交流１年間の活動成果を大森雅夫市長に報告した。官学連携が人と人の深い信頼と絆づくりから生まれている。2017（平成29）年３月末現在、教員７名、研究員２名、職員10名の体制となった。



5．組織体制の推移

2017（平成 29）年度　組織体制

４月から、新執行部体制への移行に伴い、高橋香代理事のもと、三村聡センター長、前田芳男副センター長の体制でセンター運営を行うこととなった。

実践型社会連携教育プログラムの推進のため、センター専任教員と実践型教育プランナーに対しては、引き続き全学教育・学生支援機構への兼務が発令されている。

事務体制としては、センターを専ら担当する組織として、引き続き総務・企画部社会連携支援室が設置されている。

また、2016（平成28）年４月から開始された岡山市との人事交流は、派遣中の職員の交流期間を２年に延長して継続された。2018（平成30）年１月17日には槇野博史学長に、同19日には大森雅夫岡山市長に１年間の取り組みを報告した。

2018年（平成30）３月末現在で、教員６名、研究員２名、職員10名の体制となった。

2018（平成 30）年度　組織体制

加賀勝副学長が着任し、三村聡センター長、前田芳男副センター長の体制でセンター運営を行うこととなった。また、運営委員会の開催を簡素化し、センター担当理事、副学長およびセンター教職員をメンバーとした代議委員会が新たに設置された。

実践型社会連携教育プログラムの推進のため、センター専任教員と実践型教育プランナーに対しては、引き続き全学教育・学生支援機構への兼務が発令されている。

事務体制としては、センターを専ら担当する組織として、引き続き総務・企画部社会連携支援室が担当し、2019（平成31）年３月末現在で、教員６名（兼担教員含む）、研究員２名、職員９名（実践型教育プランナー含む）の体制となっている。

地域総合研究センターは全学センターとして、大学本部との機能連携が欠かせないところであるが、本部棟がある地区からはアクセス面で不便が生じていた。これを解消するために津島地区北キャンパスから本部棟近隣となる津島地区西キャンパス（旧事務局庁舎）へ移転した。

また、本学において地域との窓口機能体制整備の一環として際学都おかやま創生本部が設置されており、同本部に所属する コーディネーターも同じ建物内に居を構えている。このため、運営委員会は社会連携担当副学長と地域総合研究センターの教員で構成され、代議委員会は廃止する運びとなった。

地域総合研究センターは同本部のもとで社会連携、地域貢献を後押しすることとなる。

5．組織体制の推移

2019（令和元）年度　組織体制

2019（平成31）年２月より、本学において地域との窓口機能体制整備の一環として国際学都おかやま創生本部が設置された。本部長は槇野博史学長、統括コーディネーターは加賀勝副学長、専任コーディネーターは橋ケ谷佳正教授である。地域総合研究センターの運営委員会は社会連携担当副学長と地域総合研究センターの教員で構成され、同本部のもとで社会連携、地域貢献を後押ししている。

2020（令和２）年３月末現在で、教員６名（兼担教員含む）、研究員１名（非常勤）、職員１名（実践型教育プランナー）の体制となっている。また、実践型社会連携教育プログラムの推進のため、センター専任教員と実践型教育プランナーに対しては、引き続き全学教育・学生支援機構への兼務が発令されている。さらに、2019（平成31）年１月～2020（令和２）年１月末までの１年間、岡山市中心市街地の水と緑の公共空間の研究活動のため、アメリカ・オレゴン州ポートランドから日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）を通じて奨学金を受けた研究員を受け入れた。事務体制としては、センターを専ら担当する組織として、引き続き総務・企画部社会連携課が担当している。

2020（令和２）年度　組織体制

地域総合研究センターの運営委員会は加賀勝副学長と地域総合研究センターの教員、総務・企画部長で構成され、2019（平成31）年２月に本学における地域との窓口機能体制整備の一環として配置された国際学都おかやま創生本部のもとで社会連携、地域貢献を後押ししている。

2021（令和３）年１月末現在で、教員３名（兼担教員含む）の体制となっている。また、実践型社会連携教育プログラムの推進のため、センター専任教員に対しては、引き続き全学教育・学生支援機構への兼務が発令されている。事務体制は、総務・企画部社会連携課が担当している。

2021（令和３）年度　組織体制

地域総合研究センターの運営委員会は加賀勝副学長と地域総合研究センターの教員、総務・企画部長で構成され、2019（平成31）年２月に本学における地域との窓口機能体制整備の一環として配置された国際学都おかやま創生本部のもとで社会連携、地域貢献を後押ししている。

2022（令和４）年１月末現在で、教員２名の体制となっている。また、実践型社会連携教育プログラムの推進のため、センター専任教員に対しては、引き続き全学教育・学生支援機構への兼務が発令されている。事務体制は、総務・企画部社会連携課が担当している。

2015（平成27）年度　外部委員・協議会等への参画

外部委員・協議会	AGORA担当者
岡山市2016（平成28）年度包括外部監査人選定委員会（岡山市総務局行政事務管理課）	三村　聡
文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」 「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」教育プログラム開発委員会	三村　聡
岡山県「美作国創生公募提案事業」審査委員長	三村　聡
岡山県「環境学習協働推進 企業向け環境学習プログラム開発委員会」委員	三村　聡
岡山県「ICT岡山熱血リーダー発掘事業 選考委員会」審査委員長	三村　聡
岡山商工会議所「まちかな活性化協議会」アドバイザー	三村　聡
OHK番組審議会審議委員	三村　聡
岡山市「総務・市民政策審議会」委員	三村　聡
岡山市「岡山ESD推進協議会」運営委員会委員	三村　聡
井原市「井原中学校建替えに関する設計コンペ」審査委員	三村　聡
井原市「指定管理者選定委員会」委員	三村　聡
一般財団法人 地域公共交通総合研究所 理事	三村　聡
公益財団法人　水島地域環境再生財団 中長期計画策定　外部評価委員	三村　聡
井原市　地域創生戦略顧問	三村　聡
公益財団法人　岡山県環境保全事業団　環境学習センター「アスエコ」委員	三村　聡
井原市　「元気いばら創生戦略会議」委員	前田　芳男
公益社団法人　全国消費生活相談員協会 幼小中高生向け消費者教育プログラム開発事業のための研究会　委員	前田　芳男
特定非営利活動法人まちづくり推進機構岡山 理事	山田　一隆
岡山県美作県民局研修会「美作国“実・楽・彩”づくり塾」講師	山田　一隆 石丸　香苗
「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会（水島協議会）」委員	三村　聡
「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会（水島協議会）」オブザーバー	石丸　香苗 鷹野　郁子
岡山市西口活性化協議会	三村　聡 鷹野　郁子
岡山市明るい選挙推進委員会会長	岩淵　泰
和気町まちづくり審議員	岩淵　泰
早島町教育委員会　早島学園学校運営協議会委員	佐藤　大介
新見地域医療ミーティングオブザーバー	山川　路代

2016（平成28）年度　外部委員・協議会等への参画

外部委員・協議会	AGORA担当者
文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」おかやまCOC+推進協議会委員	三村　聡
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部・内閣府地方創生推進室　地方創生人材派遣制度　井原市地域創生戦略顧問	三村　聡
日本計画行政学会　中国支部 理事・副支部長	三村　聡
人を大切にする経営学会　理事	三村　聡
おかやま地域発展協議体　事務局長	三村　聡
公益財団法人 岡山県市町村振興協会　理事	三村　聡
岡山県 美作県民局 「美作国創生公募提案事業　審査会」 審査委員長	三村　聡
岡山県 「環境文化部指定管理者選定（非公募）に係る外部有識者会議」 委員	三村　聡
岡山市 「総務・市民政策審議会」 委員	三村　聡
岡山市 「包括外部監査人選定委員会」 委員	三村　聡
高梁川流域連携中枢都市圏ビジョン懇談会　座長　（倉敷市など高梁川流域７市３町）	三村　聡
吉井川流域ＤＭＯ設立準備会有識者会議　会長（赤磐市、瀬戸内市、和気町）	三村　聡

6．学外連携

外部委員・協議会	AGORA 担当者
真庭市　「未来を担う人応援基金事業　審査会」　審査委員長	三村　　聡
井原市　第７次総合計画策定審議会　アドバイザー	三村　　聡
岡山商工会議所　「まちなか活性化協議会」　アドバイザー	三村　　聡
倉敷商工会議所　「経営発展支援計画」外部評価委員会　委員長	三村　　聡
公益財団水島地域環境再生財団（みずしま財団） 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会　委員	三村　　聡
一般社団法人　地域公共交通総合研究所　理事	三村　　聡
岡山放送　番組審議委員会　委員	三村　　聡
岡山放送「生誕120年土光敏夫氏顕彰 高校生作文コンクール」審査委員長	三村　　聡
こくさいこどもフォーラム岡山「高校生懸賞論文」審査委員	三村　　聡
岡山シーガルズ　顧問	三村　　聡
トヨタ自動車「モビリティ研究会」委員	三村　　聡
福武文化振興財団　「平成28年度文化活動助成」　審査委員	前田　芳男
旭川かわまちづくり計画検討推進会議 副委員長	前田　芳男
西川緑道公園筋歩行者天国実行委員会　委員	前田　芳男
井原市　「元気いばら創生戦略会議」　委員長	前田　芳男
岡山県美作県民局　「美作国“実・楽・彩”づくり塾」職員研修会　コーディネーター	山田　一隆
岡山市　「岡山地域『持続可能な開発のための教育』推進協議会」　運営委員	山田　一隆
特定非営利法人　まちづくり推進機構岡山　理事	山田　一隆
岡山県　「環境学習協働推進広場運営委員会」　委員	石丸　香苗
真庭市　「ウェルネスタウン湯原・熱利用推進協議会」　委員	石丸　香苗
公益財団水島地域環境再生財団（みずしま財団） 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会　オブザーバー	石丸　香苗 鷹野　郁子
岡山市　「ヘルスケア産業協議会」　委員	山川　路代
新見市地域医療ミーティングオブザーバー	三村　　聡 山川　路代
国保・後期高齢者ヘルスサポート事業　アドバイザー（勝央町）	山川　路代
岡山県データヘルス推進モデル事業（笠岡市）	山川　路代
岡山市　「協働推進委員会」　委員	岩淵　　泰
岡山市　「明るい選挙推進協議会」会長	岩淵　　泰
和気町「まちづくり審議委員」委員	岩淵　　泰
日本砂漠学会　副会長	吉川　　賢
日本砂漠学会　評議員・編集委員会委員	吉川　　賢
日本緑化工学会　評議員	吉川　　賢
日本緑化工学会　乾燥地緑化研究部会　部会長	吉川　　賢
公益財団法人「国際緑化推進センター」　理事	吉川　　賢
特定非営利活動法人「地球緑化センター」　理事	吉川　　賢
日本学術振興会　国際科学研究費委員会　専門委員	吉川　　賢
日本環境衛生センター 環境省委託「黄砂問題検討会」　委員	吉川　　賢
地球・人間環境フォーラム　環境省委託「乾燥地における住民参加による持続可能な牧草地利用等検討事業委員会」　委員	吉川　　賢
農林水産省　農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業　１次審査専門評価委員	吉川　　賢
環境省　日中韓三カ国黄砂共同研究運営委員会　委員	吉川　　賢
環境省　日中韓三カ国黄砂共同研究第２作業部会　部会長	吉川　　賢
和気町　「教育推進連絡協議会」　委員	吉川　　幸

2017(平成29)年度　外部委員・協議会等への参画

外部委員・協議会	AGORA 担当者
日本計画行政学会　中国支部　理事・副支部長	三村　聡
人を大切にする経営学会　理事	三村　聡
岡山県　美作県民局　「美作国創生公募提案事業」　審査委員長	三村　聡
岡山県　企業誘致推進協議会　企業誘致アドバイザー	三村　聡
岡山市　「総務・市民政策審議会」　委員	三村　聡
岡山市　「包括外部監査人選定委員会」　委員	三村　聡
岡山市　「超小型モビリティ利活用推進協議会」　委員	三村　聡
真庭市　「未来を担う人応援基金事業　審査会」　審査委員長	三村　聡
井原市　第７次総合計画策定審議会　アドバイザー	三村　聡
新見市　クアオルト推進協議会　オブザーバー	三村　聡
倉敷商工会議所　外部評価委員会　委員長	三村　聡
公益財団法人　岡山県市町村振興協会　理事	三村　聡
公益財団法人　水島地域環境再生財団（みずしま財団） 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会　委員	三村　聡
高梁川流域連携中枢都市圏ビジョン懇談会　座長（倉敷市など7市3町）	三村　聡
吉井川流域ＤＭＯ設立準備会有識者会議　委員長（瀬戸内市・赤磐市・和気町）	三村　聡
一般財団法人　地域公共交通総合研究所　理事	三村　聡
岡山放送株式会社　番組審議会　委員	三村　聡
岡山シーガルズ　顧問	三村　聡
こくさいこどもフォーラム岡山「高校生懸賞論文2017」審査委員	三村　聡
トヨタ自動車「モビリティ研究会」委員	三村　聡
公益財団法人福武教育文化振興財団　「平成29年度文化活動助成」　審査委員	前田　芳男
西川緑道公園筋歩行者天国実行委員会　委員	前田　芳男
岡山県美作県民局　市町村職員研修「美作国“実・楽・彩”づくり塾」　コーディネーター	山田　一隆
岡山市　「岡山地域『持続可能な開発のための教育』推進協議会」　運営委員	山田　一隆
日本福祉教育・ボランティア学習学会　特任理事	山田　一隆
特定非営利活動法人　まちづくり推進機構岡山　理事	山田　一隆
岡山県　「環境学習協働推進広場運営委員会」　委員	石丸　香苗
岡山県　協働による環境学習出前講座のあり方を考える検討委員	石丸　香苗
公益財団法人　水島地域環境再生財団（みずしま財団） 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会　オブザーバー	石丸　香苗 鷹野　郁子
岡山市　「協働推進委員会」　委員長	岩淵　泰
岡山市　「明るい選挙推進協議会」　会長	岩淵　泰
新見市　地域医療ミーティング　オブザーバー	三村　聡 山川　路代
農林水産省　途上国森林再生技術普及事業委員会　委員	吉川　賢
農林水産省　農林水産技術会議　イノベーション創出強化研究事業専門評価委員	吉川　賢
環境省　黄砂問題検討会　委員	吉川　賢
環境省　乾燥地における住民参加による持続可能な牧草地利用等検討事業委員会　委員	吉川　賢
環境省　日中韓三カ国黄砂共同研究運営委員	吉川　賢
環境省　日中韓三カ国黄砂共同研究第2作業部会　委員長	吉川　賢
日本沙漠学会　会長	吉川　賢
日本緑化工学会　評議員	吉川　賢
日本緑化工学会　乾燥地研究部会　部会長	吉川　賢
公益財団法人　国際緑化推進センター　理事	吉川　賢
特定非営利活動法人　地球緑化センター　理事	吉川　賢
鳥取大学乾燥地研究センター　温暖化プロジェクト　諮問委員	吉川　賢

2018(平成30)年度　外部委員・協議会等への参画

外部委員・協議会	AGORA担当者
日本計画行政学会　中国支部　理事・副支部長	三村　聡
人を大切にする経営学会　理事	三村　聡
岡山県　美作県民局　「美作国創生公募提案事業」　審査委員長	三村　聡
岡山県　企業誘致推進協議会　企業誘致アドバイザー	三村　聡
岡山市　「総務・市民政策審議会」　委員	三村　聡
岡山市　「包括外部監査人選定委員会」　委員	三村　聡
岡山市　「超小型モビリティ利活用推進協議会」　委員	三村　聡
倉敷市　真備地区復興計画策定委員会　委員長	三村　聡
新見市　クアオルト推進協議会　オブザーバー	三村　聡
倉敷商工会議所　外部評価委員会　委員長	三村　聡
公益財団法人　岡山県市町村振興協会　理事	三村　聡
公益財団法人　水島地域環境再生財団（みずしま財団） 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会	三村　聡 岩淵　泰
高梁川流域連携中枢都市ビジョン懇談会　座長（倉敷市など７市３町）	三村　聡
一般社団法人　吉井川流域ＤＭＯ有識者会議　委員長（瀬戸内市・赤磐市・和気町）	三村　聡
一般財団法人　地域公共交通総合研究所　理事	三村　聡
岡山放送株式会社　番組審議会　委員	三村　聡
岡山シーガルズ　顧問	三村　聡
一般財団法人　地域総合整備財団（ふるさと財団）　アドバイザー	三村　聡
トヨタ自動車「モビリティ研究会」委員	三村　聡
公益財団法人福武教育文化振興財団　「平成29年度文化活動助成」　審査委員	前田　芳男
西川緑道公園筋歩行者天国実行委員会　委員・監査役	前田　芳男
岡山市立岡山後楽館地域協働学校・運営協議会	前田　芳男
岡山県美作県民局　市町村職員研修「美作国“実・楽・彩”づくり塾」　コーディネーター	山田　一隆
岡山市　「岡山地域『持続可能な開発のための教育』推進協議会」　運営委員	山田　一隆
日本福祉教育・ボランティア学習学会　特任理事	山田　一隆
特定非営利活動法人　まちづくり推進機構岡山　理事	山田　一隆
特別非営利活動法人　岡山NPOセンター　理事	山田　一隆
岡山市　「協働推進委員会」　委員長	岩淵　泰
岡山市　「明るい選挙推進協議会」　会長	岩淵　泰
農林水産省　途上国森林再生技術普及事業委員会　委員	吉川　賢
農林水産省　農林水産技術会議　イノベーション創出強化研究事業専門評価委員	吉川　賢
環境省　黄砂問題検討会　委員	吉川　賢
環境省　乾燥地における住民参加による持続可能な牧草地利用等検討事業委員会　委員	吉川　賢
環境省　日中韓三カ国黄砂共同研究運営委員	吉川　賢
環境省　日中韓三カ国黄砂共同研究第２作業部会　委員長	吉川　賢
日本沙漠学会　会長	吉川　賢
日本緑化工学会　評議員	吉川　賢
日本緑化工学会　乾燥地研究部会　部会長	吉川　賢
公益財団法人　国際緑化推進センター　理事	吉川　賢
特定非営利活動法人　地球緑化センター　理事	吉川　賢
鳥取大学乾燥地研究センター　温暖化プロジェクト　諮問委員	吉川　賢
文部科学省　初等中等教育局　新たなコミュニティ創造に向けた小中高大地域連携推進のための企画会議委員	吉川　幸
岡山県立井原高等学校　井原高校パワーアップ推進員	吉川　幸

2019（令和元）年度　外部委員・協議会等への参画

外部委員・協議会	AGORA担当者
岡山県　美作県民局　「美作国創生公募提案事業」　審査委員長	三村　聡
岡山市　「総務・市民政策審議会」　委員	三村　聡
岡山市　「包括外部監査人選定委員会」　委員	三村　聡
倉敷市　真備地区復興計画推進委員会　委員長	三村　聡
倉敷市　災害に強い地域をつくる検討会　委員	三村　聡
倉敷市　第７次総合計画審議会　委員長	三村　聡
倉敷市　真備町災害公営住宅等整備事業者選定委員会　委員長	三村　聡
高梁市　地域防災力向上委員会　委員長	三村　聡
井原市　公共施設等マネジメント推進会議　委員長	三村　聡
井原市　元気いばら創生戦略会議　委員長	三村　聡
倉敷商工会議所　外部評価委員会　委員長	三村　聡
公益財団法人　岡山県市町村振興協会　理事	三村　聡
公益財団法人　水島地域環境再生財団（みずしま財団） 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会	三村　聡 岩淵　泰
高梁川流域連携中枢都市ビジョン懇談会　座長（倉敷市など７市３町）	三村　聡
一般社団法人　吉井川流域ＤＭＯ有識者会議　委員長（瀬戸内市・赤磐市・和気町）	三村　聡
一般財団法人　地域公共交通総合研究所　理事	三村　聡
岡山放送株式会社　番組審議会　委員	三村　聡
岡山シーガルズ　顧問	三村　聡
一般財団法人　地域総合整備財団（ふるさと財団）　アドバイザー	三村　聡
トヨタ自動車「モビリティ研究会」委員	三村　聡
石川文化振興財団　教育文化助成「WAKABA」選考委員	三村　聡
全国労働金庫協会　教育研究講師	三村　聡
労働金庫連合会　教育研究講師	三村　聡
日本計画行政学会　理事・中国支部支部長	三村　聡
人を大切にする経営学会　理事	三村　聡
公益財団法人福武教育文化振興財団　文化活動助成審査委員	前田　芳男
西川緑道公園筋歩行者天国実行委員会　委員	前田　芳男
みんなでつくる水辺フェス♪～岡山旭川2019～実行委員会	前田　芳男
岡山市立岡山後楽館地域協働学校運営協議会　実行委員	前田　芳男
岡山県教育委員会　地域協働事業（県立和気閑谷高等学校）運営指導委員会委員	前田　芳男
総社市社会福祉協議会　総社市生活困窮支援センター協議会　委員	前田　芳男
岡山県美作県民局　市町村職員研修「美作国“実・楽・彩”づくり塾」　コーディネーター	山田　一隆
岡山市　「岡山地域『持続可能な開発のための教育』推進協議会」　運営委員	山田　一隆
日本福祉教育・ボランティア学習学会　特任理事	山田　一隆
特定非営利活動法人　まちづくり推進機構岡山　理事	山田　一隆
特定非営利活動法人　岡山NPOセンター　理事	山田　一隆
岡山市　「協働推進委員会」　委員長	岩淵　泰
岡山市　「明るい選挙推進協議会」　会長	岩淵　泰
農林水産省　途上国森林再生技術普及事業委員会　委員	吉川　賢
農林水産省　農林水産技術会議　イノベーション創出強化研究事業専門評価委員	吉川　賢
環境省　黄砂問題検討会　委員	吉川　賢
環境省　乾燥地における住民参加による持続可能な牧草地利用等検討事業委員会　委員	吉川　賢
環境省　日中韓三カ国黄砂共同研究運営委員	吉川　賢
環境省　日中韓三カ国黄砂共同研究第2作業部会　委員長	吉川　賢
日本沙漠学会　会長	吉川　賢
日本緑化工学会　評議員	吉川　賢

外部委員・協議会	AGORA 担当者
日本緑化工学会　乾燥地研究部会　部会長	吉川　賢
公益財団法人　国際緑化推進センター　理事	吉川　賢
特定非営利活動法人　地球緑化センター　理事	吉川　賢
鳥取大学乾燥地研究センター　温暖化プロジェクト　諮問委員	吉川　賢
井原市ひとづくり推進本部　井原市ひとづくりアドバイザー	吉川　幸
岡山県立井原高等学校　パワーアップ推進員	吉川　幸
岡山県立鴨方高等学校　地域連携委員	吉川　幸
岡山県立和気閑谷高等学校　魅力化推進協議会高大接続部会委員	吉川　幸
全国高校生マイプロジェクトアワード　中四国Summit実行委員	吉川　幸
中国四国地方環境事務所　ナッジ等を用いた小学校における地球温暖化防止行動促進手法業務検討会アドバイザー	吉川　幸

2020（令和２）年度　外部委員・協議会等への参画

外部委員・協議会	AGORA 担当者
岡山県　美作県民局　「美作国創生公募提案事業」　審査委員長	三村　聡
岡山県　企業誘致推進協議会　企業誘致アドバイザー	三村　聡
岡山市　岡山市総務・市民政策審議会　委員	三村　聡
倉敷市　倉敷市災害に強い地域をつくる検討会　委員	三村　聡
倉敷市　倉敷市真備町災害公営住宅等整備事業者選定委員会　委員長	三村　聡
倉敷市　真備地区復興計画推進委員会　委員長	三村　聡
井原市　「元気いばら創生戦略会議」　委員長	三村　聡
一般財団法人　地域公共交通総合研究所　理事	三村　聡
特定非営利活動法人　まちづくり推進機構岡山　理事	三村　聡
公益財団法人　岡山県市町村振興協会　理事	三村　聡
日本計画行政学会　理事・中国支部長	三村　聡
人を大切にする経営学会　常任理事	三村　聡
岡山市　「包括外部監査人選定委員会」　委員	三村　聡
倉敷市　第７次総合計画審議会　会長	三村　聡
高梁市　地域防災力向上委員会　委員長	三村　聡
井原市　公共施設等マネジメント推進会議　委員	三村　聡
高梁川流域連携中枢都市ビジョン懇談会　座長（倉敷市など７市３町）	三村　聡
一般社団法人　吉井川流域DMO有識者会議　委員長（瀬戸内市・赤磐市・和気町）	三村　聡
岡山放送株式会社　番組審議会　委員	三村　聡
岡山シーガルズ　顧問	三村　聡
一般財団法人　地域総合整備財団（ふるさと財団）　アドバイザー	三村　聡
トヨタ自動車「モビリティ研究会」委員	三村　聡
石川文化振興財団　教育文化助成「WAKABA」選考委員	三村　聡
井原市　特別職報酬等審議会　委員長	三村　聡
岡山県教育委員会　地域協働事業（県立和気閑谷高等学校）運営指導委員会委員	前田　芳男
岡山市　総務・市民政策審議会委員	前田　芳男
岡山市立岡山後楽館地域協働学校運営協議会　岡山市立岡山後楽館地域協働学校運営協議会委員	前田　芳男
総社市社会福祉協議会　総社市生活困窮支援センター協議会　委員	前田　芳男
公益財団法人福武教育文化振興財団　教育文化活動助成審査委員	前田　芳男
学校法人尚絅学園尚絅大学短期大学部　非常勤講師	前田　芳男
西川緑道公園筋歩行者天国実行委員会　委員	前田　芳男
岡山市　岡山市協働推進委員会委員	岩淵　泰

外部委員・協議会	AGORA 担当者
岡山ESD推進協議会　運営委員	岩淵　泰
岡山市明るい選挙推進協議会　会長	岩淵　泰
新見公立大学非常勤講師	岩淵　泰
環境省中国環境パートナーシップオフィス（EPOちゅうごく） 中国環境パートナーシップオフィス・中国地方ESD活動支援センター運営委員会　委員	岩淵　泰
公益財団法人　水島地域環境再生財団（みずしま財団） 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会	三村　聡 岩淵　泰

2021（令和３）年度　外部委員・協議会等への参画

外部委員・協議会	AGORA 担当者
京都大学 大学院　経営管理研究部　研究員（非常勤）	三村　聡
（一般財団法人）地域総合整備財団地域再生マネージャー事業　アドバイザー	三村　聡
岡山県「美作国創生公募提案事業」 審査委員長	三村　聡
岡山県美作県民局『美作国地域課題研究チーム』　企画運営・講師	三村　聡
岡山県美作県民局 令和３年度美作地域自治体職員等研修会　企画運営・講師	三村　聡
岡山県企業誘致推進協議会　企業誘致アドバイザー	三村　聡
（公益財団法人）岡山県市町村振興協会　理事	三村　聡
高梁川流域中枢都市圏ビジョン懇談会　会長	三村　聡
倉敷市　真備地区復興計画推進委員会　委員長	三村　聡
倉敷市　復興防災公園選定委員会　委員長	三村　聡
高梁市　高梁市地域防災力向上委員会　委員長	三村　聡
赤磐市　地方創生人材育成講座　企画運営・講師	三村　聡
井原市 「元気いばら創生戦略会議」 委員長	三村　聡
井原市「公共施設等マネジメント推進会議」 委員長	三村　聡
井原市「稲倉産業団地立地企業選定委員会」 委員	三村　聡
井原市「星の郷まちづくりコンソーシアム会議」コーディネーター	三村　聡
備前市　職員政策コンペ　審査委員	三村　聡
岡山シーガルズ　顧問	三村　聡
岡山放送株式会社　番組審議会　委員	三村　聡
（一般財団法人）地域公共交通総合研究所　理事	三村　聡
（特定非営利活動法人）まちづくり推進機構岡山　理事	三村　聡
（一般社団法人）全国労働金庫協会　有識者懇談会　委員	三村　聡
山陽学園大学　非常勤講師(地域マネジメント学部)	岩淵　泰
公立大学法人　新見公立大学　非常勤講師	岩淵　泰
環境省中国環境パートナーシップオフィス（EPOちゅうごく）　中国環境パートナーシップオフィス・中国地方ESD活動支援センター運営委員会　委員	岩淵　泰
岡山市明るい選挙推進協議会　会長	岩淵　泰
岡山市　総務・市民政策審議会委員	岩淵　泰
岡山市　岡山市協働推進委員会委員	岩淵　泰
岡山ESD推進協議会　運営委員	岩淵　泰

2016（平成28）年度　学内会議の委員

会議・委員会	担当者
大学改革推進のためのプロジェクトチーム	前田芳男副センター長
岡山大学広報推進会議	山田一隆准教授
全学教育推進委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
全学教育・学生支援機構運営会議	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
教育開発センター実践教育専門委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）【委員長】 三村聡センター長 山田一隆准教授
教育開発センター実践型教育部会	山田一隆准教授【部会長】 三村聡センター長 前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長） 石丸香苗准教授 山川路代助教 岩淵泰助助教 吉川賢教授（特任） 吉川幸実践型教育プランナー
教育開発センター社会連携教育専門委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
基幹教育センター教養教育専門委員会	前田芳男副センター長（基幹教育センター実践知部会長） 山田一隆准教授
基幹教育センター学系部会（実践知部会）	前田芳男副センター長【部会長】 山田一隆准教授【副部会長】 三村聡センター長
情報セキュリティ委員会	三村聡センター長
ICT教育推進部会（学習環境ラボ）	山田一隆准教授

2017（平成29）年度　学内会議の委員

会議・委員会	担当者
大学改革推進のためのプロジェクトチーム	前田芳男副センター長
岡山大学広報推進会議	山田一隆准教授
全学教育推進委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
全学教育・学生支援機構運営会議	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
教育開発センター実践教育専門委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）【委員長】 三村聡センター長 山田一隆准教授
教育開発センター実践型教育部会	山田一隆准教授【部会長】 三村聡センター長 前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長） 石丸香苗准教授 山川路代助教（2017（平成29）年12月31日まで） 岩淵泰助教 吉川賢特任教授 吉川幸実践型教育プランナー
教育開発センター社会連携教育専門委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
基幹教育センター教養教育専門委員会	前田芳男副センター長（基幹教育センター実践知部会長） 山田一隆准教授
基幹教育センター学系部会（実践知部会）	前田芳男副センター長【部会長】 山田一隆准教授【副部会長】 三村聡センター長

会議・委員会	担当者
情報セキュリティ委員会	三村聡センター長
ICT 教育推進部会（学習環境ラボ）	山田一隆准教授
SDGs推進企画会議	三村聡センター長

2018（平成30）年度　学内会議の委員

会議・委員会	担当者
大学改革推進のためのプロジェクトチーム	前田芳男副センター長
岡山大学広報推進会議	山田一隆准教授
全学教育推進委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
全学教育・学生支援機構運営会議	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
教育開発センター実践教育専門委員会	前田芳男副センター長(教育開発センター実践教育部門長)【委員長】 三村聡センター長 山田一隆准教授
教育開発センター実践型教育部会	山田一隆准教授【部会長】 三村聡センター長 前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長） 岩淵泰助教 吉川賢特任教授 吉川幸実践型教育プランナー
教育開発センター社会連携教育専門委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
基幹教育センター教養教育専門委員会	前田芳男副センター長（基幹教育センター実践知部会長） 山田一隆准教授
基幹教育センター学系部会（実践知部会）	前田芳男副センター長【部会長】 山田一隆准教授【副部会長】 三村聡センター長
情報セキュリティ委員会	三村聡センター長
ICT 教育推進部会（学習環境ラボ）	山田一隆准教授
SDGs推進企画会議	三村聡センター長

2019（令和元）年度　学内会議の委員

会議・委員会	担当者
大学改革推進のためのプロジェクトチーム	前田芳男副センター長
岡山大学広報推進会議	山田一隆准教授
全学教育推進委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
全学教育・学生支援機構運営会議	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
教育開発センター実践教育専門委員会	前田芳男副センター長(教育開発センター実践教育部門長)【委員長】 三村聡センター長 山田一隆准教授
教育開発センター実践型教育部会	山田一隆准教授【部会長】 三村聡センター長 前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長） 岩淵泰助教 吉川賢特任教授 吉川幸実践型教育プランナー
教育開発センター社会連携教育専門委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）

会議・委員会	担当者
基幹教育センター教養教育専門委員会	前田芳男副センター長（基幹教育センター実践知部会長） 山田一隆准教授
基幹教育センター学系部会（実践知部会）	前田芳男副センター長【部会長】 山田一隆准教授【副部会長】 三村聡センター長
情報セキュリティ委員会	三村聡センター長
ICT 教育推進部会（学習環境ラボ）	山田一隆准教授
SDGs推進企画会議	三村聡センター長
未来懇談会	岩淵泰助教 吉川幸実践型教育プランナー

2020（令和２）年度　学内会議の委員

会議・委員会	担当者
大学改革推進のためのプロジェクトチーム	前田芳男副センター長
全学教育推進委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
全学教育・学生支援機構運営会議	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
教育開発センター実践教育専門委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長） 【委員長】 三村聡センター長
教育開発センター実践型教育部会	三村聡センター長 前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長） 岩淵泰准教授
教育開発センター社会連携教育専門委員会	前田芳男副センター長（教育開発センター実践教育部門長）
基幹教育センター教養教育専門委員会	前田芳男副センター長（基幹教育センター実践知部会長）
基幹教育センター学系部会（実践知部会）	前田芳男副センター長【部会長】 三村聡センター長
情報セキュリティ委員会	三村聡センター長
SDGs推進企画会議	三村聡センター長
未来懇談会	岩淵泰准教授
社会文化科学研究科国際交流委員会及び国際連携推進センター運営委員会	岩淵泰准教授

2021（令和３）年度　学内会議の委員

会議・委員会	担当者
教育開発センター実践教育専門委員会	三村聡センター長
教育開発センター実践型教育部会	三村聡センター長 岩淵泰副センター長
基幹教育センター学系部会（実践知部会）	三村聡センター長
情報セキュリティ委員会	三村聡センター長
SDGs推進企画会議	三村聡センター長
未来懇談会	岩淵泰副センター長
社会文化科学研究科国際交流委員会及び国際連携推進センター運営委員会	岩淵泰副センター長

2013(平成25)年度　センター教員担当授業科目

教養、専門、大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	期	曜	時限	備　考
教養	主題科目(現代の課題)	現代コミュニティと地域経済	三村　聡	前期	木曜	2	
教養	主題科目(現代の課題)	現代コミュニティと地域経済	三村　聡	後期	金曜	3	
大学院	社会文化科学研究科	自治体経営戦略論	三村　聡	前期	水曜	7	
大学院	先進基礎科学特別コース	組織マネジメント概論	三村　聡	後期	木曜	4	
教養		"新しい公共"の意味を問う	千田　俊樹	前期	金曜	3	
教養		ソーシャル・キャピタル論への招待	千田　俊樹	後期	金曜	3	
大学院	社会文化科学研究科	地域創生特別講義 地域づくりとソーシャル・キャピタル	千田　俊樹	後期	木曜	7	
教養	主題科目(現代の課題)	世界のまちづくり	岩淵　泰	前期	木曜	2	
教養	主題科目(現代の課題)	市民参加への招待	岩淵　泰	後期	木曜	2	

2014(平成26)年度　センター教員担当授業科目

教養、専門、大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	期	曜	時限	備　考
教養	主題科目(現代の課題)	現代コミュニティと地域経済	三村　聡	前期	木曜	2	
教養	主題科目(現代の課題)	倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境	三村　聡	前期	金曜	3	
教養	主題科目(現代の課題)	現代コミュニティと地域経済	三村　聡	後期	木曜	2	
大学院	社会文化科学研究科	自治体経営戦略論	三村　聡	前期	水曜	6	
大学院	先進基礎科学特別コース	組織マネジメント概論	三村　聡	後期	木曜	4	
教養		"新しい公共"の意味を問う	千田　俊樹	前期	金曜	3	
教養		ソーシャル・キャピタル論への招待	千田　俊樹	後期	金曜	3	
大学院	社会文化科学研究科	地域創生特別講義 地域づくりとソーシャル・キャピタル	千田　俊樹	後期	木曜	7	
教養	主題科目(現代の課題)	世界のまちづくり	岩淵　泰	前期	木曜	2	
教養	主題科目(現代の課題)	市民参加への招待	岩淵　泰	後期	木曜	2	
大学院	社会文化科学研究科	ヨーロッパ都市論	岩淵　泰	前期	水曜	2	
教養	英語	総合英語３	佐藤　大介	前期	金曜	1	
教養	主題科目(現代の課題)	大学とまちづくりーNPO・NGO等との連携を通じてー	荒木　秀治	後期	木曜	2	
教養	主題科目(現代の課題)	地域社会貢献型学習支援活動	前田　芳男・佐藤　大介	後期	その他		
専門	医学部保健学科	ヘルスプロモーション入門	山川　路代	後期	金曜	2	
大学院	医歯薬学総合研究科	社会医歯科学	山川　路代	前期			

2015(平成27)年度　センター教員担当授業科目

教養、専門、大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	期	曜	時限	備　考
教　養	主題科目 (現代の課題)	フィールド調査の 基礎を学ぶ	前田芳男	後　期	木曜	2	
教　養	主題科目 (現代の課題)	レポートの書き方講座 ～フィールドワーク編～	前田芳男	後　期	金曜	3	学生発案型 授業
教　養	主題科目 (現代の課題)	大学とまちづくり －NPO等との連携を通じて－	荒木秀治	後　期	月曜	1	
教　養	主題科目 (現代の課題)	地域社会貢献型 学習等支援活動	佐藤大介	通　年 その他			
教　養	主題科目 (健やかに生きる)	多職種連携と 地域包括ケアの ワークショップ	浜田淳(大学院医歯薬学研究科　教授) 山川路代	後　期 その他			
教　養	主題科目 (健やかに生きる)	地域高齢者と介護	浜田淳(大学院医歯薬学研究科　教授) 山川路代	前　期	木曜	2	
教　養	主題科目 (健やかに生きる)	障害予防の科学	山川路代	後　期	木曜	2	
教　養	主題科目 (現代の課題)	倉敷市水島から 学ぶ地域社会と環境	石丸香苗	前　期	金曜	3	
教　養	主題科目 (現代の課題)	グローバル人材育成に 寄与する	佐藤大介	通　年	木曜	2	
教　養	主題科目 (現代の課題)	創造的討論技術を学ぶ	前田芳男	前　期	木曜	2	
教　養	主題科目 (現代の課題)	現代コミュニティと 地域経済	三村聡	前　期	木曜	2	
教　養	主題科目 (現代の課題)	現代コミュニティと 地域社会	三村聡	後期集中			
教　養	主題科目 (自然と技術)	現代ブラジルの 社会と環境	石丸香苗	後　期	木曜	2	
教　養	主題科目 (人間と社会)	世界のまちづくり１	岩淵泰	前　期	木曜	2	
教　養	主題科目 (人間と社会)	世界のまちづくり２	岩淵泰	後　期	木曜	2	
EPOK科目		Study of Deep Kyoto	山田一隆 宇塚万里子 (グローバル・パートナーズ　教授)	後　期	火曜	5	
EPOK 教養科目		日本研究 Japanese Studies	山川路代	後　期	金曜	3	1コマ 担当
教　養	英語	総合英語５ (リーディング)	佐藤大介	前　期	月曜	2	
教　養	英語	総合英語２	佐藤大介	前　期	月曜	4	
教　養	英語	総合英語２	佐藤大介	前　期	木曜	3	
教　養	英語	総合英語５ (ライティング)	佐藤大介	後　期	木曜	3	
教　養	英語	総合英語２	佐藤大介	後　期	金曜	3	
教　養	英語	総合英語５ (ライティング)	佐藤大介	後　期	金曜	4	
専　門	医学部保健学科	ヘルス プロモーション入門	山川路代	後　期	金曜	2	2コマ 担当
大学院	社会文化科学研究科	地域フィールドワーク論 演習(ポートランド)	岩淵泰	特　別	火曜	2	2コマ 担当
大学院	社会文化科学研究科	ヨーロッパ都市論	岩淵泰	前　期	火曜	2	

8．センター教員担当授業

教養、専門、大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	期	曜	時限	備　考
大学院	社会文化科学研究科	自治体経営戦略論	三村聡	前　期	水曜	7	
大学院	社会文化科学研究科	地域創生特別講義	三村聡 岩淵泰	後　期	金曜	7	4コマずつ担当
大学院	医歯薬学総合研究科	社会医歯科学	山川路代	前期集中			1コマ担当
大学院	公衆衛生学修士（MPH）コース	旅行医学	石丸香苗 山川路代	後期集中			1コマ（石丸） 2コマ（山川）担当
大学院	先進基礎科学特別コース	組織マネジメント論	三村聡	後　期	木曜	4	6コマ担当
大学院予備教育特別コース		プレマスター特別講義	山川路代		金曜	2	1コマ担当

2016（平成28）年度　センター教員担当授業科目

教養、専門、大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	期	曜	時限	備考
教養	実践知・感性科目（実践知）	創造的討論技術を学ぶスペシャル	前田芳男准教授	3学期	木曜	7・8	
教養	実践知・感性科目（実践知）	創造的討論技術を学ぶデラックス	前田芳男准教授	4学期	木曜	7・8	
教養	実践知・感性科目（実践知）	フィールド調査の基礎を学ぶ スペシャル	前田芳男准教授	2学期	月曜	7・8	
教養	実践知・感性科目（実践知）	フィールド調査の基礎を学ぶ デラックス	前田芳男准教授	夏季集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅰ	前田芳男准教授 近藤弘行特任教授（教師教育開発センター）	1学期		随時	
教養	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅱ	前田芳男准教授 近藤弘行特任教授（教師教育開発センター）	2学期		随時	
教養	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅲ	前田芳男准教授 近藤弘行特任教授（教師教育開発センター）	夏季集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅳ	前田芳男准教授 近藤弘行特任教授（教師教育開発センター）	3学期		随時	
教養	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅴ	前田芳男准教授 近藤弘行特任教授（教師教育開発センター）	4学期		随時	
教養	実践知・感性科目（実践知）	岡山の祭りとその運営－うらじゃへの参画－1	前田芳男准教授 高岡敦史講師（大学院教育学研究科）	1学期	金曜	7・8	
教養	実践知・感性科目（実践知）	岡山の祭りとその運営－うらじゃへの参画－2	前田芳男准教授 高岡敦史講師（大学院教育学研究科）	2学期	金曜	7・8	
教養	実践知・感性科目（実践知）	岡山の祭りとその運営－うらじゃへの参画－3	前田芳男准教授 高岡敦史講師（大学院教育学研究科）	3学期	金曜	7・8	
教養	実践知・感性科目（実践知）	岡山の祭りとその運営－うらじゃへの参画－4	前田芳男准教授 高岡敦史講師（大学院教育学研究科）	4学期	金曜	7・8	

8．センター教員担当授業

教養、専門、大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	期	曜	時限	備考
教養	実践知・感性科目（実践知）	支え隊～子どもの安心・安全のために～	宮本香代子教授（大学院教育学研究科） 前田芳男准教授 鷹野郁子非常勤研究員	１学期	月曜	７・８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	守り隊～子どもの安心・安全のために～	宮本香代子教授（大学院教育学研究科） 前田芳男准教授 鷹野郁子非常勤研究員	２学期	月曜	７・８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践コミュニケーション論　Bクラス	鈴木真理子助教（大学院社会文化科学研究科（経済）） 前田芳男准教授	３・４学期	水曜	５・６	
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践型まちづくり論１	山田一隆准教授	３学期	月曜 木曜	７・８ ７・８	複数開講
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践型まちづくり論２	山田一隆准教授	４学期	月曜 木曜	７・８ ７・８	複数開講
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践型教育　/学習概論１	山田一隆准教授	１学期	木曜	７・８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践型教育　/学習概論２	山田一隆准教授	２学期	木曜	７・８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	現代ブラジルの社会と環境	石丸香苗准教授 中東靖恵准教授（大学院社会文化科学研究科）	３・４学期	木曜	７・８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	地域活性化システム実践論	石丸香苗准教授	３学期集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境	石丸香苗准教授 鷹野郁子非常勤研究員	１・２学期	木曜	７・８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	地域資源開発実践－水島の環境学習－	石丸香苗准教授	３・４学期	火曜	７・８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	大学とまちづくり－NPO等との連携を通じて－	荒木秀治特別准教授（実践型社会連携教育プログラム）	夏季集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	多職種連携と地域包括ケアのワークショップ	浜田淳教授（大学院医歯薬学総合研究科） 山川路代助教	３・４学期集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践旅行医学	津田敏秀教授（大学院環境生命科学研究科） 山川路代助教	夏季集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	地域高齢者と介護	浜田淳教授（大学院医歯薬学総合研究科） 山川路代助教	１・２学期	火曜	７・８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	介護予防の科学１	山川路代助教	３学期	木曜	７・８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	介護予防の科学２	山川路代助教	４学期	木曜	７・８	
教養	知的理解科目（現代と社会）	海外に出る・海外で暮らす－旅行医学入門	山川路代助教	４学期	月曜	４・５	
教養	実践知・感性科目（実践知）	国際インターンシップ	吉川賢教授（特任）	特別			
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践デモクラティック・ラーニング１	岩淵泰助教	１・２学期	木曜	７・８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践デモクラティック・ラーニング２	岩淵泰助教	３・４学期	木曜	７・８	
教養	知的理解科目（現代と社会）	現代コミュニティーと地域経済	三村聡教授	１学期	金曜	１・２	
教養	知的理解科目（現代と社会）	現代コミュニティーと地域創生	三村聡教授	２学期	金曜	１・２	

8．センター教員担当授業

教養、専門、大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	期	曜	時限	備考
教養	知的理解科目（現代と社会）	現代コミュニティーと地域社会	三村聡教授	３学期	金曜	１・２	
教養	知的理解科目（現代と社会）	現代コミュニティーと都市比較	三村聡教授	４学期	金曜	１・２	
教養	知的理解科目（現代と社会）	ファイナンス入門	三村聡教授	前期	水曜	9	夜間
教養	知的理解科目（現代と社会）	教養の統計学	山田一隆准教授	後期	水曜	9	夜間
教養	知的理解科目（現代と社会）	リーダーシップ＆市民活動（サービスラーニング）１	藤本真澄講師（全学教育・学生支援機構） 山田一隆准教授	２学期	木曜	３・４	
教養	知的理解科目（現代と社会）	リーダーシップ＆市民活動（サービスラーニング）２	藤本真澄講師（全学教育・学生支援機構） 山田一隆准教授	４学期	木曜	３・４	
教養	知的理解科目（現代と社会）	まちづくりと民主主義	岩淵泰助教	１学期	金曜	１・２	
教養	知的理解科目（現代と社会）	まちづくりと地域経済	岩淵泰助教	２学期	金曜	１・２	
教養	知的理解科目（現代と社会）	まちづくりと市民参加	岩淵泰助教	３学期	金曜	１・２	
教養	知的理解科目（現代と社会）	まちづくりの理論形成	岩淵泰助教	４学期	金曜	１・２	
専門	医学部保健学科	ヘルスプロモーション入門	谷垣静子教授（医学部保健学科） 山川路代助教	３学期	金曜	１・２	２コマ担当
EPOK科目		素顔の京都を学ぶ	山田一隆准教授 宇塚万里子教授（グローバル・パートナーズ）	３学期 ４学期集中	火曜 火曜	７・８ ７・８	複数開講
大学院	社会文化科学研究科地域公共政策コース	自治体経営戦略論	三村聡教授	前期	水曜	6	
大学院	自然科学研究科・環境生命科学研究科先進基礎科学特別コース	組織マネージメント概論	三村聡教授	後期	木曜	７・８	６コマ担当
大学院	社会文化科学研究科	地域創生特別講義	三村聡教授 岩淵泰助助教	後期	金曜	6	各２コマ担当
大学院	社会文化科学研究科	ヨーロッパ都市論	岩淵泰助教	前期	火曜	2	
大学院	医歯薬学総合研究科	社会医歯科学	浜田淳教授（大学院医歯薬学総合研究科） 山川路代助教	前期集中			１コマ担当
大学院	医歯薬学総合研究科公衆衛生学コース	旅行医学論	津田敏秀教授（大学院環境生命科学研究科） 山川路代助教	後期集中			３コマ担当

2017(平成29)年度　センター教員担当授業科目

教養、専門、大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	期	曜	時限	備考
教養	実践知・感性科目(実践知)	「聞き書き」を通して学ぶ地域社会	前田　芳男	夏季集中			
教養	実践知・感性科目(実践知)	フィールド調査の基礎を学ぶ スペシャル	前田　芳男	1学期	金曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	フィールド調査の基礎を学ぶ　デラックス	前田　芳男	2学期	金曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅰ	前田　芳男	1学期	火曜，金曜	随時	
教養	実践知・感性科目(実践知)	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅱ	前田　芳男	2学期	火曜，金曜	随時	
教養	実践知・感性科目(実践知)	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅲ	前田　芳男	夏季集中			
教養	実践知・感性科目(実践知)	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅳ	前田　芳男	3学期	火曜，金曜	随時	
教養	実践知・感性科目(実践知)	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅴ	前田　芳男	4学期	火曜，金曜	随時	
教養	実践知・感性科目(実践知)	小中学生の協同教育のための教材開発	前田　芳男	2学期	月曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	創造的討論技術を学ぶスペシャル	前田　芳男	3学期	木曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	創造的討論技術を学ぶデラックス	前田　芳男	4学期	木曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	支え隊～子どもの安全・安心のために～	前田　芳男 宮本　香代子(大学院教育学研究科)	夏季集中			
教養	実践知・感性科目(実践知)	守り隊～子どもの安全・安心のために～	前田　芳男 宮本　香代子(大学院教育学研究科)	3学期	月曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	岡山の祭りとその運営－うらじゃへの参画－1	前田　芳男 高岡　敦史(大学院教育学研究科)	1学期	金曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	岡山の祭りとその運営－うらじゃへの参画－2	前田　芳男 高岡　敦史(大学院教育学研究科)	2学期	金曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	岡山の祭りとその運営－うらじゃへの参画－3	前田　芳男 高岡　敦史(大学院教育学研究科)	3学期	金曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	岡山の祭りとその運営－うらじゃへの参画－4	前田　芳男 高岡　敦史(大学院教育学研究科)	4学期	金曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	サービスラーニングのデザイン1	山田　一隆	1学期	火曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	サービスラーニングのデザイン2	山田　一隆	2学期	火曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	サービスラーニングのデザイン3	山田　一隆	3学期			
教養	実践知・感性科目(実践知)	サービスラーニングのデザイン4	山田　一隆	4学期			
教養	実践知・感性科目(実践知)	実践型まちづくり論1	山田　一隆	3学期	木曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	実践型まちづくり論2	山田　一隆	4学期	木曜	7，8	
教養	実践知・感性科目(実践知)	実践型まちづくり論3A(熊本プロジェクト)	山田　一隆 前田　芳男	夏季集中			

8．センター教員担当授業

教養、専門、大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	期	曜	時限	備考
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践型まちづくり論３Ｂ（熊本プロジェクト）	山田　一隆 前田　芳男	３学期			
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践型教育／学習概論１	山田　一隆	１学期	木曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践型教育／学習概論２	山田　一隆	２学期	木曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境	石丸　香苗	１，２学期	木曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	地域活性化システム実践論	石丸　香苗	３学期集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	地域社会における多文化共生	石丸　香苗	２学期	火曜	７，８	
教養	知的理解（現代と自然）	現代ブラジルの社会と環境	石丸　香苗	３，４学期	火曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	留学生と学ぶ日本伝統文化	三村　聡 岩淵　泰 藤本　真澄（全学教育・学生支援機構）	１学期集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践旅行医学	山川　路代 津田　敏秀（大学院環境生命科学研究科）	２学期	金曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	地域高齢者と介護１	山川　路代 浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科）	１学期	木曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	地域高齢者と介護２	山川　路代 浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科）	２学期	木曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	多職種連携と地域包括ケアのワークショップ	山川　路代 浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科）	３，４学期	木曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	岡山まちづくり論（１）	岩淵　泰	２学期	火曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	岡山まちづくり論（２）	岩淵　泰	３学期	火曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践デモクラティック・ラーニング（１）	岩淵　泰	１学期	月曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践デモクラティック・ラーニング（２）	岩淵　泰	２学期	月曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践デモクラティック・ラーニング（３）	岩淵　泰	３学期	月曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	実践デモクラティック・ラーニング（４）	岩淵　泰	４学期	月曜	７，８	
教養	実践知・感性科目（実践知）	大学とまちづくり	荒木　秀治	夏季集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	ホームスティの運営と実施	岩淵　泰 藤本　真澄（全学教育・学生支援機構）	２学期集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	ホームスティの運営と実施	岩淵　泰 藤本　真澄（全学教育・学生支援機構）	３学期集中			
教養	実践知・感性科目（実践知）	国際インターンシップ	吉川　賢	特別			
教養	知的理解（現代と自然）	現代コミュニティーと地域経済	三村　聡	１学期	火曜	５，６	
教養	知的理解（現代と自然）	現代コミュニティーと地域社会	三村　聡	３学期	火曜	５，６	

8．センター教員担当授業

教養、専門、大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	期	曜	時限	備考
教養	知的理解（現代と自然）	現代コミュニティーと地域創生	三村　聡	２学期	火曜	５，６	
教養	知的理解（現代と自然）	現代コミュニティーと都市比較	三村　聡	４学期	火曜	５，６	
教養	知的理解（現代と生命）	介護予防の科学１	山川　路代	３学期	木曜	１，２	
教養	知的理解（現代と生命）	介護予防の科学２	山川　路代	４学期	木曜	１，２	
教養	知的理解（現代と生命）	海外に出る・海外で暮らす－旅行医学入門	山川　路代	４学期	月曜	５，６	
教養	汎用的技能と健康（アカデミック・ライティング）	アカデミック・ライティング	前田　芳男	３学期	木曜	１，２	
教養	汎用的技能と健康（アカデミック・ライティング）	アカデミック・ライティング	前田　芳男	４学期	木曜	５，６	
専門	経済学部	実践コミュニケーション論	前田　芳男	３，４学期	水曜	５，６	
専門	経済学部	実践コミュニケーション論	前田　芳男 鈴木　真理子（大学院社会文化科学研究科）	３，４学期	火曜	３	
専門	工学部	実践コミュニケーション論	前田　芳男	３，４学期	水曜	５，６	
専門	工学部	実践コミュニケーション論	前田　芳男 鈴木　真理子（大学院社会文化科学研究科）	３，４学期	火曜	３，４	
専門	文学部	専門知と職業	山川　路代 本村　昌文（大学院社会文化科学研究科）	３学期	金曜	３，４	
大学院	自然科学研究科・環境生命科学研究科先進基礎科学特別コース	組織マネージメント概論	三村　聡	後期	木曜	７，８	６コマ担当
大学院	社会文化科学研究科地域公共政策コース	自治体経営戦略論	三村　聡	前期	水曜	６	
大学院	社会文化科学研究科	ヨーロッパ都市論	岩淵　泰	前期	月曜	１	
大学院	社会文化科学研究科	地域創生特別講義	三村　聡 岩淵　泰	後期	金曜	６	各２コマ担当

2018(平成30)年度　センター教員担当授業科目

教養・専門・大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	学期	曜日・時限
教養教育科目	知的理解（現代と社会）	現代コミュニティーと地域経済	三村　聡	１学期	火曜５・火曜６
教養教育科目	知的理解（現代と社会）	現代コミュニティーと地域創生	三村　聡	２学期	火曜５・火曜６
教養教育科目	知的理解（現代と社会）	現代コミュニティーと地域社会	三村　聡	３学期	火曜５・火曜６
教養教育科目	知的理解（現代と社会）	現代コミュニティーと都市比較	三村　聡	４学期	火曜５・火曜６
教養教育科目	知的理解（現代と社会）	岡山の自然を知る	宇塚　万里子（全学教育・学生支援機構） 岩淵　泰	３学期	月曜７・月曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	支え隊～子どもの安全・安心のために～	宮本　香代子（大学院教育学研究科） 前田　芳男	２学期	月曜７・月曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	守り隊～子どもの安全・安心のために～	宮本　香代子（大学院教育学研究科） 前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	小中学生の協同教育のための教材開発	前田　芳男	３学期	金曜７・金曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	「聞き書き」を通して学ぶ地域社会	前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	１学期	火曜７・火曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	２学期	火曜７・火曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	３学期	火曜７・火曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	４学期	火曜７・火曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	郷土の歴史から学ぶ財政論	前田　芳男	１学期	木曜７・木曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	フィールド調査の基礎を学ぶ スペシャル	前田　芳男	１学期	金曜７・金曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	フィールド調査の基礎を学ぶ　デラックス	前田　芳男	２学期	金曜７・金曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	創造的討論技術を学ぶ スペシャル	前田　芳男	３学期	木曜７・木曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	創造的討論技術を学ぶ デラックス	前田　芳男	４学期	木曜７・木曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅰ	前田　芳男	１学期	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅱ	前田　芳男	２学期	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅲ	前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅳ	前田　芳男	３学期	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅴ	前田　芳男	４学期	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	アカデミック・ライティング	前田　芳男	３学期	木曜１・木曜２
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	アカデミック・ライティング	前田　芳男	４学期	木曜５・木曜６
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	多職種連携と地域包括ケアのワークショップ	浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科） 三村　聡	３・４学期	火曜７・火曜８

8．センター教員担当授業

教養・専門・大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	学期	曜日・時限
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	地域高齢者と介護１	浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科） 前田　芳男	１学期	木曜７・木曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	地域高齢者と介護２	浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科） 前田　芳男	２学期	木曜７・木曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践型まちづくり論１	山田　一隆	３学期	木曜７・木曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践型まちづくり論２	山田　一隆	４学期	木曜７・木曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践型教育／学習概論１	山田　一隆	１学期	木曜７・木曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践型教育／学習概論２	山田　一隆	２学期	木曜７・木曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	サービスラーニングのデザイン１	山田　一隆	１学期	火曜７・火曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	サービスラーニングのデザイン２	山田　一隆	２学期	火曜７・火曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	国際インターンシップ	吉川　賢	特別	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境	岩淵　泰 三村　聡 前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	ＳＤＧｓ：持続可能な社会に向けた岡山のまちづくり事例	岩淵　泰 三村　聡 前田　芳男	１学期	月曜７・月曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山まちづくり論（１）	岩淵　泰	２学期	火曜７・火曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山まちづくり論（２）	岩淵　泰	３学期	火曜７・火曜８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山を知る	藤本　真澄（全学教育・学生支援機構） 岩淵　泰	３学期集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践デモクラティック・ラーニング１	岩淵　泰	２学期集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践デモクラティック・ラーニング２	岩淵　泰	３学期集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	留学生と学ぶ日本伝統文化	藤本　真澄（全学教育・学生支援機構） 三村　聡 岩淵　泰	１学期集中	
専門	経済学部	実践コミュニケーション論	鈴木　真理子（社会文化科学研究科系） 前田　芳男	３・４学期	火曜３
専門	経済学部	実践コミュニケーション論	前田　芳男	３・４学期	水曜５・水曜６
専門	工学部	実践コミュニケーション論	鈴木　真理子（社会文化科学研究科系） 前田　芳男	３・４学期	火曜３・火曜４
専門	工学部	実践コミュニケーション論	前田　芳男	３・４学期	水曜５・水曜６
大学院	自然科学研究科 FlexBMD コース	組織マネージメント概論	三村　聡	夏季集中	
大学院	社会文化科学研究科	ヨーロッパ都市論	岩淵　泰	後期	月曜３
大学院	社会文化科学研究科地域公共政策コース	自治体経営戦略論	三村　聡	前期	水曜６
大学院	ヘルスシステム統合科学研究科	医療政策	中瀬　克己（医学部） 岩淵　泰	前期後半	木曜１

2019(令和元)年度　センター教員担当授業科目

教養・専門・大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	学期	曜日・時限
教養教育科目	知的理解（現代と社会）	現代コミュニティーと地域創生	三村　聡	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	多職種連携と地域包括ケアのワークショップ	浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科） 三村　聡	３・４学期	火曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	留学生と学ぶ日本伝統文化	藤本　真澄（全学教育・学生支援機構） 三村　聡	学期集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	アカデミック・ライティング	前田　芳男	３学期	木曜１・２
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	アカデミック・ライティング	前田　芳男	４学期	木曜５・６
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	フィールド調査の基礎を学ぶ スペシャル	前田　芳男	１学期	金曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	フィールド調査の基礎を学ぶ　デラックス	前田　芳男	２学期	金曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	１学期	火曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	２学期	火曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	３学期	月曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	４学期	月曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅰ	前田　芳男	１学期	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅱ	前田　芳男	２学期	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動ＩＩＩ	前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅳ	前田　芳男	３学期	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅴ	前田　芳男	４学期	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	郷土の歴史から学ぶ財政論	前田　芳男	１学期	木曜５・６
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	支え隊～子どもの安全・安心のために～	前田　芳男	２学期	月曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	小中学生の協同教育のための教材開発	前田　芳男	３学期	金曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	創造的討論技術を学ぶ スペシャル	前田　芳男	３学期	木曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	創造的討論技術を学ぶ デラックス	前田　芳男	４学期	木曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	桃太郎・桃子チャレンジ～知識を社会に・経験を学びに～	前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	地域高齢者と介護１	浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科） 前田　芳男	１学期	木曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	地域高齢者と介護２	浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科） 前田　芳男	２学期	木曜７・８

8．センター教員担当授業

教養・専門・大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	学期	曜日・時限
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	コミュニティ・ベースド・ラーニングのデザイン１	山田　一隆	１学期	火曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	ボランティア学習論	山田　一隆	１学期	水曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	災害復興のまちづくり論１	山田　一隆 前田　芳男	２学期	水曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践型まちづくり論１	山田　一隆	３学期	木曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践型まちづくり論２	山田　一隆	４学期	木曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践型教育／学習概論１	山田　一隆	１学期	木曜１・２
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践型教育／学習概論１	山田　一隆	１学期	木曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	SDGs：持続可能な社会に向けた岡山のまちづくり事例	岩淵　泰 三村　聡 前田　芳男	１学期	月曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境	岩淵　泰 三村　聡 前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山まちづくり論（１）	岩淵　泰	２学期	月曜７・８
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山まちづくり論（２）	岩淵　泰	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	実践デモクラティック･ラーニング１	岩淵　泰	学期	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	岡山を知る１	藤本　真澄（全学教育・学生支援機構） 岩淵　泰	学期集中	
教養教育科目	実践知・感性科目（実践知）	国際インターンシップ	吉川　賢	特別	
専門	工学部・経済学部	実践コミュニケーション論	前田　芳男 田中　秀雄（大学院自然科学研究科） 坂田　有三（大学院自然科学研究科） 長光　正明（大学院社会文化科学研究科系） 依馬　正（大学院自然科学研究科）	３・４学期	水曜５・水曜６
大学院	自然科学研究科 FlexBMD コース	組織マネージメント概論	三村　聡	夏季集中	
大学院	ヘルスシステム統合科学研究科	医療政策	中瀬　克己(医学部) 原田　新（全学教育・学生支援機構） 岩淵　泰	前期後半	木曜１
大学院	社会文化科学研究科 地域公共政策コース	自治体経営戦略論	三村　聡	前期	水曜６
大学院	社会文化科学研究科	ヨーロッパ都市論	岩淵　泰	前期	月曜３
大学院	社会文化科学研究科	地域創生特別講義（各２コマ担当）	三村　聡 岩淵　泰	後期	金曜６

2020（令和２）年度　センター教員担当授業科目

教養・専門・大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	学期	曜日・時限
教養教育科目	知的理解（現代と社会）	現代コミュニティーと地域創生	三村　聡	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	SDGs：持続可能な社会に向けた岡山のまちづくり事例	岩淵　泰 三村　聡 前田　芳男	１学期	月曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境	岩淵　泰 三村　聡 前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	多職種連携と地域包括ケアのワークショップ	浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科） 三村　聡	３学期	火曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	地域高齢者と介護１	浜田　淳（大学院医歯薬学総合研究科） 前田　芳男	１学期	木曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	フィールド調査の基礎を学ぶ スペシャル	前田　芳男	１学期	金曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	フィールド調査の基礎を学ぶ　デラックス	前田　芳男	２学期	金曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	創造的討論技術を学ぶ スペシャル	前田　芳男	３学期	木曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	創造的討論技術を学ぶ デラックス	前田　芳男	４学期	木曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	桃太郎・桃子チャレンジ　～知識を社会に・経験を学びに～	前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	１学期	火曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	郷土の歴史から学ぶ財政論	前田　芳男	１学期	木曜５・６
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅰ	前田　芳男	１学期	
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅱ	前田　芳男	２学期	
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	子どもの教育と福祉をつなげる支援活動Ⅲ	前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	支え隊～子どもの安全・安心のために～	前田　芳男	２学期	月曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	２学期	火曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	３学期	月曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	小中学生の協同教育のための教材開発	前田　芳男	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	岡山市の魅力を世界に伝える活動	前田　芳男	４学期	月曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	アカデミック・ライティング	前田　芳男	３学期	木曜１・２
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	アカデミック・ライティング	前田　芳男	４学期	木曜５・６
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	岡山まちづくり論（１）	岩淵　泰	２学期	月曜７・８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	岡山まちづくり論（２）	岩淵　泰	集中	

教養・専門・大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	学期	曜日・時限
専門	工学部	実践コミュニケーション論	前田　芳男 田中　秀雄（大学院自然科学研究科） 坂田　有三（大学院自然科学研究科） 豊田　啓孝（大学院自然科学研究科）	３・４学期	水曜５・６
大学院	研究科横断Flex BMDコース	組織マネージメント概論	三村　聡	夏季集中	
大学院	専門科目	自治体経営戦略論	三村　聡	前期	水曜６
大学院	社会文化科学研究科	地方創生特別講義	三村　聡 岩淵　泰他	後期	金曜６
大学院	社会文化科学研究科	ヨーロッパ都市論	岩淵　泰	後期	水曜６
大学院	ヘルスシステム統合科学研究科	医療政策	中瀬　克己（医学部） 原田　新（全学教育・学生支援機構） 岩淵　泰	前期	水曜５・６

2021（令和３）年度　センター教員担当授業科目

教養・専門・大学院	科目区分等	授業科目	担当教員	学期	曜日・時限
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	現代コミュニティーと地域創生	三村　聡	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	留学生と学ぶ日本伝統文化	藤本　真澄 三村　聡	集中	
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	多職種連携と地域包括ケアのワークショップ	三村　聡 小川　弘子 岩瀬　敏秀	第３学期	金８～９
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	ＳＤＧｓ：持続可能な社会に向けた岡山のまちづくり事例	岩淵　泰 三村　聡	第１学期	月７～８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境	岩淵　泰 三村　聡	夏季集中	
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	岡山を知る１	藤本　真澄 岩淵　泰	集中	その他
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	岡山まちづくり論（１）	岩淵　泰	第２学期	月７～８
教養教育科目	実践知・感性（実践知）	実践デモクラティック・ラーニング	岩淵　泰	第３学期	月７～８
大学院	自然科学研究科	組織マネージメント概論	三村　聡	夏季集中	
大学院	社会文化科学研究科	自治体経営戦略論	三村　聡	前期	水６
大学院	環境生命科学研究科	組織マネージメント概論	三村　聡 森　也寸志	夏季集中	
大学院	社会文化科学研究科	地域創生特別講義	中村良平 三村　聡 岩淵　泰　他	後期	金６
大学院	社会文化科学研究科	ヨーロッパ都市論	岩淵　泰	前期	水２
大学院	ヘルスシステム統合科学研究科	医療政策	浜田　淳 原田　新 岩淵　泰	前期後半	水５～６

地域総合研究センターの主な活動年表

2010年度（H22）	2010年７月	「岡山大学戦略的社会連携・地域貢献ワーキンググループ」を設置
2011年度（H23）	2011年11月	**岡山大学地域総合研究センターを開所**
		開所シンポジウム
2012年度（H24）	2012年６月	**まちなかキャンパス「城下ステーション」開設**
	11月	**国際学都シンポジウム「学都とは何か？～ストラスブールの挑戦～」**
	12月	**学都研究中間報告会＆三都市シンポジウム**
	2013年２月	平成24年度 学都研究等成果報告会「学都創成に向けて～地域資源としての大学の役割～」
	３月	公開学都シンポジウム「岡山知恵とエネルギーネットワーク構想」
		海外調査／フランス・ストラスブール
2013年度（H25）	2013年９月	岡山を考えるシンポジウム「変貌する岡山市の道筋～都市機能、商業活性化、そして市民生活～」
	11月	豊子愷シンポジウム「竹久夢二を愛した文人漫画家」
	11月	**三都市シンポジウムin岡山「市民、大学、自治体連携による都市の魅力・にぎわいづくり」**
	2014年１月	平成25年度 学都研究等成果報告会「学都創成に向けて～地域資源としての大学の役割～」
	２月	西川をまなぶ「管理から活用へ～西川緑道と若者のまちづくり～」
	３月	教育シンポジウム「岡山の教育についてみんなで語ろう」
		海外調査／アメリカ・ポートランド
2014年度（H26）	2014年９月	「聞き書きを通して学ぶ」
	10月	**まちなかキャンパス「西川アゴラ」開設**
	10月	直前討論「イオンモール岡山オープン～専門士業者はこう見る～」
	10月	犯罪被害者支援シンポジウム「被害者にも加害者にもならないために」
	10月	「おかやまスポーツプロモーション研究会」発足
	11月	おかやま交通シンポジウム「地方都市の創生を目指す都市交通システムを考える」
	12月	**三都市シンポジウムin金沢「学都とは何か～大学と地域、学生と地域の関わりから考える～」**
	10月	**アメリカ・ポートランドのまちづくりウィーク「環境、暮らし、市民の力」**
	2015年１月	平成26年 学都研究等成果報告会「学都創成に向けて～地域資源としての大学の役割～」
	２月	シンポジウム「岡山の地域創生を考える～政策担当者と語る産学官市民連携の新しい姿～」
	３月	おかやまスポーツプロモーション研究会キックオフシンポジウム「中心市街地活性化にスポーツを活かす～そのビジョンと戦略と組織～」
	３月	**実践型教育国際シンポジウム「グローバル実践型教育プログラムの構築に向けて」**
	３月	教育シンポジウム「岡山の教育についてみんなで語ろう PART２」
		海外調査／アメリカ・ポートランド
		海外調査／カナダ・バンクーバー
		海外調査／フランス・ストラスブール
2015年度（H27）	2015年５月	**国際学都シンポジウム「最新のフランスまちづくりを岡山の地方創生に活かす」**
	６月	**ポートランド視察報告会**

9．地域総合研究センターの主な活動年表

	6～8月	**「Co-op in Okayama」「森林利用グローバルインターンシップ」実施**
	9月	「岡山まちとモビリティ研究会」設立
	9月	**三都市シンポジウムin熊本「水辺のまちづくり」**
	9月	ポートランドのまちづくり講演「センス・オブ・プレイス」
	10月	若者と政治シンポジウム「18歳からの選挙参加で明日の日本を創る」
	10月	ヨシダソース会長特別講演
	11月	地域経済分析システム「RESAS：リーサス」講座
	12月	犯罪被害者支援シンポジウム「被害者にも加害者にもならないために」
	12月	**ポートランドのまちづくりウィーク2015「おかやま版エコ・リバブルシティへ！」**
	12月	スポーツによる地域振興シンポジウム「市民参加による岡山市の地方創生」
	2016年1月	平成27年度 学都研究等成果報告会「学都創成に向けて～地域資源としての大学の役割～」
	3月	グローバル実践型教育特別シンポジウム
		海外視察/アメリカ・ポートランド
		海外視察/カナダ・バンクーバー
		海外調査/フランス・ストラスブール
2016年度（H28）	2016年4月	**「おかやま地域発展協議体」設立**
	4月	岡山市との人事交流開始
	9月	ワークショップ「まちなかを元気に！in表町」
	9～11月	**「国際インターンシップ」と「Co-op in Okayama」**
	10月	**「おかやま円卓会議」設立**
	10月	**国際学都シンポジウム「『国際学都』創生とスーパーグローバル大学への歩み」**
	10月	**講演会「現代ストラスブール 都市・地域形成事業の特徴～大学と、市民参加、行政の役割、企業の関与～」**
	10月	**三都市シンポジウムin岡山**
	10月	犯罪被害者支援シンポジウム「あなたは何も悪くない～性犯罪被害者の声を傾聴する～」
	10月	おかやまスポーツプロモーション研究会主催シンポジウム「地域振興とスポーツ振興」
	12月	岡山まちとモビリティ研究会主催シンポジウム「おかやまの移動の多様性を考える」
	12月	**高等教育フォーラム「ポートランドに学ぶ実践知教育」**
	2017年1月	平成28年度 学都チャレンジ学生企画成果報告会
	1月	学校支援ボランティアシステム稼働開始
		海外視察・研修/アメリカ・ポートランド
		海外視察/カナダ・バンクーバー
2017年度（H29）	2017年4月	岡山まちとモビリティ研究会にて「岡山後楽園バス」運行開始を発表
	6月	地方創生シンポジウム「地域社会の持続可能性を考える」
	7月	高等教育フォーラム　第1回中四国CBL研究交流会「フィールド調査力養成講座」
	9月	金沢大学　学都シンポジウム「学生の成長」と「地域の創造」を共に実現する地域
	9～11月	**「国際インターンシップ」と「Co-op in Okayama」**
	12月	犯罪被害者支援シンポジウム「被害者の声を受け止める～寄り添うために私たちにできること～」
	2018年1月	高等教育フォーラム　第2回中四国CBL研究交流会「ポートランドに学ぶ実践知教育」

9．地域総合研究センターの主な活動年表

	1月	平成29年度 学都チャレンジ学生企画成果報告会
	3月	高等教育フォーラム　第3回中四国CBL研究交流会「地域で育む次世代の力」
	3月	岡山市との人事交流終了
	3月	**まちなかキャンパス「城下ステーション」閉鎖**
		海外視察・研修/アメリカ・ポートランド
		海外視察/フランス・ストラスブール
2018年度（H30）	2018年5月	第1回まちづくりシンポジウム
	7月	おかやまスポーツプロモーション研究会主催シンポジウム「SDGｓで拓く！スポーツによる地方創生」
	8月	地域ぐるみの人づくりフォーラム
	9～11月	**「国際インターンシップ」と「Co-op in Okayama」**
	11月	**三都市シンポジウムin熊本「『駅前』と『中心街』の競争と連携」**
	12月	犯罪被害者支援シンポジウム「被害者遺族のあしたを照らす～一歩ずつ前に進めるように～」
	2019年1月	**サウミャ・キニ客員研究員受け入れ（～2020年1月）**
	1月	平成30年度 学都チャレンジ学生企画成果報告会
		海外視察・研修/アメリカ・ポートランド
		海外視察/フランス・ストラスブール
2019年度（R1）	2019年6月	オランダ・ライデン大学　西川まちづくり勉強会
	6月	海外視察/バングラディシュ
	6～8月	**「国際インターンシップ」と「Co-op in Okayama」**
	7月	おかやま水とくらし　シンポジウム
	9月	アクティブ・ラーニング・ワークショップ
	9月	**三都市シンポジウムin岡山「あきないつなぎ～商店街のたのしみかたとあじわいかた～」**
	9～10月	**セリーン・フィッツモーリス研究員受け入れ**
	10月	**コミュニティ・ベースド・ラーニングワークショップ**
		クリスティーン・クレス氏による特別講演会「教育と地域をつなぐ：教授・学習・成長のための戦略」
	12月	**国際学都シンポジウム「高校教育の質向上とその課題～フランスの教育制度改革、教育の現場、市民教育の視点から～」**
	12・1月	**サウミャ・キニ氏による研究発表会「岡山とポートランドのパブリックスペース」**
	1月	令和元年度 学都チャレンジ学生企画成果報告会
	2月	**ミシェル・コベル ストラスブール大学研究者受け入れ**
	2月	**ミシェル・コベル氏による研究発表会「フランスの地域民主主義～議員は本当に人々を代表しているか？～」**
2020年度（R2）	9月	**三都市シンポジウムin金沢　学都のこれまでとここから**
	12月	**国際学都研究会「コロナ禍と大統領選挙の中のポートランド」**
	2月	**まちなかキャンパス「西川アゴラ」閉鎖**
2021年度（R3）	11月	**設立10周年記念シンポジウム**

「自転車先進都市おかやまシンポジウム」開催

2012年06月06日

本学と岡山商工会議所は６月５日、創立五十周年記念館で「自転車先進都市おかやまシンポジウム」を開き、学生や行政・企業関係者ら約150人が、自転車を有効活用した理想的なまちづくりについて考えました。

岡山商工会議所の若林昭吾副会頭と、本学地域総合研究センター（AGORA）の三村聡教授が基調講演。若林副会頭は、自転車道や駐輪場の整備、コミュニティサイクルの導入やマナー教育の必要性を説明した上で、「使う人が『便利』と感じないと、どんな設備や制度も定着しない」と訴えました。三村教授は自転車政策の先進地である英国、フランス、スウェーデンなどの都市の事例として、自転車用に整備された地下道や、自転車を載せられるタクシーなどを紹介し、「日本では自転車＝歩行者的感覚が抜けない。車両として他の交通機関と連動して政策を考えていかねば」と呼びかけました。

続いて「自転車王国おかやまの可能性」と題しパネルディスカッション。若林副会頭がコーディネーターを務め、三村教授のほか、高橋圭子・岡山放送アナウンサーと筒井祐治・岡山市都市整備局長が、研究者、市民、行政というそれぞれの立場から、岡山市の現状や要望について話し合いました。

まちなかキャンパス城下ステーションがオープン

2012年06月26日

本学地域総合研究センター（AGORA）が取り組んでいる、学生が市民と対話しながら地域の課題解決を目指す「まちなかキャンパス事業」を充実させるため、初の学外拠点となる「まちなかキャンパス城下ステーション」が６月26日、岡山市北区石関町にオープンしました。

まちなかキャンパス事業は、学生が実際にキャンパスの外に出て、住民、行政、企業、NPOなどと連携してまちづくりについて考え、課題解決の実践力をつけることを目的としており、「カルチャーゾーン出石町の魅力発信」「はじめてのファジアーノ岡山」など幅広いテーマのプログラムを展開しています。城下ステーションは、岡山市内中心部の好立地や周囲の景観の良さを生かし、本事業で有効活用するほか、その他のゼミやサークル活動での利用も見込んでいます。

開所記念式には、本学関係者のほか、NPOまちづくり推進機構岡山や地元町内会などから約30人が出席。森田潔学長や荒木勝・同センター長らがテープカットした後、森田学長が「大学が地域に踏み出す第一歩。今後さらに活動を広げていきたい」とあいさつし、開所を祝いました。式典後はキックオフゼミが開かれ、学生や市民ら約20人が「岡山のまちづくりの魅力と課題を考える『西川緑道と中心市街地活性化』」をテーマに討論を行いました。

「第1回岡山大学国際学都シンポジウム」を開催

2012年11月09日

本学地域総合研究センターは11月６日、フランス・ストラスブールの事例を基に大学と地域の協働のまちづくりを学ぶ「第１回岡山大学国際学都シンポジウム　学都とは何か？－ストラスブールの挑戦－」を、創立五十周年記念館で開催しました。

本学では、森田潔学長が「学都岡山」構想を提唱しており、同センターが中心となり学都モデルとしてストラスブールを研究しています。

シンポジウムでは、ストラスブール市のロベルト・ヘルマン第一助役が基調講演。都市と大学が一体となったまちづくりを行いながら経済戦略においても協働し、都市全体の成長を目指していることを紹介しました。続いてストラスブール政治学院のシルヴァン・シルマン院長も講演し、欧州公共行政連合の設立を通じて、国、地方公共団体、高等教育機関の連携による人材養成が実現していると説明しました。

講演後は荒木勝・社会貢献・国際担当理事を進行役に、「ストラスブールのまちづくり」の著書であるヴァンソン藤井由実さんを交えて、ヘルマン氏、シルマン氏が会場の参加者と対話し、「学都」を実現させるまちづくりの方策について考えました。

ようこそ、岡山へ 「オカヤマ・ウェルカム・ピクニック」を開催

2013年06月19日

本学地域総合研究センター（AGORA）は、留学生と日本人学生が一緒に岡山の街を歩いて歴史と文化を学ぶ「オカヤマ・ウェルカム・ピクニック」を６月９日、岡山市内で開催しました。

ピクニックには、他大学の学生や一般の方を含む103人が参加。10人程度のチームに分かれて後楽園や岡山城、出石町といった観光スポットを巡り、田植えやお茶席を体験しました。昼食にはイスラム教の教えにのっとったハラルやベジタリアン料理も用意し、留学生らに「ようこそ」の気持ちを伝えました。オカヤマ・ウェルカム・ピクニックは、AGORAが進める留学生のまちづくり事業で日本人と留学生の地域交流の柱として初めて企画。本学の言語教育センターや国際センター、岡山県、岡山市、NPO、市民らの協力で実施されました。

「金沢・熊本・岡山まちづくりシンポジウム」を開催

2013年11月18日

本学地域総合研究センター（AGORA）は11月９日、創立五十周年記念館で金沢市、熊本市、岡山市のまちづくり関係者を招き、「金沢・熊本・岡山まちづくりシンポジウム」を開催しました。市民や学生、教職員ら約150人が参加し、三都市における特色あるまちづくりの取り組みに熱心に耳を傾けました。

岡山市は、行政とAGORA、地域による西川緑道公園を拠点としたまちづくりの事例を発表。金沢市の取り組みとして、中心市街地にある金沢学生のまち市民交流館での学生や市民の活動、熊本市では、熊本大学まちなか工房とすきたい熊本協議会による調査やまちづくり活動が紹介されました。

三都市に共通するのは、産官学の協働により学びのまちを作っていくことです。パネルディスカッションでは、三都市のまちづくり連携が確認され、参加者は各都市におけるまちづくりについて積極的に議論しました。

留学生の視点で岡山の魅力再発見 「おかやまStudy Tour」開催

2014年08月05日

本学地域総合研究センターは７月12日、留学生が日本人学生と一緒に後楽園と岡山城を巡り、魅力や改善点を話し合う「おかやまStudy Tour」を開催しました。

留学生、日本人学生、ボランティア・スタッフら計49人が参加。５チームに分かれ、説明案内の表示内容や施設の利便性を確認するなど、熱心に視察しました。ワークショップでは各施設の魅力や改善点を話し合い、「西洋にはない竹に見入った」「難しい日本語の説明が多い」「外国語の説明が少ない」など、留学生ならではの意見や、「後楽園と岡山城の新しい発見ができてよかった」などの感想が寄せられ、最後に荒木勝副学長より修了証を受け取りました。

ツアーは文部科学省留学生交流拠点整備事業の活動の一つで、自治体や（株）岡山コンベンションセンターと協働で実施。国際的な岡山のまちの魅力向上に向けて、今後、さらなる企画を予定しています。

岡山市とまちづくりに関する地域連携協定を締結

2014年10月09日

本学と岡山市は10月８日､市民協働のまちづくりを推進しようと「まちづくりに関する地域連携協定」を締結しました。大学と市が連携することで、まちづくりに大学生や地域住民が気軽に参加できる機会をつくり、西川緑道公園界隈を中心としたまちづくりを推進することを目的としています。

調印式は、本学附属図書館のラーニング・コモンズで開かれ、森田潔学長、大森雅夫市長、本学教職員や学生ら約30人が出席。森田学長は、「大学生のパワーと教職員の知識を活用し、活力に満ちたまちを作っていきたい」。大森市長は、「まちづくりは各世代の知恵を出し合うことが必要。市と大学が一体となって岡山を発展させたい」と挨拶しました。

本学は、まちづくりの活動拠点として、西川緑道公園沿いの伊達ビル２階（岡山市北区田町一丁目）に「西川アゴラ」を10月20日に開設。岡山市の西川パフォーマー事業と連携しながら、まちづくりの歴史・経緯調査やヒアリング調査等を行います。また、まちづくりに関する勉強会、ワークショップを行う場として活用します。

まちづくり拠点 「西川アゴラ」開所

2014年10月30日

本学地域総合研究センターは10月20日、西川緑道公園沿いのオフィスビル２階（伊達ビル、岡山市北区田町一丁目）に「西川アゴラ」を開設しました。

この日開かれた開所式には、市民、学生、行政関係者ら約40人が出席。横山忠弘岡山市副市長と荒木勝理事（社会貢献・国際担当）が看板の取り付けを行いました。同所の勉強会「西川カフェ」の体験もあり、将来のまちなかのにぎわいについて意見が交わされました。

「西川アゴラ」は、住民や学生が気軽に立ち寄ることができる学びの場として設置。今後、西川緑道公園界隈を中心とするまちづくりに携わるNPOや地域住民、行政、大学関係者らが集い、まちのにぎわい創出や課題解決について話し合ったり、勉強会を開催したりします。

また、他大学や行政などの視察の受け入れ、イベントのちらし配布、ニュースレターの発行などを通してまちの魅力を発信します。大学教育の観点からは、実践型社会連携教育の場として、まちなかの交通量調査や通行人への聞き取り調査の拠点として利用します。将来的には、観光、公共交通、子育て、環境保全、健康、経済活性化といった幅広い観点からまちづくり施策を提言していく市民組織づくりを目指します。

ポートランドのまちづくり学ぶ　州立大のジョンソン特任教授が講演

2014年12月19日

本学地域総合研究センターは12月11～16日、ポートランド州立大学のスティーブン・ジョンソン特任教授を招き、ポートランドのまちづくりを学ぶ「まちづくりウィーク」を開催しました。ポートランドは、アメリカにおける〝まちづくり聖地〟と呼ばれており、持続可能で、クリエイティブな都市として、日本でも紹介されています。

ジョンソン特任教授は、全５回にわたる講演会とワークショップで、市民参加論の視点からポートランドが取り組む政策、市民活動、教育を含めた戦略的なまちづくりを紹介。教職員や学生のほか、自治体、経済界、市民など、延べ約200人が参加し、ポートランドの事例を岡山の地にどのように役立てるかを議論しました。ジョンソン教授は「行政だけではなく、市民が関わっている小さな物語を集めることで、岡山のまちづくりストーリーを作るべきだ」と提言しました。

岡山大学とポートランド州立大学では、まちづくりを通じて、研究、学生交流などを活発に行っています。

地域、企業に貢献する学習を　実践型教育国際シンポジウム開催

2015年03月21日

世界で活躍できる人材の育成を目指す本学は３月19日、国際シンポジウム「グローバル実践型教育プログラムの構築に向けて」をＪホール（鹿田キャンパス内）で開催しました。学生に長期就業体験をさせることで、地域、企業へ貢献しているカナダのブリティッシュコロンビア大学の事例を学びながら、人材育成について理解を深めました。

同大森林学部のサイモン・エリス准教授が、学生が一定期間、企業等で就労する「Co-op（コープ）プログラム」を説明。プログラムは、従来のインターンシップとは異なり、大学の講義を踏まえた実務体験の中で課題発見と解決策に取り組んでいます。また、カナダの林産業約160社と連携しており、エリス教授は「学生にとっては良い刺激になり、企業にとっては優秀な学生を得るチャンスになる」と語りました。

同大のスデー・ジャハン林産学科Co-opプログラムコーディネーターは、プログラムの具体的な過程や手続きを解説、ロバート･コザック教授（同森林学部）は、カナダの林産業の現状について話しました。

本学の荒木勝理事（社会貢献・国際担当）も実践型教育の概要を紹介。大学、県内企業関係者ら約130人が聴講しました。

その後、環境生命科学研究科の吉川賢教授を司会に、エリス准教授、林産業関係者、地域総合研究センターの三村聡副センター長ら４人が実践型教育について検討するパネルディスカッションも行いました。

地方創生＆学都シンポジウムを開催

2015年05月20日

学都モデルとしてストラスブールを研究している本学地域総合研究センターは５月15日、地方創生＆学都シンポジウム「最新のフランスまちづくりを岡山の地方創生に活かす」を開催しました。シンポジウムでは、日仏異文化マネジメントコンサルタントで、「ストラスブールのまちづくり」の著書でもあるヴァンソン藤井由実さんが基調講演。都市と大学が一体となって進んだ都市交通政策で「人が住みたくなるようなまちづくり」を20年以上前から一貫して推し進め、今やフランスを代表する環境都市として“地方創生”を実現してきたストラスブール市について、まちの活性化を実現した取り組みや背景などを紹介しました。

同センターの岩淵泰助教が、大学改革の観点からストラスブールの行政や経済界と一体となった学生のための特色のある大学づくりについて講演したほか、高岡敦史・教育学研究科講師が、ストラスブールと比較した岡山市におけるスポーツ振興のあり方について発表。同センターの三村聡教授は、伝統美とモダンな美が融合した建築を活かしながら、機能的で低所得者層対策まで見据えているストラスブールの都市交通政策と、本学での学都研究の展開について紹介しました。

大学や、行政、企業の関係者、一般参加者ら約100人が聴講し、荒木勝・社会貢献・国際担当理事から来年度、ストラスブールから講師を招いての国際学都シンポジウム開催についても紹介がありました。

「Co-op in Okayama」、「森林利用グローバルインターンシップ」の成果報告会を開催

2015年09月07日

本学は８月28日、「Co-op in Okayama」（※１）、「森林利用グローバルインターンシップ」（※２）の成果報告会を本学国際交流会館で開催しました。

６月15日から始まった「森林利用グローバルインターンシップ」には、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）のCo-opプログラム「Co-op in Okayama」で受け入れた学生２人も参加。本学の学生９人と２カ月間以上にわたって、県内における林業、林産業の企業や研究機関などでインターンシップを行いました。

報告会には、許南浩理事（教育担当）、荒木勝理事（社会貢献・国際担当）、大学院環境生命科学研究科の吉川賢特任教授、一般参加者、受入企業等の関係者ら約70人が参加。本学の学生９人が、「森林利用グローバルインターンシップ」実施内容の報告や提案、英語によるコミュニケーションの苦労、現場で学んだことの成果や意義について発表しました。UBCの学生２人は、「Co-op in Okayama」実施内容の報告や提案、カナダの林業・林産業との違い、異国での文化交流、今後の課題などを発表しました。参加者からは熱心に質問が寄せられ、受け入れ企業５社からは発表に対してコメントが送られました。

総評を行った吉川特任教授は、「UBCの学生との共同作業によって、岡山大学生は極めて貴重な就業体験をすることができた。この経験は学生の今後の勉学に大きなインセンティブを与えるものになった」と話しました。

本学は、世界で活躍できる『実践人』の育成を目指し、今後も実践型教育プログラムの構築を進めていきます。

※１　Co-op in Okayama

UBCでは、５年間の修学期間の間に５回の長期インターンシップを行うCo-opプログラムを実施している。このプログラムは学生が専門教育の知見を実務経験で確認し、就業体験を勉学にフィードバックすることで専門知識の習得を促進することを目的としている。本学のグローバル実践型教育のロールモデルとしても非常に参考になることから、今回初めてUBCのCo-op学生の受け入れを実施した。

※２　森林利用グローバルインターンシップ

本学がグローバル実践型教育の一つとして「Co-op in Okayama」に合わせて開講。実務経験を通し、地球環境の改善・保全に欠かせない森林の機能と特性を理解し、同時に、英語力の向上と林学、木の文化に関する幅広い知識、リーダーシップ、チーム力、社会的倫理など、適切な判断力を身につける。

ビッグデータ分析体験で自治体・企業の実像を探る おかやま「地域経済分析システム（RESAS：リーサス）」講座を開催

2015年11月19日

本学地域総合研究センターは11月16日、「まちづくり・地域創生」における研究活動の一環として、おかやま「地域経済分析システム（RESAS：リーサス）」講座を創立五十周年記念館で開催しました。

RESASは、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局及び内閣府地方創生推進室が提供するビックデータを用いた分析システム。現在、全国全ての自治体がこのシステムを活用し、地方創生戦略プランづくりが進行しています。

講座は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局ビッグデータチームの堀淳一郎参事官補佐を講師に招き、RESASについての説明や、パソコンを用いて使い方の講習を行いました。このほか、本学経済学部学生有志が実際にRESASを活用して岡山市の地域経済を分析した結果を報告しました。

本講座には学生や、自治体職員、学校関係者など約80人が参加。自治体職員は、「学生の分析報告にRESASを活用するヒントを得た。使いこなして創生戦略プランの策定に弾みをつけたい」と話していました。

ポートランドのまちづくり学ぶ　州立大のセルツァー教授が講演

2015年12月28日

本学地域総合研究センターは12月18～19日、ポートランド州立大学のEthan Seltzer教授を招き、ポートランドのまちづくりを学ぶ「まちづくりウィーク」を開催しました。本講演には、全国の学生や大学、NPO、経済界関係者ら約120人が参加。Seltzer教授が、日本の地方都市へ、まちづくりビジョンの形成についてのアドバイスを行いました。

ポートランドは、アメリカで最も暮らしやすいまちと知られており、持続可能で、クリエイティブな都市です。Seltzer教授は、ポートランドにおける都市計画の経緯を説明し、いかに機能し続け、コミュニティと持続可能性に貢献しているものは何かを紹介。「ポートランドの真似をするよりも、良いところを学び、岡山らしさのあるまちづくりをするべきだ」と提言しました。

本講演は環境省総合研究推進費による研究（「エコ・リバブルシティの都市構造モデルの構築とその計画論に関する研究」－大学院環境生命科学研究科氏原岳人助教、地域総合研究センター岩淵泰助教）

の一環として実施しました。

「おかやま地域発展協議体」の設立式を実施

2016年04月21日

本学が構成メンバーに含まれる「おかやま地域発展協議体」（委員長☒荒木勝本学理事・副学長）は４月19日、本学津島キャンパスで設立式を実施し、学内外から同協議体の委員ら約40人が参加しました。

同協議体は、岡山県内の産官学民が連携、協働して地域が抱える種々のニーズや課題に関する検討・研究を行うプラットフォームとして４月１日に設立されたものです。本学以外に、岡山県商工会議所連合会、（一社）岡山経済同友会、岡山県、岡山市、倉敷市、中国銀行、山陽新聞社で構成されています。

設立式では、森田潔学長と窪津誠岡山商工会議所専務理事が、協議体の事務局を務める本学地域総合研究センターの入り口に看板を上掲。国際交流会館に場所を移して、三村聡地域総合研究センター長が設立経緯とコンセプトを説明しました。

「おかやま円卓会議」と「国際学都シンポジウム」を開催

2016年10月18日

岡山県内の産官学等の代表が、地域の課題解決に取り組む「おかやま円卓会議」が10月１日に設立され、10月５日に本学で設立会議と第一回目の会議が開催されました。

設立会議では規約や人事について協議を行い、座長に山陽新聞社代表取締役会長の越宗孝昌氏、副座長に本学の森田潔学長が選出されました。事務局長は、４月に発足した「おかやま地域発展協議体」の委員長である本学の荒木勝理事・副学長（社会貢献・国際担当）が務めることとなり、今後の活動について意見交換が行われました。

また、同日にフランス・ストラスブール市より２人の講師を招き、「国際学都シンポジウム」を開催しました。本学は、ストラスブール市を学都のモデルとして位置付けており、ストラスブール大学長のミシェル・デネケン氏とユーロ・メトロポール（ストラスブール市広域自治体）の副議長を務めているカトリーヌ・トロットマン氏が記念講演を行いました。トロットマン副議長は、車社会が進む中で、人と環境に配慮した路面電車の復活や中心市街地の再生を行うなど、まちづくりのカリスマとしても知られています。

講演では、デネケン学長から世界最高水準を維持する戦略の重要性が語られると、トロットマン副議長も大学はまちづくりの魅力となっており、協働体制を築くことが大切だと意見を述べました。学内外の参加者約250人が、新しい都市成長モデルについて熱心に耳を傾けていました。

翌６日も、トロットマン副議長は、交通政策、エコシティ、市民参加の視点から見たまちづくりの可能性について学内で講演を行いました。３時間の予定時間を超過するほど活発な質疑応答が行われ、参加者約70人は、世界で最先端のまちづくり実践論を学べる貴重な機会に真剣な様子で耳を傾けていました。

地域と共に実践人を育てる教育を考える「ポートランドに学ぶ実践知教育」を開催

2016年12月22日

本学は12月15日、岡山大学高等教育フォーラム「ポートランドに学ぶ実践知教育」を津島キャンパス国際交流会館で開催しました。

米国で“住みたい街ランキング第１位”のオレゴン州ポートランドは、地域に根差した学習（CBL: Community Based Learning）が非常に盛んであることでも有名です。本フォーラムは、今秋にポートランドで開催されたCBL研修に参加した本学教員３人（地域総合研究センター　前田芳男准教授、山田一隆准教授、岩淵泰助教）による学びの成果を、教育に関わる方々と共有する目的で開催。ゲストにポートランド州立大学の西芝雅美先生（公共・行政管理学部准教授学部長／公共サービス研究・実践センター副センター長）を迎え、山田准教授による趣旨紹介ののち、岩淵助教による研修報告、西芝先生と前田准教授とのリレートーク、オープンディスカッションを行いました。

今回は、本学の学生や教職員だけでなく、経済界、高校教員、地方創生に取り組む自治体職員やNPO職員など、岡山の教育に深い関心を持つ方も参加。約60人がワールドカフェ方式で活発な議論を行い、参加者間で「CBLを実施することが目的になってはいけない」、「新しい考えや知識の創造ができ

る形で実施したい」、「大学と地域、互いにとって良い効果をもたらす『自他共栄』の考え方が必要」、「教育プログラムに参加する学生だけでなく、指導する教員も、地域パートナーのことをよく理解しなければならない」といった感想が共有されました。

CBLとは文字通り、地域（Community）に根差した（Based）学習（Learning）です。学内外から多くの参加者が集まった熱気あふれる会場からは、岡山の地でCBLが実現できる大きな可能性が感じられました。本学も実践知教育の全学展開に向けて、より一層取り組みの充実を図っていきます。

学都チャレンジ学生企画成果報告会を開催

2017年01月26日

本学地域総合研究センターは１月13日、学都チャレンジ学生企画成果報告会を本学中央図書館セミナー室で開催し、学生、教職員、岡山市役所職員等約40人が参加しました。

成果報告会は、学都チャレンジ学生企画に採択された７団体による発表とワークショップの２部形式で実施。１部では、各団体の代表学生がそれぞれの活動成果、反省点等について報告を行い、２部のワークショップでは、参加者が５～６人のグループに分かれて、活動を通した学生の成長や、地域にもたらした効果について意見を交換しました。

参加学生からは「学生が地域に入ることで、それまで交流がなかった地域住民間のつながりを作ることができた」、「教室での学びとは違い、自分で問いを立てて解決方法を考える力が必要とされるため、物事をより主体的に考えるようになった」といった感想が出ました。

※学都チャレンジ学生企画　学生や教職員がキャンパスの外に出て、企業や行政、NPO、地域の方々との交流や対話を通じて、地域の課題解決のための手助けや岡山を魅力的にするためのアイデアを実践する取り組み。教室では学べない体験を通じ、また、成果を挙げるべく責任を持って活動することで、学生が“実践人”として成長することを目的としている。

地域と共に実践人を育てる教育を考えるフォーラム「現場から学ぶチカラ」を開催

2017年03月24日

本学は３月15日、岡山大学高等教育フォーラム「現場から学ぶチカラ　岡大のサービスラーニング～実践型授業の作り方、学び方」を津島キャンパスの国際交流会館で開催しました。サービスラーニングとは、「社会活動を通して市民性を育む学習」という教育活動の一種で、本学が進めている実践知教育と軌を一にするものです。今回、サービスラーニングが始まったアメリカでの先駆的存在であるポートランド州立大学より、教育学研究科のクリスティーン・クレス教授を招へい。第一部は学生によるインタラクティブ・プレゼンテーション、第二部はクレス教授による地域と大学の教育的関わりについての講演を実施しました。

第一部は、本学の実践型社会連携科目を受講した学生３人（文学部２人、薬学部１人、いずれも１年生）が、実際に地域で行った活動と、そこでの気付きや学びについて英語でポスター発表を行いました。フォーラム参加者からも英語で活発な質問がなされ、発表する学生と参加者が共に高め合う場となりました。

第二部はクレス教授からサービスラーニングの可能性と課題について、豊富な事例を用いた問題提起と考察が紹介されました。地域に出ること自体を目標とするのではなく、地域の力を借りて何を学ぼうとしているのかという意識が学生にも教員にも必要であるという点が強調されました。

本学教職員だけでなく他大学教員、自治体職員、一般市民などが参加。教育と社会との関わりに深い関心を持つ多くの方から、本学の教育の可能性に大きな期待が寄せられていることを強く感じる機会となりました。本学のサービスラーニングは緒についたばかりですが、実践知教育の全学展開に向けて、より一層取り組みの充実を図ってまいります。

岡山まちとモビリティ研究会を公開実施
社会実験の結果報告や「岡山後楽園バス」お披露目

2017年04月21日

岡山大学をはじめ、岡山市など産官学や市民団体が連携して都市交通や交通を絡めたまちづくりを考える「岡山まちとモビリティ研究会」は４月17日、創立五十周年記念館で行った研究会を公開しました。

当日は、開会にあたり、研究会会長を務める本学の高橋香代理事・副学長（企画・評価・総務担当）と研究会第Ⅱ分科会長の梶谷俊介氏（岡山経済同友会地域振興委員長・岡山商工会議所副会頭）があいさつしました。

研究会では、岡山市が中心となって2016年度に実施した、超小型モビリティ（コムス）を利用した実証実験プロジェクト（オカモビ）の結果報告がありました。

また、研究会メンバーの宇野自動車株式会社が、JR岡山駅-岡山後楽園の区間を結ぶ直通バス「岡山後楽園バス」の運行を決定について発表。担当者が詳細を説明しました。直通バスの運行は研究会が昨年、岡山を代表する観光地へのアクセスや観光振興などの観点から、バス事業者らに提案していたものです。

研究会後には、「岡山後楽園バス」の車体となるラッピングバスがお披露目され、岡山後楽園事務所の野崎正志所長が祝辞を述べました。

「岡山後楽園バス」は、４月27日に運行が開始されます。

岡山まちとモビリティ研究会

岡山大学が2015年９月７日に創設。事務局は岡山大学地域総合研究センター。2016年４月１日に設立された「おかやま地域発展協議体（事務局：岡山大学地域総合研究センター）」の専門委員会として位置づけられ、活動はさらなる広がりをみせています。

槇野学長らが国際競争力向上のための連携強化に向けフランス・ストラスブール大学を訪問

2017年11月24日

本学は総合大学としてさまざまな叡智を結集して課題解決の実践を行っていますが、その中で国際競争力の強化促進も大きな柱となっています。今回、本学との教育・研究分野において密な連携をしているフランス北東部のバ＝ラン県にあるストラスブール大学に11月６日、槇野博史学長と本学地域総合研究センター（アゴラ）の岩淵泰助教、流尾正亮職員（岡山市との人事交流）が訪問。今後のさらなる連携強化の具体策について同大学関係者らと議論を行いました。

はじめに、ミシェル・デネケン（Michel Deneken）学長とカトリーヌ・フロレンツ（Catherine Florentz）筆頭副学長（研究・博士課程担当）らと会談。研究交流発展についてデネケン学長は、パリ大学連合に負けない研究力を持つ同大学は、日本と岡山の連携に期待している点や、学生や研究者交流をさらに発展させ、将来的には博士課程の大学院生やポスドクの人事交流にも発展させていきたい旨を述べました。槇野学長は、本学が国連のSDGs（持続可能な開発目標）やESD（持続可能な開発のための教育）などを核にして、教育研究を世界基準に併せながら大学改革を展開している点を紹介。「本学としてもストラスブール大学との交流を加速していきたい」と述べました。

また、同大学の医学部を訪問し、シアマク・バラム（Siamak Bahram）教授とエレヌ・ドルフュス（Helene Dollfus）教授らと会談を実施。同大学は医学部を中心に先端研究が進められており、医学・医療研究連携のあり方について積極的に意見交換を行いました。さらにはストラスブールを拠点として、ブラジルや台湾にネットワークも持つ、国際的なガン治療のトレーニングセンターであるIRCADを訪問。ベルナール・ダルマーニュ（Bernard Dallemagne）教授から施設の説明を受けました。

ストラスブール大学は、ヨーロッパ研究大学連盟（League of European Research Universities：LERU）とライン川上流域ヨーロッパ大学連合（EUCOR）のメンバーとして、学生数46,000人、研究者4,600人を抱える総合大学です。また、ノーベル賞研究者が４人在籍するフランス屈指の研究大学であり、本学とは大学間交流協定のほかに、教員交流協定や研究協議などを密に実施しています。2016年10月には、デネケン学長とカトリーヌ・トロットマン（Catherine Trautmann）ストラスブール市元市長を本学に招待し、研究・教育大学を実現するために大学と都市はいかに協働することができるのかをテーマにした国際学都シンポジウムを開催しています。

本学では、ストラスブール大学を欧州における重要なパートナーとして位置づけており、今後も具体的な交流を強化推進していきます。

槇野学長がSDGsと持続可能な地域づくりについて講演

2018年04月06日

本学は全学を挙げて国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に取り組んでおり、その活動は岡山県内各地とも密接につながっています。この度倉敷市水島地区では３月29日、水島・高梁川流域の市民・企業・行政・大学らによる「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」が発足し、同日キックオフシンポジウムが開かれました。同コンソーシアムは2016年５月のＧ７倉敷教育大臣会合で採択された「倉敷宣言」を踏まえたSDGsの展開の一環として、持続可能な地域づくりを担う人材の育成を目的としています。

シンポジウムでは本学の槇野博史学長が「SDGsで拓く持続可能な地域づくり」と題して講演。地域の課題がグローバル・イノベーションに直結する、地域循環型の社会課題解決サイクルの重要性を提起し、コンソーシアムへの期待を表明しました。また、発起人代表である萩原工業株式会社の萩原邦章代表取締役会長も「地域への想いと、将来に向けて」をテーマに講演し、目的の達成に向け、SDGsの考え方を柱に水島を人材育成の教材教場としたいと話しました。

各界の代表者によるリレートークも行われ、「滞在型環境学習プログラムに期待すること」として、倉敷市の伊東香織市長、JFEスチール株式会社西日本製鉄所総務部の和田尚樹総務室長、高梁川流域学校の大久保憲作代表理事、本学地域総合研究センター長の三村聡教授、水島おかみさん会の尾崎浩子会長、みずしま財団の塩飽敏史理事・研究員が登壇し、コンソーシアムへの期待と各団体の思いを発表しました。

本学の高橋香代理事･副学長（企画･評価･総務担当）は「岡山大学も水島地区の皆さんと共にイノベーションを起こす関係でありたい」とコメント。「環境学習を通じた人材育成･まちづくりを考える協議会」座長の広島修道大学の西村仁志教授は、政策協働への期待を述べました。参加者一同、持続可能な地域づくりを地道に粘り強く行う活動目的を確認し合いました。地域住民、企業関係者、行政関係者など約50人が参加しました。

国際シンポジウム「木質構造物の未来と可能性」を開催

2019年03月13日

林業・林産業のさらなる発展と日本の豊かな森林資源を有効に活用する人材育成を考えるシンポジウム「木質構造物の未来と可能性」を３月８日、創立五十周年記念館で開催しました。（主催　岡山大学地域総合研究センター、大学院環境生命科学研究科）

本学は、SDGsの達成に貢献する活動を教育目標として、課題解決能力（実践知）の卓越した人材を育成する実践型社会連携教育を掲げ、岡山大学生をカナダ国ブリティッシュコロンビア大学の学生と共に、岡山県内の林業・林産業の企業・団体に派遣するグローバルインターンシップを実施しています。

シンポジウムでは、本学の加賀勝副学長（社会連携担当）と三村聡地域総合研究センター長があいさつ。ブリティッシュコロンビア大学のフランク・ラム教授、グラーツ工科大学のゲルハルト・シックホーファー教授、東京大学の腰原幹雄教授は、意匠性を持った建築物を可能にするとして注目を浴びている直交集成板（CLT）の重要性について講演しました。

また、グローバルインターンシップの受け入れ企業である銘建工業(株)の中島浩一郎代表取締役社長、瀬崎景己氏（本科目履修の卒業生）は、日本の林業・林産業の可能性と人材育成への自社の取り組みについて紹介。さらに、パネルディスカッションでは講演者５人に加え、岡山理科大学建築学科の小林正実准教授がモデレーターとなり、非住宅分野に木質構造を普及させていくための、木質構造技術者の人材育成の教育プログラムの事例やアドバイスを披露しました。最後に、吉川賢地域総合研究センター特任教授と舟橋弘晃大学院環境生命科学研究科長が総括し、シンポジウムを締めくくりました。全国から、企業関係者、行政関係者、大学関係者など約120人が参加しました。

フルブライト奨学生のサウミャ・キニ客員研究員による「岡山とポートランドのパブリックスペース」研究発表会を開催

2020年01月21日

本学地域総合研究センターは１月14日、米国・オレゴン州ポートランドより2019年１月にフルブライト奨学生として来学していたサウミャ・キニ客員研究員による「岡山とポートランドのパブリックスペース」研究発表会を開催し、市民、経済界、自治体関係者を中心に約50人が参加しました。

開会に先立ち、槇野博史学長があいさつ。サウミャ・キニ研究員は、岡山市中心市街地の西川緑道公園に着目し、岡山のパブリックスペース（公共空間）における１年間の研究成果を披露。「西川緑道公園を拠点とした水と緑の空間は、岡山のまちづくりに良い影響を与えているが、それを発展させるには、市民、行政、経済界の人々との話し合いを通じて大きなまちづくり戦略を立てるべきである」と提案しました。

質疑応答では、「パブリックスペースは、人のまちに対する愛着や安心感、防災、防犯などの可能性を秘めている」、「自転車に乗る人が住みやすいまちのデザインも考えるべき」、「地方創生における予算と人材、市民の温度差を突破するにはコミュニケーションとPDCAサイクルが大切だ」など活発な意見交換や感想が寄せられました。さまざまな提案や意見を通して、岡山のまちづくりが世界から注目されていることを再認識できる発表会となりました。

矢掛町江良集落「輝け！江良元気会」より、学生の支援のためお米1トンを寄贈いただきました

2020年06月18日

本学は６月16日、岡山県矢掛町中川地区の江良集落がつくる「輝け！江良元気会」より、新型コロナウイルスの影響により生活が困窮している学生の支援のため、お米１トンを寄贈していただきました。同地区とは、2012年から本学留学生と田植え体験、地元の祭り、ホームステイなどの交流を続けており、平成30年７月豪雨の際は、本学学生らがボランティアとして、被害を受けた同地区の復旧支援にあたりました。

今回の寄贈は、「輝け！江良元気会」の方からの、今までの交流や支援へのお礼と、生活に困窮した学生を助けたいとの思いにより実現。「輝け！江良元気会」の呼びかけによって、同地区だけでなく矢

掛町の羽無（はなし）集落、下高末（しもこうずえ）集落、山ノ上（やまのうえ）集落にも支援の輪が広がりました。

この日、本学で行った寄贈式には、「輝け！江良元気会」の坪井優代表や本学の槇野博史学長らが出席。坪井代表のあいさつの後、坪井代表より、槇野学長にお米を贈呈していただきました。槇野学長は「矢掛町の皆様から学生支援の温かい気持ちを頂きました。大学と地域の力を循環しながら、持続可能な社会を一緒に作っていきましょう」とお礼を述べました。

寄贈式終了後、「輝け！江良元気会」の方々から、会場に集まった本学留学生約130人に対し、小分けにしたお米を配布していただきました。

新型コロナ禍に負けず「卒業生が現役生にエールを送る会」を開催 県内で活躍する卒業生と現役生がオンラインで交流

2020年08月05日

地域総合研究センターは８月１日、岡山大学の地域活動拠点「西川アゴラ」へ岡山県内で活躍する卒業生３人を招き、オンラインシステム（ZOOM）を用いて現役生にエールを送る会を開催しました。

新型コロナ禍の影響で、学生たちの日常活動が大きく制約を受ける中、現役生を元気づけると同時に、「ウイズコロナ対応」を視野に入れながら地域の仕事現場について学んだり就活に役立ててもらうために企画。まちづくり系サークルの現役学生など約20人が自宅から参加しました。会では、岡山県備中県民局で地域広報の企画を担当している岡本洋美さん（大学院社会文化 科学研究科修了）、岡山市御津支所で技術職として道路や公園、農林関係の業務を担当している恒藤祐輔さん（大学院環境生命科学研究科修了）、萩原工業の工場最前線で活躍中の板谷尚弥さん（経済学部卒業）が、各人30分間、仕事の内容、職場環境、やりがいなどを紹介。志望動機、就活の苦労話などを話しました。現役生との活発な質疑応答も行われました。

地域総合研究センターでは、今後も現役生からの要望を集約しつつ、このような会を継続して開催する予定です。

CLS第一期生・フルブライト奨学生のデイビッド・アンダーソンさんが来学

2021年07月21日

７月20日、米国務省重要言語奨学金（CLS）プログラムの第一期生であり、フルブライト奨学生のデイビッド・アンダーソンさんが来学し、槇野博史学長を表敬訪問しました。

アンダーソンさんは、米国務省により選抜された全米トップクラスの大学生・大学院生が、日本語と日本文化を集中的に学ぶ「米国務省重要言語奨学金（CLS）プログラム」の第一期生として、2019年６月に来学しました。約２カ月間、本学で「市民参加のまちづくり」について学びを深め、アメリカへ帰国。その後も、岡山のまちづくりについて研究をするために準備を進めてきました。

新型コロナウイルスの影響で留学が一年延期となりましたが、2021年７月からは、アメリカ・フルブライト奨学生として岡山大学大学院社会文化科学研究科の研究生として勉学に励んでいます。今後は、岩淵泰准教授の指導の下で「人口減少社会における地方議会の役割」について研究を始める予定です。

槇野学長は「CLSの先輩として後輩を指導すると共に、岡山のSDGsの様子を世界に発信して欲しい」とエールを送りました。

●CLSプログラム　国家安全保障や経済発展の観点から重要な役割を果たす、ロシア語や中国語など世界15言語の人材養成を狙いに、米国務省が実施しているプログラムです。日本では2010年に受け入れがスタートし、同プログラムは国際教育・交流を専門とする米非営利団体American Councils for International Education（アメリカン・カウンシルズ）によって運営されています。

地域総合研究センター設立10周年記念シンポジウム

【日時】2021年11月９日（火）13：00～16：00

【会場】原則オンライン（Zoom）にて開催。
学内の方のみ来場（五十周年記念館）可能。

【概要】
岡山大学地域総合研究センターは、設立10周年を迎えました。それを記念し、これまでの活動を振り返り、今後を展望するシンポジウムを開催いたします。興味のある方は、是非ご参加ください。

【お申込み方法】
2021年11月２日（火）までに下記の事項をご記入の上、電子メールでお申し込みください。後日、お申込みのメールアドレスに、参加用URLをお送りいたします。

・件名に「設立10周年記念シンポジウム参加申し込み」と記載ください。
・本文に「お名前・ご所属、職名」をご記載ください。

【申込締切】
2021年11月２日（火）

【申込み先】
info-agora◎okayama-u.ac.jp
（※◎を＠に置き換えてください。）

地域総合研究センター創立10周年記念シンポジウムを開催

2021年11月18日

本学は11月９日、地域総合研究センターの創立10周年を記念して、オンサイトとオンラインのハイブリッド形式でシンポジウムを開催し、一般の方、まちづくり関係の方、大学生、他大学教員、本学関係教職員など約100人が参加しました。

初めに槇野博史学長が、「地域社会と歩む岡山大学SDGs経営」と題して、本学の志向するSDGsの理念と地域社会との歩みについて、基調講演を行いました。

次に、三村聡地域総合研究センター長が、同センターのこれまでの活動を報告。

続くパネルディスカッションでは、倉敷市の伊東香織市長が、高梁川流域連携を核としたSDGsによる地方創生の展開と大学連携の必要性について提起しました。一般社団法人岡山経済同友会の梶谷俊介代表幹事は、産官学民が社会連携の更なる推進をすべきであると主張し、NPO法人まちづくり推進機構岡山の徳田恭子代表理事が、学生の現地での社会連携教育は、地域社会と学生の双方に学びがあることを強調しました。

三村センター長は、各ゲストの意見を受けて、引き続きセンターの活動を進めていくことを宣言し、進行を務めた加賀勝上席副学長が、全体のまとめと登壇者への謝意を表しました。

休憩を挟んで行われた、活動報告「ローカルからグローバルへ」では、アメリカのポートランド在住のサウミャ・キニ氏が、緑豊かなパブリックスペースが市民活動に与える影響を紹介。西川緑道公園を例に、中心市街地が歩きやすいまちになるためには、市民がどのように過ごしているかを分析する必要があることを指摘しました。

また、デイビッド・アンダーソン氏は、日本のまちづくりを介した地方政治の分析を紹介し、岡山の

10. 岡大ホームページに掲載されたセンター記事

実践的なまちづくり活動は、若者にとって有益なフィールドになる点を論じました。

岩淵泰地域総合研究センター副センター長は、倉敷市水島の市民活動からパーキングディを紹介しました。

最後に高橋香代理事（企画・評価・総務担当）が、お礼とともに、10年を迎えた同センターの評価と課題について総括して閉会しました。

2012（平成 24）年度報道一覧

【新聞】

2012.06.06付　山陽新聞：自転車先進都市岡山シンポジウム
2012.06.27付　山陽新聞：岡山大学まちなかキャンパス城下ステーション開所式
2012.06.27付　朝日新聞：岡山大学まちなかキャンパス城下ステーション開所式
2012.07.13付　山陽新聞：城下ステーション 7 月14日「アゴラ喫茶 Vol. 1」開催
2012.07.24付　山陽新聞：まちなかキャンパス in 津島 7 月 26 日「欧州の最新事情から岡山の都市・交通。環境政策を考える」開催
2012.07.27付　山陽新聞：城下ステーション 7 月31日「アゴラ喫茶 Vol. 2」開催
2012.07.31付　日経新聞：まちなかキャンパス事業について
2012.08.01付　山陽新聞：スポーツ哲学カフェ開催
2012.08.01付　山陽新聞：まちなかキャンパス「はじめてのファジアーノ」開催
2012.08.02付　山陽新聞:まちなかキャンパス「岡山県のまちづくり構想を読み解く」県庁でのプレゼンテーションの様子
2012.08.02付　山陽新聞：まちなかキャンパス「はじめてのファジアーノ」開催
2012.08.04付　山陽新聞：学生企画「おかやまバトン」による東日本大震災復興支援事業、福島の子ども招待
2012.08.05付　朝日新聞：学生企画「おかやまバトン」による東日本大震災復興支援事業、福島の子ども招待
2012.08.05付　山陽新聞:〈特集〉まちなかキャンパス in 津島 7 月 26 日開催「欧州の最新事情から岡山の都市・交通。環境政策を考える」
2012.08.05付　山陽新聞：まちなかキャンパススポーツ哲学カフェ
2012.08.06付　山陽新聞：学生企画「おかやまバトン」による東日本大震災復興支援事業、福島の子ども招待
2012.08.10付　山陽新聞：学生企画「おかやまバトン」による東日本大震災復興支援事業、福島の子ども招待、日本舞踊発表会
2012.08.20付　山陽新聞：日本経済研究所専務理事傍士銑太氏の執筆で紹介
2012.08.21付　山陽新聞：まちなかキャンパス「はじめてのファジアーノ」関連
2012.08.29付　山陽新聞：スポーツ哲学カフェ開催
2012.09.02付　山陽新聞：まちなかキャンパス「地域と医療」美作 ws 合宿
2012.09.02付　朝日新聞:まちなかキャンパス「岡山まちの夢学生アイデアコンテス ト」まちづくりワークショップ開催
2012.09.25付　山陽新聞：城下ステーション 9 月27日「アゴラ喫茶 Vol. 4」開催
2012.09.27付　山陽新聞：学生企画「おかやまバトン」による東日本大震災復興支援事業、福島の子ども招待実施報告書
2012.10.02付　山陽新聞：山陽新聞プレミアム倶楽部 News
2012.10.04付　山陽新聞：まちなかキャンパス in 倉敷「亀のひみつ、倉敷のこころ」
2012.10.14付　山陽新聞：地域医療への取り組み(医学部浜田教授)
2012.10.14付　山陽新聞：東備再発見座談会三村副センター長対談
2012.10.21付　山陽新聞：まちなかキャンパス in 倉敷「亀のひみつ、倉敷のこころ」
2012.10.23付　山陽新聞：まちなかキャンパス in 倉敷「亀のひみつ、倉敷のこころ」
2012.10.26付　毎日新聞：まちなかキャンパス in 倉敷「亀のひみつ、倉敷のこころ」
2012.10.28付　山陽新聞：まちなかキャンパス in 倉敷「亀のひみつ、倉敷のこころ」
2012.10.27付　山陽新聞：学生企画「満月 BAR」10月30日開催
2012.10.30付　山陽新聞：岡山県商工会議所連合会による倉敷市大賀が商業施設の影響に関する調査結果を三村副センター長が分析
2012.11.01付　山陽新聞：学生企画「プロジェクトチーム『ゴ』」岡山芸術回廊出展

11. 新聞記事

2012.11.02付　山陽新聞：第 1回国際学都シンポジウム開催
2012.11.06付　山陽新聞：城下ステーション「アゴラ喫茶×哲学カフェ」開催
2012.11.07付　山陽新聞：第 1 回国際学都シンポジウム開催
2012.11.09付　山陽新聞：岡山市委託事業「西川緑道公園にぎわい調査」紹介
2012.11.14付　山陽新聞：第 1 回国際学都シンポジウム開催
2012.11.22付　山陽新聞：学生企画「プロジェクトチーム『ゴ』」岡山芸術回廊出展
2012.11.30付　山陽新聞：学生企画「プロジェクトチーム『ゴ』」岡山芸術回廊出展
2012.11.30付　山陽新聞：学生企画「満月 BAR」11月28日開催
2012.12.01付　山陽新聞：学生企画「おかやまバトン」被災地支援活動の報告会
2012.12.01付　山陽新聞：地域医療シンポジウム(ネットワークアゴラ)
2012.12.02付　山陽新聞子どもしんぶん「さん太タイムズ」：職員企画「工学部創造工学センター」まちなか出前実験教室開催
2012.12.06付　山陽新聞：学生企画「社会科教育講座大学院」ティーチイン岡山開催
2012.12.07付　山陽新聞夕刊：「一日一題」三村聡副センター長による執筆「新参者ですが」と題して
2012.12.09付　山陽新聞:職員企画「新しい学びのデザイナー育成講座」2012.12月 9 日開催「地域教育セミナー」第 1 回地元でとれる食材関わっている人の努力を知ろう。 開催
2012.12.09付　山陽新聞：学都研究中間報告会的都市シンポジウム開催
2012.12.10付　山陽新聞：GreenDays2012 開催(荒木勝センター長モデレータ出席)
2012.12.11付　山陽新聞：学生企画「Li☆Luck」うえるかむデー開催
2012.12.13付　山陽新聞：岡山 ESD 推進協議会主催「ESD カフェ」岩淵泰助教が講演
2012.12.14付　山陽新聞：学生企画「Li☆Luck」うえるかむデー開催
2012.12.14付　山陽新聞夕刊：「一日一題」三村聡副センター長による執筆「自転車が似合うまち」と題して
2012.12.15付　山陽新聞：学都研究中間報告会＆ 3 都市シンポジウム開催
2012.12.19付　山陽新聞：学生企画「P［h］oto」出石まち歩き＆写真展示
2012.12.21付　山陽新聞夕刊：「一日一題」三村聡副センター長による執筆「移動する権利の再考」と題して
2012.12.22付　山陽新聞：「ESD カフェ（岡山市など主催)」岩淵助教講演
2012.12.25付　読売新聞：学生企画「おかやまバトン」による宮城県南三陸町志津川 中学校野球部受け入れ、交流試合開催
2012.12.28付　山陽新聞夕刊：「一日一題」三村聡副センター長による執筆「道・まち・モビリティーの関係」と題して
2013.01.04付　山陽新聞夕刊：「一日一題」三村聡副センター長による執筆「初夢『危機突破内閣』」
2013.01.11付　山陽新聞：アゴラ喫茶紹介
2013.01.11付　山陽新聞夕刊：「一日一題」三村聡副センター長による執筆「駅前にイオンのあるまち」と題して
2013.01.16付　山陽新聞：学生企画「社会科教育講座大学院」ティーチイン岡山開催
2013.01.19付　山陽新聞夕刊：「一日一題」三村聡副センター長による執筆「真価を問われる平成の大合併」と題して
2013.01.20付　山陽新聞：学生企画「社会科教育講座大学院」ティーチイン岡山実施
2013.01.25付　山陽新聞夕刊：「一日一題」三村聡副センター長による執筆「学長の大学改革宣言」と題して
2013.01.26付　山陽新聞：学生企画「社会科教育講座大学院」ティーチイン岡山
2013.01.27付　山陽新聞子どもしんぶん「さん太タイムズ」：職員企画「新しい学びのデザイナー育成講座」2012.12 月 9 日開催「地域教育セミナー」第 1 回地元でとれる食材関わっている人の努力を知ろう。開催特集
2013.02.05付　山陽新聞：岡山市委託事業「西川緑道公園にぎわい調査報告会」開催
2013.02.07付　山陽新聞：留学生のまちづくり「安心・安全のまちづくり」開催

2013.02.15付　山陽新聞：岡山市委託事業「西川緑道公園にぎわい調査報告会」実施
2013.02.20付　山陽新聞：職員企画「新しい学びのデザイナー育成講座J　2013. 2 月22日開催ライフスタイルを彩る教養講座「論理と感性のはざまで楽しむワイン」開催
2013.02.21付　山陽新聞：留学生のまちづくり「安心・安全のまちづくり」開催
2013.02.22付　毎日新聞：留学生のまちづくり「安心・安全のまちづくり」実施
2013.02.22付　朝日新聞：地域総合研究センター成果報告会開催
2013.02.26付　山陽新聞：地域総合研究センター成果報告会開催
2013.02.26付　山陽新聞：総社市山手地区地域包括ケアワークショップ実施
2013.02.28付　山陽新聞：地域総合研究センター成果報告会実施

【その他】
2012.7.14日号 リビング新聞（三村教授インタビュー）
2012.11.20日号　おかやま財界：倉敷市大型商業施設影響調査のアンケート分析の報告
2012.11.19日発行 日経グローカル208号（大学の地域貢献度迫られる地域再生の役割）掲載
2012.11.20日号　おかやま財界：岡山大学の学都への取り組み、第１回国際学都シンポジウムについて、岡山市委託事業西川にぎわい調査について

【TV】
2012.08.05、09　oniビジョン：討論情熱おかやま「岡山大学荒木勝副学長」出演まちなかキャンパス事業やフランス・ストラスブール大学の視察成果などを語る

2013（平成 25）年度報道一覧

【新聞】
2013.04.05付　日経新聞：両備グループ「地域公共交通総合研究所」設立に三村聡教授が参加
2013.04.16付　山陽新聞：学都研究「学都データベース」における調査結果まとめる
2013.04.25~26付　山陽新聞:「ポートランドに見るまちづくりと産業振興」中村良平教授（研究統括ディレクター）寄稿
2013.04.26付　山陽新聞：岡山商工会議所「イオンモール岡山出店対策検討委員会」のアドバイザーに三村聡教授が就任
2013.04.29付　山陽新聞：倉敷市中心市街地活性化に関する特集にて岩淵泰助教がコメント
2013.05.16付　山陽新聞：総社市地域包括ケア現地報告会
2013.05.17付　山陽新聞：西川緑道公園、将来構想意見交換会
2013.05.25付　朝日新聞：学都研究「学都データベース」における調査結果紹介
2013.05.26付　山陽新聞：6 月 1 日開催「まちなか探検隊」
2013.05.28付　山陽新聞：学生企画応募説明会実施
2013.06.01付　山陽新聞：学生企画「EVO」自ら栽培の野菜販売
2013.06.02付　山陽新聞：6 月 1 日開催「まちなか探検隊」
2013.06.04付　山陽新聞:岡山商工会議所「イオンモール岡山出店対策検討委員会」第 2 回 会合にアドバイザーに三村聡教授が出席
2013.06.04付　北国新聞：学都研究「学都データベース」における調査結果紹介
2013.06.04付　山陽新聞：岡山市経済戦略懇話会、商店街振興へ調査
2013.06.15付　朝日新聞：学生企画「EVO」農家と消費者つなぐ取り組み
2013.06.15付　山陽新聞：西川緑道公園周辺調査岡山市委託事業
2013.06.25付　山陽新聞：学生企画「満月 BAR」1 周年

11. 新聞記事

2013.06.28付　山陽新聞：「学都」創生シンポジウム-社会に応える教育を目指して-開催
2013.06.30付　山陽新聞：「学都」創生シンポジウム-社会に応える教育を目指して-実施
2013.07.02付　山陽新聞：学生企画「教育学研究科社会科教育講座」ティーチイン岡山開催
2013.07.06付　山陽新聞：「学都」創生シンポジウム-社会に応える教育を目指して-実施
2013.07.23付　山陽新聞：学生企画「おかやま百年構想」奉還町商店街タペストリー設置
2013.07.28付　山陽新聞：学生企画「おかやま百年構想」奉還町商店街タペストリーお目見え
2013.08.02付　山陽新聞：学生企画「おかやまバトン」福島里の子会合宿受け入れ
2013.08.03付　朝日新聞：学生企画「おかやまバトン」福島里の子会合宿受け入れ
2013.08.03付　朝日新聞：一般財団法人「地域公共交通総合研究所」(三村聡教授が理事)設立記念シンポジウム
2013.08.03付　日経新聞：一般財団法人「地域公共交通総合研究所」(三村聡教授が理事)設立記念シンポジウム
2013.08.03付　山陽新聞：一般財団法人「地域公共交通総合研究所」(三村聡教授が理事)設立記念シンポジウム
2013.08.05付　山陽新聞：学生企画「おかやまバトン」福島里の子会おかやま桃太郎まつり参加
2013.08.07付　山陽新聞：学生企画「おかやまバトン」福島里の子会日本舞踊発表会
2013.08.09付　山陽新聞：西川緑道公園周辺調査岡山市委託事業(ヒアリング実施)
2013.08.20付　山陽新聞：総社山手地区地域包括ケア学生実践活動において山手小学校児童と壁新聞製作
2013.08.26付　山陽新聞：まちなかキャンパス「やさしく語り合う科学の世界」実施
2013.08.28付　山陽新聞：学生企画「MACHIFES」9 月 21 日実施
2013.09.05付　毎日新聞：学生企画「EVO」大学生農業体験とことん農業
2013.09.07付　産経新聞：一般社団法人水辺のユニオン主催「環境保全型森林ボランティア 活動(新見市神郷)」
2013.09.11付　山陽新聞：職員企画(教育学部「大学発 食育を通して人を学ぶ会」)「技と伝統の継承のメカニズム」開催
2013.09.17付　朝日新聞：岡山市長選挙特集にて岩淵泰助教がコメント
2013.09.21付　山陽新聞：「岡山を考えるシンポジウム」開催
2013.09.24付　読売新聞：岡山市長選挙特集にて三村聡教授がコメント
2013.10.02付　山陽新聞：まちなかキャンパス「若者の政治参加」開催
2013.10.03付　朝日新聞：まちなかキャンパス「若者の政治参加」実施
2013.10.12付　山陽新聞：中村良平教授寄稿の中で地域総合研究センターの活動を紹介
2013.10.13付　山陽新聞：西川緑道公園周辺調査岡山市委託事業(自動車通行量調査)
2013.10.20付　山陽新聞：岡山市中心市街地イオンモール岡山開業に伴い三村聡教授がコメ ント
2013.11.02付　山陽新聞：学生企画「おかやま百年構想」奉還町商店街にてファジアーノ応援絵馬作製
2013.11.06付　山陽新聞：11 月 9 日「金沢・熊本・岡山まちづくりシンポジウム」開催
2013.11.07付　山陽新聞：11 月 10 日「豊子愷シンポジウム」開催
2013.11.09付　山陽新聞：学生企画「だっぴ 50×50」が「ぷちだっぴ」開催
2013.11.10付　山陽新聞さん太タイムス：職員企画「まちなか実験教室」開催
2013.11.10付　山陽新聞：11 月 9 日「金沢・熊本・岡山まちづくりシンポジウム」実施
2013.11.12付　山陽新聞：学生企画「社会科教育講座」による 11 月 15 日「ティーチイン岡山」開催
2013.11.12付　山陽新聞：学生企画「おかやま百年構想」奉還町商店街にてファジアーノ応援絵馬作製
2013.11.17付　山陽新聞：学生企画「EVO」多目的スペース開設
2013.11.19付　山陽新聞：11 月 23 日まちなかキャンパス「宇宙医療の世界」開催
2013.11.27付　山陽新聞：学生企画「おかやま百年構想」ファジアーノ観戦イラスト個展
2013.11.28付　山陽新聞：学生企画「ILOHA」国際医療について、月一回の勉強会実施
2013.12.04付　山陽新聞：職員企画「映画「ガレキとラジオ」上映会＆災害について考える」プロジェクト
2013.12.06付　毎日新聞：職員企画「映画「ガレキとラジオ」上映会＆災害について考える」プロジェクト
2013.12.10付　山陽新聞：学生企画「Li☆Luck」による「うぇるかむデー」開催
2013.12.10付　山陽新聞：学生企画「社会科教育講座」による「ティーチイン岡山」開催

11. 新聞記事

2013.12.12付　山陽新聞：学生企画「Li☆Luck」による「うぇるかむデー」開催
2013.12.24付　朝日新聞：学生企画「おかやまバトン」南三陸町志津川中学校野球部を岡山へ招待
2013.12.24付　山陽新聞：学生企画「おかやまバトン」南三陸町志津川中学校野球部を岡山へ招待
2014.01.05付　山陽新聞：学生企画「ベンチャー研究会 OUVL」SNS を利用した岡山大学PR
2014.01.09付　山陽新聞：岡山市主催「おかやま市民フォーラム」開催、三村聡教授がパネリストとして出席
2014.01.11付　山陽新聞：GREENDAY2013 高梁川ミーティング（倉敷都市圏版）
2014.01.16付　山陽新聞：職員企画「ビブリオバトル」開催
2014.01.21付　山陽新聞：まちなかキャンパス「やさしく語り合う科学の世界」開催
2014.01.21付　山陽新聞：平成 25 年度成果報告会開催
2014.01.24付　山陽新聞：平成 25 年度成果報告会実施
2014.01.26付　山陽新聞：倉敷市水島地区未来ビジョン策定パネルディスカッションに三村聡教授がパネリストとして出席
2014.02.04付　山陽新聞：岡山市主催「おかやま市民フォーラム」にて三村聡教授がパネリストとして出席
2014.02.12付　朝日新聞：職員企画「大学発食育を通して人を学ぶ会」開催
2014.02.20付　山陽新聞：西川緑道活性化プロジェクト報告会
2014.02.23付　山陽新聞：西川緑道活性化プロジェクト報告会実施
2014.03.03付　山陽新聞：「激変 県都のかたち - まちを語る(1)-」にて三村聡教授がコメント
2014.03.04付　山陽新聞：「激変 県都のかたち - まちを語る(2)-」にて三村聡教授がコメント
2014.03.15付　山陽新聞：岡山市商店街等調査事業調査結果
2014.03.16付　山陽新聞：岡山市商店街等調査事業「商店街の在るべき姿を探る」ワークショップ開催

【執筆】
・(公財)岡山県環境保全事業団環境学習センター「アスエコ」:「歩きたくなる西川」(岩淵泰助教)第1回/第2回/第3回
・財団法人入管協会：月刊誌「国際人流」へ留学生のまちづくり事業について(岩淵泰助教)

【TV】
2013.10.07　OHK（岡山放送）「スーパーニュース」岡山市長選挙を受けて三村聡教授がコメント
2013.10.07　TSC（テレビせとうち）「ニュース5」岡山市長選挙を受けて岩淵泰助教がコメント
2014.02.18　TSC（テレビせとうち）「TSCニュース」岡山市発表の中心市街地活計化政策パッケージについて三村聡教授がコメント
2014.03.15　KSB（瀬戸内海放送）「報・道・力～巨大モール進出をチャンスに！～岡山の街を元気にするには～」に三村聡教授が出演

【ラジオ】
2013.05.31　学生企画「地域創造研究部たんぽぽ」FM.OKAYAMA(76.8MHz)出演

【その他】
2013.12.02　官庁通信社「文教速報」：学生企画中間報告会実施

2014（平成 26）年度報道一覧

【新聞】

2014.05.11　山陽新聞：「西川を語る」にて岩淵泰助教がコメント
2014.05.18　山陽新聞：激変　県都のかたち　学生パワー　にぎわい創出に活躍
2014.05.23　山陽新聞：西川緑道公園界隈岡山市委託調査事業の調査結果
2014.05.29　山陽新聞：県商店街振興組合連合会主催「岡山市商店街等調査事業報告会」06.05開催
2014.06.01　山陽新聞：岡山市調査事業「女性の活躍促進に向けた施策を検討のための企業実態、ニーズ等の把握・分析」実行委員会に千田教授がメンバーとして参加
2014.06.14　山陽新聞：[学生企画]満月 BAR、おかやま百年構想の活動
2014.06.14　山陽新聞：「帰りなん、いざ」にて岡山市の西川パフォーマー事業について岩淵泰助教がコメント
2014.07.03　山陽新聞：[学生企画]「おかやま百年構想」奉還町商店街でのファジアーノ応援企画
2014.07.04　山陽新聞：(公財)ウエスコ学術振興財団の助成対象に岩淵泰助教が選出
2014.07.10　山陽新聞：西川緑道公園界隈岡山市委託調査事業に関する講演会開催
2014.07.12　読売新聞：実践型社会連携教育科目「地域社会貢献型学習支援活動」総社市と連携
2014.07.17　山陽新聞：激変「県都のかたち」にて岡山市の社会交通実験について三村聡教授がコメント
2014.07.26　山陽新聞：「滴一滴」留学生のまちづくり「おかやま StudyTour」について
2014.08.02　山陽新聞：実践型社会連携教育科目「倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境」オープンハウス実施
2014.08.07　山陽新聞：[学生企画]おかやまバトン福島里の子会合宿受け入れ
2014.08.10　読売新聞：西川緑道のまちづくりについて、行政やNPOが講義
2014.08.19　山陽新聞：西川清掃活動に参加
2014.08.26　山陽新聞：ティーチイン岡山開催
2014.08.28　山陽新聞：ティーチイン岡山開催
2014.09.10　山陽新聞：学生企画「満月 BAR」石山公園で開催
2014.09.12　中国新聞：「イオンモール12月開業の岡山中心部 社会交通実験断念」について三村先生がコメント
2014.09.12　中国新聞：イオンモール12月開業の岡山中心部　社会交通実験断念
2014.09.21　山陽新聞：女子プロゴルフ「山陽新聞レディース杯」岡大の留学生が観戦
2014.09.23　山陽新聞：哲学カフェ「人はなぜ怒るのか」開催
2014.09.23　山陽新聞：特別講話「聞き書きを通して学ぶ」開催
2014.10.01　山陽新聞：「西川アゴラ」開設
2014.10.07　山陽新聞：学生企画「満月 BAR」皆既月食に合わせ石山公園で開催
2014.10.09　山陽新聞：大盛トーク「まちづくりで意見交換」
2014.10.09　山陽新聞：岡山大学と岡山市「まちづくりに関する地域連携協定」
2014.10.15　山陽新聞：「地域の活性化と地方紙の役割」について三村先生がコメント
2014.10.18　山陽新聞：イオンモール岡山 地域への影響を考えるシンポジウム（士業シンポジウム開催）
2014.10.20　山陽新聞：まちづくりの拠点始動　西川アゴラ開所
2014.10.21　山陽新聞夕刊：西川アゴラオープン
2014.10.21　山陽新聞：犯罪被害者支援シンポジウム
2014.10.21　山陽新聞：西川アゴラ開所
2014.10.23　読売新聞：犯罪被害者の声 耳傾けて（犯罪被害者支援シンポジウム）
2014.10.23　山陽新聞：犯罪被害者支援を
2014.10.23　山陽新聞：ESDテーマに書評合戦　岩淵先生ご紹介の本がチャンプ本に
2014.10.24　山陽新聞：社説：まちづくり拠点（西川緑道公園・西川アゴラ）
2014.10.25　リビングおかやま：西川エリア イベント紹介
2014.10.28　山陽新聞：超小型EV活用策研究（11.5シンポジウム）

11. 新聞記事

2014.10.29　山陽新聞：おかやまスポーツプロモーション研究会
2014.11.02　山陽新聞：おかやま百年構想企画　イラスト展
2014.11.06　毎日新聞：「開業目前イオンモール」三村先生がコメント
2014.11.06　山陽新聞：満月BAR・西川イルミ点灯式
2014.11.06　山陽新聞：超小型EV試乗会・シンポジウム
2014.11.11　山陽新聞：西川カフェ「山田哲弘さん絵本出版記講演」
2014.11.13　山陽新聞：超小型EV試乗会・シンポジウム
2014.11.17　山陽新聞夕刊：西川アゴラ　山田哲弘さん絵本出版記念講演
2014.11.25　山陽新聞：岡山大学SGUに選定
2014.11.27　山陽新聞：学生団体「Liens」企画　まち巡りクイズラリー
2014.11.29　読売新聞：読売新聞にて　イオンモール岡山開業の記事で三村先生がコメント
2014.12.01　山陽新聞：県内市町首長懇談会　三村先生がコメント
2014.12.02　山陽新聞：まちづくりワークショップ開催
2014.12.08　山陽新聞夕刊：まちづくりワークショップ スティーブン・ジョンソン先生特別講義（西川アゴラ）
2014.12.11　山陽新聞：ティーチイン岡山
2014.12.12　山陽新聞：学生企画「めめも会」　死生観を考える座談会
2014.12.14　山陽新聞：スティーブン・ジョンソン先生　まちづくりワークショップ（西川アゴラ）
2014.12.16　山陽新聞：イオンモール岡山開業に伴う交通量調査
2014.12.26　山陽新聞：おかやまバトン　志津川中学校野球部交流試合
2014.12.26　山陽新聞：西川ヒアリング 伊藤邦衛さん
2015.01.06　山陽新聞：滴一滴　ポートランドのまちづくり
2015.01.11　山陽新聞：岡山・倉敷・総社市生活保護世帯対象　中学生の学習サポート
2015.01.20　山陽新聞：西川カフェ
2015.01.11　山陽新聞：高梁川流域学校の記事にて、三村先生がコメント
2015.01.21　毎日新聞：イオン開業後調査　岡山商工会議所
2015.01.24　山陽新聞：中四国南北軸交流懇談会　三村先生参加
2015.01.25　山陽新聞：学生団体Liens代表入江恭平さんが山陽新聞にてコメント
2015.01.27　山陽新聞：Voters Bar in西川アゴラ
2015.02.05　日本経済新聞：実践講座：実践コミュニケーション論
2015.02.20　山陽新聞：ワンステップ成果報告会
2015.02.21　山陽新聞：中心市街地活性化政策の記事にて、前田准教授がコメント
2015.02.28　山陽新聞：「岡山の地方創生を考える」シンポジウム

【テレビ】
2014.04.02　RSK（山陽放送）：地域スペシャル～メッセージ「政令市５年の岡山 生かせるか！ビッグチャンス ～中四国拠点の街づくりは～」三村聡教授が出演
2014.05.07　KSB（瀬戸内海放送）：スーパーJチャンネルにて三村聡教授がJR吉備線LRT化に関するコメント
2014.05.14　KSB（瀬戸内海放送）：スーパーJチャンネルにて三村聡教授がイオンモール岡山出店に関するコメント
2014.07.01　RNC（西日本放送）：News every.にて三村聡教授がイオンモール岡山出店に関するコメント
2014.08.11　瀬戸内海放送（KSB）：岡山市の社会交通実験断念についてのコメント
2014.12.29　テレビせとうち：「徹底討論　岡山市の中心で愛を叫ぶ」
2015.02.14　倉敷ケーブルテレビ：地域貢献型学習支援活動の成果報告会

【ラジオ】

2014.10.02　RSK ラジオ：RSK ラジオ「朝まるステーション 1494」三村聡教授が出演
2014.10.03　RSK ラジオ：RSK ラジオ「朝まるステーション 1494」三村聡教授が出演
2014.12.06　レディオモモ：「夢創る　おかやま人」前田准教授が出演

【その他】

2014.07.22　野村総合研究所「パブリックマネジメントレビュー」　2013 年度「商店街等調査報告書」について掲載
2014.08.01　（一財）日本地域開発センター　「学都岡山の実現可能性を探る―全国「学都」ランキングに基づく実現可能性の検証」掲載
2014.10.21　内外教育（時事通信社）　困窮家庭の学習支援で国立大と連携

2015（平成 27）年度報道一覧

【新聞】

2015.04.02　山陽新聞：「元気創生戦略本部」が発足　井原市顧問に三村氏
2015.04.02　産経新聞：「元気いばら創生戦略本部」設置
2015.04.02　読売新聞：井原に元気を　市戦略本部　特産 PR や少子化対策
2015.04.06　山陽新聞：先進的都市づくりを学ぶ　ポートランド視察
2015.04.11　山陽新聞：学生まち取材班　活動振り返る
2015.04.16　山陽新聞：人口減対策で施策推進、元気創生本部が初会合
2015.04.16　山陽新聞：「交通政策参考になった」市長ポートランド視察成果
2015.04.23　山陽新聞：全米一住みたい街　ポートランドの秘密＜上＞
2015.04.24　山陽新聞：全米一住みたい街　ポートランドの秘密＜下＞
2015.05.12　山陽新聞：岡山大まちなかキャンパス「中国医学～『経絡』の使い方入門～」
2015.05.15　山陽新聞：仏の大学連携　都市づくりを学ぶ　岡大シンポ
2015.05.17　山陽新聞：みずしま財団設立 15 年　問い続ける青い空の意味
2015.05.23　山陽新聞：公共交通生かしたまちに　15 シンポ講演要旨
2015.05.29　山陽新聞：旭川周辺活性化へ　産官学が「戦略会議」
2015.06.04　山陽新聞：ティーチイン岡山
2015.06.09　公明新聞：地方創生に挑む　岡山・井原市　市民協働で戦略づくり　三村教授コメント
2015.06.16　山陽新聞：岡山で毎月「ESD グローカル Cafe」
2015.06.17　山陽新聞：検証イオンモール岡山半年
2015.06.19　山陽新聞：地域版総合戦略　コンベンション誘致
2015.06.21　山陽新聞：三村教授講演要旨　JR 岡山駅西口活性化
2015.06.23　山陽新聞：まちなかキャンパス LOHAS　イベント告知
2015.06.29　山陽新聞：高梁川流域学校開校　「歴史、文化　次代に」倉敷でシンポ
2015.06.30　中国新聞：矢掛町江良　小さな国際交流スタート　岡山大留学生ら里山満喫
2015.07.02　山陽新聞：岡山大学七夕祭 2015（Li☆Luck）　告知
2015.07.03　日刊木材新聞：岡山大学実践型教育プログラムに UBC の学生が参加
2015.07.04　山陽新聞：高梁川流域学校　開校記念シンポ（倉敷）荒木センター長パネルディスカッション発言要旨
2015.07.04　山陽新聞：「ポートランドでのまちづくり視察報告会」＠西川アゴラ　岡山市　林恭生交通政策課長講演要旨
2015.07.07　山陽新聞：まちなかキャンパス LOHAS「アーユルヴェーダ的すがすがしい一日の過ごし方」イ

ベント告知
2015.07.09　山陽新聞：井原創生戦略会議　委員ら意見交換　市地域創生戦略顧問　三村教授
2015.07.09　山陽新聞：矢掛・江良地区　住民の会　留学生交流で地域元気に　岩淵助教がコメント
2015.07.12　山陽新聞：新市民会館はどこへ⑤まちづくりの視点　岩淵助教コメント
2015.07.17　山陽新聞：「新市民会館」千日前へ　三村教授コメント
2015.07.19　山陽新聞：コンベンション誘致　市、岡山大と連携強化　22協定
2015.07.23　山陽新聞：市と岡山大が連携協定　コンベンション誘致強化
2015.07.23　産経新聞：「コンベンション」誘致で連携　岡山市、岡山大と協定締結
2015.07.25　山陽木材新聞：留学生を受入れ　県内企業で職業体験
2015.08.01　山陽新聞：元気いばら創生戦略本部　三村聡戦略顧問に聞く
2015.08.02　山陽新聞：新・地域考　オピニオン「岡山カルチャーゾーン」30年どう生かす地域の宝　三村教授コメント
2015.08.03　山陽新聞：滴一滴　ヴァンソン藤井さんの講演内容引用
2015.08.06　山陽新聞：福島の小中高生ら来岡　おかやまバトン招待
2015.08.07　山陽新聞：大学コンソーシアムと県　人材育成へ連携協定
2015.08.09　山陽新聞：矢掛・江良　岡山大留学生ホームステイ受入　伝統文化紹介
2015.08.10　山陽新聞：学生ボランティア「おかやまバトン」最後の被災者招待
2015.08.14　山陽新聞：超小型EV公用車実験（コムス）市職員　導入なら利用は８割
2015.08.14　山陽新聞：消費者教育題材　教員向け講座　前田准教授指導
2015.08.18　山陽新聞：まちなかキャンパスLOHAS　イベント告知
2015.08.19　山陽新聞：奉還小判君神社（奉還町商店街）「おかやま百年構想」代表長宗さんコメント
2015.09.03　山陽新聞：岡山商工会議所活性化協初会合　新市民会館で議論
2015.09.08　山陽新聞：岡山大まちなかキャンパスLOHAS「本場インドのヨーガの魅力」
2015.09.17　朝日新聞：基準地価　「イオン」勢い鮮明　三村教授コメント
2015.09.18　山陽新聞：国際医療勉強会ILOHAの夏プロジェクト報告会
2015.09.27　山陽新聞：イングリッシュキャンプ　県内中学生31人参加
2015.10.01　山陽新聞：18歳選挙権　県選管など初シンポ21岡山大
2015.10.01　山陽新聞：矢掛町江良地区大人みこし60年ぶり奉納
2015.10.03　山陽新聞：矢掛町江良地区住民グループ岡山大留学生をクリ拾いに招待
2015.10.18　中国新聞：多国籍でわっしょい　矢掛・江良地区みこし60年ぶり復活
2015.10.22　読売新聞：18歳選挙変化の起点　大学連合体と行政シンポ
2015.10.22　山陽新聞：岡山大で18歳選挙権シンポ　有識者ら導入効果分析
2015.10.22　山陽新聞：「18歳選挙権」生かそう　岡山大で初シンポ
2015.10.26　山陽新聞：ファジー讃岐戦　大橋ダービーPR　奉還町大学生がのぼり
2015.10.28　山陽新聞：商店街にシーガルズ　岡山奉還町　タペストリーお目見え
2015.11.07　山陽新聞：岡山大留学生トーク　母国語で魅力発信
2015.11.09　山陽新聞：熱気、活気　街輝く（おかやまマラソン、三村先生コメント）
2015.11.12　山陽新聞：西川筋　滞留者が増加　岡山大地域総合研究センター「市民まち歩き満喫」
2015.11.12　山陽新聞：福山・小中学校再編　教育、地域のかたち（前田先生インタビュー）
2015.11.29　山陽新聞：地域とともに歩み貢献　倉敷で大原父子研究会（三村先生コメント）
2015.12.05　山陽新聞：追跡　イオンモール岡山１年　周辺店の苦戦目立つ
2015.12.19　山陽新聞：ティーチイン岡山　スマホ適正利用議論　県教委に案提出
2015.12.19　山陽新聞：米ポートランド学ぶシンポ　まちづくり　ヒント探る
2015.12.21　山陽新聞：宮城の中学野球部招く　おかやまバトン　県内２中と試合
2015.12.22　山陽新聞：地方創生にスポーツを　岡山でシンポ　クラブ関係者ら意見

11. 新聞記事

2015.12.26　山陽新聞：中山間に新交通体系　美作・上山で計画　トヨタ設立の基金
2015.12.26　日本経済新聞：ミニEV活用実験に助成　トヨタの基金、岡山・美作で
2015.12.31　朝日新聞：超小型EV活用　中山間地活性化
2016.01.05　読売新聞：サッカーでまちおこし 奉還町商店街と湯郷
2016.01.08　朝日新聞：一般教養に「旅行医学」岡山大、新年度から
2016.01.08　山陽新聞：岡山大まちなかキャンパスLOHAS「一年の健康はアーユルヴェーダにあり！」
2016.01.13　山陽新聞：矢掛の園児とたこ揚げ満喫　岡山大留学生ら訪問
2016.01.14　山陽新聞：16年度成長戦略策定へ　高梁川流域連携中枢都市圏
2016.01.21　山陽新聞：水辺空間活用 イベント継続　旭川再生会議
2016.01.23　山陽新聞：生物、異文化に理解を　池田動物園、大原美術館　来月、ESD講座
2016.01.29　山陽新聞：美術館でESD!?倉敷市大原美術館にて
2016.02.07　山陽新聞：流域の文化連携を　倉敷で高梁川ミーティング
2016.02.13　山陽新聞：山陽新聞さんデジコラム　地域総合研究センター岩淵助教担当
2016.02.16　山陽新聞：地域で実践的教育を「高梁川ミーティング」討論会

【その他】
2015.07.17　新庄中学校　学校だより　　UBC学生中学校訪問
2015.08.20　岡山・備後　経済リポート　岡大の留学生が矢掛の町おこし　岩淵助教インタビュー

【テレビ】
2015.05.19　瀬戸内海放送（KSB）
スーパーJチャンネル：岩淵泰助教が自治体FACEBOOK活用についてコメント
2015.06.15　西日本放送（RNC）
News Every.：前田芳男准教授が岡山市中心市街地回遊性についてコメント
2015.09.25　岡山放送（OHK）
みんなのニュース：三村聡教授が市民会館移転よる表町商店街活性化についてコメント
2015.09.26　岡山放送（OHK）
特別番組「地域のよき頭脳であれ～岡山大学・グローバル実践型教育」
2015.09.29　岡山放送（OHK）
なんしよん？特集「グローバル化する岡山大学」森林GIとポートランドまちづくり
2015.09.30　瀬戸内海放送（KSB）
スーパーJチャンネル：留学生のまちづくり～矢掛町江良地区栗拾い～
2015.09.30　西日本放送（RNC）
News Every.：留学生のまちづくり～矢掛町江良地区栗拾い～岩淵助教コメント
2015.10.13　山陽放送（RSK）
RSKイブニングニュース：矢掛町江良地区みこし復活留学生が担ぐ
2015.10.21　岡山放送（OHK）
みんなのニュース：若者と政治シンポジウムの開催
2015.10.21　瀬戸内海放送（KSB）
スーパーJチャンネル：若者と政治シンポジウム ワークショップ
2015.11.03　テレビせとうち（TSC）
特別番組「始動！おかやま最前線~岡山市中心部のまちづくり～」三村聡教授出演
2015.11.16　NHK
もぎたてニュース：RESASを使って地域経済のビックデータを分析、岡大生が発表
2015.12.04　RSK（山陽放送）

RSKイブニングニュース：三村聡教授がイオンモール開業１周年についてコメント

2016（平成28）年度報道一覧

【新聞】

2016.04.06　山陽新聞：県都に活力創出を　都市活性化フォーラム　講演やパネル討議
2016.04.08　山陽新聞：若者と政治　参画盛り上げ出発点に　岡山大で実践型授業開始
2016.04.08　山陽新聞：地域で子ども守ろう　岡山駅　大学生ら啓発活動
2016.04.12　山陽新聞：「回遊効果出つつある」　岡山市の15年度商店街等調査
2016.04.14　中国新聞：留学生に町並み紹介　矢掛の子ども連合　発足３年目
2016.04.14　中国新聞：イオンモール岡山出店　商店街へ人の流れ発生
2016.04.19　山陽新聞：滴一滴　熊本地震を受けて（前田芳男副センター長）
2016.04.20　山陽新聞：地域発展協議体が発足　県内の産学官　活性化向け情報共有
2016.04.21　山陽新聞：岡山大構内で募金　おかやまバトン　メンバーら活動
2016.04.30　山陽新聞：おかやま都市活性化フォーラム　新たな活力を生み出せ
2016.05.08　山陽新聞：山陽新聞を読んで（前田芳男副センター長「滴一滴」を受けて）
2016.05.17　産経新聞：産官学民が連携　力ひとつに　「おかやま地域発展協議体」設立
2016.05.20　山陽新聞：東北支援息長く　学生ボランティア「おかやまバトン」結成５年
2016.05.22　朝日新聞：被災地との絆　これからも　学生団体　子らとの交流報告
2016.05.22　毎日新聞：支える心　縁つなぐ　被災地交流５年で報告
2016.05.24　山陽新聞：東日本被災地支援を展開　13団体に基金分配　DONATIONとKCM
2016.05.28　山陽新聞：岡山市ヘルスケア産業連携協議会設立
2016.05.31　山陽新聞：若者の政治参画ワークショップ
2016.06.05　朝日新聞：若者も選挙へ　50人知恵絞る　岡山大でイベント
2016.06.14　日本農業新聞：営農再建へ　農ボラ欠かせぬ存在
2016.06.18　新潟日報：話かご　新潟日報「サテライトキャンパスサミット」
2016.06.19　山陽新聞：社説　18歳選挙権施行　地域課題に目を向けよう
2016.06.20　山陽新聞：矢掛で岡山大留学生ら　特産市見学や農業体験
2016.06.26　山陽新聞：18歳選挙権　岡山大が集会　候補の訴え　学生ら不満
2016.06.26　山陽新聞：西川公園で市民参加のまちづくり（岩淵泰助教）
2016.06.26　山陽新聞：若者向け政策期待（岩淵泰助教）
2016.06.28　読売新聞：さぎ　きをつけて　北区の園児が塗り絵
2016.06.30　山陽新聞：座談会　次代に繋がる岡山の創造　スポーツ核に
2016.07.01　読売新聞：参院選2016　識者に聞く　市民の役割　共に考えて
2016.07.15　山陽新聞：市民アイデア募り試行　市が来春予定「西川歩行者天国」社会実験
2016.08.21　山陽新聞：地方創生　方谷に学ぶ　来月３日　講演とパネル討論（三村聡センター長）
2016.08.23　山陽新聞：地方創生の在り方は　連合岡山　産学官でフォーラム（三村聡センター長）
2016.08.26　山陽新聞：パークマネジメント　第１弾は石山公園　市民協働で活用ルール
2016.08.30　山陽新聞：滴一滴（矢掛町留学生のまちづくり）
2016.09.06　山陽新聞：フェアトレード普及　市民団体の活動本格化（流尾正亮コメント）
2016.09.24　山陽新聞：［広告］被災地支援団体　おかやまバトン
2016.09.30　山陽新聞：学園都市座談会
2016.10.03　山陽新聞：国際学都シンポジウム開催案内
2016.10.04　山陽新聞：まちなかキャンパス開催告知
2016.10.06　山陽新聞：目指す学都の姿探る　おかやま円卓会議　発足記念シンポ

11. 新聞記事

2016.10.06　山陽新聞：おかやま円卓会議設立　産学官トップ　地域課題に助言、提言
2016.10.13　毎日新聞：超小型モビリティ　本格導入へ利用実験
2016.10.14　山陽新聞：西川・都市型公園の活用を探る　シンポジウム開催案内
2016.10.16　山陽新聞：西川緑道公園活用策は　まちづくりシンポ　現状報告や討論会
2016.10.16　中国新聞：岡大留学生がみこし担ぎ　矢掛　法被姿で伝統文化体感
2016.10.20　読売新聞：市内移動はオカモビで　24から岡山市　小型自動車貸し出し
2016.10.21　山陽新聞：地域振興　スポーツの役割は　あす岡山でシンポジウム
2016.10.21　読売新聞：知事選2016　地方生き残る政策示せ　岡山大地域総合研究センター長三村聡教授
2016.10.23　山陽新聞：スポーツによる地域振興シンポ　住民巻き込むこと重要
2016.10.26　山陽新聞：倉敷発　地域振興考える　来月３日からローカルサミット
2016.10.30　山陽新聞：大学と都市連携して岡山を「国際学都」に　おかやま円卓会議発足
2016.10.30　山陽新聞（作州版）：県と10市町村職員の研修「塾」２年目　若手の能力アップ
2016.11.05　山陽新聞：アマモ場再生活動学ぶ　備前、瀬戸内を県内外13人視察
2016.11.07　山陽新聞：市民　連携と対話を　ローカルサミット開幕　まちづくりへ宣言
2016.11.09　山陽新聞：西川緑道公園筋の歩行者天国　運営主体の実行委設立へ
2016.11.16　山陽新聞：19岡山芸術交流ワークショップ　西川アゴラ
2016.11.25　山陽新聞：観光振興に若者視点　倉敷市と岡山大　連携プロジェクト
2016.11.30　朝日新聞：告知板　まちとモビリティのシンポジウム　おかやまの移動の多様性を考える
2016.12.02　山陽新聞：まちとモビリティのシンポジウム　おかやまの移動の多様性を考える
2016.12.04　山陽新聞：超小型EV有用性指摘　天神山プラザ　市長ら参加しシンポ
2016.12.18　山陽新聞：水島の将来像テーマにシンポ　23、倉敷
2016.12.20　山陽新聞：市内でイベント「若者と政治を考える」高校生が初選挙の印象発表
2016.12.22　山陽新聞：赤磐、瀬戸内市、和気町　「観光連携組織」設立へ
2016.12.24　山陽新聞：水島　環境学ぶ場に　地元住民や企業シンポ　地域の将来探る
2016.12.24　毎日新聞：環境学習で水島活性化を　倉敷でシンポ　市民ら120人参加
2016.12.25　毎日新聞：岡大でのびのび練習　宮城・志津川中　野球部交流今年も
2016.12.26　山陽新聞：おかやまバトン　東日本大震災被災地支援　宮城の中学生招き交流
2017.01.06　山陽新聞：西川緑道公園筋の歩行者天国　定期開催へ実行委発足
2017.01.13　山陽新聞：フラミンゴやライオン　カラフルパネルお目見え　池田動物園塀岡山大生ら制作
2017.01.13　読売新聞：ワクワク感　壁画で演出　岡大生ら　池田動物園にパネル
2017.01.13　毎日新聞：動物の絵で明るく　池田動物園　外壁に岡大生ら
2017.01.13　山陽新聞：浅口市寄島町国頭地区　学生による空き家活用策発表
2017.01.20　毎日新聞：目指せ「エコ・リバブルシティ」車から人中心の街へ
2017.01.27　山陽新聞：美観地区魅力アップ連携プロジェクト　観光振興にSNS　倉敷市に岡山大生　若者目線で提案
2017.02.05　中国新聞：矢掛の大名行列　足跡たどる　研究成果報告会
2017.02.05　山陽新聞：大名行列の課題は　矢掛宿場まつりでシンポ
2017.02.10　山陽新聞：共働き家庭へ“留学”岡山大文学部10月から講義
仕事と子育て両立を体験
2017.02.15　山陽新聞：おかやま地域発展協議体委員会
SPOC研究会で「地域スポーツコミッション」の創設を提案
2017.02.28　山陽新聞　西川緑道公園を設計した伊藤邦衛氏　長女招き座談会
2017.03.04　読売新聞　海渡る矢掛「大名行列」米のパレードに来月参加

【その他】

2016.04.07　山陽新聞デジタル：18歳選挙権 岡山大で実践型授業　ＮＰＯ原田氏「政治に関わって」
2016.05.02　山陽新聞デジタル：さんデジコラム：西川緑道公園まちづくりの系譜　市民の思いと力を引き出せ
2016.05.30　山陽新聞デジタル：さんデジコラム：岡山版サード・プレイス　人と地域の関係を捉え直す
2016.07.20　山陽新聞デジタル：さんデジコラム：「ホコテンイニシアチブ　市民が持つ力引き出せ」
2016.08.11　山陽新聞デジタル：官の用語、まちの言葉、市民の声　西川ほこてん議論で出たもの
2016.09.09　山陽新聞デジタル：コペンハーゲン（1）人間中心のまちづくり　公共空間の多機能性
2016.09.12　山陽新聞デジタル：コペンハーゲン（2）ヤン・ゲール先生　公共空間の中の人間性
2016.09.17　山陽新聞デジタル：コペンハーゲン（3）地区評議会　地域民主主義を支える基盤
2016.10.03　山陽新聞デジタル：トロットマン氏のまちづくり講演　10.05に岡山大で
2016.10.12　山陽新聞デジタル：トロットマン氏との対話（下）　環境配慮型の都市成長戦略」
2016.10.12　山陽新聞デジタル：トロットマン氏との対話（上）　都市の魅力づくりに大学必要
2016.11.05　山陽新聞デジタル：セルツァー教授のまちづくりレッスン（上）
都市政策に必要な公正性や健康志向
2016.11.06　山陽新聞デジタル：セルツァー教授のまちづくりレッスン（下）
まちで必要なものは手の届く範囲に
2016.12.12　山陽新聞デジタル：京橋朝市のはじまり話「面白いことをできるから」
2017.01.26　山陽新聞デジタル：「備前暮らしカレッジ」（1）地域住民を講師にネットワークづくり
2017.01.31　岡山市明るい選挙推進協議会：機関紙「せんきょ岡山」No. 42
2017.02.01　公益社団法人　Philanthropy378号　岡山大学高等教育フォーラム「ポートランドに学ぶ実践知教育」日本フィランソロピー協会
2017.03.03　岡山商工会議所　glocal vol.274“桃太郎のまち”岡山市のグランドデザインのあるべき姿第２回『「おかやま地域発展協議体」の役割を考える』
2017.03.03　山陽新聞デジタル：「備前暮らしカレッジ」（2）食と地域をつなげる
2017.03.08　山陽新聞デジタル：「備前暮らしカレッジ」（3）自分らしく生きていく2017.

2017（平成29）年度報道一覧

【テレビ】

2017.08.27　OHK　動き出す働き方改革　加藤勝信厚生労働大臣に聞く
2017.04.14　NHK岡山放送局　岡山ラジオ・おからじ！「防災」をテーマに前田芳男教授出演

【新聞】

2017.04.01　山陽新聞：「実りの学都」の実現目指す　学長　槇野博史氏
2017.04.14　山陽新聞：西原村の自宅が被災　岡山大・前田教授　防災意識の甘さ痛感
2017.04.18　山陽新聞：岡山駅・後楽園直通バス　宇野自動車、岡電　27から運行
2017.04.20　産経新聞：JR岡山駅ー岡山後楽園　シャトルバスを運行　27から
2017.04.23　産経新聞：超小型EV評価上々　研究会、実証実験報告
2017.04.26　読売新聞：岡山駅－後楽園　待望　シャトルバス
2017.04.28　山陽新聞：直通バスで後楽園へ　岡山駅から観光客次々　宇野自動車と岡電運行
2017.05.11　山陽新聞：ホームレス実情知って　岡山大２年植田さん　パネル展企画
2017.06.05　津山朝日新聞（夕刊）：環境面視点の地域創生展望　シンポジウム津山、真庭市、岡大　講演や実践報告
2017.06.10　津山朝日新聞（夕刊）：地域課題解決の力養おう　美作国実・楽・彩づくり塾

11．新聞記事

2017.06.13　山陽新聞夕刊：読書三昧　近刊私の１冊（前田芳男副センター長）
2017.06.14　山陽新聞（作州ワイド版）：課題解決や政策立案　県民局研修講座スタート
2017.06.15　山陽新聞：人を大切にする経営学会　23、中国支部設立
2017.06.20　山陽新聞：岡山広告賞を贈呈　協会総会　本年度事業を決める
2017.06.26　朝日新聞：留学生と災害対処考える　岡山大、北区でワークショップ
2017.07.05　山陽新聞：岡山武蔵倶楽部総会（三村聡センター長講演）
2017.07.06　山陽新聞：県庁通り　将来像策定へ　セミナーや現地調査　地元と認識共有
2017.07.14　山陽新聞：市、７大学の12事業採択　若者の視点でまちづくり
2017.07.18　山陽新聞（夕刊）：読書三昧　近刊私の一冊（前田芳男副センター長）
2017.07.21　山陽新聞：県庁通り１車線化　理解促進へセミナー
2017.07.23　山陽新聞：県庁通り魅力アップを　１車線化テーマ　市セミナーに110人
2017.08.09　日本経済新聞：岡山の産官学で空き家対策協議　17立ち上げ
2017.08.18　山陽新聞：空き家対策研究会発足　産学官の地域発展協議体
2017.08.25　山陽新聞（夕刊）：読書三昧　近刊私の一冊（前田芳男副センター長）
2017.09.14　読売新聞：防災体制　道半ば　南海トラフ、風水害（前田芳男副センター長）
2017.09.16　朝日新聞：１車線化　実現へ動き　県庁通り
2017.09.26　山陽新聞（夕刊）：読書三昧　近刊私の１冊（前田芳男副センター長）
2017.10.12　山陽新聞（笠岡・井原・浅口圏版）：みこし担ぎ「ワッショイ」矢掛江良住民　岡山大留学生と交流
2017.10.26　山陽新聞：自然素材生かし美しく　親交深かった進士氏講演　西川緑道公園設計・故伊藤邦衛氏にスポット
2017.10.31　山陽新聞（夕刊）：読書三昧　近刊私の１冊（前田芳男副センター長）
2017.11.01　山陽新聞：おかやま円卓会議　都市交通在り方議論　スポーツ地域活性化も
2017.11.02　山陽新聞：都市交通、大学連携は　市長　４日から仏先進地視察
2017.11.09　山陽新聞：魅力アップの方策探る　県庁通り１車線化　市が地元対象ワークショップ　まちづくり事業意見交換
2017.11.11　山陽新聞：熊本地震　写真で紹介　きょうとあす倉敷　14、15に岡山　50点を展示
2017.11.15　山陽新聞：防災意識　被災地から　熊本地震企画展　岡大生の取材紹介
2017.11.21　山陽新聞：外国人客呼び込め　岡山・表町の商店会　留学生らと意見交換会
2017.12.07　山陽新聞：犯罪被害者支援継続を　岡山大でシンポ　当事者の会代表講演
2018.01.14　山陽新聞：地域とともにSDGs達成へ貢献する岡山大学
2018.01.22　山陽新聞：語る伝える　社会を変えるには若い力必要。寄り添える人が増えてほしい。（「犯罪被害者支援シンポジウム」講演要旨）
2018.01.23　山陽新聞：県庁通り１車線化　地元の関心高まらず
2018.01.28　山陽新聞（作州ワイド版）　作州地域若手職員　地域活性化の方策は　高校生に研修成果発表
2018.02.01　山陽新聞：学生が描くマチ　岡山の取り組み　防災意識向上（岡山大）
2018.02.01　山陽新聞：県庁通り１車線化　にぎわい創出策探る　ビジョン策定へ　WSで実地調査
2018.02.01　山陽新聞：課題解決へ学生が事業案　岡山大　ザグザグダイヤ工業に　産学連携型の授業
2018.02.08　山陽新聞：学生が描くマチ　岡山の取り組み　西川の魅力発見（岡山大）
2018.02.18　山陽新聞：県庁通り１車線化へ市セミナー　魅力アップのこつはまちづくりの実践紹介
2018.03.05　山陽新聞：学生企画「SCOP」奉還町商店街に新タペストリー掲出

【その他】
2017.04.12　山陽新聞デジタル：矢掛町大名行列inサンフランシスコ（上）素晴らしきマンネリズム
2017.04.30　日本海新聞　Net Nihonkai：時代絵巻　古式ゆかしく　鳥取・三朝「三徳山御幸行列」

2017.05.08　山陽新聞デジタル：矢掛町大名行列inサンフランシスコ（下）サムライセブンからイレブンへ
2017.05.18　日経電子版：実践デモクラティックラーニング（1）街を起点とし、民主主義を考え実践する岡山大学での授業
2017.06.15　山陽新聞デジタル：コミューンの在り方問う大川村　地域民主主義の将来考える契機に
2017.07.12　山陽新聞デジタル：ストラスブールのまちづくり（1）歩行者空間から生み出されるもの
2017.08.07　山陽新聞デジタル：学生たちを街に呼び戻せ　金沢市のまちづくり推進条例
2017.09.05　山陽新聞デジタル：あたらしく、なつかしい暮らし　コミュニティスペース「くらしのたね」を訪れて
2017.10.01　山陽新聞デジタル：次世代に美観地区の資産継承を　倉敷町家トラストの中村さんに聞く

2018（平成30）年度報道一覧

【新聞】
2018.04.04　山陽新聞：岡山挙げシーガルズ支援　産学官協議会が発足
2018.04.17　山陽新聞：みんなの美術館へ　岡山県美30周年（三村聡センター長）
2018.04.19　山陽新聞：シーガルズにファン応援絵馬　岡山大サークル贈る
2018.05.18　毎日新聞：持続可能な地域づくりを　「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」発足
2018.06.02　山陽新聞：市、会議所メンバーら「まちづくりシンポ」　にぎわい創出方策探る
2018.06.06　山陽新聞：スポーツで地域活性化　県内産学官16社・団体　SPOC機構設立
2018.06.15　山陽新聞：シーガルズアリーナ推進　スポ庁委託事業採択　競技会基本構想など策定へ
2018.06.18　山陽新聞：子ども育む遊び場を　岡山大で全国フォーラム
2018.07.24　山陽新聞：まちづくりにスポーツ活用　30日、岡山でシンポ
2018.07.31　山陽新聞：スポーツが郷土愛醸成　岡山でシンポ　まちづくりへ意見交換
2018.08.11　山陽新聞：女性に優しいアリーナは　シーガルズ協議会　建設構想で検討
2018.08.23　山陽新聞：地域ぐるみのひとづくりフォーラム（情報ひろば）
2018.08.24　山陽新聞：シンポジウム「SDGsで拓く！スポーツによる地方創生」
2018.09.06　山陽子ども新聞：災害時に備え水備蓄（前田芳男副センター長）
2018.10.04　山陽新聞：おかやま円卓会議　SDGs推進へ連携
2018.10.25　日本経済新聞：ポスト平成の未来学　第12部　残るフロンティア「ゴビは宝物になる」（吉川賢特任教授）
2018.10.30　山陽新聞：地方創生理解深める　玉野　人材支援制度の講演会
2018.11.8　山陽新聞：未来への貢献　地元企業とSDGs　服部興業
2018.11.22　山陽新聞：真備復興　住民ら議論　倉敷市計画策定へ　委員会が初会合（三村聡センター長）
2018.11.22　産経新聞：真備地区復興計画案　年度内策定へ本格始動
2018.11.22　朝日新聞：真備復興　被災バネに　計画策定委初会合　災害に強い地域を
2018.11.22　読売新聞：真備復興へ計画委初会合　倉敷市
2018.11.22　毎日新聞：真備町地区復興計画策定委　公営住宅建設を要望　倉敷市、検討始める
2018.12.05　山陽新聞：岡山市役所建て替え　現庁舎東にアリーナ
2018.12.06　山陽新聞：寄り添われ勇気もらう　犯罪被害者支援シンポ　遺族が心境語る
2018.12.06　山陽新聞（夕刊）：一日一題　子ども会殿（前田芳男副センター長）
2018.12.13　読売新聞：「支援者から勇気」犯罪被害者遺族が講演　岡山大
2018.12.14　山陽新聞：みずしま滞在型環境学習コンソーシアム・シンポジウム
2018.12.20　山陽新聞（夕刊）：一日一題　サンタクロース（前田芳男副センター長）
2018.12.27　山陽新聞（夕刊）：一日一題　「商店街は必要ですか」（前田芳男副センター長）
2019.01.08　中國新聞：井原線20年　線路はいま　上　（三村聡センター長）
2019.01.10　山陽新聞（夕刊）：一日一題　「星☆バル」（前田副センター長）

11．新聞記事

2019.01.10　読売新聞：犯罪被害　心に寄り添う　学生ボランティア　遺族講演通じ「支援の輪」
2019.01.17　山陽新聞（夕刊）：一日一題　「善き言葉」（前田副センター長）
2019.01.18　山陽新聞：スポーツ産業創出地域活性化探るシンポジウム
2019.01.24　山陽新聞（夕刊）：一日一題　「教材をつくる」（前田副センター長）
2019.01.26　山陽新聞：岡大研究室アンケート　空き家に７割関心なし
2019.01.30　山陽新聞：「スポーツ産業」振興を　シーガルズ協岡山でシンポ
2019.01.31　山陽新聞（夕刊）：一日一題　「よく人を育てる」（前田副センター長）
2018.04.05　山陽新聞デジタル：公害を教訓に環境学習都市へ　倉敷・水島地区のコンソーシアムが目指すもの
2018.04.23　山陽新聞デジタル：奉還町商店街とファジアーノ　タペストリーがつなぐまちづくりの輪
2018.05.15　山陽新聞デジタル：環境まちづくりを問い直す（上）　みずしま財団の誕生から
2018.05.17　山陽新聞デジタル：環境まちづくりを問い直す（下）　次世代に伝えたい共生の意味
2018.06.12　山陽新聞デジタル：鳥取の民芸運動と吉田璋也（上）　地域で「用の美」活動を展開
2018.06.13　山陽新聞デジタル：鳥取の民芸運動と吉田璋也（下）　倉敷とのつながり感じる
2018.07.04　山陽新聞デジタル：岡山から民主主義を学ぶ（上）　犬養毅による普通選挙の導入
2018.07.15　山陽新聞デジタル：共助のつながりの必要性実感　浸水の矢掛で学生とボランティア活動
2018.08.15　山陽新聞デジタル：岡山から民主主義を学ぶ（下）　一歩踏み出す勇気について
2018.08.26　山陽新聞デジタル：フランスを練り歩いたサムライ　新見で偶然の巡り会い
2018.09.19　山陽新聞デジタル：星に願いを（上）「星」取県になった鳥取県の取り組み
2018.09.20　山陽新聞デジタル：星に願いを（下）「星」取県になった鳥取県の取り組み
2018.10.27　山陽新聞デジタル：桃太郎伝説から日本遺産へ　吉備津神社、岡山屈指の観光地に
2018.11.05　山陽新聞デジタル：下津井港・六口島を巡る（上）　地域の潜在力を活かす
2018.11.06　山陽新聞デジタル：下津井港・六口島を巡る（下）　留学生が見た島の魅力
2018.11.06　山陽新聞デジタル：下津井港・六口島を巡る（中）　滞在型の漁村を目指して
2018.11.13　山陽新聞デジタル：駅前と中心街の競争と連携　三都市シンポジウムに参加して
2018.01.28　山陽新聞デジタル：矢掛・江良地区で秘密基地づくり　子どもたちに地元住民が協力
2018.12.16　山陽新聞デジタル：仏ストラスブールでテロ騒動に遭遇　惨劇の連鎖に向き合う国民
2018.12.19　山陽新聞デジタル：テロワールの楽しみかた　アルザス地方のマルシェ・ド・ノエル
2019.01.12　山陽新聞デジタル：地域の人たちをつなげた水害　岡山・瀬戸町の「助け合うお母さんの会」
2019.01.31　山陽新聞デジタル：西川エリアまち育て協議体（上）　飲食店と地域によるまちづくりがスタート
2019.2.1　山陽新聞デジタル：西川エリアまち育て協議体（下）　ルールとマネジメントを取り入れられるか？
2019.2.26　山陽新聞デジタル：豪雨災害から復旧した保育園　矢掛町中川地区住民と餅つき大会
2019.3.18　山陽新聞デジタル：矢掛高校のESD地域学習（上）　第５回YAKOアワードに参加して

【その他】
2018.01.18　岡山市広報広聴課：学生企画団体がボランティア活動に参加

2019（令和元）年度報道一覧

【新聞】
2019.04.19　山陽新聞：地域の魅力PR飲食店あす開店
2019.04.19　山陽新聞：県議選・岡山市議選投票率最低　投票しなかった若者に聞く
2019.04.24　山陽新聞：天文王国発信へ（県と７市町村でつくる協議会）

11．新聞記事

2019.04.26　山陽新聞：吉井川流域DMO３市町長座談会
2019.05.17　山陽新聞：西川アーカイブス勉強会開催
2019.0517　山陽新聞：西川ホコテンとアペリティフ in okayama
2019.05.23　山陽新聞：豊富な天文施設PR　スタンプラリー
2019.06.02　山陽新聞：土木学会、西日本豪雨テーマに講演会
2019.06.13　読売新聞：豪雨と復興 専門家語る
2019.06.14　毎日新聞：浸水被害 振り返り検証
2019.06.19　山陽新聞：西川街づくり関係者新旧交流会
2019.06.21　山陽新聞：和気の魅力掘り起こす　岡山大生モニターツアー
2019.06.28　山陽新聞：岡山経済同友会SDGs研究推進会議でセンター研究員が研究発表
2019.07.05　山陽新聞：岡山の水とくらしシンポジウム
2019.07.20　読売新聞：参院選2019　識者に聞く
2019.07.23　山陽新聞：西川緑道公園テーマに本（西川アーカイブス）
2019.09.04　山陽新聞：おかやま円卓会議　SDGs一層推進
2019.09.18　読売新聞：岡山、熊本、金沢　商店街活性化を考える
2019.09.19　山陽新聞：魅力ある商店街に　三都市シンポジウム
2019.10.22　山陽新聞：岡山大学の未来を語る
2019.11.13　読売新聞：岡大　授業に参加型学習「CBL」
2019.11.15　山陽新聞：「高校の魅力化フォーラム」開催
2019.12.12　環境新聞：２つの和解　みずしま環境学習コンソーシアムができるまで
2020.01.29　山陽新聞：みずしま財団３月設立20周年　公害の教訓　継承に力
2020.02.02　山陽新聞：天文観光やスポーツのまち　広域連携の成果紹介
2020.02.02　山陽新聞：語る伝える　岡山の公共空間を研究したサウミャ・キニさん

【テレビ】
2019.07.21　TSC（テレビせとうち）：池上彰の参院選ライブ　三村聡センター長出演
2019.11.11　NHK岡山放送：もぎたて！「第１回真備地区復興推進委員会」　三村聡センター長コメント
2019.12.22　OHK岡山放送:特別番組「備中発！おかしBOX～地域で広がるサポートの輪～」三村聡センター長出演
2020.02.04　NHK岡山放送：もぎたて！「もぎたてツーリスト～We Are The World in 西川」　サウミャ・キニ研究員出演
2020.02.04　TSC（テレビせとうち）:TSC News５「西日本豪雨前より『絆』強く真備町で『復興まちづくり』」三村聡センター長コメント

2020（令和２）年度報道一覧

【新聞】
2020.05.12　山陽新聞：遠隔授業 学生の声支えに
2020.06.18　山陽新聞：留学生に米１トン寄贈
2020.06.18　読売新聞：留学生へ 恩返しの米１トン
2020.06.22　山陽新聞：美作市の課題 市長選を前に
2020.08.27　山陽新聞：西川 小中高生らクリーン探検
2020.09.21　中国新聞：井原市議報酬月額40万円 月内にも条例改正案提出
2020.10.16　読売新聞：岡山の針路2020知事選 西日本豪雨からの復興
2020.11.18　山陽新聞：新見市の課題 市長選を前に

2020.12.13　山陽新聞：知を活かす 地域と大学 矢掛町江良地区

【テレビ】
2020.06.29～07.03　NHK：特集「豪雨あの日から」三村聡センター長コメント
2020.07.06　NHK：NHKニュースおはよう日本「西日本豪雨から２年」三村聡センター長コメント

2021（令和３）年度報道一覧

【新聞】
2021.06.20　山陽新聞：アゴラ開設 10 年
2021.06.23　日経新聞：西日本豪雨３年・三村教授コメント
2021.07.06　朝日新聞：西日本豪雨３年・三村教授コメント
2021.10.03　山陽新聞：シンポジウム「SDGs 地域課題を探る」・岩淵准教授登壇
2021.10.15　朝日新聞：投票先どうすれば・岩淵准教授コメント
2021.10.22　山陽新聞：書籍「地域モビリティの再構築」発刊・三村教授
2021.11.30　毎日新聞：西日本豪雨３年・三村教授コメント
2021.12.09　山陽新聞：書籍「岡山まちづくり探検」発刊・岩淵准教授
2021.12.23　日経新聞：岡山県井原市「星空保護区」生かし集客策・三村教授コメント
2022.02.01　山陽新聞：持続可能な水島　19 日にシンポ・三村教授講演
2022.03.03　山陽新聞：持続可能な水島テーマにシンポ・三村教授講演

【テレビ】
2021.07.05　NHK：おはよう日本　西日本豪雨から３年
2021.06.29　NHK：おはよう岡山　西日本豪雨から３年
2021.07.02　NHK：もぎたて　西日本豪雨から３年
2021.07.06　瀬戸内海放送：災害の記憶　西日本豪雨から３年
2021.07.09　テレビせとうち：ニュース特番　西日本豪雨から３年

2021（令和３）年度　新聞掲載記事

朝日新聞（2021年７月６日・17面）
日本経済新聞（2021年６月23日・37面）
朝日新聞（2021年10月15日・9面）

※インターネット上への紙面掲載は控えております。

11. 新聞記事

毎日新聞（2021年11月30日・26面）
山陽新聞（2021年12月9日・23面）
日本経済新聞（2021年12月23日・39面）　※インターネット上への紙面掲載は控えております。

12. 山陽新聞デジタル・コラム「岡山まちづくり探検」岩淵副センター長

ホテルのような道の駅　オープンした山陽道やかげ宿の魅力

コラム｜岡山まちづくり探検

平日の矢掛町。道の駅「山陽道やかげ宿」が誕生してから、車だけではなく、人も歩いている。飲食物販を伴わない道の駅がオープンし、新しく３軒から４軒もお店が開いたそうだ。お客さんが歩くと、シャッターは上がる。おもてなしの心に灯がともる。宿場町の姿は変わりつつある。筆者は道の駅のオープン前日、水戸岡鋭治先生とお話をする機会を得た。水戸岡先生の言葉が突き刺さった。

「ここは、道の駅なんだけど、駅じゃないんだ。まちの工トランスなんだ。ここに来てから、町に行ってほしい。ここでは、おじいちゃんやおばあちゃんが、一緒にやってきて、小田川を見て、みんなで過ごしてほしい。ホテルに負けない最高のものを準備しました」

その言葉を聞いてから、道の駅に対する気持ちが変わった。訪れる人にとって、安らぎの場所であってほしいと思うと同時に、地域の人に愛される場所にならなければならない。道の駅が、矢掛町のシンボルになっていけばいいのだ。そこで、道の駅に関わる方々にお話をうかがっていこうと筆者は考えた。道の駅が生んだまちづくりの精神を残していくためだ。今回、道の駅の指定管理を受けた株式会社やかげ宿の繁森良二さんに話をうかがった。道の駅の反響はどのようなものだろうか。

「お客さんは、立派な建物ですからびっくりしますが、野菜やお土産がどこで売っているのかと質問されますよね。旧来の道の駅でのお買い物をイメージしていらっしゃると、がっかりもされますよね。矢掛町道の駅のコンセプトが浸透するまでは、時間がかかるなあと思いました。私は、長年地元の百貨店で働きましたし、古民家を再生してまちづくりを頑張ってくれということで岡山から通っております。７年前に矢掛町でお仕事を始めた時、閑散とした街でした。そこで、江戸時代の町並みを活かして、やかげ町家交流館を創って情報発信に努めてきました。その一年後に、宿泊施設の矢掛屋がオープンしました。それから、道の駅構想、電柱の地中化、街並み保全のまちづくりが出てきました。それが全て実現しました。この春は画期的な年になりましたね」

繁森さんも筆者も、昔の様子を知るだけに、近年の変化はとても新鮮なのだ。続けて、水戸岡先生のエピソードも教えてくれた。

「1200もある道の駅で、飲食がないのは矢掛町だけだそうです。そして、道の駅は郊外型の施設です。矢掛町は、まちの入り口に作ってゲートウェイ（入口）として道の駅を発想しました。まるごと道の駅構想です。水戸岡先生は、外観は黒とし、内観は白を基調としてくれました。何と言っても、天井から壁まで、先生の考え方がそのままなんです。まさに高級ホテルのような建物です。先生から、法被（はっぴ）ではだめなんだと言われたんです。ですから、道の駅では服装から徹底していますよ。自動販売機も置いてもらったら困ると言われました。空いたペットボトルを捨てるかごも置かないんですよ。トイレにティッシユを捨てる箱はないんです。それぐらい徹底していますよね」

筆者も矢掛町が主催した道の駅建設構想会議に参加した時に、内部になにを設置するのか、喧々諤々（けんけんがくがく）の議論をした記憶がある。その際、「大きな水槽に小田川の生き物を展示する」という提案もあり、道の駅実現は、楽しみと不安が交差する施設でもあったのだ。正直に言うと、コンセプトの定まりが容易ではなかったのだ。繁森さんは続けて教えてくれた。

「２階に子どもが遊ぶ部屋があります。水戸岡先生の独特の発想です。先生は、子どもが喜ぶ場所じゃないとだめだと言いました。ハンディキャップのある方も想定しています。これからの施設はみんなにやさしい施設じゃないとだめだとおっしゃいました。私は、同感いたしました。そして、建物が良いということじゃなくて、まちの人が喜ぶものじゃないといけない。観光客だけが喜ぶ店づくりでもだめなんだと。幼稚園から団体が来てもらって、家に帰ってもらって、また、行きたいとか、遊びに行きたいという気持ちになる場所じゃないといけないんだ、とおっしゃったのです」

繁森さんとお話していると、道の駅はまちの工トランスであり、町民にとっての場所になるコンセプトがはっきりしてきた。加えて、矢掛町が抱くコンセプトはしっかり言語化しないといけないとも思った。これからお客さんが増えていく時に、矢掛町が活き活きと暮らしていくためのおもてなしをみんなで共有したいのだ。繁森さんによれば、祝日になると、「宿場町矢掛の侍イタリアン」、お団子を提供するカフェ屋さんの「ｔ２ラボ」、チョコレート工房の「石挽カカオissai」など行列がで、きるようなったそうだ。それは、宿場町400年の衝撃だと言う。道の駅の開設に併せて、お洒落な手ぬぐいや和風小物を販売する高草など、今までとは趣を変えた店が、賑わいに花を添えている。

「今までのところ、道の駅の戦略は狙い通りと言えるでしょう。私たちの役目は、道の駅のホールで商品を説明し、お店に行ってもらうために的確なご案内をしないといけません。歩いてもらうのが大事なんです。目に入ってくると、買う予定がなかったちのを買ってもらえるかもしれません。加えて、矢掛町の道の駅が持つ新しい機能は、子どもが遊びに来ることです。現在、おもちゃやさんも、駄菓子屋さんも少なくなっています。子どもが喜んでくれて、お父さんやお母さんも楽しみにしてくれればありがたいです」

矢掛町の道の駅が誕生してみると、車中心の施設ができたのかと思えば、ひとにやさしくなる施設となった。それと、まちがおしゃれになった。筆者は、矢掛町に行くと、畑に入って芋を掘ったり、山に登ったりと、動きやすい恰好をすることが多いのだが、まちを歩くときは、すこしおしゃれをしようかと思う。そして、期待されているのは、まちを歩いて、お話をして、たくさんお買い物してキャンパスに戻ることなのだろう。

（2021年04月05日）

岡山のミャンマー軍弾圧抗議デモ　日本人に惨事を伝えたい

コラム｜岡山まちづくり探検

５月２日の日曜日、岡山市の旭川に臨む石山公園でミャンマー軍事政権に反対するデモが行われた。参加者は岡山県内だけではなく、高松市、福山市、広島市から約130名が集まった。そのほとんどがミャンマーの方であったが、日本人の参加も確認できた。岡山でのデモは、今回で８回目となる。第７回はJR岡山駅前でビラを配ったが、第１回のデモには300名も参加したそうだ。

筆者は、朝10時に石山公園に向った。20代から30代の若者が黒い服で集まっていた。黒い服は、反軍事政権に対する世界の連帯を表すそうだ。若者は、合唱し、デモのパネルを掲げ、軍事政権に反対の意思を訴えている。若者は、学生、技能実習生、岡山で就職した人などそれぞれだが、デモそのものは統制がとれ、落ち着いていた。

岡山ではデモそのものが珍しい。外国の方が中心となるデモはなおさら珍しい。筆者は、ミャンマーの学生や友人から暮らしのようすを耳にする。まず、３カ月もデモが続いていると、親軍事政権よりか、反軍事政権よりか、どのような思想や政治スタンスを持っているかが分かつてしまうそうだ。そうなると、暮らしにも当然影響が出てくる。デモの参加者に話しかけると、以下のような意見があった。

「本国への送金がしづらくなった。また、ミャンマーの銀行でお金を下ろす金額が制限された。早朝から銀行に並んでいる」「デモに参加した友人が、家で寝ているときに連れて行かれた」「まちなかのデモに参加した人が、少数民族の軍に入ってしまった」「ミャンマーは、多民族国家に加え、市民、政府、軍の関係は複雑だ」「軍は選挙結果に不正があると言うが、クーデターの理由は、ミャンマー人自身もよく分かっていない」「デモに参加して失業した人はたくさんいる。連絡も取れないから心配だ」などだ。

このような暮らしの心配も大きいが、デモの参加者は、２月１日のクーデター以来、700人を超える犠牲者が出たことに大きな衝撃を受けている。友人や家族が犠牲になる可能性が少なくないからだ。筆者は、デモの責任者の一人にその目的を聞いてみた。

「応援をお願いしたい。また、世界中でミャンマーの家族を応援している人に感謝したい。日本人も中国人もみなさんにありがとうございます。クーデターは３カ月以上になりました。国民に対する暴力は信じられない事態になりました。暴力を許しません。気持ちは強く、熱くなっています。デモに参加できない人もいます。私たちはできることをして、ミャンマーを知ってもらいたいと思います。ミャンマーで友人や家族が殺されています。日本人は怖いと思われるかも知れませんが、今、日本とミャンマーの心の隙間を埋めないといけません。方法は、ミャンマーの人が、日本人の心に寄せるか。日本人がミャンマー人の心の代わりになるのか。そういうことです。テレビではわからないことがあります。デモをしないと知ってもらえないと思います。今、どんなことがあっても、デモを続ければなりませんね。日本は知らないと言うよりも、事実を知らされていないと思います。でも、自分から行動しないといけません。このミャンマーの状況でも、私たちはひるみません。もっと情報を広めるため頑張らなければなりませんから。ご協力をお願いします」

デモは、ミャンマーの家族や軍事政権に対するものだけではなく、日本人に向って行われていることを筆者は改めて気づかされた。演説では、拘束者の無条件解放、選挙結果の尊重、民主主義、特に、平和な状況に戻ることが訴えられた。他の参加者にもデモの目的についてうかがってみた。

「デモの参加者は、ミャンマーの人々をできるだけ応援したいと思います。力になりたいです。デモの目的は、日本政府がミャンマーの国軍を反対して、日本の国民も国軍を認めないでほしいです。ミャンマーでは、食べ物も、服も少なくなってきました。日本のみなさんには寄付をいただけるとうれしいです。日本の政府やみなさんがだれを応援するかは私たちにとってとても大切なことなのです」

筆者の周りには、ミャンマーの友人や学生がいる。彼らはとても礼儀正しく、協調性があり、親切な人ばかりだ。そうであるため、デモの惨事が信じられないのが率直な感想だ。デモに参加して、外国のことだから、知らない、知らなかったでは済まされないような気がした。なぜなら、岡山のような地方都市にも300人を超えるミャンマーの若者が暮らしているからだ。岡山で学んだ学生たちの元気な顔を見に行きたいと願っている。そのためにも、早く流血の惨事を食い止める方法を世界の連帯から考えるべきだろう。

（2021年05月06日）

西川歩行者天国が目指すもの（上）　次世代へのバトンタッチ

コラム｜岡山まちづくり探検

５月16日から31日まで岡山県も緊急事態宣言の対象となった。アルコールの販売禁止や営業時間の短縮などもあり、臨時休業の店も増え、まちに活気がない。筆者は、６月27日に開催予定であった西川緑道公園の歩行者天国に学生たちと参加するつもりであったが、残念ながら、コロナの拡大が予見され、開催は中止となった。それでも、厳しい状況下にある中心市街地の様子を知りたいと思った。まちづくりの灯も弱まっているのか、もしくは、方向性が明確になってきたのか。イベントが自粛されるときにこそ、まちづくりのコンセプトを確認すべきなのだ。

12. 山陽新聞デジタル・コラム「岡山まちづくり探検」岩淵副センター長

筆者は、西川緑道公園筋歩行者天国実行委員会委員長の山本和志さんからお話をうかがった。山本さんは、岡山市北区本町にある自然派ワインのお店・プレヴナンのオーナーだ。まず、話題となったのは、まちづくりの世代継承だ。

「近年の変化ですが、西川のまちづくりを担う世代が20代へとシフトしてきています。私は今、次世代を育てたいです。そして、若い人がやりたいことができる場所に西川をしていきたいです。今までのまちづくりは、行政にお願いするのがまちづくりだったかもしれません。現在は、市民と行政は対等で、民間の力を柔軟に使うといった、協働のまちづくりになっています。私たち世代のまちづくりの特徴は、色々な利害関係によって繋がっていることです。たとえば、わたしたちのまちだからとか、住んでいるからとか、商売をしているからなどです」と山本さんは語る。そしてこう続けた。

「でも、若い世代はそうでもないんです。次の世代は利害関係ではなく、岡山のまちが好きだからと言うのです。50代の私は10代と20代の価値観を理解しないといけません。私は、若者ができることをお手伝いするようにしたいのです。ですから、自分が歩行者天国を引っ張るのではなく、若い人が声を上げた時に何ができるかを考えたいんです」

昨年、若者が流し雛の企画を提案したそうだ。流し雛は、ひな祭りの原型とも呼ばれ、人形に身の汚れも預けて、水に清める行事だ。その行事もコロナで中止になったのだが、若者の自由な発想はまちの雰囲気を変えていくだろう。もちろん、山本さんには、まちづくりの前線でまだまだ頑張ってもらわないといけないのだが、山本さんが世代間の理解や人材育成に関心があることを改めて筆者は感じた。

西川の歩行者天国には、大学生が中心となったボランティア会がある。岡山大学が運営していたまちづくり交流施設・西川アゴラは今年２月に閉所したが、学生たちが西川の魅力を考える勉強会を３月に聞いていた。筆者も、前田芳男教授（現在、東海大学経営学部観光ビジネス学科）とともに、講師を務めたが、高校生、大学生、若者は、まちづくりを楽しみながら、自分たちの色に染めてくれている姿に新しい可能性を感じていた。

筆者もコロナ禍における公園の役割を考えてみた。ひとつめは、公園が中心市街地に空間的なゆとりを与えてくれる。公園は三密を避け、太陽の陽を浴びることができる大切な生活インフラだ。ふたつめは、公園はひとを結びつける機能を持つ。山本さんから「岡山のまちが好きだから」という感覚で若者が繋がっているという指摘があった。働く世代は、利害関係を基にするが、若者は、自らの関心を通じて地域への帰属を深めていく。

現在、学びから働き方まで、インターネットのバーチャルな世界が拡大しているのは言うまでもない。しかし、まちづくりはまだまだアナログで手間のかかる世界でもある。そのような時間の使い方が人間関係を形成している。まちづくりから得られる実感こそ若者が求める魅力なのだろう。次稿では、歩行者天国が与える中心市街地への影響を取り上げたい。

（2021年05月19日）

西川歩行者天国が目指すもの（下） 居心地の良い空間づくりを

コラム | 岡山まちづくり探検

歩行者天国は、政策的に言えば、歩きやすいまちを形成する。岡山市でも中心市街地を空から眺めると、まち全体が道路や駐車場に覆われているのがわかるだろう。行政は、車社会から人間中心のまちづくりに転換するため、歩行空間を増やしていこうと呼びかける。一方、西川緑道公園筋歩行者天国実行委員会委員長を務める山本和志さんは、生活を視点に歩行者天国を捉える。つまり、歩行者天国が居心地の良いまちに寄与すると考えている。ひとが訪れるには、生活に必要なお店をイメージし、道路から空間づくりに関心が広がっている。山本さんは以下のように話してくれた。

「歩行者天国のコンセプトは、岡山市を『住みたい街NO.1』にすることです。まちの豊かさとは、公園があって、マルシェがあって、毎週、楽しみにみんなが集まってくることです。緑もあって、ゆっくりとした空間が付加価値を与えてくれます。歩行者天国実行委員会も、大きなイベントをするのが目的ではなくて、それは、年に何回かすれば良いと考えています。歩行者天国が日常的になっていけば、岡山のまちはもっと豊かなまちになるんじゃないですかね」

歩行者天国が岡山のまちを豊かにするという視点を持つ。そして、歩行者天国は、まちを変えていくという市民のメッセージも発信している。山本さんは、歩行者天国が、生活や空間の意識を変えると考えているのだろう。

「以前に比べ、人の流れも増えて、公園が利用されているのを感じますよね。しかし、道は車が通るものという固定観念を覆すには、まちの設計図を作り直さないといけません。駐車場が増えていくのではなくて、歩行者のエリアを提案していかないとまちは良くなっていきません。若者が、公園があったらいいよね、くつろげる場所があるといいよねと、いろんな世代が話し出すと本物になっていきます。ボランティアをしながら、伝える場所があったらいいよね、と言うのが歩行者天国なのです」

歩行者天国は、こどもからお年寄りまで色々な世代が集まることでまちに潤いを与えていく。ただし、まちを変えるためにも、歩行者天国そのものが魅力的なものでなければならない。山本さんは、西川緑道公園のまちづくりをマルシェに例えて説明をしてくれた。

「マルシェを説明すると、パン、チーズ、果物、野菜、お肉製品、テントが横にずらっと並んでいて、規模はいろいろあるのですが、既製品ではなくて、自分たちが創っているものを提供します。まちを歩いていて、はちみつ屋さんもあって、生産者が、加工をし、販売をしています。生産者とお話が出来るのが面白いと思うんですよね。大型店にあるものとはちょっと異なるコンセプトです。西川の歩行者天国では、若い生産者のチャレンジショップのようになり、地域や経済界のみんなで応援していきたいです。マルシェで、チャレンジできるようにあってほしいです」

歩行者天国で経験できるのは、未来にある岡山の暮らしだ。その内容は、地域の生産者を応援し、人の交流から生まれる懐かしさにある。最後に、西川緑道公園のまちづくりではなく、山本さんが運営するナチョレルモン（ワインバー）のコンセプトち聞いてみた。

「コンセプトは、19世紀後半にフランスの印象派が集まった場所です。モネやセザンヌたちです。当時の芸術家は、カフェやパーで熱い討論をして、音楽や文学も生んだのですが、ナチョレルモンもそうしたいのです。根本的に新しいものを生み出したいです。個性的な人が集まって、みんなで議論をします。ここでお話が出来れば、いいんですけどね」

コロナ禍でもまちづくりのコンセプトは磨かれている。異質な人々が話し合った時に、最も創造的な活動が生れていく。自由なサロン的な空間が、西川界隈にどんどん増えていってほしい。コロナが落ち着けば、腰を下ろしてみなさんと力フェを楽しんでいきたい。

（2021年05月21日）

真庭市のSDGs（上）循環型のまちづくり

コラム | 岡山まちづくり探検

真庭市のSDGsが全国から注目されている。たとえば、木材バイオマスエネルギーを中心に地域エネルギーの100%をまかなう取り組みだ。真庭市がSDGsのトップランナーとなっているのは、地域資源を余すことなく有効活用することを目指し、それが産業振興から人材育成にまで役立てられているからだ。それは、循環型のまちづくりだ。

2018年、真庭市は、全国93の「SDGs未来都市」、そして、その先導的な活躍から「自治体SDGsモデル事業」にも選定された。

今年７月には、新国立競技場を手がけた隈研吾氏が設計したパビリオン棟が蒜山高原に移築され、現在、芸術や交流のまちづくりにも力が入れられている。真庭市では様々なまちづくりが展開されているのだが、そのテーマは、人と自然の持続的な共生だ。

６月25日、筆者は真庭市役所でSDGsのまちづくりについて意見交換を行った。真庭市の地方創生やSDGsの経緯をうかがっていると、このまちが根本的に追求しているのは、豊かさの質であることがわかる。言い換えれば、都市部ではない「地域の豊かさとは一体何なのか」を市民や行政を巻き込んで考えている。市民運動的に展開しているのだ。筆者は、地域共生の「真庭ライフスタイル」という説明を受けたとき、市民一人一人が、日々の暮らしの中で、豊かさの価値を見つめる機会があるのが、真庭市版SDGsなのだと筆者は思った。真庭市役所総合政策部の有富基高さんは、以下のように教えてくれた。

「先生、この涼しさを感じられますか。真庭市の市庁舎は、地域由来のエネルギーで100%まかなっています。真庭市の木を原料にした電力です。空調もまさにそれです。産業は、西日本有数の木材集積地域になっています。また、日本最大のジャージー牛の酪農地帯です。市長は、災害が少ない安全面も加えています。2005年に９町村が合併して、ひとつの真庭市になりましたが、観光名所も多様になりました」

真庭市役所そのものが、環境に配慮した設計だ。まず、玄関がCLT素材でおしゃれな建物となっている。施設も職場も、明るい雰囲気で入りやすい気がした。真庭市には、まちづくりの視察が多いようだ。真庭市の事例は、他のまちから訪れる人にも、バイオマス発電所など体験的でわかりやすい。また、真庭市のSDGsを理解するためには、SDGsが唱えられる前から、人口減少を食い止めるために様々な施策を打ってきた点も教えてもらった。続けて、有富さんは、木材産業が真庭市を支えていることを述べた。

「真庭市は、少子高齢化に取り組まなければなりません。総合計画に人口ビジョンを作成しています。2020年は人口４万２千人ですが、2040年には３万４千人になります。なんとかして市は人口減少のスピードを押さえるつもりです。持続的に発展するには、人口比率に注目し、量より質を重視していきます。たとえば、2021年から2025年までの第２期真庭市総合戦略をご覧下さい。基本目標は、（1）稼ぐ地域をつくること、（2）真庭市の中で人の交流を増やすこと、（3）結婚、出産、子育てを支えること、（4）防災や公共交通など、安心して暮らせる魅力的な地域をつくることです。そして、真庭市の産業を見て下さい。真庭市の製造品出荷額は、全体の３割が木材で占められています。つまり、真庭市は木が中心のまちだということです」

説明資料に、「真庭市で一番大切なものは、市民一人ひとり。その幸せを実現すること＝「真庭ライフスタイル」の実現が行政の目的」であり、「都市とは違う魅力がある『真庭ライフスタイル』の確立へ」と書かれていた点に筆者はうなった。行政が、まちのライフスタイルを支援するというのは、なかなか勇気がいるのだ。筆者なりにこの意味を考えてみた。

おそらく、真庭市が東京などの大都市にあこがれて、まちづくりを真似ても地域のみなさんは喜ばないだろう。むしろ、コロナの拡大でわかったのは、密になりがちな都市の生活に限界が起きたことだ。また、都市圏が再生可能なエネルギーでまかなわれるのも難しいだろう。都市生活は、食やエネルギー

を消費する場であって、サービスはとちかく、空気や水など生活に必要なものを生み出す場ではない。経済活動を際限なく広げても、なかなか市民の幸せには直結しないのだ。

そこで、真庭市は、地域共生のライフスタイルを説く。真庭市の先駆的な取り組みは、生活の豊かさを量から質へと転換させるために、豊かな自然の価値を経済的にち社会的、生活の中でも、正しく評価していこうということなのだ。それが、人と地域が織りなす循環型のまちづくりとなる。

50ページもある説明スライドの10ページほどでまちづくり議論が花開いた。次稿に続く。

（2021年07月02日）

真庭市のSDGs（中）産業育成からひとづくりへ

コラム｜岡山まちづくり探検

「バイオマス発電がなぜ始まったのか。それを考えるとき、市民主導で起きていたのが重要です。真庭市ではSDGsが絶対ではなく、まちづくりのツールとして使われたのです」

真庭市役所の有富基高さんのお話をうかがって、SDGsがまちづくりに活かされることが何より大切なのだと思った。太田昇・真庭市長は、SDGsを世界中のみんなが幸せになるための目標とし、その意味を「永続的繁栄」としているそうだ。真庭市SDGsの柱には、身近な問題を自分ごととして受入れながら、（1）パートナーシップで目標を達成し、（2）経済・社会・環境の問題を同時に解決することだ。その中で、有富さんは、市民主体のまちづくりが蓄積されたことがSDGsの土台であることを強調する。

「2018年、地方創生SDGs支援の枠組みで真庭市はSDGs未来都市（全国30カ所）に選ばれました。その中で、先導的な取り組みとして『自治体SDGsモデル事業』10事業にも選ばれました。では、どういった内容かと言えば、一番分かりやすいのは、バイオマス発電所です。SDGsが始まる前から、バイオマス産業都市、発電所はずっとあったわけです。SDGsは、経済、社会、環境の三側面からまちづくりを考えることです。それらの内容は同じ目標でした。ですから、真庭市が地球規模の課題に取りかかるのは、自然な動きでした」

真庭市のまちづくりとSDGsは、木を余すことなく、使いこなす点で親和性の高いものだ。ただ、真庭市のSDGsが鮮やかなのは、“地域循環”というコンセプトをライフスタイルに落とし込んだことだ。

「SDGsの取り組みは、地方創生にも繋がります。森林エネルギーから現在、生ゴミ液肥化事業（経済循環）、バイオマスツアー（観光交流）、まにわなりあい塾（人材育成）へと広がっています。ただし、市長は、行政が先頭に立つのではなく、SDGsが市民運動になるように応援しています。エネルギー自給率を高めることで、地域内でお金が循環する『回る経済』ができてきました。今後、行政は、若者や移住者を意識して、真庭市で人が回っていくようにしたいと思います。市長は真庭市の魅力が、広いエリアに分散的にまちがあることだと考えています。コロナの時代で精神的に安心できますし、エネルギー政策を起点に本当の幸せづくりを造っていきたいです」

長らくまちづくりを研究している筆者は、市民運動という言葉に、懐かしさを感じた。運動は、「みんなで一緒に頑張ろう！」という側面だけではなく、まちづくりの扉を開いて前進する意味合いがある。運動は、市民が主体となって対話を掲げ、問いかけていくものだ。近年の取り組みには、CLT素材で小学校やこども園を建設したことや、７月15日には建築家・隈研吾氏が設計監修するCLT建築物が蒜山高原に里帰りする。阪急百貨店と連携したグリーンナプルというブランドも観光産業を育成し、都市と農村をおしゃれに循環させてくれるだろう。真庭市のSDGsは完成形と言えるのだろうか。

「これまでの20年間は、地域振興などのインフラに力が入れられてきましたが、これからは子育てや教育などソフトな活動に広がっています。人口減少社会には未来を担う人材が必要だからです。たとえば、真庭市出身の高校生が小学生に学習支援を行っています。また、真庭市には大学はありませんが、地域おこし協力隊が地域学生団体『ゆーまにわ』を設立しています」

真庭市では、次から次に新しいSDGsが生まれているようだ。循環型の物語。岡山のまちづくりは本当に面白い。市民の挑戦がフィールドにあり、バトンが引き継がれる。次稿に続く。

（2021年07月07日）

真庭市のSDGs（下）市民が担うまちづくりへ

コラム｜岡山まちづくり探検

SDGsのまちづくりに、真庭市民は自然のままに、あるいは意識的に参画していくようだ。真庭市のSDGs事例から私たちは勇気づけられている。その理由は、SDGsが地域の潜在力と魅力を発掘し、暮らしやすい社会へ向かうというビジョンを実践として明らかにしたからだ。大切なのは市民主体のまちづくりだ。筆者の目には、真庭市の取り組みが、持続的な民主主義に重ねて見える。真庭市版SDGsが、市民の活躍する場づくりに力を入れているためだ。

真庭市役所の有富基高さんから環境省版ローカルSDGs（地域循環共生圏）の取り組みを紹介してもらった。ローカルSDGsとは、地域資源を最大限に活かしながら自立・分散型の社会を目指すもので、実践を重視している。

「環境省版ローカルSDGsですが、代表的な取り組みは、真庭里海米です。真庭市には海がありませんが、農業が盛んです。瀬戸内海の力キ養殖では、力キ殻が処分にお金のかかる産廃になります。
加工して、真庭市に田んぼにまくと、土壌改良材の効果があり、美味しいお米を作ることができます。これは、里海と里山の循環になります。作付面積もどんどん広がっています」

この循環型農業から、SDGsが市内に留まらず、広域化していることがわかる。有富さんは、循環が環境にも優しい点も強調する。

「SDGsには色々な連携ができますが、バイオマス発電所を紹介するときには、もうひとつ説明をさせていただいています。発電所も、価値がないとされてきた廃材に価値を見いだして、それをエネルギー化していきます。そこから、山が保全されます。お話はここで完結してしまうのではなく、さらに進めて、山がきれいになると災害が少なくなり、土砂崩れも少なくなります。土砂が川に流れれば、海が汚染されてしまいます。つまり、発電事業が山を守り、海をきれいにもしているということです」

山を管理することで海も活かされていく。持続可能な社会をつくることは、人間と自然の適切なバランスを取り戻すことだ。つまり、人の手が入り、活かされることで地域は持続的になる。真庭市版SDGsのポイントは、徹底的にローカルを追求することが、グローバルしな課題解決に繋がっていくことだ。つまり、まちづくりは、足下が大切なのだ。続けて、SDGsの輪を広げるために、地域とのパートナーシップを強化している点も紹介していただいた。

「SDGsの輪を広げるために、真庭SDGsパートナーを始めました。参加に条件はなく、SDGsに賛同してくれる方ならだれでも入ることができます。企業版ふるさと納税の制度を使って、市外の企業も真庭市のSDGsに寄付で応援できるようになりました。パートナーの数は、４月までに184団体、15の個人が参加しています。また、パートナーのみなさんが中心に、年に１回ですが、市民代表、商工会、農業、企業にみなさんに集まってもらって円卓会議を開いています。この円卓会議の写真ですが、市長の側に高校生が２人います。それ以外の方は各種団体の代表者です。司会進行を高校生がしてくれました。彼らは本当によく頑張ってくれました」

パートナー制度と円卓会議の開催。筆者がふと思ったのは、真庭市は、SDGsを市民みんなの活動にしたいということだ。言い換えれば、行政が後押しするSDGsが、真庭市民の参加プロセスに織り混むことで、自走させていくのだ。加えて、この円卓会議の場が話し合いで終わらせないために考えられたのが、真庭SDGsミーティングだ。パートナーから希望者は、３カ月に１回、計５回のワークショップに参加し、自分自身の抱くSDGsの目的を明確にしていく。この人材育成事業の目的も、市民自身がSDGsを語れるようになり、市民運動としてのSDGsを浸透させることだ。ただ、SDGsのトップランナーである真庭市にも課題があるそうだ。

「反省しているのは、真庭市は外にでてみると、SDGsや発電所などの取組で有名になってきましたが、真庭市内にいると、なかなか気づきません。真庭市にいらっしゃる方の方が詳しいこともあります。まちのみなさんと一緒にもっとSDGsを巻き込んで市民運動にしていきたいですね」

真庭市の聴き取り調査を終えて、SDGsのまちづくりについての理解が深まった。地域にある資源を大切に使えば、地域はもっと住みやすく、活力が生まれる。特に、SDGsへの参画を通じて、地域の潜在力や魅力も高まっていくが、それを使い切れるかは市民の力だとわかった。筆者は、真庭市役所で木製のSDGsバッジをいただいた。岡山に戻れば、真庭市のまちづくりを話そうと思うが、百聞は一見にしかず。今回、バイオマス発電所も見学させてもらったが、次回は学生と一緒に、地域循環のフィールドに挑戦してみたい。

（2021年07月08日）

みんなであいさつできるまちに　矢掛町道の駅ワークショップ

コラム｜岡山まちづくり探検

「３月に道の駅ができまして、まずは、外の街からやってきた人と昔から地元で商売をしている人が、“はじめまして”からあいさつができる関係をつくっていきましょうや。みんなで商店街のまちづくりを盛り上げていきましょうや、という気持ちです」

７月13日に矢掛町で開かれたワークショップ。一般社団法人やかげまるごと商店街振興会の代表理事である佐伯健次郎さんは、開業４カ月を迎えた道の駅「やかげ宿」にふれながら、会合の趣旨を教えてくれた。

矢掛町公民館には、振興会会員、行政職員、矢掛観光交流推進機構（DMO）、地域おこし協力隊、道の駅に関係する方々が約40人も集まった。もともと６月に開く予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で一度延期となり、その間に振興会は商店と矢掛高校の学生たちに道の駅の感想や商店街活性策についてのアンケート調査を行った。

アンケート結果から明らかになったのは、道の駅に集まるお客さんをどのように商店街へ回遊させ、賑わいに繋げるかだ。現在、商店街には新しい飲食店や店舗もオープンし、観光交流のまちづくりに期待が高まっている。一方で、昔から地元で商売をしている人は、人づき合いを大切にしており、急激な変化に戸惑いも見え隠れする。そこで、商店街振興会は、商店街と観光交流のまちづくりが共生してい

くために、まちの声をしっかり残しておこうと考えた。

筆者は、佐伯さんとは2017年に米国・サンフランシスコで披露された「矢掛の宿場まつり大名行列」を一緒に準備した仲であり、ワークショップの進行役を受け持つことになった。

ワークショップでは、（1）道の駅が誕生後で良かったこと、困ったこと（2）10年後、20年後の商店街（3）自分自身がまちづくりに関われることーの3点を取り上げたが、会場には熱気とともに笑い声があふれていた。会場の意見に耳を傾けてみよう。あるテーブルでは、以下の発言があった。

「道の駅が誕生して良かった点は、認知度が高まったことだ。にぎやかになった。そして、困ったことは、商店街の東側に人が集まり、西側にお客さんが来ていないことだ。夜の人の流れがまだまだです。道の駅の駐車場もいっぱいになりました。それから、何を買ったらいいのかわからないから、お土産が増えてほしいです」

一方で、暮らしと観光のバランスを心配する声もあった。

「来場者が増えたけれど、リピーターにはつながっていないのではないでしょうか。観光客が増えるとごみ問題も出てくる。わたしたちの住み心地はどうなのだろうか」

続けて、10年後、20年後の商店街については、以下の意見があった。

「商店街の跡取りを何とかしないといけない。スーパーが郊外にあるので、まちなかで暮らす高齢者の生活をどうするのか。まちは変化している。キーワードは、朝、昼、晩でそれぞれのにぎわいをつくることだ」

「高齢者が買い物で困っている。歩いて生活できるほうがいい。観光地化よりも地元主体の商店街にしたい。商品の値段が上がってきて、日常的なものではなくなってきた。日常の商店街にしたい。観光とまちのひとの共存が大切だ。歩行者天国や空き家の活用をしていきたい。伝統的なまちなので歴史の街にしたい」

「迎えてくれる町。あいさつをする街を大切にしてほしい。食べる場所が少ないとの意見もあるが、お店のお休みも分散していけばいい。そして、周辺施設とも連携を強めた方がよい。若者にも魅力ある街であってほしい。倉敷美観地区を訪れた人が、矢掛にも行ってみたいねえとなれば良い。ネームバリューを上げていきたい」

興味深くうかがったのは、商店街は、やはり、地元のみなさんに愛されて維持されることだ。そして、矢掛町では、商店同士の連携が強化されることで、お客さんの増加に対応しようという意識があるようだ。最後のテーマであった「まちづくりに自分自身ができること」では、短い時間であったが会場は盛り上がった。矢掛町商店街の特徴は、未来に積極的であるとともに、住民自身がまちを知って、自信を持って観光客に紹介しようという意見が多かったことだ。テーブルでは以下の意見があがった。

「時間が足りないほど、テーブルでは盛り上がりました。町の人へおもてなしの講座体験を提供したいです。サイクリングロードもあり、ドローンの効果的な方法も提案したいです。そして、地元の良さをしっかり分かり、認識し、困っている方がいれば、案内できるようにしたいです」

「まちのファンを作っていく。細かいつながりを大切にし、コミュニケーションを丁寧にしていく。大名行列も少しずつ変化をして、加えていきたい。参加型イベントを行って、若者が入っていく仕組みをつくりたい。若者のエネルギーが地域を元気にしていく。矢掛町は保守的なところがあるので歓迎の気持ちをいつも持っていきたい」

ワークショップの詳細は、お盆にかけて商店街で回覧されるそうだ。筆者が一番心に残ったのは、「商店街は新しい仲間たちとまちづくりを頑張ろう！という姿勢があったことだ。みんなであいさつができる関係は、自然と生まれることが素晴らしい。そのためには、お互いに顔を出す場所を大切にする。おそらく、このような考えかたそのものが、矢掛町宿場町のまちづくりであり、おもてなしなのだろう。　（2021年07月30日）

「グリーナブル　ヒルゼン」を訪れて　太田昇真庭市長に聞く

コラム｜岡山まちづくり探検

真庭市の蒜山高原にオープンした観光文化発信拠点施設「グリーナブル　ヒルゼン」（GREENable HIRUZEN）を視察する機会に恵まれた。蒜山高原は岡山市内よりもぐっと涼しく、さわやかな風が吹いていた。7月15日にできたばかりの施設は一言でいえば、高原に大きな森の社ができたみたいだ。この視察は、真庭市が培ってきたサステナビリティー（持続可能性）を体感する観光文化施設となっている。ここには、パビリオン「風の葉」、サイクリングセンター、ビジターショップとミュージアムが置かれている。

施設の目玉は、新国立競技場を設計した隈研吾氏の作品「風の葉」だ。i風の葉」を内部から眺めると、CLT（直交集成板）が、板材と鉄骨に編むように組み込まれているのがわかる。CLTは、壁や屋根に利用されることが多いのだが、強度があることもわかる。また、圧迫感がなく、木の安心感がある。その理由は、外から陽が差し、透明感が高いからだろう。イメージを述べれば、葉っぱが舞い舞い、森の中にいるような雰囲気だ。

今回の視察はとても幸運だったのは、太田昇真庭市長から施設の紹介やSDGs（持続可能な開発目標）のまちづくりを教えてもらったことだ。このコラムではこれまで、真庭市がバイオマスエネルギーを出発点として、地域共生のまちづくりを目指している点を紹介した。今回は、「グリーナブル　ヒルゼン」が、SDGsのまちづくりにどのように活かされるのかをうかがった。

「隈研吾先生は、若い時にアフリカ力を巡り、民族の暮らしや建築を学ばれた方です。建築家としてコンクリートを中心とした設計建築の時代があるのですが、それに先駆けて、木材の価値を見つめる思想家のような作品を造っていらっしゃいます。サイクリングセンターを見てください。

あの建物には、蒜山産の力ヤ（ススキやヨシの総称）が建築資材として使われているのです。力ヤは、真庭市で大切に使われてきました。燃やせば土壌改良にもなりますし、家畜の飼料にもなります。ススキは、景観上にも生物多様性に一躍買っているのです。
そして、真庭市蒜山高原に文化施設が加わることで、訪れる皆様方に楽しんでいただけると同時に、滞在時間も増えれば、ビジネスも展開できます。隈研吾先生のご厚意で、世界で初めての持続可能性を体感する施設ができたと思います」
芸術は、価値観の変化を表象させながら、心の中にも、世界の人々にもメッセージを伝えることができる。真庭市は、地域共生の姿勢を隈研吾氏の作品から伝播させているのだ。筆者は、長らく気にかけていたことを質問した。真庭市がSDGsのまちづくりに取り組んだ理由は。太田市長から直接知りたかったのだ。

「私たちが生を受けて生きていくためには、地域と地球に関わっていく義務があります。真庭市のように自然豊かな地域では、私たちは日常の暮らしから自然のままに意識せずに、それができていたのかもしれません。ただ、弱かったところは、地球規模で地域の共生を考えることです。SDGsは、世界のトレンドです。地域のみなさんがSDGsの理念を得ることで、地域の良さを知り、自信にもなっていきます。やはり、地域の魅力は歴史と文化が大切だと思っています。そして、蒜山の力ヤもそうですが、人の手が加わって自然となります」

真庭市はSDGsを目指しているのだが、筆者の感想は、SDGsから地域を照らしているのだ。では、「グリーナブル　ヒルゼン」はどのように利用されるのか。

「真庭市の抱える課題は、成熟化社会で人口は減っていくことです。でも、減っていても、まず、安心で安全で活力があるまちにするにはどうすればよいのかを考えなければなりません。もちろん、学校が少なくなるとシーンとしてしまうかもしれません。そうではなくて、むしろ、ゆとりがあって元気があるまちには、市民の活動力が、スポーツや文化に向かい、市民同士の交流に繋がることです。市民交流は、市の外から関係人口を増やしていきます」

続けて、太田市長は、にぎわいのあるまちに地域の文化を大切にするべきだと述べた。

「にぎわいのあるまちにするにはどうすれば良いだろうか。真庭市に来ると、ほっとすると感じてもらいたいです。それが、雇用を生み出し、次の動きになっていきます。いらっしゃるのは、こちらもウエルカムなんです。『グリーナブル　ヒルゼン』は、ピアノ演奏会やダンスなど自由に使って、文化創造の場としても使ってもらいたいです。市外からもお客さんが来てもらいたいですが、真庭市民が楽しむ場として交流してほしいです。結果として、文化的な水準も高まっていきます。私は、それを地域価値と呼んでいます。まちのひとも使っていくことで地域価値は上がっていくのです」

太田市長は、人口４万６千人のまちで再生エネルギー100％をまかなえれば世界初の試みになると夢を語ってくれた。筆者は、「グリーナブル　ヒルゼン」の中で太田市長のお話をワクワクしながら聞いていた。その中で、都市と農村の生活はどちらが未来的なのかと考えた。大切なのは、農村の未来を創る作業に、隈研吾氏を始め、応援団が真庭市に集まってきたことだ。次回は、日帰りではなく、夜な夜なまちづくり談義を楽しみたい。

（2021年08月03日）

亀島山地下工場跡地を訪ねて　岡山の貴重な戦争遺跡

コラム｜岡山まちづくり探検

外はうだるような暑さなのに、地下に広がるトンネル内はひんやりと肌寒かった。倉敷市水島地区にある「亀島山地下工場」跡地。平均気温は、年間を通じて17度。水島商店街には何度も訪れているが、亀島山地下工場は初めてであった。三菱自動車工場の側にあり、岡山県にとって貴重な戦争遺産だ。８月７日、「2021年水島空襲を考えるつどい」の中で、市民団体「亀島山地下工場を語りつぐ会」のみなさんが案内してくれた。亀島山地下工場はどのような場所だったのだろうか。

第二次世界大戦中に水島で生産されていたのはゼロ戦だと筆者は思い込んでいたが、厳密には、特攻兵器「桜花」を装着できる海軍の中型爆撃機・一式陸上攻撃機だそうだ。大戦末期には、本土防衛のための紫電改の生産が中心となる。1941年、三菱の航空機製作所が水島に誘致された。新工場建設の背景には、名古屋工場だけでは軍の要望する飛行機の生産が間に合わなかったためだ。

当時、水島の発展には、軍需産業が関わっていた。地下工場は、空襲の被害を避けるため、全長約２千メートル（東西に５本のトンネル、南北に28本のトンネル）にわたる洞窟が掘られている。ただし、亀島山地下工場の存在そのものは、機密事項であり、終戦後に多くの文書・書類は廃棄された。戦後、米国戦略爆撃調査団が報告書を作成しているが、当時の様子をうかがう資料は極めて少ないようだ。そのため、亀島山地下工場の情報は、工場で働いていた人の聞き取りが貴重な情報源となる。

地下工場を歩いて気づいたのは、足場は水が溜まって濡れており、コンクリートで固められている部分もあれば、岩がむき出しになっている部分もあることだ。一般開放による見学が難しいのは、崩落の危険が伴うからだ。トンネルは、直線ではなく、60度の角度を保っている。手前から遠くまで見えにくくしているのだ。工作機械を据え付けた跡もしっかり残されていた。76年前、ここで多くの人が働いていたと聞かされた。掘削作業では、主に韓国・朝鮮人が強制的に働かされた。トロッコを引き、暴力も受けていたそうだ。水島全体で戦場への召集がかからない学生や女性も工場で働いていたそうだ。

亀島山地下工場を見学する前、1945年６月22日の水島空襲の体験談をうかがった。米軍機110機が603トンの爆弾を落とし、工場はほぼ全壊、11名が亡くなり、46人が重軽傷を負ったそうだ。その日は、工場が稼働してなかったため、人的被害が食い止められた。ただ、B29の第１弾は、午前８時36分に飛来した。ちょうど、子どもたちは教員とともに麦畑の収穫を手伝いに出かけていたそうだ。突然、空襲を目の当たりにすると子どもたちは思っておらず、１時間、必死に身を隠したそうだ。爆弾の跡は大きな穴があいていたそうだ。

今では考えられないが、日本の空を敵機が飛び、街や工場を破壊していった。戦争は、加害者と被害者を生み、強者と弱者をはっきりさせる。そのどちらにもなりたくはないし、戦争は起こしてはならない。また、戦争を直に体験した方のお話をうかがえる機会も、急激に減っていくだろう。戦争を振り返ることで、平和のためになにができるかを考えた一日となった。

（2021年08月12日）

水島のニューリンデンを訪ねて（上）　昭和の純喫茶を楽しむ

コラム｜岡山まちづくり探検

倉敷市広江にある昭和の雰囲気漂う純喫茶・ニューリンデン。瀬戸中央自動車道水島インターを降り、水島コンビナートに向って走ると、ピンク色のお城のような喫茶店がある。創業は今年で52年だ。お店に入ると、ヨーロッパ調の落ち着いた店内で、西洋絵画や船の模型、アンティークなライトが灯り、落ち着きと懐かしさを感じる。

今回は、みずしま財団（公益財団法人水島地域環境再生財団）が企画したみずしま地域カフェにお邪魔した。このカフェ会は、水島地区にあるまちづくりの資源をカフェを楽しみながら発掘する会だ。第１回は、2019年に90歳で亡くなられた先代のマスター高橋彪（つよし）さんの人となりを振り返ることだ。

郷土史家だった高橋さんは、「福田史談会」会長として、各地で講演を行った。書斎には、歴史、平和、民族、宗教など膨大な資料がそのまま残されている。筆者は、喫茶店の経営に併せて、どのような気持ちで地域史を発掘していたのかに関心があった。高橋さんは、60歳を過ぎてから地域史に本格的に取り組んだそうで、その背景を探りたいと思った。息子さんである高橋芳彦さんに、お店のはじまりから教えていただいた。

「ニューリンデンのオープンは、1969年６月23日です。その頃は、水島商店街に二シナ百貨店もありまして、すごくお客さんが多くて、わたしも、３階のおちちゃ売り場には自転車でよく行っていました。父は、もともと和菓子職人でして、水島商店街で修業をしていました。独立後、店を構え、鷲羽山の下電ホテルにお菓子を置いてもらいました。昭和天皇が父の和菓子をご購入されたと、ホテルから電話があったときは、大変光栄なことでした」

昨年行った水島商店街の聴き取りでも、1969年頃が一番賑わったとうかがっていた。地域のみなさんが持つ景気の肌感覚は一致している。コンビナートの発展が水島地区の生活に影響しているのだ。それに加え、純喫茶のオーナーは、元和菓子職人という点にも驚いた。

「ニューリンデンの前には現在、車がたくさん走っています。誕生当時は、店の前に道路は無かったんですよ。コンビナートが大きくなって、団地ができて、それから道路ができました。私が小学校に行く前の話です。舗装もなくて、ボコボコ下道で、裏の細い道にバスが走っていました。つまり、前にあるのは、コンビナートのためにできた道路です。それと、水島商店街にリンデンという喫茶店がありました。今の場所が良いということで、田んぼだった土地に二ューリンデンができました。鷲羽山スカイラインも1970年に開通し、その時のお客さんもすごかったですね」

商店街にあったリンデンは親戚の方が経営しており、開店のアドバイスを受けたそうだ。父･彪さんは、オープン１年目は、休みの日を設けず、長い間、朝７時30分から夜11時までの営業時間を続けたそうだ。就寝は夜中１時となり、朝４時に起床という生活が続いたようだ。

「当時は、今とは違う建物だったんです。52年前のオープン時は、半分くらいの広さでした。10年後の1979年に増築してから、内装は全然変わっていません。当時は、サンドウィッチとスパゲッティーのメニューが中心でしたが、レストランを増やしてから、メニューが倍となり、今では460のメニューがあります」

現在、二ューリンデンのメニューはSNSで発信されるようになり、地元のリピーターから若いお客さんへと客層も広がってきたそうだ。40年以上の看板メニューには、卵を落とした鉄板ナポリタンとプリン・アラモードである。特に、プリン・アラモードは、食べる前から、きれいに盛られたフルーツを楽しむことができる。筆者ち、お勧めの一品だ。

「私は携帯を持っていませんが、インスタグラムの写真を見せて、これが食べたいと注文するお客さんも多いです。それと、デザートは、私がひとりで作っているので、お時間が少しかかってしまいます。お客さんが大好きなスイーツですが、アラモードとパフェの違いは、容器の違いなんですよ。パフェは、フランス語のパフェ（parfait）です。英語でパーフェクトの意味です。アラモードは、フランス語でa la modeで、最新流行の意味になります。値段は650円です。他店よりもお安いと思いますよ。プリンは島に見立てています」

筆者は、みずしま地域カフェを楽しむために、１回目は、ランチセット、２回目は、ナポリタンとプリン・アラモードを事前に食べに出かけていた。特に、プリン・アラモードは、リンゴの切り方、盛り付け方、フルーツの種類の多さなど大満足だ。まさに、頑張った自分へのご褒美だ。小さい頃、日曜日になると、父と母がごちそうしてくれたのを思い出した。良いことがあったときは、プリン・アラモードで、その他は、クリームソーダだった。「福田史談会」の話に入る前に、二ューリンデンのお店紹介で、盛り上がった。読者の方もぜひ、お立寄りを。

（2021年08月26日）

水島のニューリンデンを訪ねて（下）　福田史談会の活動を探る

コラム｜岡山まちづくり探検

倉敷市広江にある昭和の純喫茶・ニューリンデン。2019年に90歳で亡くなられた先代のマスター高橋彪（つよし）さんは、郷土史を研究する福田史談会の会長を務めていた。そして約30年ほど地域史の講演や冊子を発行し続けた。

まだ残されたままの書斎に息子さんの高橋芳彦さんと一緒にお邪魔した。まさに、クラシックな大学の研究室だ。４畳半ほどの部屋に所狭しと本が山積みになっている。ジャンルは、日本文化論、岡山県内の郷土資料、戦争と平和、水島空襲など多岐にわたっている。手書きのメモや写真もある。

筆者は、よそにお邪魔すると本棚を見るくせがある。本の並びを見ると、その人の考えを追体験できるからだ。しかし、彪さんの歴史資料は人並みではない。多忙な中で喫茶店を経営しながら、興味関心という域を超えた量だ。その中から、二ューリンデンの設計図も見つかった。かつて和菓子職人だった彪さんは、手先がとても器用だったこともあり、家の設計にも深くかかわったそうだ。高橋芳彦さんは、父のことを以下のように語った。

「父は店でデザートを担当していましたが、私がデザートをやるようになってからは、30代から興味があった郷土史のことをほとんどやるようになりましたね。カウンター席に座って、調べ物をしていたんです。当時は、パソコンもない時代でしたから、ガリ版ですよね。家には、輪転機もありました。タイプライターで打っていました。ただ、福田史談会については、家族はノータッチでした。父は、歴史関係の仕事をしていたので交流はいろいろあったと思います。山陽新聞の記者も多かったですね。車を持っていなかったので、広江や福田には自転車で話を聞いたり、家族が遠くに連れて行ったり。知り合いの方も岡山県内各地を連れて行ってくれました」

父・彪さんは、学徒出陣で水島の飛行機工場で働いていたことも教えてもらった。また、人となりを聞いてみると、「かなり、頑固で厳しいというか、家族には間違っても謝らないという性格でしたね。お客さんの人当たりはいいんです」　とのこと。みずしま地域カフェの終了後、福田史談会の活動目的を知るために、第１期昭和52年度を読ませていただいた。福田史談会の活動目的を知りたかったのだ。第１回の記念講演会のパンフレットからだ。

「戦前は、おじいさんやおばあさんの口から昔話やいろんな出来事が、子や孫へ代々伝えられていましたが、戦後は貴重なおじいさんやおばあさんの話をテレビが奪い取ってしまいました。しかし、名もなく記録にも残されず、この地上に生まれ消えて行った何万何億という祖先が培い伝えてくれた文化遺産の上に、今日現在の私達の生活があることは否定できない事実です」

「私達は、尊い先人が残してくれた文化遺産を記録し保存しておきたいと、『福田史談会』をつくることになりました」

彪さんは、新田開拓、道ばたの石地蔵、旧地名、源平合戦、川、山、寺院、神社の伝説、お遍路道などあらゆる情報の提供を呼びかけている。筆者は、地域の歴史が失われるという表現よりも奪われているという表現に注目した。なにが地域の宝を奪っているのか。それこそ、彪さんが向き合ったものなのではないかと感じられたのだ。この膨大な資料に目録などはないのだが、福田史談会の活動内容を整理していくと、気づかなかった発見がまだまだ出てきそうな気がした。筆者は、残念ながら彪さんとお会いしたことはないが、これからも書斎にお邪魔させていただき、まちづくりの資料として拝見さていただきたいと考えている。

12. 山陽新聞デジタル・コラム「岡山まちづくり探検」岩淵副センター長

昭和53年２月12日の福田史談会会報には、倉敷市への陳情案件が残されている。がれきに埋もれていた板敷水門（江戸時代の新田開発に利用）の清掃、生姫島（かつて王島山の沖に浮かぶ小島であり、伝説が残る）の保存である。また、旧福田出張所を資料館として利用するための陳情も行われた。歴史資料の研究だけではなく、まちづくり遺産の保存にも力が入れられていることがわかってきた。
（2021年08月27日）

備前市・真魚市を訪ねて　おいしい魚が集まる旬の市場

コラム｜岡山まちづくり探検

大学のキャンパスを歩いていると、職員の方から声をかけられた。時折、旬の魚や野菜の情報を交換する。たとえば、「今年は、雨が多くて、カキは小ぶりだが、味が良いですよ。一緒に買ってきますね。」「タイは大きくて良いですよ。」「県外からもお客さんが増えていますよ」など立ち話をする。タイ、ブリ、タコ、イかアナゴ、ゲタなど瀬戸内海の魚話はおもしろい。

備前市の伊里漁業協同組合が毎週日曜日に開いている真魚市では、冬場になると、生産者が地元の殻付き カキを直売するので、買い時を教えてもらっている。真魚市の魅力は、獲れた魚の鮮度が抜群に良いことだ。漁師さんが港に船をつけ、生きたままの魚を箱に入れ、値段を付ける。お客さんは、どの魚の活きが良く、お得な値段なのかを見定めて購入する。その一連の流れを見ているだけでもワクワクする。

真魚市のパンフレットには、1999年７月11日に始まったとある。鮮魚だけではなく、野菜、果物、てんぷら、タマゴ、パン、弁当、カフェ、乾物など約3店舗からなるMANAショップも併設されている。真魚市に行けば、食べたいものはそろっている。気をつけたいのは、午前７時から正午までが開催時間だということだ。お勧めは、とにかく朝早く行くことだ。船の到着が、午前７時から８時半頃なので、良いものから売れていく。筆者は、だいたい午前５時に目が覚め、６時には仕事を始めるような早起きなので、全く問題はない。

さて、市場を歩いてみよう。まず、発泡スチロールの箱一杯に詰められたアジ、ベイかイシグロダイ、イシモチ（テンジクダイ）が1000円で売られている。大きなブリとカツオも迫力満点だ。イカやアナゴの炭焼きが、香ばしい薫りを漂わせ、おなかが空いていく。

ついに、お目当てのタコを発見する。１匹が、700円から1500円で並んでいた。じっとタコを見ていると、「お客さん、ゆっくり見て下さいね。好きなだけ買っても大丈夫ですよ」と声をかけられた。今までタコ１匹すら買ったことがない。素人ながら、タコの色、吸盤の感触、身の八リ具合など色々違うのが分かってくる。十分迷ったので、結局、二つ買うことにした。市場を歩いてみると、タイ、カ二、ハモも売っている。一度では食べきれないので、また出かけようと思った。

家に帰ると、タコの調理を始める。タコはゆでたら終わりと思っていたら、粗塩でぬめりをしっかり取った方が良いと、おばあちゃんから教えてもらった。タコの刺身ち、ゆでる前とゆでた後では味が違い、双方美味だった。岡山のタコは肉厚も良く、絶品なのだ。イシモチは、頭の硬い部分を取って唐揚げにしていただいた。県外の友人にも是非食べてもらいたいと思った。今日は楽しい一日だったと、時計を見ると、まだ、午前11時。ランチもディナーも楽しみなのと同時に、海を見て、頭はすっきりし、気持ちの良い日となった。

（2021年09月01日）

おじいちゃんのシャインマスカット　フルーツ王国に実りの秋

コラム｜岡山まちづくり探検

岡山はフルーツ王国だ。７月に白桃。８月と９月は、ピオーネやシャインマスカット。10月からは梨や柿。春に近づくとイチゴだ。美味しい果物を食べて季節の変化を楽しめる。手頃な値段で新鮮な果物が食べられるのも岡山の魅力だ。「フルーツパフェの街おかやま」という取り組みもあるように、岡山はまちづくりに果物を上手に活用している。

夏から秋に季節が移ってきた。セミからスズムシの鳴き声に変わり、朝は少し肌寒い。新型コロナウイルスの感染者数が徐々に減ってきたので、10月以降のフィールドワークを計画するため、矢掛町江良集落に出かけてきた。久しぶりに訪れると、農村の景色がとてもきれいに感じられた。色々な方にご挨拶をした後、シャインマスカットの収穫を拝見させてもらった。試食をさせていただくと、シャインマスカットの実は大きく、ほどよくやさしい甘みでいっぱいだ。皮の部分の歯ごたえも良い。栽培するのは、なんと88歳のおじいちゃん。ハウスの中で栽培の様子を教えてもらった。

「うちのシャインマスカットは、８年か、９年ぐらいかかったんじゃねえかな。３年目くらいから実がなり出して、５年目ぐらいからようできるようになった」

おじいちゃんは、本職のブドウ農家ではないそうだ。栽培のきっかけがとてもユニークだ。
「ハウスに来るのが趣味ということやな。自宅からハウス（約250メートル）まで１日２回、これがあるから歩いている。無かったら昼寝しとるわな。ちょうど、ええわな」

80歳になったとき、健康づくりの一環でシャインマス力ツト作りに挑戦したそうだ。

「若い時分に１回、親父とキャンベル（黒ブドウ）を栽培して失敗したんじゃ。熟れない木を親父が知らずに買ったからな。今頃は、木も苗も信用できるけど、昔はええかげんだったんじゃな。３年目の栽培でやっと違う種類を買ったのだとわかったんじゃ」

おじいちゃんの苦労話と笑い話も合わさってシャインマスカットは深い味わいだ。他にも、種なしブドウの栽培方法や地域で色の濃さにも特徴があることを教えてもらった。美味しい果物は、生産者の創意工夫でできているのを改めて感じた。そして何よりも生産者の元気が果物作りの源だ。

矢掛町江良集落には、おみこしを担ぐかかしが並べられていた。地域の活動はしっかり続いている。10月から11月にかけての秋のシーズンは、稲の収穫や秋祭りで忙しいシーズンとなる。３密に気をつけて、読者の皆さんも秋の散策に出かけてもらいたい。

（2021年10月04日）

学生たちが見た新見市（上）　牧場で千屋牛に触れてみた

コラム｜岡山まちづくり探検

新見市千屋地区は、岡山が誇るブランド牛・千屋牛の生産地だ。
千屋地区は、古くから良質の砂鉄を採掘してきたが、製鉄業で財を成した太田辰五郎は、それに変わる産業として牛の生産を手がけた。江戸時代にペリーが来航した1850年代の話だ。辰五郎は山深い森林の中でも可能な牛の飼育を始めた。すると、全国から千屋に馬喰

（牛馬の売買や仲介を行う人）が集まり、千屋は大変にぎわったよ うだ。

筆者は、毎年９月に新見公立大学の20人ほどの学生たちに市民参加の集中講義を行っている。地域福祉を学ぶ学生たちは、半数以上は岡山県外から集まっているが、車を持っていなければ新見市各地を訪れる機会はなかなかないと言う。そこで、地元を知る機会にあわせて、地域の発展策を考えてもらうフィールドワークを行うことにした。公立大学のキャンパスから車で30分ほどの峠田（たわだ）牧場に訪れた。千屋牛にはじめた触れた学生たちの感想を紹介したい。

「古いブランドであることや、自由にのびのびしているからストレス無く良い肉になることがわかった。バイト先では千屋牛を使っているので、お客さんにも自信を持って千屋牛を紹介できるようになった」

「餌やりの体験を通じて、強い牛から食事をするなどタテ社会であることを知った。また、メスの牛の角の模様で出産経験も分かると知った」

「最初は近づくことも怖く、遠くからしか見ることができなかったのですが、勇気を出して餌をあげると、食べてくれてかわいらしかった。牛にも性格があるようで見ていて楽しかった」

「千屋牛の飼育環境は想像していた牧場とは違い山の中にあって驚いた。柵で囲っている地面に草が生えていない理由が、牛がたくさん踏んだからだと教えてもらった。昔は牛が田畑を耕したことが感じられた。」

学生たちは、１時間ほど牧場に滞在したが、彼らが新見を好きになる様子が伝わってきた。

「『授業で牛の見学に行ける地域っていいな』と思った。都会の大学に進学した友人がSNSに上げたおしゃれなカフェやイベントの様子をうらやましく思っていた。今は、自分の住む地域の魅力に気づいていなかったのだと思った。私が友人の暮らす地域に魅力を感じるように、他の地域に住む人が新見市に魅力を感じる部分がたくさんあるはずだ。若者も地域の一員として新しい魅力をつくっていきたい」

「私は水産業が盛んなまちの出身のため、牛を見ることはなかった。牛の成長は明るい希望だとわかった。牛の近くにいる環境が日常だというのは夢のようだ。家族や地元の友人に『すごいでしょ！』と自慢した」

学生たちは、千屋地区を訪れることで、新見市を自慢できるようになったようだ。最後に、千屋牛ファンの女子学生からだ。

「家族が下宿先まで来てくれたとき、決まって焼き肉に行きます。今回、千屋牛を目にしたことで、命のありがたみを知りました。食べるときは牧場主と千屋牛に気持ちを込めていただきます」

ご家族は千屋の話を興味津々聞いてくれるだろう。キャンパスライフはユニークなのだ。次稿は、学生たちが提案した新見市発展策を紹介する。

12. 山陽新聞デジタル・コラム「岡山まちづくり探検」岩淵副センター長

（2021年10月25日）

学生たちが見た新見市（下）　若者と地域の連携に向けて

コラム｜岡山まちづくり探検

新見市千屋地区では少子高齢化が進む。1955年に2885人と最も多かった人口は、現在727人まで減少した。このうち、65歳以上の人口は381人（2021年３月31日現在）であり、高齢化率は52.4%となった。新見市は、人口減少社会に対応した地域運営を進めるため、市の全域で小規模多機能自治を推進している。これは、行政が地区ごとにまちづくりの予算を提供するだけではなく、住民自身に地域の課題を見つけてもらい、解決する仕組みを応援するものだ。行政にまちづくりを任せるのではなく、住民自身が地域の運営に責任を持つようにしたのだ。

千屋地区では2020年９月25日、住民代表の機関である「未来へつなぐ千屋野の里」が誕生し、放課後の学童保育、わさびなどの特産品開発、イベントなどを企画するようになった。これから若者の交流を増やし、地域の活動を発展させようと考えているそうだ。新見公立大の学生たちに、授業を通じて感じた中山間地域の課題を自由に述べてもらった。

「新見には、いわゆる“若者ウケ”するものがないのがマイナスポイントだと思います。中山間地域に暮らす若者にとっては、岡山市や倉敷市が魅力的に見えてきます。また、アルバイトをする場が少ないのも問題です」

「千屋地区は自然にあふれているが、若者が好きなイベントやお店があるわけではありません。そのため、若者のなかでも自然が好きな人、都会の生活に疲れて田舎に移住したいと思っている人、農業に関心がある人に声をかけ、まちづくりに関わってもらえれば良いと思います」

「千屋地区は、自家用車がなければ移動することができません。アクセスが問題です」

続けて、学生たちは千屋地区の活性化策も提案した。

「千屋地区の自慢をもっと活かした活動を増やすべきです。たとえば、千屋牛への餌やり体験やキャンプを開催してはどうでしょうか。お肉とお米を一緒に食べることのできる体験は人気が出ると思います。また、若者が活動する機会も少ないので、スキー場、千屋温泉などでイベントツアーを開催するのもいいと思います」

「千屋のみなさんと学生が新しいお弁当やおにぎりを開発し、販売したり、千屋のパンフレットに特産品情報を掲載したりしてはどうでしょうか」

「学生は授業などで地域と関わることができても、それ以外では地域と関わる機会は少ないです。学生と新見市は協働していくことが大事ではないでしょうか」

彼らは千屋地区からまちづくりに対する姿勢から刺激を受けたようだ。

「新見市の活性化に関わるみなさんに共通するのは、『新見市を盛り上げたい』『地域をよりよくしていきたい』という気持ちです。地域運営組織の活動を一部の人が頑張るだけではなく、多くの人が自分事として認識する必要があると感じました。一人一人の意識が変われば、地域運営のアイデアが生まれると思います」

「人付き合いや温かさの大切さを知りました。地域は市民の力で造るものです。インターネットで情報を集めてもできません。地域のみなさんと交流することが必要不可欠だと思いました。これは、仕事をしていく上でも、日々の生活でも必要なことです。これからは、人付き合いを大切にしていきたいと思います」

中山間地域では、進学や就職を契機に多くの若者が都市に出て行ってしまうため、若者の意見を聞くことが難しくなっている。しかし、新見公立大学の学生たちのように、外から来て、地域で生活する若者たちは、地域の中で活躍する場を探している。

「千屋地区には、『若者に手伝って欲しい』というニーズがあることが分かりました。若者ができるのは、一緒に作業をすることなのだと思います。地域の皆さんからの意見を聞くのは、会議室よりも、話しかけやすい距離の方が効果的です。ですから、稲作を大学生が手伝えば、地域のこともよく分かるのだと思います」

今回の受講生の中には、継続して千屋地区のまちづくりやボランティアに関わりたいという学生もいた。そのような学生たちがもっと地域の活動にアクセスできるような仕組みも、これから考えなければならないだろう。今回は、学生たちの声を聞くことを中心に紹介した。次回の集中講義では、地域のみなさんの声をしっかり聴いていきたい。

（2021年10月29日）

法界院の秘仏本尊ご開帳　33年に込められた思い

コラム｜岡山まちづくり探検

私の勤務する岡山大学から徒歩30分ほどの山裾に、金剛山遍照寺法界院はある。中国観音霊場の札所でもあり、ＪＲ津山線の駅名にもなっているから、知っている人は少なくないだろう。本尊は国の重要文化財に指定されている聖観世音菩薩で、平安時代の作とされている。

法界院では今年11月18日から25日にかけて33年に一度の秘仏本尊のご開帳が行われている。紅葉が美しい季節のため、歩いて参拝に出かけた。10時頃に到着すると、本尊に向って住職が法要を行っており、多くの参拝客が手を合わせている。目を潤ませて本尊を見つめる方もいた。法要を終えて、住職は参拝客に語りかけた。

「コロナでビクビクするような生活が続いており、私たちは目に見えないものを恐れております。観音様に力をいっぱいいただいて、ご先祖様にも守っていただきましょう。このご開帳は33年に一度ですが、みなさん次回はおいくつになっているでしょうか。時は止まりません。今日一日を精いっぱいがんばりましょう」

法界院は、モミジが赤く染まり、小豆粥の接待も行われていた。油断はできないが、コロナの拡大も少し収まってきており、お寺にお参りできるのがとてもうれしく感じられた。筆者は季節ごとに法界院に参拝している。山門から本堂に上がり、手を合わせ、それから、ぐるっとお寺を回って、鐘を突くのが大好きなのだ。大学に戻ってから、どうして33年を節目にしているのかが気になり始めたので、もう一度法界院に出かけることにした。

住職は、33年の理由をまずは考えてみて下さいと問いかけた。33は、人生の節目にあたる数字だそうだ。仏教では三十三回忌を過ぎると、故人が極楽浄土へ旅立てるとされている。また、故人の死後30年以上経つと、世代交代により、故人を知る人も少なくなる。昔は50代が寿命だとすると、33年の節目を一度迎えられても、二度目は難しかったかもしれない。33年で世代の周期が変化していく。33年の歳月には、うれしいことも、悲しいこともたくさんある。本尊に集まる人々はそれぞれの人生がある。一期一会の出会いに感謝したい。

筆者は33という数字に縁がある。岡山県の県番号は33であり、留学中に住んでいたフランス・ジロンド県の県番号も33だ。また、筆者は３月３日生まれだ。住職からは、「一日二回も参拝したのですね（笑）。ますます今日のご縁に感謝をしないといけませんね」と一言。33年後の筆者は70代になっており、今の両親の歳になっている。2054年11月、もう一度元気にお参りに行きたい

（2021年11月22日）

奈義町のSDGs（上）　子育て支援からパートナーシップ強化へ

コラム｜岡山まちづくり探検

2.95%。これは、奈義町の合計特殊出生率（令和元年度）だ。全国平均が、1.34%と低い中、奈義町は全国屈指の高さを誇る。
町は出生お祝い金、高校生までの医療費無償化、なぎチャイルドホーム（乳幼児を持つ子育て中の親子が集える常設広場）の設置、放課後児童クラブ、やすらぎ福祉年金交付（中学３年生までの子供を養育しているひとり親に対し、年額５万４千円を交付。第２子以降で１人ごとに２万７千円を加算）など、子育て支援を続けてきた。

人口約6000人の小さな町には、那岐山をはじめとした豊かな自然環境があり、伝統的な横仙歌舞伎から現代アートまで魅力に溢れている。その奈義町が、昨年度からSDGs（持続可能な開発目標）を町政に取り入れることになった。では、その狙いを奥正親町長にうかがった。

「奈義町は、2012年に子育て応援宣言を行いました。地方創生の中で人口維持に努め、成果を挙げてきました。それは、地域を維持するために必要だったからです。しかし、これからは、より良い環境を維持するためにSDGsを通じてひとづくり（人材育成）も大切になってきます。行政がまちづくりを引っ張るのではなく、市民の一人一人が主役になって奈義のまちづくりを支えてもらうためです。SDGsで期待しているのは、市民と行政だけではなく、市民同士のパートナーシップも強化し、持続的な奈義をつくっていくことです」

実は、11月28日（日）に奈義町初の試みとして、「SDGs円卓会議」が開催される。この円卓会議の目的は、町民、教育関係者、事業者などが各自の取り組み事例を発表しあい、町民同士でSDGsの理解を深めることだ。岡山県内の先駆事例には真庭市が挙げられる。どのような内容が飛び出すかは当日までの楽しみに取っておきたいが、市民がまちづくりを自由に語ることで、意見の言いやすい、風通しの良いまちになれば良いと思う。町長は、円卓会議を起点として、町民が活躍できる場を整備していきたいという。
筆者も円卓会議を盛り上げるコーディネーターを担当することが決まった。当日は、奈義町で出生率の高い秘密を探ってみたい。子育て政策の充実と併せて、安心して家族が暮らせる雰囲気があるのでは

ないかと感じている。円卓会議では、俳優の杉浦太陽さんもゲストで登壇し、子育てのお話をうかがう予定だ。プロフィールを見てみると杉浦さんは40歳。筆者のひとつ下だが、ウルトラマン俳優であり、かっこいい。席にはまだ余裕があるようなので、読者の方もぜひお越しいただきたい。

（2021年11月24日）

奈義町のSDGs（下） 出生率が高い秘けつとは？

コラム｜岡山まちづくり探検

11月28日に岡山県奈義町でSDGs（持続可能な開発目標）円卓会議が開かれた。町が力を入れる教育や子育てについて、奥正親町長や俳優の杉浦太陽さん、泉聡子内閣府参事官を交えたトークセッションが行われた。奈義町が唱えるSDGs戦略は、「パートナーシップを活用して地域で子育てをする」というちのだ。奥町長は、子育て支援のまちづくりは行政のイニシアチブでは限界があるため、地域ぐるみで取りかかる必要性があると説明した。

「まちを挙げて子どちたもをしっかり育てないといけません。１人で責任を抱えるのではなく、みんなで一緒に育てるのです。少子化の原因は、１人目、２人目、３人目でハードルがそれぞれ異なることです。それを突破するための支援が必要です。個人でできないことを、行政だけではなくて、地域で取り組むようにするのです」

杉浦さんは子育て世代の意見を代表して、次のように述べた。

「長女が生まれたときは、インターネットやアプリで育児情報を調べることがまだできなかったため、育児書を読んで育てていました。今は、行政が子育てのホームページを整備して便利になったため、子育てが楽になったという実感があります。色々なまちを訪れましたが、奈義町のように『みんなで子育てをするぞ！』というのは初めてでした。子育てを始めても、友人や親に頼れない人がたくさんいると思います。転勤でやってきて知り合いがいない人もいると思います。奈義町は、行政の支援があり、子育ての場所をつくって、輪を広げているのが大きいと思います。ネットワークや口コミでもお母さんのストレスや不安が軽減されます。特に奈義町は、農業も体験できるし、自然に触れるのが贅沢だし、子育て環境はぱっちりです」

泉参事官は子育て政策における大切な視点を説明した。
「少子化対策でこれだけやれば、成果が出るというものはありません。若い人が移住して、妊娠、出産、子育てをしたときに、自分で育児を抱えるのではなく、周りからサポートが受けられる体制が必要になっています。奈義町の子育て支援は、経済的な支援、切れ目のない支援をまちのみなさんと行政が一緒にやってきた成果だと思います」

奥町長が言うには、奈義町は自分のまちで人口を確保しないといけなかったそうだ。

「奈義町は現在の人口6000人から、30年後には3000人を切るかもしれません。安心して住み続けられるまちを維持するには、なんとか魅力のあるまちにしなければなりません。若者がいなくなると、高齢者も故郷から離れていくのでｆす。そこで、奈義町は合併しないまちを選びました。自分たちで人口の確保をしないといけません。だからこそ一生懸命、子育て支援と教育を充実させてきたのです。全国から奈義町に視察に来ますが、出産祝金や学生への奨学金などは、どこのまちでもやっているわけです。では、一番違うのは、どこでしょうか。奈義町は、安心して生み、育てる環境に注目してきました。子育て中の家族が社会から離れて孤立しないように注意したのです。安心して子育てができる環境があって、出生率が確保されると思っています」

奈義町は2002年、住民投票を通じて津山市との合併をしない道を選択した。2005年には、合計特殊出生率は過去最低の1.41％まで落ち込んでいったが、そこから15年で全国一の2.95％へと改善する。奥町長は、子育て支援のまちづくりで一番大切なものは、「町民のみなさんがやさしく子育てを応援するという気持ち」だと言う。奈義町SDGs会議では、10の団体が活動紹介を行った。それらは、別途お話をうかがってまちづくり探検で紹介していきたい。

（2021年12月09日）

下津井に人が集まりだした　シービレッジプロジェクトがもたらしたもの

コラム｜岡山まちづくり探検

瀬戸内の新鮮な魚やタコを販売する倉敷市の下津井とれとれ鮮魚市が、土日の早朝から開催されている。おしゃれなケーキ屋も最近オープンした。明治時代の回船問屋の建物を復元した資料館「むかし下津井回船問屋」のそばには、デニム工房までできている。近くに喫茶店もあるようだ。地域に人が集まり始め、まちの雰囲気が明るくなってきた。

2018年10月、外国人留学生と行った１泊２日のまちづくり合宿を懐かしく思いだした。地域活性化を目指す下津井シービレッジ株式会社のメンバーから依頼を受け、よそ者の視点から地域の宝探しをすることが合宿の目的だった。留学生は、町並みや神社仏閣などに興味があるようで、日本人が30分で歩くコースを１時間から２時間かけて楽しんでいた。ある留学生は陽が昇り、沈むまで海を眺めていたいと言った。この合宿を振り返ると、住んでいる人も訪れる人もまちを一緒に楽しむ方向性を確認できるものだったと思う。しかし、その後、どうして下津井に人が集まり始めたのか。移住者の方にお話をうかがった。まずは、2020年５月に東京から移住された塾講師のお話だ。

「コロナ禍のタイミングで塾の授業をオンラインに変えました。もともと、東京から瀬戸内海の方へ移住しようとは思っていました。まず、下津井の魅力は、本州と四国をつなぐ瀬戸大橋があり、古い町並みがコンパクトに残っていることです。山と海の自然がまちに迫っています。それに、車で10分もあれば、児島にも水島にも行けるのがいいですね。必要なものはインターネットでも買えますから、全く不便を感じていません」

次に、児島から下津井に移住し、デニム工房兼店舗「ダンジョ・デニム」を運営する福川太郎さんは、地域ぐるみで人を呼び込む取り組みを教えてくれた。

「以前は、児島駅前に住んでいましたが、入居期限が３年だったので、工房、店舗、住居を兼ねた古民家を探していました。商工会に相談したところ良い物件を紹介してもらいました。人があたたかいことや、作業に集中できることがいいですね。ひとりでお店をやっていると集客が難しいのですが、下津井シービレッジのみんなが盛り上がっているので、お客さんを呼びやすいです。近くにある蔵のカフェを紹介すれば、お客さんは楽しんでもらえますから」

昔から自然豊かな島々に囲まれた穏やかな良港であるとともに、行政に頼るのではなく、地域がひとつになってまちを運営する取り組みが機能し始めたことが、下津井に人が集まり始めた一つの理由だろう。下津井シービレッジプロジェクトのセンター長である矢吹勝利さんは次のように話す。

「ひとりでまちづくりをするには限界がありますので、持続的にするには、飲食店や、下津井・児島らしいお店がないと人は寄ってこないと思います。今は、やっている僕らが楽しく、ワクワクするような経験ができるまちを目指しています。若い人が集まれば鬼に金棒です。観光客が歩き始めると、児島のホテルとも、漁業のみなさんとも協力できるのです。『人が集まれば、地価も上がるかもしれんぞ！』ってまちの人も期待しているんです（笑）」

下津井には新しい仲間が増え、まちづくりのテーマも広がっている。子どもが増えれば教育支援が充実し、外国人実習生が増えれば、多文化共生も進む。そして、地域でビジネスがなりたつようになる。福川さんは、下津井の変化を以下のように教えてくれた。
「下津井で仲間が増えてきて、少し結果が出てきました。新しい事業に挑戦するときは、だれがするのか、だれがお金を払うのかという問題があります。その時、下津井シービレッジ株式会社が窓口になっていて、電話ひとつでも対応してくれます。まちをつくりたいと言うのは簡単ですが、地域のことを引き受けてくれる団体があるのは、他と差別化ができているポイントだと思います」

３年ぶりの下津井には、仲間が集まり、新しいコミュニティーが芽生えつつあった。彼らが起こす地域のイノベーションを追いかけていきたい。

（2022年01月05日）

13. スポーツを活かしたまちづくり活動～岡山シーガルズの支援

わが国が進める民間活力活用による地方創生と2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機としたスポーツを活用した地域の産業や観光の活性化に向けて、地域総合研究センターは、2014（平成26）年度より、オールおかやまの市民が支えるクラブチームである女子バレーボール「岡山シーガルズ」の活動を、産官学民の連携により支援してきた。

これまでの主な活動を資料編に収録して記録に留める。

参考　スポーツを活かした地方創生に向けた地域総合研究センターの支援活動

2014（平成26）年度

12月４日　シーガルズが問題提起

第３回「スポーツプロモーション研究会」が西川緑道公園にある西川アゴラで開催され、岡山シーガルズの高田さゆりマネージャーから『スポーツチームの経営の現状と課題』、岡山大学経済学部４年の長宗武司君から『スポーツを支え、盛り上げる地域の取り組み』をテーマに話題提供がされた。高田マネージャーがクラブチームとしての頑張りや専用練習場を持つことが目標であることを参加者に伝えた。のびのびと練習や試合に集中できる環境を経済界や大学が支援していかねばならぬと、一同、決意を新たにした。

また、長宗君の学生目線からのプロスポーツと地域の連携に関する調査報告にも、多くの意見や感想が出され、意義深い内容となった。

１月16日　日本商工会議所と日本政策投資銀行に協力要請

日本商工会議所の青山伸悦理事・事務局長と日本政策投資銀行地域企画部の中村聡志氏（現在、山陽学園大学地域マネジメント学部教授）とミーティングを行った。

現在の岡山大学の社会貢献活動や岡山県の状況を紹介、個別課題としては日本政策投資銀行が報告書をまとめたスマート・ベニューや地方創生戦略の展開への経済界のかかわり方について伝え、具体的なアドバイスを頂戴しながら情報交換を行い、岡山シーガルズのアリーナ建設に向けて協力要請を行った。

３月９日　「中心市街地活性化にスポーツを活かす」シンポジウム

おかやまスポーツプロモーション研究会、岡山大学　地域総合研究センター、NPO法人チーム岡山スポーツクラブ県民後援会が主催、それを岡山市商工会議所スポーツ支援委員会、一般社団法人岡山経済同友会が共催、岡山市やマスコミなどが後援して、岡山大学創立五十周年記念館で「中心市街地活性化にスポーツを活かす」シンポジウムを開催した。

スポーツ振興はスポーツ界のためだけのものではなく、オリンピック開催を例にするまでもなく、地域社会を活性化するチャンスであると言え、岡山市では、スポーツを活かした地域活性化を目指す産・官・学・市民が集まり、2014（平成26）年10月に「おかやまスポーツプロモーション研究会」（以下，SPOC研究会）が創設された。

SPOC研究会は、スポーツを活かした地域活性化を志向する関係者のクラスター化を目指している。シンポジウムでは、「スポーツによる地域活性化－スポーツコミッションの意義と役割－」と題して、早稲田大学の原田宗彦教授（日本スポーツツーリズム推進機構会長）に基調講演を頂いた。シンポジウムでは、「スポーツによる中心市街地活性化－日本初！おかやまモデルの模索－」と題して、原田宗彦教授、大森雅夫（岡山市長）、間野義之（早稲田大学教授・スマート・ベニュー研究会座長）、梶谷俊介（SPOC研究会会長・岡山商工会議所常議員・岡山経済同友会理事）、地域総合研究センター三村聡副センター長がパネリストをつとめた。コーディネーターは岡山大学教育学研究科の高岡敦史講師が担当した。

2015（平成27）年度

５月15日　岡山シーガルズ報告会に三村が初参加

岡山を本拠地に女子プロバレーボールプレミアリーグで躍進を続ける岡山シーガルズの報告会が開催された。2013（平成25）年度より同チームの主将を務め、先のロンドンオリンピックの日本代表メンバーである山口舞選手（ニックネームは、ユメ・パール）を紹介頂いた。微力ながら、スポーツを活かした地方創生に向けて、地域総合研究センターとして応援させて頂くことを約束した。

13. スポーツを活かしたまちづくり活動～岡山シーガルズの支援

７月２日　嶋岡健治氏　岡山登場

岡山市北区にある桃太郎アリーナで開催される「2015Vサマーリーグ女子大会・西部大会IN岡山」の開会に先立ち、参加チームの関係者と岡山県、岡山市、経済界、スポーツコミッション研究会（SPOC研究会）などが、奉還町「松の木」に会して交流会が開催された。

日本バレーボールリーグ機構の木村憲治会長、嶋岡健治副会長と意見交換できた。

嶋岡副会長は３度のオリンピック出場を経験された日本を代表するプロバレーボール界に金字塔を打ち立てたメダリストであり、プロチームの組織運営のご苦労について、市民参加型のチームである岡山シーガルズのファン作りに関する健闘を讃えるコメント、また、度重なる国際ルール変更への対応など、業界を代表される方の日々の目配りと見識の高さに、大いに学ばせていただいた。

７月３日　2015Vサマーリーグ女子大会・西部大会

2015Vサマーリーグ女子大会・西部大会がスタートした。

学生達とボランティアスタッフで岡山シーガルズの活動を応援、プロスポーツが市民や学生とコラボ レーションする岡山をめざした。

７月９日　日本政策投資銀行 桂田隆行氏来岡 「スマート・ベニュー」構想　東京から、日本政策投資銀行地域企画部から専門家である桂田隆行氏を招いての学習会を開催した。スマート・ベニューをテーマとして、その実現のために、どのようなステップを踏むべきか、こうした流れにより「市民参加により、岡山市を元気にすべき歩み方とは何か」について興味深い話を拝聴した。

10月28日　岡山シーガルズタペストリー除幕式

岡山駅西口にある奉還町商店街で、岡山シーガルズのタペストリー除幕式が開催された。関係者の皆様のご尽力により実現した企画で、商店街には、地元の２つのプロスポーツチームの幟（のぼり）が左右にコラボして旗めいた。

除幕式には、岡山シーガルズ河本昭義監督、山口舞選手、岡山経済界から岡山商工会議所常議員延原正浩スポーツ支援委員長らが並ぶ中で、岡山大学からは、大学を代表して学生サークル「岡山百年構想」の長宗武司君（経済学部４年生）が参加、学生によるまちづくりの具現化が実を結んだ。その姿を眺めながら嬉しく、そして誇りに思えた。

11月３日　テレビせとうち開局30周年報道特別番組

テレビせとうち開局30周年報道特別番組「始動！おかやま最前線―岡山市中心部のまちづくり―」が放映された。

大森雅夫岡山市長、矢部久智岡山市表町商店街連盟事業推進事業部長、三村聡副センター長３名による対談で、三村副センター長が進行役とコメント役の二役を担当した。大森雅夫岡山市長から、スポーツがまちづくりに資するという考え方と駅西口および奉還町商店街について力強い言及があった。また、来年度からスタートする岡山市総合計画や地方創生戦略の要諦、表町商店街や奉還町商店街の課題と活性化策、イオンモール岡山出店の影響と共存策の考え方、西川緑道公園界隈の魅力作り、岡山駅への路面電車乗り入れやコミュニティサイクル「ももちゃり」の活用と自転車王国の実現はじめ都市交通政策、市民会館の移転とまちづくり、旧内山下小学校の有効活用やカルチャーゾーンの更なる活用と歴史文化の誇りあるまちづくり、外国人はじめ観光客誘致とコンベンション政策、スポーツを中心に考えるまちづくりなど、話題は多岐にわたった。

11月５日　岡山大学で大森雅夫岡山市長講演

岡山大学は、幹部勉強会へ大森雅夫岡山市長を招き岡山市政と大 学連携をテーマに講話を頂いた。大森市政の歩み、新岡山市総合戦略と地方創生の方向性、イオンモール岡山、新市民会館と商店街の共生、西川緑道公園界隈でのまちづくり、スポーツを核とした新たな地域活性化モデルの展開、カルチャーゾーンへの観光客誘致など、地域総合研究センターの活動と関係の深いテーマが話題提供された。

11月８日「第１回おかやまマラソン」

「第１回おかやまマラソン」が開催された。参加者は14,000人、岡山市民はじめ広く全国そして外国人の皆さんが、市内を快走する姿はとても美しく、歴史や文化を肌で感じながら県都としての都市が躍動する手ごたえと風格を感じた。

翌日の山陽新聞25面、越宗孝昌山陽新聞社会長（岡山陸上競技協会会長）と共に、三村聡センター長がスポーツを活かした地域の活性化の観点から一言コメントさせて頂いた。

2016（平成28）年度

７月１日　岡山県市長会

岡山県市長会にて三村聡センター長が「地方創生と大学の果たすべき役割」のテーマで話題提供した。会場はサンピーチ岡山。自治体が直面する課題について率直な意見を述べ、岡山大学の地域活動の実態を、具体事例を用いて紹介した。

スポーツによるまちづくりの重要性についても岡山シーガルズの活動紹介を通じて、問題提起をさせて頂いた。

2017（平成29）年度

６月２日　河本昭義監督と山陽新聞社訪問

山陽新聞社へ岡山シーガルズの河本昭義監督と共に、越宗孝昌代表取締役会長をお訪ねして、これまで地域で進めるスポーツによる地域活性化の取り組みと今後の方向性についてご報告申し上げ、山陽新聞社の更なるご協力についてお願い申し上げた。

６月14日　山口舞選手がアリーナ建設のお願い

岡山商工会議所の運営を協議する常議員会が同会議所で開催された。

女子バレーボールの地元クラブチームである岡山シーガルズを、岡山商工会議所が中心となって、もう一段、応援を強化するための企画提案が議案とされ、副会頭の石井清裕ネッツトヨタ岡山株式会社取締役社長が挨拶を行い、続いて岡山シーガルズの河本昭義監督から趣旨説明、具体的な説明を三村聡センター長、メダリストの山口舞選手が、今後の活躍を誓い、常議員の皆様方へ挨拶した。結びは、同会議所スポーツ支援委員長の延原正浩株式会社マルシン物流取締役社長が企画提案の意義と今後の進め方について提案、常議員全員から承認頂くことが出来た。

６月30日　嶋岡健治代表理事・会長が講演

第34回となる「おかやまスポーツプロモーション研究会」が奉還町「りぶら」で開催され、一般財団法人日本バレーボール機構の嶋岡健治代表理事・会長を招いた。冒頭、同機構は、東京オリンピック開催を踏まえ、2018/19シーズンより「スーパーリーグ（仮称）」構想を核とした「Ｖリーグ改革」を推進する流れが加速していると力強い挨拶を受け、続いて岡山シーガルズの河本昭義監督が「岡山シーガルズを日本一にする会（仮称）」について発表、三村聡センター長がグランドデザインについて説明した。

また、日本政策投資銀行地域企画部から桂田隆行調査役が、スポーツ庁、経済産業省が作成した「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック」の要諦を披露しつつ、岡山シーガルズの活動展開について、政策的かつ戦略的な知見から数々のアドバイスを頂いた。

岡山シーガルズ、ファジアーノ岡山、岡山商工会議所、岡山経済同友会、中国銀行、地元商店街、JR、岡山県、岡山市、岡山市コンベンションセンター、山陽新聞、テレビ局各社はじめ、経済産業省中国経済産業局、日本貿易振興機構（ジェトロ）、笹川スポーツ財団など、過去最大の50名を超える参

加があった。

【岡山シーガルズの歩みと課題】

岡山シーガルズは1999年東芝シーガルズの廃部を受け、バレーボールＶリーグで日本初となるクラブチームとして富山県で産声をあげ、2000年のＶカップ準優勝、2001年第２回大会優勝、富山国体優勝など実績を重ね、2001年に岡山県からの招致を受け、チームの活動拠点を岡山へ移しました。

爾来、地域の熱烈な支援を得て、2002年高知国体から岡山国体を含む史上初となる国体５連覇、国民体育大会では現在まで10回優勝、「2013/14Ｖプレミアリーグ」では最高位の準優勝を果たしています。

また、2006年４月、地域名を冠した「岡山シーガルズ」とチーム名を改称し、名実ともに地域密着型のクラブチームとなることを宣言して活動しています。その間、2012年には全日本代表チームに山口舞選手が選出され銅メダルを獲得、毎年日本代表選手を輩出するチームとなり、2016年のリオデジャネイロオリンピックでは山口舞選手・宮下遥選手が出場し５位入賞を果たし、来る東京オリンピックには宮下遥選手をはじめ有望選手がチームに在籍、複数名の代表入りが期待されメダル獲得を目指しています。

さらに、「スーパーリーグ（仮称）」構想を核とした「Ｖリーグ改革」による新たなリーグの発足は、岡山シーガルズが目指す理想の方向性と合致する内容であり、結びで、嶋岡会長から「岡山シーガルズが果たす役割は大きい」として熱い期待が寄せられました。

本日のSPOC研究会では、多くの参加者から、今回の「Ｖリーグ改革」に呼応して「岡山シーガルズを日本一にする会（仮称）」を発足させ、オールおかやまによる一層の支援強化を図るべし、との激励を頂戴いたしました。なお、６月16日開催の岡山商工会議所常議員会において、本提案がなされ承認を賜ったところです。

岡山シーガルズとしては、応援頂けける皆々様の後押しにより「Ｖリーグ改革」に合わせて組織体制を整備･強化し、更なる高みを目指して精進と研鑽を重ねて参り、この度の改革を起点とした「岡山シーガルズを日本一にする会（仮称）」の発足に合わせて、岡山シーガルズを「おかやまを元気にする装置」として活用頂くことを目指します。

オールおかやまが一体となり「地域のお金を地域で循環させる」骨太の地方創生を実現するために、新たなアリーナの整備・活用・経営のビジネスモデルを描いていくことを宣言した。

８月４日　スポーツ庁と日本商工会議所へアリーナ建設協力を依頼

スポーツ庁担当部署と日本商工会議所青山伸悦 理事・事務局長を訪問した。

アリーナ建設に向けた協力を依頼した結果、「現在は、霞ヶ関や丸の内のなかでの折衝・交渉・調整の仕事が多く、地域で起こりつつある、現地、現場の話題を聴けて大いに参考になった。スポーツがもたらす効果は､内需拡大や地域の持続可能性の視点から大切である｡引き続き情報提供をしてください｡」とのコメントを頂戴することができ、大きな勇気を頂くことができた。

９月25日「スポーツ先進都市おかやまをめざして」をテーマに講演

岡山経済同友会の地域振興委員会、観光委員会、文化スポーツ委員会、三委員会合同の委員会が、岡山商工会議所１階会議室で開催された。江尻博子文化スポーツ委員会委員長の進行、梶谷俊介地域振興委員会委員長の挨拶で始まり、三村聡センター長から「スポーツ先進都市おかやまをめざして － 文化の薫る観光・街づくり － 」のテーマで講演した。

オールおかやまでのスポーツを起点にした、まちづくりを加速化すると松田久岡山経済同友会代表幹事から講評を受け、橋本豪介観光委員会副委員長の閉会の辞で終了した。

10月６日　岡山市総務・市民政策審議会でシーガルズの活動を紹介　岡山市総務・市民政策審議会のテーマは「岡山市人権教育及び人権啓発に関する基本計画の改訂について」、男女共同参画による女性の地位向上の実現など多様な人材を積極的に活用しようというダ イバーシティの考え方について議論された。

社会状況の変化に伴い、性的少数者（LGBT）への差別や偏見、人種、出身国、民族、宗教、性的指向、性別、障害など自分から主体的に変えることが困難な事柄に基づいて個人または集団を攻撃、脅迫、侮辱する発言や言動が社会の問題となっているヘイトスピーチ、学校教育でいじめの問題の温床となっている。また、子供たちがインターネット上でいじめや心無い差別を書き込むネット社会が生み出す問題など、人権を巡る新たな問題、新たな課題が提起される社会が到来しており、こうした環境変化に合わせて、岡山市でも、人権教

育及び人権啓発に関する基本計画の改訂を実施すべく、長時間、活発な議論がなされた。議論の中では、女性が子育てを続けながら安心して就業できる環境を目指す企業活動や、岡山シーガルズが子供向け人権スポーツ教室を積極的に展開している報告はじめ、企業の経営努力や市民参加による人権教育及び人権啓発に関する具体的な取り組みが話題提供された。

10月18日　日本貿易振興機構（JETRO）へ正式な協力要請

独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）本部から担当者を迎えて、スポーツプロモーション研究会が開催され、高宮純一岡山事務所長に話題提供を頂いた。JETROは貿易・投資促進と開発途上国研究を通じ、日本の経済・社会の更なる発展に貢献することを目指して世界に70カ所を超える海外事務所、約40の国内拠点を持ち、対日投資の促進、農林水産物・食品の輸出、中堅・中小企業等の海外展開支援を行い、さらには、日本再興戦略に基づく「地方創生」の実現に向け、日本の地方と海外を直接つなぐことで、より具体的成果につながる総合的な支援策を提供している。

この縁がきっかけで、タイを中心としたASEANとのバレーボール交流がはじまった。

10月30日　大森雅夫市長へアリーナ建設に向けた提案書を提出

（1）スポーツを活かした地方創生を提案

2020（令和２）年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が近づくなか、岡山でもプロスポーツやアマチュアスポーツが盛んな土地柄である。2018（平成30）年10月30日、岡山経済界の代表者が、地域振興やスポーツ振興を目的に、大森雅夫岡山市長を市長室へ訪問、産官学が持つ、それぞれの知恵と力を結集して、スポーツを活かし、子供たちの健全な心身の育成、まちの活性化、産業の活性化、観光地としての魅力創出など、多面的・有機的な結合により地域の 持続的な発展を実現しようと具体的な提案を行った。

経済界を代表して梶谷俊介氏（岡山商工会議所副会頭、岡山経済同友会地域振興委員長、岡山トヨタ代表取締役社長）から説明がされ、それに対し大森市長からは、「大いに歓迎する、また、岡山市としても協力・支援を惜しまない」との回答を得た。三村聡センター長が岡山シーガルズ顧問および大学の地域連携担当として随行、具体的な施策実現に向けた産官学連携が実を結ぶよう、大学としては、課題解決に向けた調査分析や専門的な知見の提供による助言を続けていくことを伝え、さらに産官学トップによるストラスブール訪問に向けた最終案内、岡山市と岡山大学の人事交流の成果についてなどお礼を申し上げた。

（2）岡山シーガルズ アリーナ建設に向け産官学民で検討開始

2018（平成30）年２月16日、岡山経済５団体で構成する岡山県経済団体連絡協議会（中島博会長）は、

経済界連名で岡山市庁舎建替えに合わせたアリーナと産官学による複合施設を併設する提言書を、オールおかやまを代表して、大森雅夫岡山市長ならびに宮武博岡山市議会議長に提出した。アリーナと産官学による複合施設は民間活力を活かして建設する方向性を示し、岡山市への協力を依頼した。

三村聡センター長が、提言書作成に向けた合意形成や提言書の執筆作業を、岡山シーガルズ顧問と岡山大学の社会貢献活動の立場から支援した。関係各位の協力・尽力により、合意形成は順調に進み、経済界から岡山市長への提言書の提出に１年ほどでこぎつけた。建設用地の必要面積や民間主導による建設資金集めの手法など、課題は多いが、いよいよスポーツを起点にした、まちづくり、地方創生の具体的な検討ステージに入った。

12月８日　事務所の開設を祝う会

岡山シーガルズが岡山商工会議所へ新しい事務所へ移転、午後から関係者によるミーティングが行われた。師走の多忙ななかでの開催ながら、多くの関係者が次々と訪れ、ミーティングの終了後、残ったスタッフの皆さんや商工会議所の関係者の方々で、新しい事務所の開設を祝う、ささやかな会が催された。岡山商工会議所の岡﨑彬会頭からお花が贈られた。この地が、更なる飛躍の拠点になるよう、一同で祈念した。

12月21日　中国経済産業局訪問

2018（平成30）年12月21日、経済産業省中国経済産業局を訪問、森分幸雄企画調査課長はじめ担当官と面談させて頂いた。主目的は地方創生事業の一環として、わが国が進める民間活力活用による地方創生と2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機としたスポーツを活用した地域の産業や観光の活性化についてである同行した岡山シーガルズの高田さゆりマネージャーから、産官学民連携による具体的な取組みが全国で展開されており、こうしたなか、岡山県においてもファジアーノ岡山、岡山シーガルズ、湯郷ベル、天満屋女子陸上競技部の活動はじめ、おかやまマラソンに代表される市民参加によるスポーツの催事には、県内外はもとより海外からも多くの観客が来岡している点を説明した。

さらに、岡山が持つ天の利、地の利と、この集客力を活かして、宿泊、飲食、みやげ物、特産品、観光、アフターコンベンションなど、スポーツ振興をきっかけに更なる産業振興や観光振興の力を伸ばし、岡山が日本一のスポーツ先進都市（スポーツの聖地）となることを目指して、オールおかやまの体制でストーリー性の高い事業モデルを検討し、地域全体が潤う産業・観光施策を推進する好機が到来していることを伝えた。

経済産業省としても、スポーツを活かした産業振興や観光振興の具現化に向けた手がかりや足がかりを、プロ、アマを問わずスポーツチームの活動環境の整備支援にすることを目指して、地域活性化策の検討・展開を施策に据えている点を説明頂いた。

そこで、2020年東京オリンピックにメダリストを送らんと努力研鑽を重ねている岡山シーガルズを例にとれば、Ｖリーグ機構が提示している条件を踏まえつつ、①岡山シーガルズ専用練習場及び「日本一女性に優しいアリーナ」建設の検討、②岡山シーガルズ組織改革、③広くおかやまのスポーツ活動を広報・事業推進するためのビジネスモデルの検討、を開始する準備が、経済界を中心に産官学金言が連携しながら進められていることを伝えた。

つまり、スポーツ振興、経済・観光振興、防災拠点など、国はさまざまな支援予算を用意しているが、それらを活用するためには厳しい条件や金額の上限などがあり、それを吟味、クリアしながら企画書を書く必要があり、活用できる国の地方創生予算の検討可能性について、指導を仰ぎたい意向を伝えた。

経済産業局からは、こうした取組みを進めるためのポイントや留意点、効果的な展開手法など、多くの専門的なアドバイスを頂けた。また貴重な情報交換や意見交換をすることができた。経済産業局の日ごろの活動内容や苦労話、岡山県内の自治体に対する意見、また他の中国４県との比較による特徴や相違点など、誠に有意義なアドバイスを数々頂くことができた。

２月16日　アリーナと産官学による複合施設を併設する提言書

岡山経済５団体で構成する岡山県経済団体連絡協議会（中島博会長）は、経済界連名で岡山市庁舎建替えに合わせたアリーナと産官学による複合施設を併設する提言書を、オールおかやまを代表して、大森雅夫岡山市長ならびに宮武博岡山市議会議長に提出した。アリーナと産官学による複合施設を民間の知恵を絞り岡山市のご理解とご協力を得ながら建設する事業の実現をめざした。

２月23日　JETRO理事長がシーガルズ訪問

日本貿易振興機構理事長来岡

政府の成長戦略では、日本企業の国際展開への支援や、日本を世界で一番ビジネスのし易い国にして世界からヒト、カネ、モノ、そして企業を呼び込むことが求められている。JETRO（日本貿易振興機構）は2003（平成15）年10月、日本貿易振興機構法に基づき、前身の日本貿易振興会を引き継いで設立された国の組織である。急速に変化する時代のニーズに対応し、質の高いサービスを機動的かつ効率的に提供、また、70カ所を超える海外事務所と本部（東京）、大阪本部、アジア経済研究所および貿易情報センターをあわせた40以上の国内拠点を有し、こうした国内外のネットワークを活用して、企業と政府、企業と企業、ヒトとヒトを「つなぐ力」で成長に貢献している。

その活動目的を、「日本の貿易振興に関する事業を総合的かつ効率的に実施すること並びにアジア地域等の経済及びこれに関連する諸事情について基礎的かつ総合的な調査研究並びにその成果の普及を行い、もってこれらの地域との貿易の拡大及び経済協力の促進に寄与することを目的とする。」と謳っている。

さて、この国を代表する機関のトップである石毛博行理事長が、2018（平成30）年２月23日、来岡され、岡山シーガルズ事務所を訪問した。迎えたのは、岡山商工会議所の梶谷俊介副会頭をはじめとする経済界、中国銀行、山陽新聞社、岡山大学、そして岡山シーガルズのスタッフ（岡山市は議会開催中により欠席）。

国は「未来投資戦略2017」（未来投資会議2017（平成29）年５月30日）において、地域経済好循環システムの構築をめざして「観光・スポーツ・文化」施策の中でスポーツ産業を通じた地域振興の推進を政策に掲げ、2025（令和７）年までに20箇所の「多様な世代が集うスタジアム・アリーナの実現」を目標に定めている。また、そのなかで、国はスポーツMBA開講による経営人材の育成確保、さらには女性や障害者等のスポーツ実施率の向上を最重点政策として掲げている。こうしたなか、民間活力活用による地方創生の取組みとして、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機とするスポーツによる地域産業や観光の活性化が同時に進められ、全国各地でスポーツを活かした街の活性化策が展開されている。

岡山県においてもファジアーノ岡山、岡山シーガルズなどのプロスポーツをはじめ、おかやまマラソンなどのアマチュアスポーツで地域を盛り上げ、国内外から多くの選手や観客が誘致され、宿泊・滞在を伴うスポーツを活かした交流人口の創出や観光や飲食をはじめアフターコンベンション企画の提供による地域経済の活性化施策が大きな成果をあげつつある。こうした取組みにJETROの力と知恵をお借りする依頼を石毛理事長に申し上げた。

つまり、JETROが掲げる「対日投資の促進に注力」するという目標と、スポーツで海外から来岡する人や企業を増やそうとするオールおかやまの目標は、一致できるのでは無いかと考えた。岡山シーガルズのファンは海外にも広がり、とりわけタイには約７万人のシーガルズファンがいると言われている。日本経済の活力を高めるためには、規制改革などの環境整備を通じて世界で最もビジネスのし易い国、そして観光面でも最も安心安全な国として、積極的に外国人や企業を誘致することが重要であると考えている点を強調して説明した。

こうした依頼に対して、JETROが目指す「Talk to JETRO First」では、JETROは外国企業にとって最初のコンタクト先となり、研究開発や雇用創出効果の高い分野で誘致に取り組んでおり、そこでシーガルズが持つ海外ファン組織とのコネクションは非常に強いものを持っているため、シーガルズも最初のコンタクト先であるという国際貢献の一翼を担う力を秘めているとの理解をお示しいただいた。

こうして、2018（平成30）年３月３日から、JETROのコーディネートでインドネシアとタイでシーガルズの活動をご紹介いただく運びとなった。

これを機に、2022（令和４）年３月末現在、JETROの支援により、岡山シーガルズのスポンサーである岡山企業５社が、岡山シーガルズが持つタイ国バレーボール協会とのパイプを活かしてタイ国企業とビジネスでの関係性を持つ仕掛けづくりにむけた勉強会を開始している。

２月14日　岡山県産業振興財団訪問

岡山県の産業イノベーションを支える拠点である岡山県産業振興財団へ三宅昇理事長を訪ね、スポーツを起点とした産業振興による地域活性化への協力要請をした。2020（令和２）年の東京オリンピック・パラリンピックでの国の目標・テーマは「女性のスポーツ参加率の向上」であり、スポーツ振興は心身の健康はもとより、健康寿命の延伸という、わが国の政策の要とも合致する。三宅理事長は、岡山県総合政策局長の経験があり、岡山県が岡山国体のおりに、シーガルズを誘致した経緯も熟知している。

３月23日、24日　東京でアリーナ建設に向けた広報活動

岡山におけるスポーツによる地方創生を目的に上京、スポーツ庁での説明会参加を核に、総務省、財務省、日本商工会議所、日本政策投資銀行、政策研究大学院大学、外資系公共政策コンサルティングファーム、弁護士事務所などを訪問して、意見交換を行った。

それぞれ立場や見識、専門性が異なるため、それぞれが貴重なアドバイスであり、多面的に理解が進み応援団を増やすことができた。

さらに、岡山県経済団体連絡協議会や岡山県バレーボール協会の会長であるナカシマホールディングスの中島博会長と都内で意見交換いただき、今後の活動の方向性について大所高所からご示唆を頂いた。

３月30日　岡山シーガルズ協議会設立の記者会見

４月３日の設立に向けて準備を進めてきた「岡山シーガルズの活躍に向けた民間活力活用推進協議会（略称：岡山シーガルズ協議会）」の内容について、岡山市の市政クラブにて、岡山商工会議所副会頭の梶谷俊介岡山トヨタ社長と岡山シーガルズ顧問として三村聡センター長が会見に臨んだ。

この様子は、岡山放送ニュースや、翌日の山陽新聞社会面で紹介された。

2018（平成30）年度

４月１日　小長啓一岡山大学全学同窓会会長がシーガルズを訪問

小長啓一岡山大学全学同窓会会長が、岡山商工会議所にある岡山シーガルズ事務所を訪れた。シーガルズから「岡山シーガルズの活躍に向けた民間活力活用推進協議会（岡山シーガルズ協議会）」について説明をさせて頂き、今後の活動計画と施策展開について、大所高所からご指導を頂いた。

同じ岡山大学草創期の卒業生である、岡山県バレーボール協会の中島博会長（ナカシマホールディングス株式会社代表取締役会長）も参加くださり、岡山シーガルズの活躍に向けた知恵を授けてくださった。

４月３日　岡山シーガルズ協議会　発足

経済界を核とした大学、医療界の熱烈なエネルギーにより、岡山商工会議所において「岡山シーガルズの活躍に向けた民間活力活用推進協議会（略称：岡山シーガルズ協議会）」が発足した。

本会は、スポーツをきっかけとして、更なる産業振興や観光振興の力を伸ばし、岡山が日本一のスポーツ先進都市（スポーツの聖地）となることを目指すために、経済界が中心となり広く産官学医金言民に呼びかけを行い、岡山大学からは槇野博史学長はじめ、岡山県医師会、岡山県銀行協会など関係する組織、団体のトップが同様に発起人に名を連ねて船出した協議会。そして、岡山県伊原木隆太知事、岡山市大森雅夫市長から、ご理解・賛同の意を得て、臨席いただいた。

発起人・常任理事（五十音順）

青山　興司　岡山シーガルズを応援する医師・病院の会会長
石川　　紘　岡山県医師会会長
岡﨑　　彬　岡山県商工会議所連合会会長（副代表理事）
梶谷　俊介　おかやまスポーツプロモーション研究会代表（幹事長）　越宗　孝昌
公益財団法人岡山県体育協会会長（副代表理事）

中島　　博　岡山県バレーボール協会会長（代表理事）　野﨑　泰彦　岡山県経営者協会会長
畫田　眞三　岡山県中小企業団体中央会会長
槇野　博史　国立大学法人岡山大学学長
松田　　久　一般社団法人岡山経済同友会代表幹事
松田　正己　一般社団法人岡山経済同友会代表幹事
松畑　熙一　学校法人中国学園中国学園大学学長
宮長　雅人　一般社団法人岡山県銀行協会会長
吉澤　威人　岡山県商工会連合会会長

発起人

伊原木隆太　岡山県知事
大森　雅夫　岡山市長

2021（令和３）年４月現在、岡山市のご厚意により、みずほ住座跡地の利用可能性について、建設プランはもとより、運営プランを含め、具体的な活動計画と収支計画からなる提案書づくりに着手した。2021（令和３）年４月現在、社名変更、岡山県内の経済界、マスコミ、銀行等の主要団体からの増資、新事業計画、就業規則の整備等の業務改革、財務体質の強化策、SDGsの推進等の社会貢献活動の展開に具体的な成果をあげつつある。

また、経済界より中長期的な視野で、DXアリーナ（健康寿命の延伸に資するイノベーション創出機能を持つデータ収集拠点としての整備）の可能性を検討したいとの意向が示された。

４月21日　日本計画行政学会中国支部大会で岡山シーガルズを紹介

広島大学を会場として、日本計画行政学会中国支部の理事会、大会、総会が開催された。三村聡センター長が「東京五輪を契機とするスポーツを利用した地方創生」のテーマで報告した。

４月22日　岡山シーガルズのご厚意

岡山大学まちづくりサークル「まちづくり研究会」の新入生を上級生と地元が歓迎する会が瀬戸内市裳掛の小さな拠点「あけぼのの家」で行われた。活動予算が乏しいため、岡山シーガルズのご厚意で、大型車両を出して大学と現地を送迎頂いた。大学からは、三村聡センター長と前田芳男副センター長が２台、合計３台で学生を送迎した。

岡山シーガルズの高田さゆりマネージャーから地域と共に歩むクラブチームとしての誇りをパワーに東京五輪で活躍したいと挨拶があった。

地域の皆様からも岡山シーガルズを応援してゆくとの熱い決意が表明された。

少子過疎化が急速に進む地域では、こうした活動を地道に継続してゆくしか無いと改めて確信した。

６月15日　岡山大学医学部バレーボール部顧問を訪問

岡山大学医学部にはバレーボール部があり鹿田キャンパスへ岡山シーガルズの高田さゆりマネージャーと共に、顧問の那須保友先生（岡山大学 大学院 医歯薬学総合研究科長）を訪ねた。

那須先生からは、岡山大学医学部バレーボール部の歴史や活動状況、そしてOB会の輝かしい医療界人脈についてお聞かせいただき、さらに、スポーツと健康、医療・ケアのお話について専門的な知見から興味深いお話とアドバイスを頂いた。

そして、現在、進めている岡山シーガルズの組織改革と海外交流プラン、専用練習場と優先して使えるアリーナ建設プロジェクトのアウトラインを説明申し上げ、那須先生から医学部バレーボール部として、アドバイスを頂き、さらに岡山シーガルズと医学部バレーボール部との交流試合などの企画も話題にのぼった。

７月８日　岡山シーガルズ事務所被災

西日本は、数十年に一度の広範囲な記録的な大雨により、岡山市東区にある岡山シーガルズの事務所も、７月７日はボートがないと近づけない程の大水により床上まで浸水、宿泊機能を持つ建物は大型冷蔵庫２台が数メートル動くなど、泥水が施設深くまで押し寄せ、再起不能と思われるほどの多大な被害に見舞われた。

選手、スタッフ総出による懸命な復旧作業が朝から日没まで続けられた。全体の作業の手順をお話しすると、一斉に取り掛かり、あれよあれよという間に、廃棄すべきもの、残すべきものを選別しながら、会議机や椅子、什器、家具などを、流れ作業で被害を免れた部屋や庭に運び出した。次に泥を部屋から室外へかき出し、部屋をキレイに拭いてから、部屋に戻すという作業を超スピードでこなした。選手の皆さんが手や足を怪我しないように、何度も何度も声をかけた。

７月13日　平島団地復旧作業へ学生派遣

７月16日、８時30分に学生たちが地域総合研究センターに集合、ボランティア活動の諸注意を説明してから２台の車で現地へ向かった。活動拠点である平島団地公民館で受付を済ませ汚泥の洗浄作業を実施した。公民館の清掃にめどが立ったため、最後は岡山シーガルズ事務所周辺の側溝に堆積した泥をかき出す作業を手伝った。こうして、岡山市東区平島団地地区における学生ボランティア活動は、９時30分開始、15時あがりで、けがや熱中症も無く無事に終了、平島町内会の皆さんや岡山シーガルズの皆さんに挨拶をして帰路についた。

いまできる支援活動は、小さくとも、何か出来る活動を行うことが大切であると実感した。

13. スポーツを活かしたまちづくり活動～岡山シーガルズの支援

7月23日・30日「SDGsで拓く！スポーツによる地方創生」河本昭義監督登壇　「SDGsで拓く！スポーツによる地方創生－東京五輪を活かしたまちづくりとイノベーションの創出－」と題して、スポーツをテーマにしたSDGsシンポジウムが岡山大学創立五十周年記念館を会場にして開催された。250名を超える参加があった。

このシンポジウムは、岡山大学が「スポーツ庁　2018（平成30）年度スポーツ産業の成長促進事業『スタジアム・アリーナ改革推進事業（先進事例形成支援）』」に応募し、採択されたことを受けて、「スポーツによる地方創生」をテーマに、代表者らによる講演・パネルディスカッションを行い、SDGsを基本理念としたスポーツによる持続可能なまちづくりを討論したもので、主催は、おかやま地域発展協議体、岡山シーガルズの活躍に向けた民間活力活用推進協議会、おかやまスポーツプロモーション機構である。後援は、岡山県経済団体連絡協議会、岡山県商工会議所連合会、岡山県経営者協会、（一社）岡山経済同友会、岡山県中小企業団体中央会、岡山県商工会連合会、（公財）岡山県産業振興財団、西日本旅客鉄道（株）、（公社）おかやま観光コンベンション協会、（一社）日本スポーツツーリズム推進機構、岡山県、岡山市、岡山大学、（株）中国銀行、岡山県医師会、山陽新聞社、山陽放送（株）、岡山放送（株）、テレビせとうち（株）とオールおかやまがそろい踏みして開催した。

総合司会は、岡山商工会議所理事・事務局長の鶴岡良孝（シーガルズ協議会事務局長）がつとめた。オープニングでは、「SDGsが導くイノベーション・シティとしての国際学都おかやま」と題して岡山大学の槇野博史学長が世界を見据えたグローバルな観点から地方創生をめざす必要性を説いた。基調講演Ⅰでは「まちづくりへの多様な市民参加が市民を育てる」と題して、おかやまスポーツプロモーション研究会の梶谷俊介代表、基調講演Ⅱとして「スポーツで拓くSDGsを踏まえた地方創生の道筋」と題して岡山シーガルズの顧問の三村聡センター長が、それぞれの持論を展開した。

パネルディスカッションでは、「徹底討論！スポーツによる持続可能なまちづくり」と題して、パネリストに公益財団法人岡山県体育協会の越宗孝昌会長、スポーツ庁から仙台光仁参事官、岡山市の大森雅夫市長、岡山大学から高橋香代理事・副学長、そして岡山シーガルズの河本昭義監督が登壇、コーディネーターを岡山大学大学院教育学研究科の高岡敦史講師が担当した。

13. スポーツを活かしたまちづくり活動～岡山シーガルズの支援

８月30日、31日「スポーツビジネスジャパン2018」に参加

シーガルズ協議会の有志メンバーが、大阪梅田で開催された「スポーツビジネスジャパン2018」に参加した。アリーナやスタジアム運営の実際、スポーツを活かしたビジネスモデルの考え方、そして新たなスポーツとして市民権を得ることができるか注目されているｅスポーツの普及・発展可能性など多くのセッションで貴重な情報を収集した。

得た知識を岡山でのスポーツを活用した地方創生に役立てていく。

９月２日　ファン感謝祭でのタイとの連携企画

全国から大勢のシーガルズファンが笠岡スポーツ総合体育館に集合、タイから10名のファンが来岡した。いろいろな企画やアトラクションが続き、会の最後に、岡山大学のスポーツまちづくりサークルが特製のシーガルズ必勝祈願絵馬を作製、タイの皆さんの寄せ書きを添えてタイのファンと岡大生から選手の皆さんに贈呈、大きな拍手が送られる中で、チームを代表して、山口舞選手からタイのファン代表に記念品が返礼された。

会場では笠岡市の小林嘉文市長と意見交換をさせて頂いた。

９月11日　岡山シーガルズを支援する医師・病院の会

岡山プラザホテルで開催された、岡山シーガルズを支援する医師・病院の会にお招き頂いた。岡山の著名な医師が集われた席で、アリーナ建設によるスポーツ、健康、医療・ケア拠点創出の必要性を話題提供させて頂いた。

平素は、シーガルズの選手の皆さんとお話をする機会はないが、この日は和やかに談笑させて頂いた。

９月27日　財務省理財局来岡

財務省理財局の一行が公務で岡山入りされた。

古谷雅彦理財局次長以下、総勢４名の皆様にお時間を頂いて、わが国の財政問題や地方創生の方向性などについてレクチャー頂き、さらにシーガルズ協議会が進めるアリーナ構想について相談に乗って頂き、なかなか難しいテーマであるが、防災拠点機能をしっかり付加すべきであるとの示唆を頂いた。

10月24日　激励会でお願い

リーグ公式戦がスタート。それに先立ち、岡山プラザホテルにて激励会が開催された。

経済界のトップ、岡山県知事、岡山市長、赤磐市長はじめ、300名をはるかに超えるファンが集い、会の最後に、三村聡センター長が岡山シーガルズ顧問の立場から登壇させていただき、専用練習場と優先して使えるアリーナの建設に向けて、いまこそオールおかやま、とりわけ民間の力を結集して実現して参りましょうと、心を込めて皆様方にお願いさせて頂いた。

10月20日　岡山大学医学部バレーボール部との交流

岡山大学医学部バレーボール部と岡山シーガルズの練習試合が開催された。

最初は緊張していた学生たちだが、第３セットは、プロを相手に11点とった。そのあと河本監督に白 熱指導を頂いた。

岡山大学医学部にもシーガルズファンが増えた。

11月８日「スポーツビジネス国際展開セミナー」

岡山駅運動公園口のANAクラウンプラザホテル岡山において、JETROがスポーツ庁から2018（平成30）年度スポーツ国際展開基盤形成事業として受託された「スポーツビジネス国際展開セミナー」を開催した。

【主催者説明】

「政府は成長戦略において、スポーツの成長産業化を図る方針を掲げ、アジアをはじめ世界では生活習慣病など新たな健康課題が生じ、中高所得者層を中心に健康増進のためのランニングやサイクリング等、スポーツブームが起きています。今後、スポーツとヘルスケアをキーワードに、スポーツや健康用品やサービスを海外市場に提案、「見る」「参加する」等、スポーツツーリズム体験を売りに日本の地域に海外から誘客を図るビジネスには成長の余地が大きくあります。今回のセミナーではアジアを中心とする海外の健康・スポーツ市場の動向や海外市場の開拓に先行的に取り組む日本企業の事例が紹介いたします。」

プログラムは下記のとおり。

１．講演「ASEANで高まる健康意識 ―拡大する健康・スポーツビジネス―」

ジェトロ・ヘルスケア産業課 長谷明日香　氏

２．インバウンド、アウトバウンドの国際展開事例

〇株式会社今治.夢スポーツ

〇株式会社サンフレッチェ広島

〇大歩危観光株式会社（RiverStation West-West:観光複合施設）

３．質疑応答

12月４日　岡山市との意見交換を本格準備

2020年東京オリンピック・パラリンピックに合わせて、バレーボール界においてはＶリーグ機構改革が進行するなか、全国唯一の地域が支える女子バレークラブチームとして活躍する岡山シーガルズは、専用練習場や優先して利用できるアリーナを有さないなど、Ｖリーグ機構改革への対応面で重大な課題に直面している。

岡山シーガルズの活躍に向けた民間活力活用推進協議会（以下「シーガルズ協議会」という）は、活動拠点となる専用練習場と複合機能を有するアリーナ（以下、「新アリーナ」という）の建設が必要であり、新アリーナには、①スポーツの殿堂としての研究教育機能、②産業・観光振興など経済成長機能、③市民、県民はもとより中四国広域防災拠点としての安心・安全機能、という３つの機能を具備する必要があると考えている。

また、アリーナ建設のコンセプトは、国が最も重要であると位置づけるスポーツ振興策が「わが国における女性のスポーツ参加率の向上」であり、新アリーナを「日本で一番女性に優しいアリーナ」にすることを目標に掲げて検討を重ねてきた。

ときあたかも、岡山市の市庁舎は老朽化が進み耐震面でも不安を抱えることから、政令市及び県都の顔としてふさわしい新たな市庁舎の建設が検討しており、本協議会では、現在の岡山市本庁舎の建替えにあわせて、新アリーナの建設を推進することにより、民間の知恵と資金を複合的かつ総合的に活かし、従来の自治体サービス機能に、スポーツによる活力創出機能や新アリーナに防災機能を付加することで、地域社会の持続可能性及び安心安全性を最大限に高める機能を有する、岡山市の新たな中枢拠点を整備することを活動の目的に据えて、それに対応するアリーナの基本コンセプトと具体的な設計図（案）の作成を行った。

それを受けて岡山商工会議所に常任理事、理事はじめ協議会関係者が一堂に会して、基本コンセプトと具体的な設計図（案）の説明会を開催、大いに議論を深めることとなった。

まず、冒頭で中島博代表理事から挨拶があり、はじめに梶谷俊介幹事長から幹事会での議論経過について説明、次に設計を依頼したパシフィックコンサルティングの小野崎研郎氏から新アリーナの具体的な構想についてプレゼンテーションを受けた。さらに日本政策投資銀行の桂田隆行氏から、全国のアリーナ構想の進捗状況と岡山の独自性について、客観的な分析に基づく解説を頂いた。

続いて、岡山大学槇野博史学長が、SDGsの視点を踏まえたスポーツを起点に健康・医療分野に産業イノベーションを創出する道筋を提示した。

本日の議論を踏まえて、岡山市との意見交換に入ることを決定した。

12月１日・12日「人権擁護功労賞」

「人権擁護功労賞」は、人権擁護委員の活動等を通じて、関わりのある企業やNPO法人等の団体及び個人の中から、人権擁護上顕著な功績があったと認められた方に対し、法務大臣又は全国人権擁護委員連合会会長が表彰を行う制度。

本制度は、このような団体等の取組を広報することによって、人権に配慮した更なる取組の機運を高めることを目的として、2006（平成18）年度に創設されたものであり、12月１日、東京千代田区イイノホールにおいて、法務大臣表彰状受賞者として３団体、法務大臣表彰状（ユニバーサル社会賞）受賞者として２個人、全国人権擁護委員連合会会長表彰状受賞者として２団体、法務大臣感謝状受賞者として２団体、全国人権擁護委員連合会会長感謝状受賞者として４団体が表彰され、岡山シーガルズが、全国人権擁護委員連合会会長感謝状を授与された。

法務省コメントは次の通り

『「人権スポーツふれあい教室」の実施女子バレーボールの市民クラブチーム「岡山シーガルズ」を運営する同社は、小学校においてバレーボールを通じて助け合いや思いやりの大切さを伝える「人権スポーツふれあい教室」を実施している。また、「女性の人権ホットライン」を始めとする各種人権相談窓口を広報するポスター作成への協力、「全国中学生人権作文コンテスト」岡山県大会の後援、「人権擁護委員の日」における街頭啓発活動への参加等を行っており、これらの活動は、法務省の人権擁護機関が行う人権啓発活動への支援及び協力において、顕著な功績があるものとして評価された。』

それに対して、岡山シーガルズを代表して、神田千絵さんは「バレーボールは一人だけでは成り立たないスポーツです。選手同士がお互いを理解し、思いやりながらボールをつなぎます。お互いの人権を尊重し、助け合うことの大切さを重んじるからこそ、チーム創設以来、人権啓発をはじめとする活動に取り組んでくることができました。この度の栄えある受賞を励みとし、市民クラブ岡山シーガルズを支えてくださる皆様への感謝を忘れず、健全な心と体の育成を目指してこれからも活動して参ります。」

と述べた。

12月14日『(仮称) 日本一女性が輝くシーガルズアリーナ』構想中間報告

スポーツ庁から採択頂いたアリーナ建設に係る調査事業である「スタジアム・アリーナ改革推進事業

①先進事例形成『(仮称) 日本一女性が輝くシーガルズアリーナ』」構想についてスポーツ庁や経済産業省に対して、三村聡センター長が、進捗状況の中間報告をさせていただいた。

ご指導を頂いている、日本政策投資銀行の桂田隆行氏にも臨席いただいた。　企画書通りに事業を遂行していることを確認いただいた。

1月30日　日本商工会議所広報部来岡

日本商工会議所丸山範久広報部副部長が、公務で来岡した。　日本経済の今後の予測話や元気になりつつある岡山経済の話題で盛り上がり、日本商工会議所へシーガルズ協議会の件で相談に伺った経緯があり、岡山シーガルズの高田さゆりマネージャーが合流して、アリーナ整備について近況を報告した。

丸山副部長は、バレーボールに精通されており、次回、東京での再会を約束した。

3月3日～6日　タイ国訪問

岡山大学地域総合研究センターは、女子バレー岡山シーガルズの支援を通じてSDGs 推進で目指す、「4．質の高い教育をみんなに：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する～2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。」の実現に向け、女子バレーが盛んなタイ国を訪問、タイと岡山の具体的な連携を提案するとともに、現地調査を実施した。

出張の期間は3月3日～6日（現地二泊、機中一拍)、参加者は、岡山大学地域総合研究センターか

ら三村聡センター長、高田さゆり氏（岡山シーガルズマネージャー）、近藤桂司氏（中国銀行バンコク駐在員事務所長）、清水裕介氏（中国銀行バンコク駐在員事務所）、渡辺暁氏（ダイヤ工業海外営業部門）、平聖子氏（スポーツを専門分野とする通訳）。

現地では、タイバレーボール男子の公式試合観戦と体育施設及び周辺調査、そして、タイ王国バレーボール協会を訪問、岡山及び岡山シーガルズのスポーツを通じた連携可能性についてSDGsの視点を踏まえながら意見交換を実施した。面談頂けたのは、タイバレーボール協会のMR. SOMPORN CHAIBANGYANG会長、SHANRIT WONGPRASERT CEO、JAKSUWAN TOCHAROEN主席秘書官の３名。2020年東京五輪、タイ王国バレーボール協会創立60周年、そして岡山シーガルズ創立20周年など、大きな節目を機会とした、とても具体的な「岡泰交流」交渉をまとめることが出来た。

また、中国銀行バンコク事務所訪問では、タイのアジアにおける位置づけや経済状況、国や都市の課題、タイ人の国民気質、岡山企業の進出状況、バンコク事務所の活動領域についてレクチャー頂き、さらに、シーガルズのタイにおける今後の展開とその課題に関するアドバイス、去年のタイ訪問をきっかけとしてタイのシーガルズファンを岡山へファン感謝会に合わせて観光を兼ねて受け入れた実績報告、タイバレーボールのスポンサー企業である味の素、ダイキン工業、明治製菓などの動き、岡山県や経済界のタイへのアプローチ、岡山へのタイからの観光インバウンドの環境づくり、などについて情報交換や意見交換を行った。

滞在時間が限られる中、駆け足で、国立競技場見学、大型商業施設見学、チュラロンコン大学訪問、シーガルズファンとの交流、世界遺産アユタヤ遺跡見学とダイヤ工業による現地薬局ヒアリング、市場見学などを実施した。女子バレーボールの活動を契機として、SDGsが掲げる「質の高い教育をみんなに：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の実現に向けて、大きな一歩を刻めた出張であった。

３月22日「おかやま地域発展協議体」

岡山大学本部棟６階にて、今年度最後、そして平成最後の「おかやま地域発展協議体」が開催された。

参加メンバーは、岡山経済同友会、岡山商工会議所、岡山県、岡山市、倉敷市、中国銀行、山陽新聞社、岡山大学。

大きなテーマはSDGsの具体的な展開について、そしてシーガル ズ協議会の進捗状況と今後の展開について。突っ込んだ議論が展開された。

2019（令和元）年度

４月８日　2018/2019シーズン報告会

岡山国際ホテルで、岡山シーガルズの2018/2019シーズン報告会が開催された。

冒頭で岡山シーガルズの2018/2019シーズンはプレミアムリーグ９位の成績でシーズンを終えた。報告会では、河本昭義監督のシーズンを振り返る活動報告があり、経済界の重鎮や大森雅夫岡山市長はじめ自治体長のスピーチが続いた。途中、選手が整列、キャプテンの山口舞選手やオリンピック日本代表の宮下遥選手、そして新人の挨拶があり、また、シーガルズ協議会幹事長の梶谷俊介岡山トヨタ社長から、アリーナ建設に向けた会場の皆様へ協力を求めるスピーチがあった。

岡山大学がスポーツ庁の予算で実施した、アリーナ建設に関する調査報告書３点を参加者に持ち帰り頂いた。

６月３日・６月10日　岡山シーガルズ創立20周年

2019（令和元）年６月１日は、シーガルズがクラブチームとなり創立20周年を迎えた記念すべき日である。６月３日は岡山商工会議所を借りて、プレス発表として記者会見を開催し、これを機に、チームの母体企業であった株式会社ウォークの社名を岡山シーガルズ株式会社と改め、代表取締役に河本昭義監督が就任することを発表した。

まず、市原誠二社長からクラブチームとしてのこれまでの歩みが苦労話を交えながら披露された。そして河本昭義監督の社長就任に合わせて、市原社長の退任と顧問への就任、そして河本新社長から、経営理念とこれからの目指すべき道筋について報告がなされた。

【クラブチーム創立20周年】

岡山シーガルズは、実業団チームであった東芝を離れ、一時は富山に本拠地を置いた時代があるが、監督の河本昭義氏が、岡山県笠岡市の出身であることから、岡山国体を契機に岡山県から招聘要請を受け、岡山に本拠地を置くクラブチームとして再出発を果たした。爾来、岡山を中心とした市民が支えるチームとして、ここまで歩みを進め、2020（令和２）年の東京五輪を控えた2019（令和元）年、クラブチームとして創設20周年を迎えた。バレーボールは、世界220か国、約40億人のスポーツ人口を有し、わが国でも学校体育からPTA対象種目、またママさんバレーまで多くの人たちが取り組めるスポーツとして、子供たちの教育や道徳の面から、社会人スポーツとして健康増進やコミュニティの活性にも貢献する国民的な競技種目であり、また、体育館さえあれば、子供から高齢者まで継続して、しかも比較的コスト面でも安価に楽しめる種目である。こうしたなかで、岡山シーガルズは、プロチームですから、

試合に勝つことを目標に掲げない訳ではないが、それを第一義にはしていない。入団した選手ひとりひとりの個性を大切にしながら、まず人間づくりから始め、自分をみつめ己の劣っている点を鍛える。そこでは、互いが歯車を合わせ、力を一つに集中して発揮できるよう、練習のみならずバレーボール教室や地域への積極的な社会貢献活動、海外チームとの親交・親善を通じて、選手の心とチームの結束力を鍛錬する。そして市民の皆様との交流経験を通じて、時には人の心の温かさに触れ、時には叱咤激励をいただくことで、日本人が大切にしてきた真の「絆」と「思いやりの心」を礎として、チームメイト同士が手を携えチームプレーで高みをめざしている。

つまり、岡山シーガルズには、己を過信した個人技に長けた技術屋的な選手は必要としない。互いの個性を尊重しながら選手間の関係性を築き上げ、結束力が生まれてはじめて、個々の能力が開花すると確信して指導にあたっている。

こうした活動が実を結び、チームが弱体化して窮地に陥った折にも、県民の皆様を中心に、全国、そして世界から多くのファンが励ましのエールを送ってくださることで、地域に愛されるチームとして、今日まで20年間、よく頑張った、と深く感謝している。これからも、皆様方に愛着をもって見守って頂きながら、チーム一同が、身を慎み人倫の道を守ることを旨とし、スポーツ文化向上と女性が輝く社会の実現に向けて地道な活動を続け、また、岡山県出身の選手から全日本の代表として世界で戦える人材の育成・輩出を目標に、地域の皆様と共に歩んで参りたい。

ここまでの歩みを振り返りながら、こうした感謝の思いを込めた、創立20周年を語る「社名変更」を発表する記者会見であった。具体的な組織改革や財務改革については、三村聡センター長が顧問の立場からから記者に答えた。岡山大学が地域資源としてお役に立てた記念すべき日となった。

６月３日の記者会見に続き、６月10日は、プラザホテル岡山で感謝会が開催された。河本昭義監督からの振り返りと、記者会見でのポイントとなった、経営母体であった株式会社ウォークから岡山シーガルズ株式会社へ社名変更、経営陣も河本昭義監督が、正式に代表取締役社長に就任した件、そして高田さゆり取締役マネージャーが、ここまでの足跡をスクリーンで紹介しながら、その折々にお世話になって支えて下さった方々に登壇いただき、思い出を語っていただくシナリオで会は進行した。

岡山シーガルズは、市民の皆様に支えられながら活動するクラブチームである。会の結びに、新たなチームの門出にふさわしく、山口舞キャプテンの引退に伴い、新キャプテンに、シーガルズで13シーズン目を迎える吉田みなみ選手と日本代表の経験もある川島亜依美選手の２人が就任、二人から挨拶を受け、めでたくお開きとなった。

岡山大学が組織改革のお役に立てたと思料する。

７月６日から９日　タイ訪問

岡山シーガルズの創立20周年記念事業の一環として、SDGsの観点を踏まえ、そして東京五輪のレガシーを具現化するために、タイバレーボール協会会長やタイ国商工会議所会頭、それにトヨタ自動車の現地法人などを訪問して、今回の岡山シーガルズのタイ遠征を契機として、岡山とASEANの交流を深めるための交渉を、岡山商工会議所副会頭の梶谷俊介岡山トヨタ社長を団長として、さらに山口舞さん（中国学園大学勤務）と共に担当した。東京五輪におけるレガシーが言われる中で、タイ国バレーボール協会とは今回の国際大会参加を通じて、深い信頼関係を構築することが出来た。オリンピック以降も世界ランキング14位を誇るタイとの関係を積極的に展開することを確認した。

タイ国商工会議所会頭との会見でも山口さんは有名で、SDGs活動も視野に入れた様々な連携協力を支援いただくことをお約束頂けた。

帰国に際しては、シーガルズのファン代表が空港まで見送りに来てくれ、土産までお気遣い頂いた。

８月７日　イオングループ役員と山陽マルナカ幹部

女子バレーチーム岡山シーガルズを支えて下さっている有力企業であるイオングループの役員と地元の山陽マルナカの幹部が、岡山シーガルズを陣中見舞いに訪問した。

岡山商工会議所ビルにあるシーガルズ事務所で、活動報告や今後の展開予定について情報交換を行った。

そのあと、選手たちの日頃の様子を見学、さらに役員は着替えコートへ入り、選手と汗をかいた。

８月８日　オープンイノベーション研究会設立とアリーナ建設を提案

岡山県経済団体連絡協議会では、８月５日の代表者会議での議論を踏まえて、「オープンイノベーション研究会の設立とアリーナ建設の必要性に関する提案」について岡山市長と岡山市議会議長に提案を行った。岡山シーガルズ側から、高田さゆり取締役と三村聡センター長が随行、陪席した。

１．日　時

令和元年８月８日（木）

市長　14：30～15：00

議長　15：15～15：45

２．場　所

岡山市役所市長室、市議会

３．提案先（敬称略）

岡山市長　大　森　雅　夫

岡山市議会議長　浦　上　雅　彦

４．提案者

岡山県経済団体連絡協議会座長　中　島　　博

岡山県商工会議所連合会会長　　松　田　　久

（同行者）

岡山商工会議所副会頭　　梶　谷　俊　介

その他関係者

５．これまでの経緯

・2018（平成30）年２月16日、当協議会から岡山市・岡山市議会へ「岡山市本庁舎の早期建替えと民間主導によるアリーナ及び複合施設の併設」について提言を実施。

・2019（平成31）年２月18日、岡山市から上記提言に関し、実現可能性について本年９月末日までに提示する旨の要請あり。

・今回は、その要請に基づいて当協議会から標記の提案を行うもの。

以上

その要諦は、次の通り。

『2019年のG20（Group of Twenty：日米欧や新興国のリーダーが一堂に会する20カ国・地域首脳会議）における保健大臣会合の岡山市開催及び2020年の東京五輪を契機として、スポーツを活かした健康長寿のまちづくりと産業創造による地方創生とG20及び東京五輪のレガシーの具現化を進めることを目的と

して、経済界、岡山県、岡山市や関係自治体、岡山大学や関係大学、金融機関、マスコミなどが連携協力し、産学官の知恵やエネルギーを最大限に引き出すことを狙いとする「スポーツによる健康･医療オープンイノベーション研究会（以下、本研究会という）」を設立する。

本研究会では、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）が掲げる17の目標のうち、目標３の「すべての人に健康と福祉を」、目標９の「産業と技術革新の基盤をつくろう」、目標11の「住み続けられるまちづくりを」、目標17の「パートナーシップで目標を達成しよう」の４つの目標を活動の中核に据え、スポーツを起点に岡山地域で暮らす人々が、健康長寿で幸せを実感できるまち、そして健康・医療産業創造により活気にあふれる持続可能な未来都市を実感できるまちの創造をめざす。

本研究会では、次の４つのテーマの具現化に向けた研究を実施する

①スポーツを活かした地方創生に向けた可能性検討

スポーツを活かした健康・医療をはじめとする「オープンイノベーションの創出」と岡山地域における女子スポーツ選手活躍の強みを活かした「日本一女性が輝く都市」の創造（健康・医療関係の研究からスタートするが、同時に、出産、子育て、食育、女性の働き方とダイバーシティ、アンチエイジング、ジェロントロジーまで幅広いテーマを適宜研究する）

②超スマート社会への対応に向けた可能性検討

Society 5.0（超スマート社会）の流れから、晴れの国と交通結節地というスマートモビリティ、スマートシティに最適な天の利地の利を活かした、岡山商工会議所が提唱する未来都市「人と緑の都心１kmスクエア」構想の実演に向けた協議と「西日本一安心・安全なまちづくり」を念頭に置いた防災拠点機能の活用可能性の検討

③国際学都おかやまの実現に向けた可能性検討

国際都市（岡山大学が提唱する国際学都おかやま）を視座とした、5,000人規模が集えるグローバルなスポーツイベントの開催や国際学会等の学術イベントの開催を核とした「世界から人々が集うまちづくり」

④事業モデルを実装するアリーナ（おかやまアリーナ（仮称））整備の可能性検討

これら①～③の研究活動や事業を実現するために、日本政策投資銀行が提唱する「スマート・ベニュー」の発想による機能、関係施設集約型の拠点づくり（企業単位での参加による「岡山市健幸ポイント」推進拠点としての診断・指導・データ収集機能や岡山シーガルズが世界大会を誘致できるアリーナの仕様に基づき、トライフープ、リベッツなどのプロスポーツやママさんバレーボール、各種子供スポーツ教室、市民マラソンはじめアマチュアスポーツの殿堂・シンボルとしての拠点整備）

【研究からビジネス展開へ向けた事業可能性の検討】

①専門家集団の協力を得て産官学で事業体を組成

岡山県内企業や経済団体を主役として、スポーツ・健康・医療・ケアにまつわる内外企業が広く集い、広く新たな産業モデルを喚起・創造するためのオープンイノベーションラボを設置、

IoT・AI活用による健康領域を起点としたビッグデータ収集拠点を創造することにより、岡山県経済団体連絡協議会および構成団体とその加盟関連・企業・団体、広く健康・医療ケア事業を展開する先進企業、おかやま地域発展協議体、自治体、岡山県産業振興財団、大学や研究機関、医療・ケア機関、民間や国の金融機関、政府機関、マスコミが相互に連携し、SDGsを念頭に置いた、共同研究の促進に向けたオープンイノベーション創出への橋渡し事業を行う事業体を組成する（複合施設の創設と運営機関の設立）。

②事業モデルの可能性検討

おかやまアリーナ（仮称）を利用する、岡山シーガルズはじめ海外を含むプロスポーツ団体、ママさんバレーボールはじめアマチュアスポーツ団体、そして子供達のスポーツ活動支援やキッズスペース（託児施設）の確保による子育て世代のスポーツ参加率の向上、さらには高齢者の健康増進活動を積極的に支援することにより、「日本一女性が輝くまちづくり」の拠点の実現に向けた事業活動の展開可能性の検討を行う。

また、おかやまアリーナ（仮称）及び岡山市と連携した駐車場運営事業及び地域経済への波及効果が見込めるアリーナ利用者を顧客対象とするテナント誘致、チケット販売の支援、観光・飲食・宿泊事業の支援、おかやまの特産品の広報・販売、交流人口及び移住定住人口の増進など、地方創生に資する事業の可能性検討を行う。』

岡山市長、市議会議長共に、一定以上の理解を示して頂き、いよいよ岡山市を加えた、具体的な議論がスタートできる流れが見えてきた。

11月２日から16日　タイ王国ナショナルチーム来岡

11月２日～４日、タイ王国女子バレーナショナルチーム来岡、公式戦見学、交流練習

東京五輪カウントダウンそしてSDGs活動の一環として、女子バレー岡山シーガルズがタイ国ナショナルチームを岡山へ招聘した。岡山大学地域総合研究センターは、JETRO、日本政策投資銀行、中国銀行、岡山経済界と連携して、この企画をSDGs活動の一環として位置付け、誘致交渉役を担当した。

そこでは、岡山シーガルズの支援を通じてSDGs推進で目指す、「４．質の高い教育をみんなに：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する～2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。」の実現に向け、女子バレーが盛んなタイ国を訪問、タイと岡山の具体的な連携を提案した。

その念願がかない、11月２日から16日まで、タイのナショナルチームが岡山へ来日した。2020年東京五輪、今年はタイ国バレーボール協会創立60周年、そして岡山シーガルズ創立20周年など、大きな節目であり、具体的な「岡泰交流」交渉をまとめることが出来た。

今後は、女子バレーボールの活動を契機として、SDGsが掲げる「質の高い教育をみんなに：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の実現に向け、さらには岡山県や経済界のタイへのアプローチ、岡山へのタイからの観光インバウンドの環境づくり、などについて情報交換や意見交換を行う流れを醸成したいと考える。

13. スポーツを活かしたまちづくり活動～岡山シーガルズの支援

13. スポーツを活かしたまちづくり活動～岡山シーガルズの支援

11月19日～20日「スポーツビジネスジャパン2019」で話題提供

さいたまアリーナで「スポーツビジネスジャパン2019 together with スタジアム＆アリーナ2019」が開催された。東京五輪のカウントダウンがいよいよはじまり、日本と世界中のスポーツビジネスに関わるプロや関係者が一堂に集った。SDGsを視座に置き、地方創生や都市の持続可能性を具現化するために全国的にアリーナやスタジアムを建設する流れが加速する事実を目の当たりにした。プログラムB-14「スポーツで日本とアジアを繋ぐ」（11月20日 16：15－17：00）では、日本政策投資銀行地域企画部の桂田隆行氏の進行により、Jリーグパートナー 事業部長兼国際部長の山下修作氏、Bリーグ経営企画グループ・国際グループマネージャーの斎藤千尋氏と共に、岡山シーガルズ顧問の立場で三村聡センター長が登壇した。市民主役のクラブチームである岡山シーガルズのアジア展開を紹介、東京五輪とSDGs地方創生を来場者の皆様に披露した。また、タイ王国との関係性で注目すべきテーマがJリーグから紹介された。

１月10日～14日　タイ王国バレーボール協会と協定締結

タイ王国ナショナルチームがオリンピック出場をかけた試合の応援を目的に、さらに岡山シーガルズとタイ王国バレーボール協会との協定締結を目的にタイへ出張した。

期間は１月10日～14日、メンバーは岡山シーガルズの高田さゆり取締役マネージャー、元岡山シーガルズのキャプテンでロンドン五輪メダリスト、現在は中国学園大学に所属する山口舞さん、そして三村聡センター長の三名である。

現地では、大会前夜祭が開催されており、早々にタイ王国バレーボール協会のMR.　SOMPORN CHAIBANGYANG会長、SHANRIT　WONGPRASERT　CEO、JAKSUWAN　TOCHAROEN主席秘書官はじめ多くの皆様方から歓迎を頂き、晩餐の席をご用意いただいた。舞台では、SOMPORN会長自らが、マイクを持って参加した関係者をもてなされ、岡山シーガルズの紹介を頂き、到着早々ではあったが壇上へあがり、エールに応えて、タイチームの勝利を祈念させて頂いた。岡山からは赤磐市に吟味頂いた、採れたての苺をどっさり土産に持参した。

翌日１月11日、宿泊地として準備頂いた、Sima Thani Hotelの２階が大会開催本部となっており、そこで調印式に臨んだ。先方はSOMPORN会長、SHANRIT CEO、JAKSUWAN主席秘書官の３名、当方は高田さゆり、山口舞、三村聡の３名、そして通訳兼コーディネーターをお願いしている平聖子（Seiko Taira）氏。ここまでの岡山大学の担当は岡山シーガルズとタイ王国バレーボール協会との協定に際して、岡山シーガルズ河本昭義監督の意向を反映した協定書の文案づくり、協定書翻訳、ここまでの交渉。

調印式では、三村センター長から協定書の内容に従い、その趣旨確認をさせて頂き、また、女子バレーの発展を通じてSDGsが目指す、「４．質の高い教育をみんなに：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する～2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。」の実現に向け、両国が子供向けバレーボールの指導で連携することを確認、さらに岡山シーガルズのタイ友好関係へかける思いを高田さゆりマネージャーが熱く伝えた。

東京五輪を契機とした地域レガシーの創出を果たすという重要な協定を結ぶことが出来たことで、岡山シーガルズのグローバル戦略が本格的にスタートした。また、岡山大学が地域社会へシンクタンク機能を発揮するために顧問として派遣されたミッションの一つを果たすことが出来た。

今後、岡山を構成する産官学が連携しながら、これまで以上に岡山シーガルズを盛り立て、応援することで、タイ王国ナショナルチームとの交互交流が持続的に発展を遂げ、SDGsが目指す目標・ゴールを念頭に置きながら、より良い関係として東京五輪を契機とした地域岡山のレガシーを構築して参りたいと確信したタイ国訪問であった。

１月25日・26日　岡山シーガルズ準優勝の瞬間を観戦

国立代々木競技場第一体育館において2019-20 V.LEAGUE DIVISION１ WOMEN SEMI-FINALとFINALが連日開催された。

１月25日のセミファイナルでは、岡山シーガルズ ３（26-24.25-14.19-25.23-25.15-７） ２ デンソーエアリービーズ、岡山シーガルズがデンソーエアリービーズをフルセットで下し決勝戦のファイナルへ出場した。

１月26日のファイナルでは、フルセットの激闘の末に、岡山シーガルズ ２（22-25.26-24.25-23.14-25.7-15） ３ JTマーヴェラスのセットカウント２-３、岡山シーガルズは惜敗した。2020年度バレーボール女子日本代表チーム、火の鳥NIPPONの登録メンバーが決定、岡山シーガルズからは、セッターの宮下遥選手とミドルブロッカーの及川真夢選手が選出された。準優勝を遂げた岡山シーガルズの健闘を讃えるとともに、いよいよ東京五輪に向けて、宮下遥選手と及川真夢選手のお二人には頑張って頂きたいと願った。

応援にきた財務省の古谷正彦審議官と前向きな試合の感想会をいたし、これからの岡山シーガルズの活躍を祈念して帰路についた。

２月25日　高梁でシーズン準優勝報告に参加

岡山シーガルズのキャプテン吉田みなみ選手が、シーズンの準優勝の報告に市長室を訪問、三村聡センター長が近藤隆則市長（岡山大学卒業生）との報告会に合流した。

2020（令和２）年度

８月６日「吉井川流域DMO有識者会議」で岡山シーガルズ活動を共有

新型コロナ禍の影響で、会議が開催されぬまま時が過ぎて行く　ケースが急増した。

そうしたなかで、延期されていた吉井川流域DMO有識者会議が、和気駅前、元中国銀行を改装した地域活動拠点で開催された。

事務局よりDMOの活動報告を受けた。数ある企画の一環として実施された岡山シーガルズのタイナショナルチーム招聘（インバウンド企画）が、最も具体的な活動成果であった。

２月11日　NHK大河ドラマ「青天を衝け」に金田修佳選手登場

NHKの大河ドラマ「青天を衝け」の番組宣伝フィルムが全国的に放映された。

渋沢栄一ファンとして、そのフィルムには、大谷翔平を育てた北海道日本ハムファイターズ監督の栗山英樹氏、乃木坂46の山崎怜奈さん、サントリーHD代表取締役社長の新浪剛史氏、そして岡山シーガルズの金田修佳選手の４名が登場した。

優秀な選手は、心技体の一致に知を備えていると言われるが、金田選手は岡山の古墳群にも興味があるとか、彼女の見識の深さに感服した。

2021（令和３）年度

５月27日　東京五輪聖火（トーチ）リレーin岡山

東京2020オリンピック聖火リレーは、2021（令和３）年３月25日（木）に福島県のナショナルトレーニングセンターＪヴィレッジでグランドスタートを実施し、東日本大震災から10年目となる節目の年に行われる聖火リレーとして、復興の歩みを進める被災地をはじめとする全国各地を隅々まで巡り、日本全国の人々に希望と勇気を与えた。

５月19日は、岡山市の「岡山城下の段」、２日目の20日は津山市の「津山中央公園グラウンド」でランナーが走らずに聖火をつなぐ「トーチキス」が開催された。こうしたなかで女子バレー岡山シーガルズの元キャプテンで、ロンドンオリンピック銅メダリストの山口舞さんら83人が聖火をつなぎ鳥取県へ引き継いだ。山口さんが「スポーツには素晴らしい力があると思う。そういう部分を少しでも、私も何かしらの活動をしながら伝えていけたらいいなと思う」との記念談話を残した。

東京五輪2020関係のセンター活動～2021年度 五輪地域レガシーの構築支援活動

IOC（ International Olympic Committee）によれば、レガシーとは「長期にわたる、特にポジティブな影響」と定義され、オリンピックやパラリンピックの開催を契機として、社会資本の整備、経済的な恩恵を受けるシステム構築、スポーツによる文化財の創出などが思料され、スポーツ、社会、環境、都市、経済の５分野を挙げてる。東京五輪2020の開催決定を受けて、開催予定都市においては、各種の施設やインフラの整備、スポーツ振興等が図られた。本センターでは、地方創生の観点から、岡山地域における東京五輪レガシーの創出支援活動を実施してきた。

さて、レガシーの概念については、しばしば有形のインフラ整備があげられる。その思考は、先の1964（昭和39）年東京五輪開催時による高速道路網や新幹線の整備、体育館の建設など高度成長の原動力となったインフラ整備が代表的である。一方で、現代社会における課題解決に向けては、有形インフラの有効性は認められるが、知恵を出し合い無形のソフト施策を構築するスタイルも重要であると思料する。本センターが、五輪地域レガシーの創出に向けて支援した活動を下記に紹介したい。

(1)有形インフラの構築について

女子バレーボール岡山シーガルズの専用練習場確保と公式戦で優先して使えるアリーナ建設について、2015（平成27）年度以降、建設に向けて支援活動を続けてきた。その実現に向けて、東京五輪の開催を契機として、更なる弾みをつけて、建設への具体的な事業へ着手することができた。

（２）無形ソフト化戦略の展開について

女子バレーボール岡山シーガルズが、世界から多くのナショナルチームを岡山へ誘致続けてきた実績に基づき、ASEAN諸国で世界ランキングの最上位に位置するタイ国のバレーボール協会との関係性を、東京五輪を契機として強化した。

2021（令和３）年度は、新型コロナ禍の影響があるなかで、東京五輪の開催に合わせて、スポーツ国際交流による産業振興を、スポーツ庁の国際業務展開とJETROが進める日本企業の海外展開施策の支援を受けながら、オンラインファン感謝会や岡山シーガルズスポンサー企業とタイ国企業とのオンライン商談会を実施展開した。

① 岡山シーガルズとの連携による地方創生

（ア）第１回「タイにおけるスポーツ産業」勉強会

岡山シーガルズのタイでの交流をきっかけとした岡山企業のタイ進出を目標とした勉強会第１回「スポーツ関連産業の 輸出促進プロジェクト（シーガルズプロジェクト）」が、７月29日、岡山商工会議所４階会議室にて開催された。

新型コロナ禍の影響により、講師はJETROバンコック（タイ）をオンラインでつないでタイからの話題提供となった。

参加者一同、今後の前向きな展開に期待を寄せた。参加企業は以下の５社（五十音順）。

オージー技研株式会社（ 医療機器、福祉機器及び健康機器の製造、販売）
ダイヤ工業株式会社（サポーター・コルセット等の医療用品メーカー）
株式会社トンボ（学生服、体操服の製造販売）
林原株式会社（トレハロースをはじめとする機能性糖質と機能性色素の研究開発、製造販売）
株式会社丸五（地下足袋や安全スニーカーの開発製造）

冒頭、岡山大学地域総合研究センターは協力機関の立場から挨拶した。

岡山シーガルズの目指すべき国際展開の方向性は、スポーツ庁のHPに掲載されている。

その一部を紹介する。

（イ）ドミニカ共和国女子バレーボールチーム岡山五輪合宿

世界ランキング９位のドミニカ共和国女子バレーボールチームが岡山でオリンピックの事前合宿に訪れ岡山シーガルズが対応を担当、７月15日、ZIPアリーナで岡山シーガルズと練習試合が開催された。新型コロナ感染のリスクがあるため、様々な制限を実施した環境での開催のなかで、シーガルズスタッフが全員で準備にかかっていた。その苦労談を会場でヒアリングさせて頂いた。

試合は入場料無料、約300名の観客が、ソーシャルディスタンスをとりながら、声援禁止のなかで、拍手のみでの観戦となり、３セットマッチ、試合は１対２でドミニカ共和国が勝利した。どちらが点を入れても、会場からは惜しみない拍手が送られた。

首都圏のほとんどでは無観客でのオリンピック開催が決まり、生のオリンピック観戦は叶わぬなかで、訪れた観客は、生のTOKYO2020観戦ができたと言えよう。

市民が支えるクラブチームならではの活動だと位置づけ、本センターも、こうした社会貢献活動を支援することを伝えた（ドミニカ共和国は東京五輪で日本チームに勝利した）。

（ウ）タイ国ファン向けオンライン感謝会

タイに10万人を超えるファンを持つ岡山シーガルズは、JETRO岡山と共催、タイ王国バレーボール協会協力、岡山大学地域総合研究センター後援により、９月12日（日本時間18：45）、オンラインによるファン感謝会を開催した。

約10,000人のファンが視聴の快挙である。タイのファンからは、数々の熱心な質問を頂き、時間の許す限り選手たちが答えた。また、タイの数多くのメディアで、今回のイベントの様子が伝えられた。こうしてシーガルズの魅力をタイに発信すると同時に、選手自らが、岡山県内のスポーツ・健康・医療産業分野でシーガルズスポンサー企業の魅力をタイに発信することができた。スポーツを起点に岡山とタイをつなぐファン交流と産業交流が本格スタートする契機となった。本センターは、企画からリハーサル、本番までお手伝いを担当した。

JETROはじめスポーツ庁、岡山経済界、関係自治体の協力の賜物である。

岡山シーガルズの公式HPから開催案内を引用する。

このたび、岡山シーガルズは日本貿易振興機構岡山貿易情報センター（以下、ジェトロ岡山）と連携し、『岡山シーガルズ×タイ王国 オンラインイベント2021』を開催することとなりましたのでお知らせいたします。当チームは2019年にチーム設立以来初となる海外遠征としてタイ王国を訪問した他、同年11月には東京五輪予選を控えたタイ王国ナショナルチームの強化合宿受入を行いました。また、2020年１月には同国バレーボール協会と競技力向上や交流などを目的とした協定を結ぶなど、タイ王国と岡山シーガルズとは固い関係性に結ばれています。今回のオンラインイベントは、当チームと同国の関係性を活かし、県内企業の関連産業を発信することで同産業の知名度向上やマーケット需要喚起を目指す取り組みとして行うものです。同時に、現地のファンとの交流イベントの開催により両地域の文化交流促進を図ります。イベントは新型コロナウイルス感染拡大などを考慮すると共に、地域を問わずに交流を図ることが出来るSNSを活用したイベントとなります。

１．開催日時　2021年９月12日（日）　18時～19時（日本時間）
２．事業運営　主催：ジェトロ岡山、岡山シーガルズ
　　協力：岡山大学 地域総合研究センター
３．開催形式　岡山市内からオンライン配信
４．出 演 者　岡山シーガルズ：河本昭義監督、川島 亜依美選手、宮下 遥選手、
　　金田 修佳選手、及川 真夢選手
５．開催概要　岡山シーガルズ×タイ王国交流活動紹介、トークショー、
　　チーム紹介映像上映（スポンサー企業の商品を選手が紹介）

（エ）第２回「タイにおけるスポーツ産業」勉強会

JETRO岡山主催『タイ経済概況とスポーツビジネスの可能性 アジア新世代ビジネスの展望』をメインテーマに、10月14日、第２回シーガルズプロジェクト勉強会が岡山商工会議所を会場に開催された。国士舘大学政経学部の助川成也教授とタイ王国大使館工業部のバウオン・サッタヤウティポン公司参事官のお二人が講師として招かれた。

タイ王国の総勢を概説いただいた後に、健康・スポーツ分野におけるタイ国民の事情や成長分野、岡山企業のタイ進出についての可能性について、平易に解説頂いた。

進行を担当されたJETRO岡山の相原君俊所長の配慮により、意見交換の時間もお取りいただき、参加企業から具体的な質問が出され、両氏から丁寧な返答、解説を受けた。

スポーツの力で岡山にグローバル企業が増えることを祈念した。

本センターも顧問の立場から質疑応答に参加、ASEANマーケットの重要性とスポーツ交流を契機としたタイ国との交流の具体的なシナリオ案を提起した。

山陽新聞、日本経済新聞の取材を受けた。

（オ）第３回「タイにおけるスポーツ産業」勉強会とスポーツ庁来学

第３回となる「タイにおけるスポーツ産業の可能性を考える」勉強会が、オンラインでタイ国を結び、11月25日、岡山商工会議所で開催された。

JETRO岡山の相原君俊所長の挨拶に続き、本センターからも挨拶をさせて頂いた。今回の講師は、アビームコンサルティング株式会社執行役員の久保田圭一氏を招聘、プロフェッショナルコンサルの講演は、的確な現状分析に加えて、直面する課題に対して鋭い考察を加えられ参加企業からも具体的な質問が数多く出された。また、タイ国と参加企業との具体的なビジネスモデルの提案を受けることができた。

こうして、タイにおけるスポーツ産業のビジネスモデル検討に着手した。
オリンピック開催成果を将来に地域レガシーとして活かす取り組みに歩みを進めることで基本合意がなされた。

同夜、JETRO岡山事務所で、11月末でJETRO本部へ栄転される、同事務所の都築佑樹係長の壮行会が開催された。岡山シーガルズの丸山亜季さんから花束が贈られ、都築さんのこれまでのご苦労をねぎらい、更なる飛躍を皆で祈念した。

また、こうした流れに呼応して、11月26日、スポーツ庁国際課の高田雄飛氏が、岡山大学地域総合研究センターに来学され、意見交換を行った。岡山側の参加者は、JETRO岡山相原君俊所長、岡山シーガルズ高田さゆり取締役、本学荒木秀治学務部長、三村聡センター長の４名である。

高田雄飛氏からタイプロジェクトへの引き続きの支援表明を頂いた。

東京五輪の成果を、地域版のレガシーの確立に向けて活かせるように歩んで参ることを全員が確認した。

（カ）岡山シーガルズの活躍に向けた民間活力活用推進協議会

岡山シーガルズの活躍に向けた民間活力活用推進協議会（略称：シーガルズ協議会）の常任理事会が、12月27日、午前11時より岡山商工会議所３階会議室で開催された。

13. スポーツを活かしたまちづくり活動～岡山シーガルズの支援

本会は、2018 年４月３日、スポーツをきっかけとして、更なる産業振興や観光振興の力を伸ばし、岡山が日本一のスポーツ先進都市（スポーツの聖地）となることを目指す趣旨で、経済界が中心となり広く産官学医金言民に呼びかけを行い、発足した協議会である。 発足式には岡山県伊原木隆太知事、岡山市大森雅夫市長も理解・賛同の意を示し臨席した。また、岡山大学、岡山県医師会、岡山県銀行協会などもトップが同様に発起人に名を連ねての発足となった。

今回の協議会では、冒頭、同協議会の会長が中島博（岡山県バレーボール協会会長）から、中島基善（岡山県経済団体連絡協議会座長）に交代、中島博会長は名誉会長に就任する議案が満場一致で可決・承認された。

議案に従い議事に移り、事務局より、これまでの活動内容について説明があり、2018（平成30）年に発足した同会が、岡山市役所本庁舎の建て替えに合わせてアリーナの建設を提案、民間主導での建設を提起した。これに対して岡山市は建設に際して経済界が提案した資金計画が100億円を見積もったため、現実的でないとの判断から難色を示し、対案として北長瀬地区の岡山市営住宅跡地のみずほ住座跡地を検討の候補地として示した。それを受けて経済界と岡山シーガルズが中心となり民間活力を活かした再提案を本年９月に行った。このプランは建設15年後に施設を岡山市が買い取る計画内容であったため、これについても岡山市が難色を示した。一方で、岡山市は室内プロスポーツ団体や市民、そして広く岡山県民が利用できるアリーナの必要性を認め、同時に公設による建設可能性を示唆した。

それを受けて、今後の動きについて議論がなされ、民主導の建設から公設民営方式に計画を改め、その方針に基づく新たな提言書がまとめられた。本会では、その内容についての議論を行った。進行は中島基善会長、新たな提言書の内容説明は、事務局を務める岡山商工会議所理事・事務局長の鶴岡誠良氏が行った。それを受けて総括コメントを中島会長、補足説明を松田久岡山商工会議所会頭が行った。会は提言書案の裁決にうつり、満場一致で採択された。

その要諦は下記の２点であり、公設民営の方式で建設に向けて正式な検討を開始することを提言するというもの。

岡山大学は本センターが中心となり、2017（平成29）年から５年間にわたり、本会の支援を社会貢献活動とシンクタンク機能発揮の観点から実施してきた。12月27日の常任理事会には、岡山大学からは槙野博史学長の命を受け、三村聡センター長が代理として出席した。

1．岡山市北区北長瀬の「北長瀬みずほ住座」跡地に、観客席３千人～５千人規模のメインアリーナを有し、サブアリーナなど付帯施設を完備したアリーナを建設する。
2．アリーナの建設・運営において、経済界等が推進する寄付金や企業版ふるさと納税による資金を建設費に組み入れた「公設」と、指定管理者制度およびＰＰＰ制度の利点を考慮した民間事業者のノウハウによる「民営」の仕組みを導入する。

なお、12月27日、午後２時から、中島基善会長、松田久岡山商工会議所会頭、河本昭義岡山シーガルズ株式会社社長が、岡山市長ならびに岡山市議会議長を訪問して、決議された提言書を提出した。

これにより、岡山市のアリーナ建設構想が具体的な検討段階に入ることとなった。

岡山シーガルズの活躍に向けた民間活力活用推進協議会
常任理事会　会議出席者名簿

（順不同・敬称略）

会　長	中　島　　博	（岡山県バレーボール協会会長）
		代理：槇本　　亨　（岡山県バレーボール協会理事長）
副会長	越　宗　孝　昌	（（公財）岡山県スポーツ協会会長）
副会長	松　田　　久	（岡山県商工会議所連合会会長）
【常任理事】	青　山　興　司	（岡山シーガルズを応援する医師・病院の会会長）ご欠席
	中　島　基　善	（岡山県経済団体連絡協議会座長）
	野　﨑　泰　彦	（岡山県経営者協会会長）
	代理：西谷　治朗	（岡山県経営者協会専務理事）
	宮　長　雅　人	（一般社団法人岡山経済同友会代表幹事）
	代理：久山　裕士	（一般社団法人岡山経済同友会専務理事）
	梶　谷　俊　介	（一般社団法人岡山経済同友会代表幹事）
	畫　田　眞　三	（岡山県中小企業団体中央会会長）
	代理：脇本　　靖	（岡山県中小企業団体中央会専務理事）
	田　村　正　敏	（岡山県商工会連合会会長）
	代理：深井　　太	（岡山県商工会連合会事務局長）
	槇　野　博　史	（国立大学法人岡山大学学長）
	代理：三村　　聡	（国立大学法人岡山大学地域総合研究センター長）
	松　畑　熙　一	（備前市教育委員会教育長）
	松　山　正　春	（公益社団法人岡山県医師会会長）ご欠席
【ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ】	河　本　昭　義	（岡山シーガルズ監督）
	高　田　さゆり	（岡山シーガルズマネージャー）
	神　崎　浩　二	（岡山県経済団体連絡協議会事務局長）
【事務局】	髙　橋　邦　彰	（岡山商工会議所専務理事）
	鶴　岡　良　孝	（岡山商工会議所理事・事務局長）
	高　木　久　志	（岡山商工会議所会員サービス課長）

以上

（キ）第４回「タイにおけるスポーツ産業」勉強会とスポーツ庁オンライン商談会

2021（令和３）年度最終回となる、第４回「タイにおけるスポーツ産業」勉強会が、２月７日、岡山商工会議所会議室にて開催された。

今年度は、JETRO岡山の指導により、岡山シーガルズのスポンサー企業を中心として、スポーツ、健康、医療産業に関係する企業５社のタイ市場への展開を狙いとして勉強会を重ねてきた。

その成果としては、タイファンとオンラインによる感謝会の実施、さらにはスポーツ庁が推進するスポーツ産業の国際展開に合わせた、オンライン商談会の実施まで進めることができた。ここまでの歩みは、JETRO岡山の相原君俊所長の卓越した指導力の賜物であると思料する。同時に、岡山シーガルズの、

これまでの海外ナショナルチームとの友好関係を礎とした実績とプロとしてのノウハウが良好なコラボレーションを実現したと確信した。

本センターとしては、東京五輪の経験を地方でのレガシーとして後世に残すために、地方創生の観点から支援活動を継続してきた。

なお、2018（平成30）年４月の本協議会発足時の山陽新聞記事を下記に示す。

以上

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部「地方創生人材支援制度」

岡山大学は井原市へ派遣

第２次安倍内閣の発足に伴い設立された、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部及び内閣府地方創生推進室が公募した「地方創生人材支援制度」により、岡山大学からは、地域総合研究センター三村聡副センター長が、井原市へ派遣されることとなり、2015（平成27）年３月20日、25日、26日の３日間、内閣府と首相官邸で開催された研修会と激励会に出席した。

同制度は、地方創生に積極的に取り組む市町村に対し、意欲と能力のある国家公務員や大学研究者、民間人材を、首長の補佐役として派遣し、地域に応じた「処方せんづくり」を支援する事業である。その第１期生として、2015（平成27）年４月１日から、2017年（平成29）年３月末までの２年間、三村聡副センター長は、地方創生のアドバイスを行う職員（井原市長の補佐役である地域創生戦略顧問、参与等の非常勤特別職）として活動を開始することとなった。

2015（平成27）年３月20日、内閣府で研修会が開催され「地方創生人材支援制度」の趣旨が説明された。同制度では、人口５万人以下の小規模な地方自治体の地域活性化の取り組みを後押しするため、国の職員、大学の研究者、シンクタンク研究員が第１期生として全国69市町村へ派遣されることとなり、冒頭、石破茂地方創生担当国務大臣から「地方創生に失敗すると国家が持続できないという強い危機感を持っている。主役は市町村であり、皆さんは、４月から順次着任し、国が来年３月末までにすべての自治体に求めている「地方版総合戦略」の作成支援などに当たり、地域の一員となって共に汗をかいてほしい」と訓話があった。第１期派遣者の内訳は、国家公務員42人、大学の研究者15人、民間シンクタンクの研究者12人。国家公務員は副市長など常勤の幹部職に、大学や民間からの派遣者は大半が非常勤で顧問や参与などを務める。研修会では､消滅都市に警鐘を鳴らす東京大学増田寛也先生（元総務大臣)、小泉進次郎内閣府大臣政務官兼復興大臣政務官などの講話を受けた。研修会後に総理官邸で開催された激励会では、安倍晋三内閣総理大臣から地方創生にかける思いが伝えられ、岡山県選出の加藤勝信内閣官房副長官から「井原市をよろしく頼みます」と挨拶を受けた。

安倍晋三内閣総理大臣の「平成27年度地方創生人材支援制度激励式」での訓示を総理大臣官邸HPから引用する。

「本日は、地方創生人材支援制度第１期生の皆さんとお会いできることを大変うれしく思います。第１期生というのは、なりたくても、なかなかなれない訳でありまして、正に皆さんしかなれなかったと、このように思います。今回は、北は北海道の鷹栖町から南は沖縄県の石垣市まで、総勢69名が全国各地の市町村に派遣されることとなりました。派遣される市町村のうちで最も小規模な自治体は、人口が345人の新潟県の粟島浦村と聞いています。皆さんは、様々な志を持って自ら地域で働くことを志願されたと、選択された、というふうに伺っています。恐らく不安もあるとは思いますが、地方創生に大いに力を発揮していただくことを期待しています。『落下傘のように地域に入るのではなく、地域で何かをやりたいと思っている人と組み、東京のネットワークがあるからこそできることがある。』、東京から四国に移住してITを活用した仕事づくりに携わっている方の言葉であります。皆さんの目線で多くの魅力を発見し、市町村長の良き補佐役として、地域で新たな風を巻き起こしていただきたいと思います。正に皆さんは、安倍政権がこれから進めていく地方創生の中核になっていただく皆さんだと思います。正に、皆さんの成功が地方創生の成功につながっていく訳であります。第１期生というのは、正にフロ

ンティアだと思います。そして、皆さんの仕事もフロンティアであり、地域の皆さんと共に何か新しい事をやりたい。こう思っているんだろうなと思います。しかし、もちろん各地方には、それぞれの様々な事情もあります。地域に行ってですね、いろんな人たちと会って、話を聞きながら、何をすればいいのか、ということを日々考えながら、頑張っていただきたいと思いますし、皆さんの能力を大いに生かしてもらいたいとも思います。この中には、私の地元の長門市に行っていただく、木村さんがいると思います。どんな問題があるか、どんな課題があるかは、よく私が人間関係も含めてですね、教えてあげたいと思います。地方には様々な濃密な人間関係があります。まず、その事をよく理解しながら、どのようなネットワークを構築をしていき、みんながどんな思いを持っているのか、何を悩んでいるのか、どんな夢を描いているのか、そういうことを皆さん、その地域に住んでいる皆さんと一緒になって、感じていただきたいと思います。そして正に、各地域がこれから活力を持って伸びていく、そういう地域になっていくために、皆さんが、２年間と聞いていますが、この２年間で大きな実績を残していただくことを期待したいと思います。皆さんが志を果たされることを大いに期待して、私の激励の挨拶としたいと思います。頑張ってください。」

「地方創生人材支援制度」により井原市へ着任

井原市役所において、瀧本豊文市長より「元気いばら創生戦略本部」（本部長は瀧本市長）の創設が宣言され、井原市が直面している課題解決に向けた創生戦略構築の方向性について訓話があった。続いて、三村聡副センター長に地域創生戦略顧問として辞令交付があり、公務に精進する旨を伝えた。その後、「元気いばら創生戦略本部」が置かれた井原市地場産業振興センターへ移動して看板除幕式があり、続いて、井原市近代彫刻界の巨匠・平櫛田中（ひらくしでんちゅう）氏の大作「鏡獅子」がモチーフのゆるキャラ「でんちゅうくん」が､「いばら営業部長」に任命された。井原市が持つ地域の強みを伸ばし、自立型の地域再生を呼び起こすために、井原市が直面する人口減少と高齢化進行への対応策、雇用創出に向けた産業の活性化など幅広な施策立案への支援を目指すことが派遣者（第１期生）に求められた。

午後から、三宅生一副市長に、井原市の主要ポイントへ案内され、高梁川支流の小田川沿いの桜の名所をはじめ様々な名所旧跡や景勝地、NHK大河ドラマはじめ映画のロケで使われる「歴史公園中世夢が原」、そして沖縄県石垣島、長野県南佐久郡南牧村野辺山と並ぶ「美星天文台」、伝統芸能の「備中神楽」、食材では、地酒「蘭の誉」、美星町の特産「豚」「牛」やその加工品、美星バーガー、蕎麦打ち道場、良質乳と極上ジェラート、新鮮野菜と加工品、県立井原高校による花卉・園芸活動、主要産業のひとつである「井原デニム」などの説明を受けた。

その一方で、急速な人口減少や企業誘致の停滞などの課題が説明された。岡山県総社市の総社駅から同市の清音駅を経て広島県福山市神辺町の神辺駅に至る井原鉄道の乗降客の減少については、井原鉄道井原駅構内と2015（平成27）年４月１日にオープンした「井原バスセンター」を訪れ、地域モビリティの再構築の必要性について理解した。こうして、井原市の概要や総合計画はじめ井原市の諸計画、そしてデータを理解することからはじめ、なるべく多くの市民に接して、井原市の創生に向けた方向性を明らかにする業務がスタートした。

担当課長ヒアリング

地域創生戦略顧問として創生戦略の構築に向けて、井原市の諸計画及び主要事業を把握するため、５

月１日から随時、協働推進課を皮切りに関係部署の担当課長ヒアリングを実施した。

＜参考＞実施日

５月１日　協働推進課　外４課
５月７日　教育総務課　外２課
５月13日　スポーツ課　外４課
５月14日　健康医療課　外２課
７月１日　企　画　課　外１課

井原市「元気いばら創生戦略会議（第１回会議）」開催

井原市では「元気いばら　まち・ひと・しごと創生　人口ビジョン・総合戦略」の策定に向けて「元気いばら創生戦略本部」（市長が本部長）が設置され、建設経済部長を地域創生監に任命、所管部署として2015（平成27）年４月から地域創生課が設けられ、地域産業の活性化や定住促進、商工業の振興、観光資源・特産品のPR・イベントなど、元気なまちを次世代に継承するため、地域創生に係る施策の検討が始まった。

この地域創生課には４つの係があり、地域創生係（地域創生施策の総合推進、土地開発公社との調整、課内の庶務及び他の係の主管に属しない業務）、魅力発信係（地域創生事業の発信、営業活動、「でんちゅうくん」に関すること）、商工係（商工（鉱）業の振興、貿易、工業等振興奨励金に関すること、企業立地及び工業適地調査、商工（鉱）業の統計調査、計量器に関すること、労働福祉、関係機関及び団体との連絡調整、その他商工（鉱）業に関すること）、観光係（観光資源の調査及び開発、公園等の観光地及び観光施設の維持管理、経ヶ丸グリーンパークに係る諸施設の運営、広域観光、温泉、物産品の育成、開発指導等、関係機関及び団体との連絡調整、その他観光及び特産品に関すること）に分けて一体運営を開始した。

そして2015（平成27）年６月４日、創生戦略を立案する外部組織として、「元気いばら創生戦略会議」が設置された。委員は19名で、外部有識者（岡山大学）、行政機関（岡山県備中県民局）、商工関係団体（井原商工会議所など）、各種団体及び公募委員で組織され、井原市の総合戦略の策定に関して、意見や提言を頂き、これまでの総合計画に基づき実施された施策の吟味や新たな施策策定に向けた議論を頂くことになった。６月４日は、第１回目の会議として、冒頭、市長から挨拶があり、続いて選任された委員から自己紹介があり、続いて、会長、副会長の選出があった。会長には、岡山大学地域総合研究センター前田芳男准教授が選ばれた。副会長はNPO法人みんなの集落研究所の阿部典子首席研究員、井原商工会議所の川井眞治会頭が選ばれた。協議では、前田会長の進行により、事務局から「元気いばらまち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略策定にあたっての基本的な考え方」が示され、それを受けて、全委員より意見や感想が述べられた。また、今後の進め方について了解を頂き、地域創生監の挨拶で閉会した。市民参加による地方創生の核となる戦略会議のスタートにより、本格的に地方創生が動き出した。

地方創生人材支援制度報告会

2015（平成27）年６月24日、地方創生人材支援制度報告会が合同庁舎４号館で開催された。
石破大臣はじめ、担当官から講話があり、続いて参加者全員が活動状況を報告した。続いて、会場を総

理官邸へ移して、代表者４名が、安倍首相の前で報告した。

総理大臣官邸で行われた安倍総理挨拶を総理官邸のHPから引用掲載する。

「地方創生人材支援制度がスタートをして、４月に第１陣として各地域に派遣された皆さん、そして、第２陣として７月に地方に赴く皆さんに、今日は、お集まりをいただきました。３月20日の壮行会の時には、地域の濃密な人的ネットワークの中に入って、地域の皆様の思いを受け止めながら、地域のために頑張ってもらいたいと申し上げたところです。ただいま、皆さんから報告がございました。まだ、４月から２ヶ月しか経っていないわけですが、さっそく様々な取組が結実している。頼もしく思ったような次第でございます。皆さんは大変、地域の皆様から期待をされているのだろうと思います。各地域には、それぞれの歴史もありますし、人間模様があるわけです。ここが、政策をちゃんと実行していく上においては、大切なことですから、その面においても、ぜひ皆さん、地域の皆様との人的なネットワークを作りながら、そうした人間模様も理解しながら、物事を前に進めていってもらいたいと思います。全て合理的に前に進んでいくわけではございません。しかし、皆さんは、基本的には皆さんの政策立案力で勝負をするわけでございますから、同時に、その政策を実際に実行していくことが大切なのだろうと思っております。成長戦略の第３弾を近々取りまとめるわけですが、その中におきましては、ローカルアベノミクスの重要性について、しっかりと位置付けてまいりたいと思っています。皆さんは、各市町村長さんたちの補佐役としての仕事ぶりが期待されているわけですが、先ほど申し上げました通り、即戦力として、ぜひ結果を出していただきたい。そして、地域において、正に地域の皆様の思いを感じ取っていただくと同時に、皆さんの新たな視点とともに、『政策力を持って地域の新しい地平線を切り開いていくんだ。』、という気概を持って頑張っていただきたいと思います。我々も大いに期待をしておりますし、皆さんがその期待に応える仕事をしていただいていることを誠にうれしく思っております。そして、さらにまた、明日、各地域に戻って行かれるわけでしょうが、さらに地域の皆様と楽しみながら結果を出していただけることを期待しています。」。

第２回元気いばら創生戦略会議

2015（平成27）年７月６日、「第２回元気いばら創生戦略会議」が井原市地場産業振興センター３Fの経営研修室にて開催された。産官学勤労言や公募で選ばれた委員に加えて市の職員もメンバーに加わり、会長をつとめる前田芳男准教授の進行で５チームに分かれてワークショップが開始された。

ウォーミングアップとして、井原市でお気に入り（風景やスポット、お店や資源など何でもOK）をひとつ、そして逆にまちの課題をひとつ挙げて、それを高校生に説明することを想定しながら、黄色のポストイットに書く作業からスタート、出来るだけ具体的に、そして市の職員は議会答弁のような表現にならないように前田会長がアドバイスした。また、思いつかない、という回答もありと、ワークショップへの参加が初めての方への配慮をした。そして、書き終わったところで、模造紙の左上あたりへ貼り付けてもらい、全員が張り終わったタイミングで、自己紹介を兼ねて、各人がその理由を報告しあった。

次に、緑のポストイットに「具体的に何が良かったから、井原市に今まで住んできたのか」との思いを、青のポストイットには「井原でいま出来ることは何で、ここまでやれたら良いまちになるよね」といった具体的な施策を書いてもらう作業に入った。

参加者が書きやすいように具体的な事例を挙げて説明を行い、書き終わった段階で、最初の人が読み上げながら模造紙に貼り、同じ意見の方がいれば、「私も同じです」と言って、模造紙に貼るというルー

ルで実施した。こうして、次々と全員が説明し終わるまで作業が続けられた。そして、そのチームで出された意見や施策案として、自分が一番気に入った内容をひとつだけ黄色のポストイットに書き出してもらい、そこまでの作業が終了したら、そのチームに一人を残して、後の人は別のテーブルへ移動した。つまり、メンバーを変えて次のワークショップに臨むスタイルをとり、席替えが終わったタイミングで、まず、移動しなかった人が、これまで自分のチームで議論されてきた要諦を、他のチームから移動してきた方々に披露した。それを起点に、他から来た人が順番に自己紹介を兼ねて、自分が持ってきた黄色のポストイットを示しながら、自分のチームがこれまで議論してきた内容を説明した。つまり、各チームで話し合われた内容を全員が共有する作業が行われた。

そして、最後の作業として、前田会長から、井原市が生んだ彫刻家、平櫛田中（ひらぐしでんちゅう）の名言「いまやらねばいつできる、わしがやらねばたれがやる」を引用して、緑のポストイットに①「わたしがやらねばならぬこと」、青のポストイットに②「いまやらねばならぬこと」を書き出す作業に入り、その内容をチームごとに代表者が決意表明として発表した。

そこで発表・提示された内容を下記に掲げる。

第１班

1．職業と地域づくりの分業化（平日の昼間は仕事、夜と休日は地域づくりに取り組めるまちづくり）

2．新規就農を促進するためのご近所組織の構築（安心して就農できる受け入れ体制の構築）

第２班

1．日本綿布を核としたデニムの街いばらの体制づくり

2．ここ井原はデニムの街であるということを来街者に自信を持ってPRできる受け入れ体制の構築

第３班

1．日本星空３選である美星の星を活かした仕事作り

2．井原の豊かな環境資源（例えば水）を守り育てるまちづくり

第４班

1．高校生が自宅から安心して通学できるスクールバスの導入（コミュニティバスの充実）

2．井原市が生んだ新体操界の社会人人脈を活かして、ジュニアの養成に力を入れるスポーツ振興によるまちづくり

第５班

1．自然環境や気候風土の良さを引き出し、例えば自給自足をテーマにした「青空市」を開催する（身近に出来ることからはじめよう）

2．子育て世代が安心して生活できるように、おじいちゃんやおばあちゃんのパワーをもっと引き出し、例えば廃校舎を活用したフリーマーケットを開催して、その収益を保育料に廻して、無料化を図るなど、市民参加で子育て世代を応援するシステムを構築する

阿部典子副会長（みんなの集落研究所首席研究員）からコメント、前田会長の講評とコメント、そして三村顧問からアドバイスを述べ、最後に川井眞治副会長（井原商工会議所会頭・日本綿布株式会社社長）の挨拶で会議は終了した。最初は緊張気味だった参加者も、全員が笑顔で活き活きとした議論を交わすことができ「満足しました」という感想を口々にされて帰路についた。前田会長が専門家として運営した、第２回元気いばら創生戦略会議であった。今後は、ここで寄せられた意見に基づき、検討成果

を事務局がまとめ、さらに協議を重ねることとした。

「東京スカイツリータウンイベント」

源平合戦で有名な那須与一が取り持つ縁で、栃木県大田原市と岡山県井原市は友好親善都市となっている。2015（平成27）年９月27日、その盟約30周年記念を祝して「東京スカイツリータウンイベント」が開催された。東京スカイツリー１Ｆソラマチひろば（屋外会場）にて、11時から両市長によるオープニングセレモニーで幕があがり、特設会場では、氏神一番ステージ（でんちゅうくん音頭を制作された方）が歌を３曲披露、次に、ふるさと大使ステージとして、よしもと芸人３組、千鳥とブロードキャストがふるさと大使として登場、会場を盛り上げた。そして、ご当地キャラステージとして、井原市「でんちゅうくん」と大田原市「与一くん」のステージ、大田原市に縁の深い横田悠二ミニライブ、さらに、両市のクイズを出すゲーム大会と続き16時に閉会した。

会場には、観光ＰＲ・移住定住関係ブース、デニム販売・加工体験ブース、ぶどう試食・販売ブースが設けられた。来場者に、井原産葡萄の一流品を試食頂いた。岡山大学は、来場者向けにＵ・Ｉ・Ｊターンアンケートを実施、集計と分析を担当した。約300人の方から回答を得た。アンケート回答者の中から、くじに当選された方に、葡萄（ピオーネ）一房をプレゼントした。また、スペース634を会場として、井原市が生んだ彫刻家「平櫛田中」先生ゆかりで、東京スカイツリーのデザインを監修した澄川喜一先生の講演会が実施された。そして、サッポロビールの前身「大日本麦酒」の社長を務め、「日本のビール王」と呼ばれた井原市出身の実業家である馬越恭平（1844～1933年）について、エビスビール記念館の端田晶館長より、馬越の生い立ちから成功までの偉業、人となりについて講演がされた。

元気いばら地方創生活動報告

2015（平成27）年８月17日、全国ゆるキャラグランプリがスタート、井原市では「でんちゅうくん」が、いばら駅前でグランプリへの投票を呼びかけた。

また、2015（平成27）年８月21日、ここまで回を重ねてきた元気いばら創生戦略本部会議の第４回会議が開催された。市長の進行で、この間の活動報告がなされ、当面の重点方針が決められた。景勝地を活用した若者の呼び込み作戦、姉妹都市である大田原市との共催イベント企画、地域おこし協力隊募集についてなどの検討がなされた。午後は井原市立井原中学校の建替えに関する設計コンペが開催された。審査会では、井原市の核となる中学校の建替えにより、地域ぐるみで地域を愛する健全な子供たちの育成の実現を目指し、学校と地域がうまく組み合わさって地域社会が持続的に発展する流れを醸成することが重要であることを三村顧問が指摘した。

2015（平成27）年８月25日、地域おこし協力隊には10名のエントリーがあり、「地域おこし協力隊採用面接会」を実施した。様々な経験を持つ方が、千葉、福岡、大阪、奈良、滋賀、広島など遠くからの応募もあるなかで、三村顧問が審査委員をつとめた。

地方創生意見交換会

2015（平成27）年10月13日、岡山県主催の「地方創生に関する意見交換会」が岡山市内で開催された。国から人材派遣されている担当者が一堂に会し各自治体での取り組み状況を報告した。高梁市（厚生労働）、赤磐市（農林水産）、瀬戸内市（国土交通）、備前市（文部科学）、真庭市（総務）、和気町（財務）、

美作市（経済産業）、井原市（岡山大学）という顔ぶれであった。岡山県側は総合政策局長を筆頭に関係部局から担当者が多数参加、意見交換を集中して実施した。

第１回元気いばら創生若手職員研修

井原市の若い職員のパワーを地方創生に活かすことを目的に研修会を開始した。

2015（平成27）年９月29日、第１回研修会に10名を超える若手職員が部局を問わず参加した。

まず、三村地域創生戦略顧問から、日本社会や経済のおかれた状況について、さらに地方における少子高齢化や財源の問題について、また、現在の行政システムの利点や課題、今後の自治体職員の果たすべき役割について講話を行った。休憩をはさみ、井原市の強み・弱み、機会・脅威（いわゆるSWOT分析）を３チームに分かれて実施、チームごとに発表した。

井原のまちの良さについては、自然が多い（星がきれいに見える、自然に恵まれた、山が多い、田舎）、安心（落ち着く、暮らしに安心感がある、住みよいまち、気が合えば暮らしやすい、安全（災害が少ない））であり、一方の弱みは、活気がない（人が集まらない、若者が少ない）、気質が保守的（外の人に厳しい、気が合わない人は大変）、遊び場がない、交通の便が悪い（電車、バスの本数が少ない）、大学がない（高校卒業すると、大半が出て行く）、サル等の獣害が増加している、との意見が出された。

また、井原市を「こんなまちにしたい」との話し合いでは、子供に関しては、近隣他市町に比べて圧倒的な定住対策、子育て世代が住みやすい、子供がいっぱい元気に育つ、また、若者に関しては、若い人が住みたいと思うまち、高卒で働きやすいまちにしたい、とした意見が出された。

まちづくりの目標については、「保守的な人の心を解き放ち、近隣他市町より圧倒的な定住を促進し、若者が輝くまち」にしたい、「観光地として人にいっぱい来てもらい、衣食住すべてが市内で賄え、一生住み続けられるまち」にしたい、「星で婚活、若者主役、子育てしやすいまち」にしたい、といった考えや目標が示された。

井原市がいま以上に元気なまちにするためにどうすればよいか、具体的なシナリオを描く作業に着手した。どのチームからも積極的な議論が続いた。

第３回元気いばら創生若手職員研修

2015（平成27）年10月26日、井原市の明日を担う若手職員のパワーを地方創生に活かすことを目的にした研修会の第３回目を開催した。井原市地方創生戦略構築に向けて、若手職員のグループワークによる戦略プラン作りを継続、市民や高校生、企業、市外、それぞれの声を広聴したアンケート結果の読み込み、RESASデータの活用、産学官金労言代表の外部識者意見の反映、中枢都市圏連携、地域おこし協力隊参加などを踏まえて、①産業振興、②コンパクトシティ、③小さな拠点、の３グループに分かれシナリオを描く作業を実施した。また、地域おこし協力隊も参加、自らの戦略シナリオをプレゼンテーションして頂いた。

2015（平成27）年11月６日に第５回を開催、市長はじめ全部長の前で各チーム15分間の持ち時間でプレゼン、その結果を産学官金労言代表にも伝え意見やアドバイスを受け、最終的に元気いばら創生戦略本部が策定中の正式な地方創生総合戦略に取り入れて12月議会へ諮ることとした。

地方創生の一番大切なことの一つが自治体職員の意識改革である。井原市の将来を担う若手職員の意識改革と協働参画マインドの醸成が真の目的・狙いとしている。

2015 BISEI SORA（空）SORA（宙）GIRLS MEETING

2015（平成27）年11月14日、井原市美星で美星空宙ガールズミーティングが開催された。あいにく雨のため会場が「中世夢が原」から美星中学校に変更された。駐車場は大勢の女性たちや家族連れで、シャトルバス乗り場は長蛇の列であった。

並ぶ天体望遠鏡体験コーナー、天体に関係する体験コーナーやグッズ売り場、そして趣向を凝らしたグルメ販売など、女性を意識したセンスの良い企画で会場は活気にあふれた。

メイン会場の体育館では、音楽イベントが開催され、瀬戸内市牛窓のMarcoさんのステージでは、歌声に合わせて即興で絵画が描かれた。地方創生担当の職員も総出で裏方をつとめた。地方創生の観点からは、こうした企画への県内外からの参加をきっかけに、いかに美星に興味を持っていただき、移住・定住に結び付けていくかが大きな課題として再認識された。

元気いばらまち・ひと・しごと創生総合戦略会議

内閣府地方創生本部から地方創生人材派遣制度により、岡山県井原市へ地域創生戦略顧問として、2015（平成27）年４月１日より派遣されて以来、「元気いばら まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン」、「元気いばらまち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定作業を支援してきた。そこでは、創生本部の担当者を中心にして、外部組織「元気いばら創生戦略会議」の委員から出された意見に基づき、市長や副市長をはじめ各部長から出された意見を最終的に取りまとめ、詳細な内容に関して吟味作業を続けてきた。

2015（平成27）年11月25日、その原案が固まり、「元気いばら創生戦略会議」に諮問、この総合戦略案に関して、有識者、行政機関、商工関係団体、各種団体及び公募委員から意見を聴取した。会長の前田芳男准教授の進行で会議が始まり、まず事務局から詳細な説明がなされ、複数の委員から質疑や意見が出された。前田会長から講評があり、副会長をつとめるNPO法人みんなの集落研究所の阿部典子首席研究員が今後に向けた提案が示され、最後は、満場一致で承認された。副会長の井原商工会議所川井眞治会頭（日本綿布（株）社長）から総評がなされ閉会した。

三村顧問は、出された意見を大学へ持ち帰り、最後の調整作業を行い、12月市議会で承認されれば、年明けの市議会にて、今後の取り組みについて説明することとなった。

こうして「元気いばら まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン」、「元気いばらまち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することができた。

平成 27 年度井原市議会議員研修会

2016（平成28）年１月14日、平成27年度井原市議会議員研修会において、三村聡副センター長が、講師として招かれ、「地方創生について」をテーマに、平成27年４月から務めてきた「井原市地域創生戦略顧問」の立場から話題提供した。井原市議会上野安是議長、西田久志副議長、そして三木良一センター長補佐（山陽新聞社から岡山大学へ出向）と議長室で議論を重ねた。

岡山県市長会報告

2016（平成28）年７月１日、岡山県市長会にて、三村聡副センター長が井原市地域創生戦略顧問の立場を踏まえて「地方創生と大学の果たすべき役割」のテーマで話題提供した。会場はサンピーチ岡山、これまで活動してきて気がついた自治体の直面する課題について、市長に、率直な意見を述べると共に、

岡山大学の県内全域にわたる地域活動の実態を、具体事例を用いて紹介した。大学改革も地方創生と同じく、崖っぷちである点を述べ、意見交換会では、出席された全市長（岡山市長、倉敷市長、総社市長は副市長など代理出席）から、岡山大学に対する忌憚無い意見や数々の叱咤激励を受けた。

地方創生に関して、岡山大学はじめ県内大学への期待の大きさと大学の地域資源としての重要性を、改めて痛感した。

『まるごといばら PR フェア』

2016（平成28）年11月23日、鳥取県・岡山県共同アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」で開催された『まるごといばらPRフェア』にて、三村地域創生戦略顧問が参加、駅前での呼び込みとアンケート＆抽選コーナーを担当、特産品のPRにつとめた。会場には、井原市特産の明治ごんぼう始め、新鮮野菜が並べられ、同時に、デニムの聖地として、デニム商品販売や体験コーナーが設けられ、デニム目当ての来場者で賑わった。準備した地元ゆかりの景品は見事になくなり、来場者からは井原市への質問を多く頂いた。東京での岡山県や井原市への認知度は、今一歩ながら、移住を考えている人たちが、結構、大勢いることが理解できた。

創生戦略本部会議と総合計画策定審議会

2016（平成28）年12月26日、市長を本部長とする平成28年度「元気いばら創生戦略本部会議」が開催され、井原市の創生総合戦略の進捗状況について、きめ細かく検証と確認がなされた。とり組むテーマが多岐にわたるなかで、全てについて設定されたKPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）の達成に向けて、積極果敢にチャレンジしており、担当部局の健闘がうかがい知れた。

夜は、「井原市第七次総合計画策定審議会」が開催された。会長は岡山大学大学院保健科学研究科の齋藤信也教授が務め、三村地域創生戦略顧問はアドバイザーとして参加した。第六次総合計画の結果検証と第七次総合計画策定に向けた準備として、「まちづくりに関する市民意識調査」の結果が報告された。また、あわせて開催された「まちづくり計画推進会議（ワークショップ）」の実施報告もあり、事務局からの説明に対して、各委員から積極的な質疑や意見が出された。

行財政改革や市民協働

2017（平成29）年１月25日、井原市「パートナーシップ・プロジェクト事業」第８回見直し作業が開催された。第１回の開催以降、議論を重ね、これまでは市役所メンバーで議論を進めて来た。今回からは、大筋の流れが議論されたことを受けて、まちづくり協議会の会長４名に参加を求め、平成の合併時に改正地方自治法により制定、導入された都市内分権制度、地域予算提案事業制度の見直しに向けて、話し合いを持った。

「地方創生人材支援制度」仕上げ

2017（平成29）年２月１日、霞ヶ関の合同庁舎４号館にて、地方創生人材支援制度第６回報告会（平成29年度の地方創生に関する制度・施策の方向性に関する説明会と、全国各地の自治体へ派遣されている担当者の報告会）が開催された。選ばれた８名（地方創生シティマネージャー）の報告では、三村地域創生戦略顧問が井原市での活動報告と倉敷市を中枢都市として取組みが本格化する「高梁川流域中枢

都市圏構想」をテーマに、８番目、最後の報告者として話題提供をした。この３月で２年間の任期を終了するため、今回の報告は、その仕上げとの位置づけで、岡山大学を挙げて支援への取組みを進めてきた実績と、今後の課題について、本音を腹蔵なく述べさせて頂いた。山本幸三内閣府特命担当大臣（地方創生、規制改革）はじめ、内閣官房まち ひと しごと創生本部・内閣府地方創生推進室の担当官、そして約80名の派遣者に、考えを述べた。

地域おこし協力隊採用面接

2017（平成29）年２月３日、井原市「地域おこし協力隊採用面接」が実施された。面接は地域の役員３名、市担当者３名（三村地域創生戦略顧問を含む）の６名で審査を担当した。一人１時間の持ち時間で、自己紹介・PRを15分、質疑応答が45分。やる気と人柄、専門的な技能などの観点から評価を行い、２名の採用が決まった。

最後の「元気いばら地域創生戦略本部会議」

2017（平成29）年２月10日、瀧本市長を本部長とした『元気いばら地域創生戦略本部会議』が開催された。策定された創生戦略がスタートして１年を迎えるにあたり、2015（平成27）年度のスタート時から平成28年度末に至る施策展開と実施状況が事務局から説明され、市長、副市長、教育長以下、部長級幹部全員で、この間の取組み内容と達成度（KPI）について点検した。

こうして、三村聡副センター長が、「地域創生戦略顧問」として井原市へ派遣され、出席する最後の本部会議となった。

任期２年間の振り返りと井原市へのエール、謝辞を述べて挨拶をした。

井原デニムフェスタ

2017（平成29）年３月20日、国からの地方創生加速化交付金を活用して、井原鉄道井原駅の駅舎を改装して、デニムショップがオープンした。その記念イベントとして開催された「井原デニムフェスタ」に参加した。

経済産業省中国経済産業局長や加藤勝信一億総活躍担当大臣（名代として大臣令夫人）など、多くの来賓を招いて式典があり、その後、数々のイベントやアトラクションが催された。

井原市は「デニムの聖地」と美星天文台の「星」を前面に押し出す地方創生戦略を推進しており、岡山大学からは天文部が参加して、仮設のプラネタリウムを出展、約130名の親子連れが参加、井原市の地方創生を学生、教職員で盛り上げた。井原市の地域創生担当部署はじめ、多くの市役所の職員が準備や本番に手助けをした。

学生たちが地域活動に参加して、地域と共に取組む姿を見守ることが当センターのミッションである。井原市の地方創生活動に協力してくれた学生と共に反省会を岡山市内で開催した。

「地方創生人材支援制度」任期満了

地方創生人材支援制度は、国の地方創生政策の一環として内閣官房まち・ひと・しごと創生本部及び内閣府地方創生推進室が進める制度であり、岡山大学から三村聡副センター長が、岡山県井原市へ地域創生戦略顧問として、2015（平成27）年４月１日から2017（平成29）年３月末日まで２年間派遣され、

この度、任期満了を迎えた。

2017（平成29）年３月24日、地方創生人材支援制度第１期生最後の報告会が内閣府で開催された。首相官邸で締めくくり会が開催され、菅義偉官房長官、山本幸三地方創生担当大臣はじめ国の関係者が列席するなか、派遣者を代表して、総務省から秋田県湯沢市へ派遣された藤井延之氏と三重大学から南伊勢町へ派遣された松田裕子氏（帰校後副学長）の二名が派遣者を代表して、２年間の活動報告をした。菅官房長官から、ねぎらいの言葉があった。この春からは第３期生が、新たに地域へ派遣される。懇親会後の反省会では、財務省出身の山根英一郎参事官にお付き合い頂き、最後まで指導を受けた。

また、同制度への岡山大学の協力がきっかけの一つとなり、同じく国が進める自治体の広域連携により地方創生を目指す「連携中枢都市圏構想」の推進においても、倉敷市を中核市として開催された「平成28年度高梁川流域連携中枢都市圏ビジョン懇談会」（井原市を含む７市３町）にて、岡山大学が有識者として会長を務め、以降、2021（令和３）年度まで同懇談会は継続され、三村聡センター長が会長をつとめている。同懇談会は、高梁川流域７市３町の経済界、大学、金融機関、医療・福祉機関、地域公共交通機関、地域コミュニティの代表者が一堂に会して意見交換がなされ、具体的な政策へのアドバイスを実施している。

岡山大学が、地域の課題解決に向けて、現場の最前線で市民と向き合い、地域の資源（知恵）として、大学が持つシンクタンク機能を発揮して、社会貢献活動を実践展開した実例として記録に留める。

三重大学訪問

2018（平成30）年度は、井原市での地方創生活動の実績を活かして、岡山県内の他の自治体へのノウハウの横展開を実践した。また、大学連携として、内閣官房まちひとしごと創生本部が実施した地方創生人材支援制度の第１期生の同期である三重大学の松田裕子副学長と共に地方創生に取り組む研究者として情報交換を重ねてきた。

平成30年度の活動成果を議論すべく、2019（平成31）年２月８日、「地域と大学の連携を考える」ことをテーマとして、三重大学地域創生部門を訪問、同推進チームの若手職員を交え、松田裕子副学長と意見交換会を実施した。

互いの地域連携における課題や対応策について開示、地域で活躍する大学として定評のある三重大学の方針と実績に感銘を受け、共通理解を深めることができた。特に、教員と職員が両輪となって地域連携を進めることが、最も重要である点で意気投合した。

井原市を含む天文・星空資源の活用による誘客促進

岡山大学地域総合研究センターは、岡山県と関係市町で構成する「地域課題解決支援プロジェクト（天文・星空資源の活用による誘客促進）協議会」の活動支援を2018（平成30）年度事業として受託した。主担当は、前田芳男副センター長と吉川幸実践型教育プランナー（2022（令和４）年３月現在、岡山大学副理事（高大接続・共創教育・SDGs教育担当）全学教育・学生支援機構准教授）。2018（平成30）年初夏から事業がスタートした。

2018（平成30）年11月７日、岡山県はじめ自治体や専門家と共に、浅口市の「国立天文台」、「京都大学天文台」を見学、そのあと、矢掛町で宿泊施設「矢掛屋」の見学や、本陣・脇本陣を構える宿場町のまちあるきとランチタイム、最後は井原市を目指し「美星天文台」を見学して台長の案内により天文プ

ログラムの説明を受けた。こうして星を活かした地方創生観光シナリオの具体的な検討に着手した。

こうして、同協議会は議論を重ね、岡山県内の８つの天文関連施設を対象としたスタンプラリーを実施、各施設に配置されたスタンプを集めて応募すると、抽選で素敵な景品が当たるなど創意工夫を凝らした企画が2019（令和元）年５月24日（金）～10月31日（木）まで実施された。

なお、このスタンプのデザインは、井原市「美星星空大使」を務めデザイナーとして活躍するタレントの篠原ともえ氏が施設を巡り、現地でインスピレーションを得て制作した。また、同協議会では、岡山県への誘客促進を目指し、「天文王国おかやま」をキャッチフレーズとした県内の天文・星空資源の魅力発信を行い、前回は神戸市内で開催された観光イベントで、本スタンプラリー実施についてのＰＲを実施した。

井原市公共施設等マネジメント推進会議

2019（令和元）年７月12日、井原市からの依頼で、三村聡センター長が「井原市公共施設等マネジメント推進会議」委員を拝命、委員長に選任された。人口減少社会が進む中で、公共施設の維持管理は喫緊の課題となっている。地方創生を進めるうえでは避けて通れないテーマであり、新しい業務の支援を開始、会議の前に大舌勲市長と懇談、基本的な方針を確認した。会場となった井原市民会館には、岡山県が生んだ宰相犬養毅翁の書「学楽」が掲げられている。この精神で市民と学びを共有できるよう挨拶をした。

ツーリズム EXPO ジャパン 2019 大阪で「天文王国おかやま」をＰＲ

岡山県と関係市町で構成する「地域課題解決支援プロジェクト（天文・星空資源の活用による誘客促進）協議会」活動は、2019年度、活動２年目を迎え、岡山大学地域総合研究センターのリードにより、ここまで数回にわたる会議を重ねてきた。協議会事業の取組方針や年間計画について協議決定、今年度は協議会が制作した「天文王国おかやま」のＰＲツール（ポスター、チラシ、のぼり、テーブルクロス、ノベルティグッズ）を活用して、2019（令和元）年10月25日、ツーリズムEXPOジャパン2019に出展した。

岡山大学からは三村聡センター長と近藤亜希子事務員が大阪会場へ入りブース説明を担当した。今回の気づきは、天文王国について「おかやまで天文のコンセプトは何ですか」との質問が多く、晴天日数や天文台の数、規模や質（国立天文台、京都大学天文台）、連携（美星天文台の野辺山、石垣との関係性）などの説明に、立ち寄った方や出展自治体から納得の声を聞くことができた。また、２次交通が無いと女子の旅は無理で、レンタカーよりは公共交通や案内ルートを回るモビリティが必要である点、美星天文台と姉妹関係である石垣市からは、天文の説明ができるコンシュルジュの養成が軌道にのり、夜の部の星空ナイトツアーが評判を呼んでいる点は興味深く、その資格認定試験の内容や案内人の活用の手法、システムについて、機会があれば現地を訪問して学びたいと感じた。特に星を見せるイベントトリガーとしての役割と他の観光スポットや宿泊時間帯での活用、他の体験イベントとの組み合わせなど、具体的に観光シナリオ全体の中での星座の持つ魅力や意味付けを学ぶ必要性を感じた。

同時開催のセミナーでは、2018（平成30）年６月、日本で初めてアルベルゴ・ディフーゾの認定を受けた矢掛屋を、イタリアから来日した「アルベルゴ・ディフーゾ協会」の会長が紹介、岡山からは岡山商工会議所の松田久会頭と丸五の藤木茂彦社長が参加、岡山の魅力を世界に発信した。

注)「アルベルゴ・ディフーゾ」とは、イタリア語で「分散したホテル」という意味。町の中に点在している空き家をひとつの宿として活用し、町をまるごと活性化しようというものです。提唱したのは、イタリアで長年まちづくりコンサルタントとして地方再生に尽力してきたジャンカルロ・ダッラーラ教授。1976年に北イタリアのフリウリ地方で発生した大地震により廃村の危機に直面した集落の復興を探る中、この考え方が生まれました。地域の廃屋や空き店舗をリノベーションし、レセプション、客室、食堂などの機能をそれぞれの棟に分散させることで、町をまるごと１つのホテルに。こうすることで、宿泊した人たちが自ずと町を回遊し、地域そのものに活力をもたらすこの仕組みは、あらゆる施設が内包された大型ホテルとは、いわば真逆の発想です。(同協会HPより)

井原市議会議員勉強会

政府が地方創生をキーワードに、地域創生総合戦略の策定を全国自治体に指示、平成27年度に作成された計画が５年目となる最終年度を迎えた。

2020（令和２）年１月16日、井原市にて井原市議会議員を対象とした勉強会に、三村聡センター長が講師として招かれ、新たに拓く「地方創生第２ラウンド」をテーマに話題提供をした。これまでの創生総合戦略の評価や継続計画の策定について、第２ラウンドを迎える作業の支援をさせて頂く予定であり、議会の協力を得たい旨を進言申し上げた。

「第２期元気いばら創生総合戦略」策定支援

岡山県井原市へ地域創生戦略顧問として、2015（平成27）年４月１日から2017（平成29）年３月末日まで２年間派遣され、最初の着任から５年間が経過した。

2020（令和２）年３月６日、大舌勲井原市長が来学、この５年間の総合戦略と人口ビジョンの精査を踏まえて、再び井原市の「第２期元気いばら創生総合戦略」策定に向けた支援の依頼を受けた。岡山大学としても、初心を忘れず、地方創生「第２ラウンド」のお手伝いをして参る方針を決めた。

2020（令和２）４月21日、三村聡センター長が、井原市を訪ね、大舌勲市長と「元気いばら まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けた企画検討ミーティングを実施した。新型コロナウイルス感染への配慮のなか、市長応接にて、新型コロナウイルス感染への対策を織り込み、さらに収束後をにらんだ、地方創生第２ラウンドキックオフに向けたメインコンセプトと実行シナリオについて、突っ込んだ本音の意見交換をした。

医療体制については、岡山県との連携を軸に可能な限りの対応を図ることが決められ、その具体的な準備が進められている。また、井原鉄道をはじめとする公共交通機関の維持、市内の学校での子供たちや家庭へのフォロー体制などについて、政策方針をヒアリングした。創生総合戦略については、委員への協力体制の強化策と、実際の委員の専門性を活かした、全員参加を見据えた具体的なアクションプランの策定について、そして市役所も若手職員の意識改革、そして知恵を汲み上げる仕組みづくり、創生戦略決定後の参加と行動を喚起する手法について等を議論した。

夕方から、街の中心、小田川沿いの井原市井原町に完成した「IBARA DENIM HOTELS 舞鶴楼」へ案内頂いた。ここは1902（明治35）年開業、多くの政治家や文人墨客をもてなしてきた名門旅館「舞鶴楼」をホテル＆オーベルジュとして改築、この４月から新たなスタートをきった、井原市の新名所、地

方創生の拠点である。

建設当時の歴史を刻んだ資材と地元名産のデニムを活かした室内は､｢温故知新｣をキーワードとして、明治ロマンに思いを馳せる豪奢と瀟洒を併せ持つ造りである。余裕の空間を持つ１階エリアではフレンチメニュー、２階は、気軽に小田川の清流を眺めながら珈琲タイムを楽しめる。外出自粛の時節ながら、別館へ足を延ばし、デニム色にゆかりの「岡山ニット インディゴ染め」のお洒落なショップ「Moon Beat Quality」で、オリジナル「マスク」を買い求めた。コロナに負けず、豊かな自然環境と山陽道の恵まれた歴史・文化を活かした、若い世代のセンスを主役に据える地方創生が始動しようとしている。

井原市第２期創生総合戦略の実践展開に向けて

2020（令和２）年７月７日は七夕であり、井原市美星天文台で、岡山県と県下の天文台やプラネタリウムなど天文をテーマに観光誘致を進める自治体が展開する「天文県岡山」創造に向けた学習会を兼ねた天の川観望会企画が予定されていた。ところが、２年前の西日本豪雨災害の悪夢の予感がよぎる豪雨災害警戒（大雨警報）が発令される事態となり、住民参加の勉強会は中止となった。

こうしたなか井原商工会議所にて、同会議所佐藤須賀則専務理事、備中西商工会の名合憲司筆頭副会長（名合建設（株）代表取締役)、井原市企画部門担当者と地方創生や産業の活性化、企業誘致や観光誘致の推進など政策テーマについて、２時間に及ぶ対面による意見交換会を開催、井原市第２期創生総合戦略の策定に向けて、具体的なアクションプランの検討に入った。次に井原市地場産業振興センター２階で、井原市観光担当者と美星エリアの活性化について、２時間に及ぶ対面での話し合いを実施した。

こうして午後から夕方まで、会議所と市で２つの打ち合わせを済ませてから、美星町にある宿泊予定先のペンションコメットが大雨でキャンセルとなったため、市内に４月にオープンした築100年の旅館を現代風にアレンジして改装した「舞鶴楼」に宿を変更した。チェックインして、ひと休みしてから井原市担当者と地方創生の進め方について多面的な意見交換会を実施した。

井原市特別職報酬等審議会

2020（令和２）年７月28日、井原市特別職報酬等審議会が開催された。特別職報酬等審議会とは、市長から諮問された特別職の給与や報酬の額について審議し、答申する諮問機関で、広く市民の意見を反映できるよう、市内の公共的団体等の代表者や市民代表で構成されている。

井原市でも、市議会が報酬の値上げを市長に打診、それを受けて第三者が集まり審議を開始した。井原市からの要請で三村聡センター長が同審議会の会長を拝命した。委員からは報酬を上げるか否かの議論があり、なぜコロナ禍のいま議論しなければならないのか、さらに議員の質の劣化を問う発言や、議員とは何か、その覚悟を問いたいといった類の発言が多く出された。

SDGs の視座から創生戦略を策定

2020（令和２）年度の大学前期の生活は、新型コロナ禍という未曽有の災禍襲来により、様々な日常が影響を受け、多くの活動の中止や延期が相次ぎ、キャンパスはロックアウト、授業もオンライン化で成立させるなど、学生たちは心身ともに甚大なマイナス要因のなかでの暮らしを余儀なくされた。一旦、沈静化するかにみえた災禍は、再び第２波として襲来、猛威が広がりをみせるなかで、前期の締めとなる2020（令和２）年８月６日は、井原市の元気なまちづくりに向けた明るい未来志向の企画を論じて、

WithコロナやAfterコロナを見据えつつ新たな時代につなげようと、岡山駅前通りアメリカンダイニング「MOBY」で具体プランの構想を練るミーティングを開催した。

三村聡センター長から、井原市においても都市の持続可能性を考えるために、SDGsの視座から、若者が参加できるまちづくり施策の検討に着手することを提案、井原市の担当者との間で意見が一致した。

「元気いばら」創生をめざして

2020（令和２）年８月25日、井原市の地域創生第２ステージを考える『元気いばら創生戦略会議』が、市庁舎５階で開催された。平成27年度からこれまでの第１ステージの検証結果が報告され、それに対して委員全員から、各人の感想や思いが発言され、深い熟議がなされた。二日後の８月27日も井原市で「井原市特別職報酬等審議会」が開催され、様々な角度から意見が出され、大いに議論は盛り上がった。そして、同審議会の会長を務めた三村聡センター長から大舌勲市長へ報酬を引き上げる方向で答申した。

午後は、井原商工会議所にて、同会議所佐藤須賀則専務理事、備中西商工会の名合憲司筆頭副会長（名合建設（株）代表取締役）、井原市の企画部門担当者、三村センター長同席のもとで、第２回目となる地方創生や産業の活性化について、対面による意見交換会を開催した。具体的なアクションプランのコンセプトが固まった。

さらに天文王国おかやまプロジェクトを踏えた第１回となる観光と地方創生勉強会「美星町まちづくりセミナー」が井原市の美星支所を会場にして開催され、三村センター長がコーディネートと話題提供を担当した。ここ美星町は、長野県野辺山、沖縄県石垣と並ぶ、日本三選「星名所」天文台である利点を活かし、大舌勲井原市長が現場参加の下で市民と共に、井原市の地方創生プロジェクトを推進、美星町を原動力にして地方創生を実践展開することが決議された。

井原市指定管理者選定委員会

2020（令和２）年11月11日、井原市指定管理者選定委員会が開催された。

指定管理者選定委員会では、三村聡センター長が委員を拝命、創意工夫された企画のプレゼンテーションが続くなかで、質疑応答に対応した。

井原市地方創生戦略会議

井原市では、第２期地域創生総合戦略の策定作業が開始された。同戦略会議では、井原市第七次総合計画の人口減少克服・地方創生施策に資する計画をベースとして、井原市人口ビジョンの実現を目指し、人口減少問題に対応しながら地方創生をなしとげるため実施することを基本方針に据えた。

また、第２期における新たな視点は、

① 地方へのひと・資金の流れを強化する将来的な地方移住にもつながる「関係人口」の創出・拡大と企業や個人による寄附・投資などを用いた地方への資金の流れの強化

② 新しい時代の流れを力にするSociety5.0の実現に向けた技術の活用。SDGsを原動力とした地方創生。「地方から世界へ」

③ 人材を育て活かす地方創生の基盤をなす人材に焦点を当て、掘り起こしや育成、活躍を支援

④ 民間と協働する地方公共団体に加え、ＮＰＯなどの地域づくりを担う組織や企業と連携

⑤ 誰もが活躍できる地域社会をつくる女性、高齢者、障害者、外国人など誰もが居場所と役割を

持ち、活躍できる地域社会を実現

⑥　地域経営の視点で取り組む地域の経済社会構造全体を俯瞰して地域をマネジメントする

ことを目指している。

2020（令和２）年11月24日は、いよいよとりまとめに向けた大詰めの議論がなされた。

星と宇宙と人類の未来を考えるシンポジウム

美星町観光協会では、世界基準の評価である「星空保護区」の認定に向け、地域が一体となり星空保護活動に取り組んでいる。2020（令和２）年12月12日、美星農村環境改善センター大ホールを会場に、星の郷・美星に宇宙医学者と天文学者を招き、美星の星空から宇宙、未来へと講師の先生方に熱く語る企画「日本一の星の郷・美星町で星と宇宙と人類の未来を考える」が開催された。

シンポジウム開始前の時間を利用して、美星地区や井原市全体の観光や地方創生を考える関係者が一堂に介し、大舌勲市長も加わり、星の郷まちづくりコンソーシアム会議を実施、コーディネートを三村聡センター長が担当した。

シンポジウムでは、ゲスト講師は、嶋田和人教授 JAXA、中里龍生博士 NASA、綾仁一哉博士美星天文台前台長、そして総合進行を岡山大学地域総合研究センター副センター長の前田芳男教授が担当した。また、新型コロナ禍対応として、井原放送がYouTube ストリーミングでシンポジウムの様子を生放映した。

講師の中里先生によれば、宇宙医学とは「無重力状態は不思議な世界です。無重力状態に人体が曝露されるとどのような身体的変化が生じるのか、宇宙酔い、体液の移動、筋肉の萎縮、骨量の減少、放射線等未知の問題が山積しています。そのため人が安全に宇宙で生活できるよう長年地上で行われてきたシミュレーション実験や宇宙での体液移動、筋萎縮などの予防対策などを解説して行きます。また、NASA、JSCでの研究生活の中で自分が見てきた宇宙飛行士たちの変化や将来人類が長期間宇宙滞在をした場合、予想として脳に変化が現れると考えられますが、その話を宇宙酔いから解説していきます。」と紹介、さらに嶋田先生を「先生はJAXAで長年の宇宙飛行士の健康管理をしていた方で、NASA、ESA(ヨーロッパ航空宇宙局)、CSA（カナダ航空宇宙局)、ロシアのバイコヌールなど、古川宇宙飛行士が草原にパラシュートで降りてきた時には健康管理のためその草原に若田宇宙飛行士と出向いた方で、日本の宇宙医学の草分けです。また綾仁先生は京大出身で、長年ここ美星町で天文台長をされている方で星のエキスパートです。」と紹介された。

実際に「宇宙と人」が行き交う世界に、直接関わられた二人の講師の体験談に基づく、世界観（宇宙観）に会場は熱気に包まれた。また、綾仁先生の地球の歴史を365日に例えれば、人類の歴史は365日目の残りの数秒でしかない、との語りに魅了された。

パネルディスカッションの質疑応答では、本学法学部３年の河原菜摘さんが、質問にたち、講師陣との応酬に、会場はさらに盛り上がりをみせた。

星の郷まちづくりコンソーシアム第４回会議

星の郷まちづくりコンソーシアム美星町観光協会では、世界基準の評価である「星空保護区」の認定に向け、地域が一体となり星空保護活動に取り組んでいる。

2021（令和３）年１月23日、星の郷まちづくりコンソーシアム第４回会議が、井原市美星町「星の郷

ふれあいセンター」で開催された。三村聡センター長の指導により、いわゆる「マンダラート（マンダラチャート）」と呼ばれるチャートを完成させる発想手法を用いて、美星町を中心とする井原市、さらには備中・備後広域までを含めた「課題解決による地域を元気にするためのアイデア」を参加者が持ち寄り、星の郷美星の創造をメインテーマとして８つのチームに分かれてワークショップを実施した。

冒頭、美星町観光協会の西野昇会長が主催者挨拶に立ち、事務局がこれまでの活動の振り返りを行い、地域住民や関係者を主役に、大舌勲市長はじめ市職員、地元小中学校の校長、天文台、企業経営者、住職、NPO、さらに岡山県、中国銀行、パナソニック、両備グループ（(一財）地域公共交通総合研究所）など多様なメンバーが参加、小職のコーディネートにより具体的な美星の進む道筋を検討・提案した。

今回の結果に基づき、第５回の同会議において、令和３年度以降の具体的な行動計画を策定・実施することが確認された。

星の郷まちづくりコンソーシアム第５回会議

第５回目となる「星の郷まちづくりコンソーシアム」が、2021（令和３）年３月６日、井原市美星町「星の郷ふれあいセンター」で開催された。ワークショップの冒頭には、いくつかの話題提供がされ、ここ井原は北条早雲の生まれ故郷とあって、NHK大河ドラマ化を目指した署名活動の案内、また、スタートした渋沢栄一翁を主人公にしたNHK大河ドラマ「青天を衝く」では、栄一翁が現在の井原市の備中江原一橋領へ農兵募集にやってきて成果を上げ、慶喜に高く評価されたとの史実があるため、渋沢栄一ゆかりの地として広報戦略への応用を狙っているとの報告もなされた。

ワークショップでは、主催者である美星町観光協会の西野昇会長や、活動を支援する大舌勲井原市長はじめ、美星天文台、小中学校、ブドウ農家、料亭、そしてNPOなど、地域の皆さんを中心に、前回協議されたSDGsを意識した「星と環境」をゴールとする「曼荼羅ワークショップ」で取りまとめられた８つのテーマを深堀して、具体的なまちづくりの実行計画・シナリオを策定する作業を実施した。

次回は、今回の各グループのアイデアを井原市と共に具体化・見える化の補強作業を行い、広く美星地域の皆さんの意見をヒアリングの上で、ひと・もの・かねの資源投下案を踏まえ、誰が、どのように参加（各人や組織のノウハウや資源を持ち寄り）して、何を、いつまでにするか、具体的なロードマップを策定、来年度から、地域が主体となり、井原市がフォローしながら、実行体制を構築するステージに入る予定である。

時あたかも、2021（令和３）年２月22日に、『元気いばら創生戦略会議』が井原市役所４階大会議室で開催され、三村聡センター長が、とりまとめの委員長をつとめた「元気いばら創生総合戦略（第２期）」の策定が完了した。地域の声とアイデアを織り込んだ、創生戦略の具体的なシナリオが胎動する。全国約1700の自治体で、それぞれ創意工夫を凝らした地方創生の取組みが進んでいる。少子高齢化・人口減少、そして財政不足がつづくなかで、時間はかかるが、知恵と工夫を持ち寄り、汗をかきながら、一歩一歩、市民主導の地方創生実現に向けて進んでいる。

留学生が井原市から「日本の伝統文化を学ぶ」

岡山大学L-caféは、学生同士が自由に交流して，多言語・多文化への理解を深めることができる主体的な学びの場で、イベントを通じて留学生と交流したり、授業の合間に留学生と一緒に食事をとりながらフリートークをしたりと、毎日が多文化交流の場として人気の「居場所」である。地域総合研究セン

ターでは、ここL-caféと連携して留学生が日本人学生と共に「日本の伝統文化を学ぶ」ことを目的とした実践型社会連携教育を実施している。主担当教員は岡山大学全学教育・学生支援機構の藤本真澄准教授（L-café担当)、そして井原市とのコーディネートなど社会連携サポートを地域総合研究センターから三村聡センター長と岩淵泰副センター長が担当している。

2021（令和３）年度の授業は、2021（令和３）年５月22日、23日、一泊二日の日程で、井原市をメインフィールドとした実践型授業を計画していた。ところが新型コロナウイルス拡大により、現地へ出かけるプログラムを断念せざるを得ない事態となった。

事前授業では、井原市建設経済部観光交流課の藤岡健二課長補佐から井原市の現状や課題について説明を受け、さらに地方創生に向けた施策と取組み状況についてレクチャーを受けた。そして藤本准教授から当日のスケジュール、学びのポイント、学生たちに課せられる学びのテーマ、新型コロナ対策を含む活動の諸注意を受け、三村センター長から岡山大学のSDGs への取組みと地域活動の実際例を紹介した。

こうして事前学習を終えた学生たちは、2021（令和３）年５月22日、一両で走るノスタルジック鉄道として鉄道ファンに人気の「井原鉄道」に乗車、井原市では、井原市長の出迎えを受け、井原市の担当者のご案内により、授業の主目的である「備中神楽」を鎌倉から室町時代にかけての吉備高原一帯にみられた村のようすを、絵巻物や発掘資料をもとに、時代考証により再現した「中世夢が原」にある「吉備高原神楽民俗伝承館」にて鑑賞する予定であった。事前学習では､井原市から『「かぐら」の語源は「神座」(かみくら)から神様の依り所を示し､「踊る事で神を招く事」が神楽の原点になったと言われ、また鈴を使うことによって神様に居場所も教え、神社のお参りでじゃらじゃらと鈴を振る事やお寺で鐘を鳴らすのも同じ意味しており、昔の人々は金物が一番違う世界に聴こえる音と考え、こうして神楽は民間にもどんどん溶け込み現在の形になっていったと言われています。そして、備中地方を代表する民俗芸能として、全国的にもその名を知られている『備中神楽』は、地域の生活にとけこみ、老若男女を問わず親しまれ、盛んに演じられてきました。ところが近年、熟練した神楽太夫の高齢化とともに、華やかさを競うイベント的な面が脚光を浴び、神楽に伴うしきたりや、伝統芸能としての価値が見失われる傾向にあります。そこで、美星町では、祖先から伝えられてきた神楽をできるだけ本来の姿に近い形で後世に伝えてゆくため、1990（平成２）年７月に中世夢が原の入口に『吉備高原神楽民俗伝承館』を整備しました。ここには、昭和初期の神楽面、陣羽織などの衣装をはじめ本格的な神殿（こうどの）を展示しており、備中地方の熟練した太夫で組織された「備中神楽五十鈴会」や次代を担う若手太夫による「民俗文化財備中神楽伝承研究会」の活動拠点として使われています。』であると学びを得ていたため、実際に神楽を見学できなかったことは、誠に残念であった。さらに、本授業では、井原の特産品であるデニムの生地を織る、1917（大正６）年に備中小倉織の機屋として創業し、メイドイン・ジャパンの高付加価値デニムを世界に発信している「日本綿布」の工場の見学や、文化元年創業以来200年間、岡山県産の米を原料として使用し、寒造り、手造りの備中の地酒として知られる「山成酒造」にて銘酒「蘭の誉」を製造する酒蔵を見学する予定であった。さらに神社仏閣巡りでは、西暦739年（天平11年：奈良時代)、行基菩薩によって開創された古刹真言宗「成福寺」にて密教や曼荼羅について住職から講話を受け、また、井原市「美星町」の由来となった流星落下伝説の「星尾神社」へ参拝も企画されていた。

さらに、今回の授業のもう一つの眼目である、井原市のSDGsによる地方創生活動を体験するために、夜は、「美星天文台」で、星をテーマとした地域おこしを学ぶ時間を持ちながら、観望会へ参加、天文

台の台長自らが操作する101cm望遠鏡で、月、木星、土星や火星、ベガやベテルギウスなどの一等星、星団、星雲、銀河などから、この季節、天候に適した天体へ順次、望遠鏡を向けて講話を頂く予定であった。

そして井原市での実践活動の結びは岡山県が進める「おかやま元気集落」事業である大江地区での「にんにくの収穫体験」への学生たちの参加であった。岡山県によれば、その事業目的は「中山間地域は、農林水産物の安定供給や水資源のかん養、憩いと安らぎの場の提供など、公益的な機能を有しています。一方で、過疎化、高齢化の急速な進行により、耕作放棄地の増加や森林の荒廃、農林水産業の生産活動が低下するなど、さまざまな課題もあります。こうした状況を踏まえ、岡山県では、小規模高齢化集落など、単独では集落機能の維持が困難な集落が含まれる地域において、小学校区、大字等の広域的な地域運営により、集落機能の維持･強化に取り組む地域を市町村からの推薦により「おかやま元気！集落」として登録し、中山間地域活性化の原動力と位置付け、市町村と連携を図りながらその取組を総合的に支援しています。」と示している。大江地区では、にんにくを特産品にすべく、2020（令和２）年６月15日、特売所をオープン、さらに加工品として黒にんにくやニンニクパウダーを商品化するなど、さらに井原市では、ふるさと納税の返礼品にも採用している。授業では、こうした中山間地域が直面する課題の解決に向けて地域が実際に取組む活動への参加を通じて、学生たちは、地方創生活動の現場を体験することにより、たゆまぬ努力を重ねる地域の皆さんの姿を学び、その解決策を考えることを学びの目的にしている。

さて、コロナ禍による実践型授業の中止を受けて、その代替授業をオンラインで実施した。教員２名は大学から、そして井原市は担当職員が市へ出勤、さらに井原市大舌勲市長は自宅から参加、学生たちも自宅からの参加で実施した。代替授業では、藤本准教授から学生に与えられる課題の説明があり、同准教授の進行により2021（令和３）年５月22日13時の定刻通りオンライン（ZOOM）で授業が開始された。

まず、井原市建設経済部観光交流課の藤岡健二課長補佐の解説により、井原市の映像を交えながら、見学予定であったポイントを写真や資料を使い講義形式で実施した。そして地域の魅力紹介にあわせて地方創生の課題について言及頂いた。授業の後段では、事前に井原市のチョイスで取り寄せた特産品や土産物を開封、味わいながら、学生たちが味を評価した。留学生の率直な意見や感想に、都度、大舌市長がコメントするなど、意見交換が続いた。そしてコロナ収束を期して、必ず井原市への訪問を実施することを誓い合い、最後に、藤本准教授がレポートのテーマと提出期日について再度確認して、大舌市長や井原市の皆さんにお礼を申し上げ、16：30、オンライン授業は終了した。

なお、コロナが一服した間隙を縫って、留学生の有志が、大江地区へは日帰りでニンニクの収穫体験に出かけている（授業単位にはならない活動）。

井原市と岡山大学とのL-caféによるグローバル実践型社会連携授業の報告。

稲倉産業団地立地企業選定委員会

井原市の稲倉産業団地立地企業選定委員会が開催された（非公開）。

この取り組みは、三村聡センター長が、平成27年に内閣府まち・ひと・しごと創生本部から第１回地方創生人材支援制度で地域創生戦略顧問として井原市へ派遣され、人口ビジョンと創生総合戦略策定を検討した時点から議論が重ねられてきた重要案件である。

地域経済への波及効果や雇用の創出効果を期待できる企業誘致を実施するための事案であり、2021（令和３）年７月16日、その審査は厳しい基準に基づき応募された企業から、慎重かつ積極的な議論がなされ、その結果、地方創生の実現に向けた大きな一歩が踏み出された。

岡山大学の関りとしても長かった事案に、三村聡センター長が委員として参加、一定の結論が見いだせるまでこぎつけたことに安堵した。

井原市公共施設等マネジメント推進会議

現在、地方創生が進む一方で、地方の自治体は少子高齢社会の急速な進行と税収不足により、その財政は厳しい事態を余儀なくされており、井原市もその例外ではない。

2021（令和３）年７月27日、井原市で公共施設等マネジメント推進会議が開催され、三村聡センター長が委員長をつとめた。

井原市の公共施設等総合管理計画ついては、同市の公共施設等は高度経済成長期に整備された施設が多く、今後、一斉に建替えや大規模改修を迎え、また、人口減少、少子高齢化の進行に伴い、歳入・歳出面で厳しさを増すことが予想されるため、公共施設等の維持更新の考え方については、従来型の発想から、大きく意識を転換させる必要がある。

2014（平成26）年４月には、総務省から全国の地方公共団体に対して「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針」が示され、2016（平成28）年度中に所要の計画を策定するよう要請がなされている。井原市では、2016（平成28）年３月、同市が保有する公共建築物の管理状況等を把握する「井原市公共施設白書」を作成し、将来の見通しを踏まえ、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針・考え方を定めた「井原市公共施設等総合管理計画」を2017（平成29年）３月に策定している。

2021（令和３）年７月27日は、これまで井原市が施設ごとに評価を進めた結果に基づき、第３次評価をいたす会議であり、同会議では、公共施設等を16の分類に分けて議論がなされた。その内訳は、集会施設や文化施設等の「①市民文化系施設」、図書館や博物館等の「②社会教育系施設」、スポーツ施設、レクリエーション施設・観光施設等の「③スポーツ・レクリエーション系施設」、「④産業系施設」、学校等の「⑤学校教育系施設」、幼稚園・保育園や幼児・児童施設等の「⑥子育て支援施設」、高齢福祉施設や保健施設、その他社会福祉施設等の「⑦保健・福祉施設」、庁舎等や消防施設等の「⑧行政系施設」、そして「⑨公営住宅」、「⑩公園」、「⑪供給処理施設」、「⑫病院施設」、「⑬医療施設」、「⑭その他施設」、「⑮水道系施設」、「⑯下水道系施設」に分類されている。

なお、計画期間は、2017（平成29）年度～2026（令和８）年度の10年間とし、その後、10年毎に計画を更新するローリング方式を採用するとしている。全国でほぼ同じような傾向ではないかと思料されるが、地域で急速に少子高齢化が進行する様子から、市民はおおむね公共施設の老朽化に対しての関心があり、総量削減に対する方針にも理解を示している。その一方で、公共が担ってきたサービス水準の低下や維持に係る税金や地域による自己負担による支出の増加は望んでいないと思料される。こうした状況のなか、井原市の「公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針」の要諦を紹介すると、公共施設については行政コスト（新築・改築・大規模修繕等。光熱水費等の運営費を除く）を、10年間で総計100億円以内に抑制、総延床面積は前年度を超えないようにしながら、施設更新時に、統廃合・複合化・多機能化を推進し、原則、単独新規施設整備を抑制しますと謳っている。

また、施設の必要性の高いものは積極的に活用し、低いものについては適切に除却、さらに既存施設

の有効活用のため、計画的な修繕・更新及び耐震化・長寿命化を実施して、利用者の安全性及び適正なサービス水準を確保するとしている。

なお、統合や廃止の推進方針については、利用頻度が低い施設は、あり方を見直し、統合・廃止・効果的・効率的な施設配置を検討、さらに、中長期的な経費の見直し及び充当については、公共施設等の修繕・更新等は、国・県の補助金を活用、また、有利な地方債や公共施設整備基金を活用、同時に、民間活力の活用・民間と連携した運営維持管理（指定管理者制度を活用）を目指そうとしている。加えて隣接する市町との連携（連携中枢都市圏の枠組みなど）を踏まえつつ、より広域的・効率的な運営ができるように検討するとの方針も明示されている。

こうして第３次評価を巡る会議は、全員の委員から、苦渋の選択を含む、様々な視点からの意見が出された。その内容を踏まえて、具体的な公共施設の維持管理を示した、最終的な方向性が示される段階まで進むこととなった。

委員や市の担当者の英断により、SDGsが目指す、持続可能な井原市の未来に向けて勇気ある方向性が示されたと確信した。

井原市令和３年度リーダー養成研修会

2021（令和３）年８月６日、井原市で令和３年度の井原市に12地区ある「まちづくり推進協議会」の代表者と各地区の市担当者による合同のリーダー養成研修会が開催された。時を同じくして井原市文化財センター「古代まほろば館」では「渋沢栄一と井原」（NHK青天を衝け）が開催中であった。渋沢栄一は、一橋家の家臣となり、農兵を集めるため領地であった備中国の西江原村（現井原市）を訪れた。郷学・興譲館の館長・阪谷朗廬と語り合い、親交を深め、農兵募集は大成功をおさめ、慶喜に認められた。井原は栄一にとって世に出るきっかけの地である。

さて、リーダー養成研修会では、大舌勲市長も参加、講師をつとめた三村聡センター長は、平成27年から井原市のお手伝いをしてきた歩みと「渋沢栄一と井原」を引用しながら、地方創生総合戦略の内容を核として「まちづくり推進協議会」の主要な活動のひとつに「井原市がんばる地域応援補助金」制度があり、この補助金制度は、地区まちづくり協議会及び井原市まちづくり協議会連絡会議が、自ら企画立案し実施するまちづくり事業であり、住民の皆さんが地域課題の解決や、よりよい住民生活をおくるために実施するまちづくり事業に対して財政支援を行うことで、住民の皆さんが「住んでいてよかった、住み続けたい」と思えるまちの実現を図ることを目的としている点を改めて説明、自助、共助によるまちづくりの重要性を説いた（上限は100万円）。さらに同制度に加え、地域の活力づくりとなる人口増を目指した移住定住促進事業等である、空き家対策及び移住者支援事業、子育て支援を図る事業、市外在住者との交流を図る事業、その他市長が必要と認める事業に該当する、人口増を目指した地方創生に関する事業については150万円を上限に事業を実施しており、こうした事業の更なる促進を狙いとしたリーダー養成が、地方創生の肝であると申し上げ、人材育成こそが地方創生の最短の近道であることを重ねて説いた。

研修会終了後、市長応接で、次回以降の進め方について大舌市長と意見交換を行った。

星の郷まちづくりコンソーシアム第６回会議〈ZOOM ミーティング〉

2021（令和３）年10月４日、新型コロナ禍の影響を受けて、星の郷まちづくりコンソーシアム第６回

会議が、オンラインで開催された。まず、美星町観光協会の西野舜会長から主催者挨拶を受け、会員の新規入会と異動による交代が報告された。また、まちの話題として、星空ガイド養成講座、星空保護区認定祝賀事業の企画、さらに美星天文台の整備状況、そして星空保護区に関する取組みと認定後の展開について方向性が提起された。また、井原市地域おこし協力隊の新たな活動紹介がなされた。

コンソーシアムの取組については、三村聡センター長を進行役として、国の動向及び井原市第２期総合戦略との連携、そして井原市から、これまでの動き、ワークショップのアイデア紹介があり、意見交換と今後の進め方について議論がされた。

井原市『元気いばら創生戦略会議』

2021（令和３）年11月17日、井原市『元気いばら創生戦略会議』が井原市役所５階会議室で開催された。会議では、事務局からの人口推移や政策の進捗状況、成果説明に対して、産官学金労言士そして市民代表で構成され、委員全員から積極的な意見や質問、そして的を射た質問が出され、予定時間をオーバーする熟議がなされた会議となった。

会議終了後、市長を囲み事務局が中心となった反省会も長時間にわたり実施された。

地方創生、多くの自治体で、いよいよ正念場を迎えつつある。

星の郷まちづくりコンソーシアム第７回会議

井原市美星町は2021（令和３）年11月１日付（米国アリゾナ州現地時間）で、国際ダークスカイ協会が設けた国際的な認定制度である「星空保護区（コミュニティ部門）」に認定された。星空保護区としては日本で３番目、コミュニティ部門としてはアジア初である。この反響は大きく、認定に関する報道は、テレビ、全国紙はじめ新聞、ネット上など、60以上のメディアで取り上げられ、地方創生に多大なプロモーション効果があったと井原市では評価している。

こうした状況を受け、2021（令和３）年12月20日、星の郷まちづくりコンソーシアム第７回会議が、井原市美星支所にて開催された。その目的は、今後観光客の増加が見込まれることから、並行して、まちの受け皿整備に取り組んでいく必要があるため。

第７回となった会議では、今後の星の郷まちづくりの指針となる事業計画の策定に向けて、来年以降、検討された政策を具体的に実装する流れを目指していくことが確認された。そしてグループディスカッションに入る前に、中高校生『美星プロジェクト』のプランを地域おこし協力隊から話題提供を受けた。この提案には、高校生のプランを協力隊が支援するプランも含まれる。小中高の校長先生も参加、地方創生には若いアイデアと参加が必要なため、中高生からの提案を大切に温めながら、その具現化に向けて、参加者が全員で協力することを確認した。こうして、いよいよ政策プランの策定に入り、具体的な政策シナリオが報告された。

毎回市長がフル参加、今回からヤマト運輸が参加、地域住民の方と地域資源である天文台を核として、産官学金言が取り巻きながら展開を進めるSDGs創生戦略の議論がなされた。

新型コロナ禍（オミクロン株の感染拡大）が続く中ではあるが、2022（令和４）年から、施策実施のための資源であるひと、もの、かね、そして情報施策を具体的に織り込んだ、地域住民主役による創生戦略シナリオを確定する段階へ議論を進めている。